

総合検査案内

2025～2026



生化学検査

薬物検査

内分泌検査

腫瘍関連検査

ウイルス学検査

免疫学検査

血液学検査

細胞性免疫検査

遺伝子関連検査

微生物学検査

一般臨床検査

病理学的検査

その他検査



登録衛生検査所 千葉県登録番号第39号

株式会社 **サンリツ**

——人・健康・未来を創造する——

本社 〒276-0022 千葉県八千代市上高野1353-25

検査に関するお問い合わせ ☎ 047(487)3019 FAX 047(487)2861

お問い合わせ受付時間 8:45～18:30 (日曜・祝祭日・年末年始を除く)

<http://www.san-g.com>



登録衛生検査所

株式会社サンリツ

(千葉県登録番号第39号)

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1353-25

☎047(487)2631(代) FAX 047(487)2861

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査、細胞性免疫検査)
寄生虫学的検査 (寄生虫学的検査)
微生物学的検査 (細菌培養同定検査、薬剤感受性検査、病原体遺伝子検査)
病理学的検査 (病理組織検査、細胞検査)

株式会社サンリツ 千葉ラボラトリー (千葉市登録番号千保第15号)

〒260-0843 千葉県千葉市中央区末広2-14-1 1F

☎043(209)2160 FAX 043(209)2150

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査)

株式会社サンリツ 市川ラボラトリー (船橋市登録番号船保第4号)

〒273-0025 千葉県船橋市印内町654-2

☎047(404)2291 FAX 047(404)2292

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査)

株式会社サンリツ さいたま東葛ラボラトリー (埼玉県登録番号第89号)

〒340-0814 埼玉県八潮市南川崎882-103

☎048(994)3822 FAX 048(994)3833

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査)

株式会社サンリツ 宇都宮ラボラトリー (宇都宮市登録番号宇9)

〒321-0924 栃木県宇都宮市下栗1-6-3 YMTビル1F

☎028(651)3970 FAX 028(651)3971

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査)

株式会社サンリツ 栃木ラボラトリー (栃木県登録番号県北第3号)

〒325-0058 栃木県那須塩原市錦町2-7

☎0287(62)6601 FAX 0287(64)2114

登録検査業務：生化学的検査 (生化学検査、尿・糞便等一般検査)
血清学的検査 (血清学検査、免疫学検査)
血液学的検査 (血球算定検査、血液像検査、出血・凝固検査)

営業所一覧

八千代 営業所	〒276-0022 千葉県八千代市上高野1353-25	☎047(487)7887 FAX 047(487)7888
佐 倉 営業所	〒285-0025 千葉県佐倉市鎗木町2-6-18 東都ビル2F	☎043(308)7230 FAX 043(308)7289
千 葉 営業所	〒260-0843 千葉県千葉市中央区末広2-14-1 2F	☎043(209)2151 FAX 043(209)2161
市 川 営業所	〒273-0025 千葉県船橋市印内町654-2	☎047(404)2210 FAX 047(404)2212
東 葛 営業所	〒270-0164 千葉県流山市流山3-350-2	☎04(7157)8290 FAX 04(7157)8291
木更津 営業所	〒292-0801 千葉県木更津市請西3-1-18	☎0438(37)2451 FAX 0438(37)2453
館 山 営業所	〒294-0014 千葉県館山市山本2424-1	☎0470(25)7021 FAX 0470(25)7022
東 京 営業所	〒120-0035 東京都足立区千住中居町33-3 大橋ビル2F	☎03(5284)4101 FAX 03(3870)8561
東京第二 営業所	〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1-10-2 KPSビル2F	☎03(5431)0435 FAX 03(5431)0436
宇都宮 営業所	〒321-0924 栃木県宇都宮市下栗1-6-3 YMTビル2F	☎028(651)3972 FAX 028(651)3973
栃 木 営業所	〒325-0058 栃木県那須塩原市錦町2-7	☎0287(64)2111 FAX 0287(64)2114

(本検査案内の記載内容は2025年6月1日現在のものです。)

取得認定類

■ 医療関連サービスマーク



■ ISO9001:2015



(本社・全営業所)

■ ISO15189:2012



(株式会社サンリツ 臨床検査部)

■ プライバシーマーク





総合検査案内

CONTENTS

検査項目索引

検査項目索引 1

1

ご利用の手引き

依頼書と記載事項のご説明 15

15

実施料について

実施料について 19

19

生化学検査

蛋白・膠質反応 21
アインザイム 23
糖・有機酸 27
ビタミン 33
その他 35

生体色素 21
低分子窒素化合物 24
脂質 29
ボルフィリン関連 34

酵素 21
血清蛋白 25
電解質・微量金属 31
産業衛生関連検査 34

21 生化学

薬物検査

抗てんかん剤 37
強心剤 40
抗真菌剤 40
抗悪性腫瘍剤 41

向精神薬 38
気管支拡張剤 40
解熱・鎮痛剤 41
抗パーキンソン薬 41

抗不整脈剤 39
抗生剤 40
抗炎症・抗リウマチ剤 41
免疫抑制剤 41

37 薬物

内分泌検査

下垂体 43
副腎髄質・交感神経・中枢神経 47
膵・消化管 51

甲状腺 44
腎・副腎皮質 48
その他 52

副甲状腺関連 45
性腺・胎盤 50

43 内分泌

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査 53

53 腫瘍

ウイルス学検査

ウイルス抗体の検出 58
肝炎ウイルス関連検査 66

ウイルス抗原の検出 62
レトロウイルス 68

ウイルス分離・同定 64

58 ウイルス

免疫学検査

感染症免疫学的検査 69
補体 78
輸血関連検査 86

蛋白 75
アレルギー一覧 80

免疫グロブリン 78
自己免疫関連 81

69 免疫

血液学検査

血球計数 87
出血凝固検査 88

その他 87
血液寄生虫類 88

形態学的検査 87

87 血液学

細胞性免疫検査

細胞形態検査 91

細胞機能検査 93

組織適合性抗原 94

91 細胞免疫

染色体・遺伝子関連検査

先天異常染色体検査 95

血液疾患染色体検査 96

血液疾患遺伝子 98

95 遺伝子

微生物学検査

一般細菌検査 99
特殊目的菌検査 101

医真菌検査 99
その他 102

抗酸菌検査 100

99 微生物

一般臨床検査

尿検査 107
腹水・胸水・穿刺液・関節液 108

髄液検査 107
精液検査 108

糞便検査 108
その他 108

107 一般

病理学的検査

細胞診検査 109
病理組織染色 121

病理組織検査 115

癌関連遺伝子 116

109 病理

その他検査

規制薬医薬品検査 123

その他 124

123 その他

産業衛生関連検査一覧 127

単位の説明 131

検査方法の概略 141

検体取扱いに関する注意項目一覧 128

検体の安定性と追加検査 132

HLA遺伝子型と種類 143

休日・祝祭日及びその前日受付不可項目 130

検体の採取に関する注意事項 134

主要参考文献 145

緊急報告対象項目とその基準 131

検体の採取方法 135

検体容器一覧 151

検査項目索引

和名項目			
ア		頁数	点数 区分
★ アイソザイム [各種]		23	頁参照
1331 亜鉛 (Zn) {	〈血清〉	31	132 D007 37
1332 }	〈尿〉	31	132 D007 37
3777 (抗) アクアポリン4抗体		85	1000 D014 47
1249 アスכולピン酸 (ビタミンC)		33	296 D007 60
1425 アスピリン (サリチル酸)		41	(470) B001 2
2691 アスベルギルス抗原		71	157 D012 30
4294 アスベルギルス抗体IgG		71	390 D012 42
1669 アセタゾラミド		38	(470) B001 2
2343 (抗) アセチルコリンレセプター結合抗体		85	775 D014 45
1442 アセトアミノフェン		41	180 D007 47
1327 アセトン {	〈血清〉	35	—
1328 }	〈尿〉	35	—
3278 アディポネクチン		52	—
1504 アデノ 《CF》		59	79 D012 11
★ アデノ 《NT》		59	79 D012 11
1287 アデノシンデアミナーゼ (ADA) {	〈血清〉	22	32 D007 11
1186 }	〈胸水〉	22	32 D007 11
201 アトピー鑑別試験 (ファディアトープ)		79	194 D015 21
1695 アプリンジン		39	(470) B001 2
2908 アヘン系麻薬検査		123	—
151 アボ蛋白 (6分画) {	A-I	30	頁参照 D007 10
152 }	A-II	30	〃 D007 10
153 }	B	30	〃 D007 10
154 }	C-II	30	〃 D007 10
155 }	C-III	30	〃 D007 10
156 }	E	30	〃 D007 10
4126 アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォーム		53	335 D009 35
2632 アミオダロン		39	(470) B001 2
1424 アミカシン		40	(470) B001 2
1205 アミノ酸11分画	〈血漿〉	26	1107 D010 4口
1201 アミノ酸分画 {	〈血漿〉	26	1107 D010 4口
1204 }	〈尿〉	26	1107 D010 4口
80 アミラーゼ {	〈血清〉	22	11 D007 1
81 }	〈尿〉	22	11 D007 1
2272 アミラーゼアイソザイム {	〈血清〉	23	48 D007 14
2273 }	〈尿〉	23	48 D007 14
1070 アミロイドA蛋白 (SAA)		76	47 D015 6
707 アメーバ検査		108	67 D017 3
17 アルカリホスファターゼ (ALP)		21	11 D007 1
2253 アルカリホスファターゼアイソザイム (ALPアイソザイム)		23	48 D007 14
4083 アルドステロン {	〈血漿〉	48	122 D008 15
4084 }	〈血清〉	48	122 D008 15
4085 }	〈尿〉	48	122 D008 15
4087 アルドステロン/レニン活性比 (PAC/PRA)		48	—
4088 アルドステロン/レニン濃度比 (PAC/ARC)		48	—
19 アルドラーゼ (ALD)		21	11 D007 1
29 アルブミン (ALB)		21	11 D007 1
1210 (尿中) アルブミン		75	99 D001 9
22 アルブミン/グロブリン比 (A/G)		21	—
2478 アルベカシン		40	(470) B001 2
1330 アルミニウム (Al)		31	109 D007 29
2060 (View) アレルギー-39		79	1430 D015 13
1069 アンジオテンシン I 転換酵素 (ACE)		49	136 D007 39
536 アンチトロンビンⅢ (ATⅢ) 《活性》		89	70 D006 9
538 アンチプラスミン (α ₂ PI) 《活性》		89	128 D006 16
34 (血中) アンモニア (NH ₃)		25	50 D007 16

イ		頁数	点数 区分
4107 胃がんリスク層別化検査		124	—
★ 一般細菌検査		99	頁参照
★ 医真菌塗抹		99	67 D017 3
★ 医真菌培養・同定		99	頁参照
2711 異性間BMT		96	頁参照 D006-5
★ 遺伝子関連検査		98	頁参照
1743 (抗) 胃壁細胞抗体 (抗バリエタル細胞抗体)		84	—
★ インスリン (IRI) 《CLIA》		51	100 D008 8
4121 インスリン抗体		51	107 D014 6
2898 (血清) インジウム		34	—
1505 インフルエンザ { [A型] {	《CF》	58	79 D012 11
2245 }	《HI》	58	79 D012 11
1506 }	[B型] {	58	79 D012 11
1532 }	《HI》	58	79 D012 11

ウ		頁数	点数 区分
★ [ウイルス分離・同定]		64	—
609 ウロビリノーゲン定性		107	—
1308 ウロボルフィリン		34	105 D001 10

エ		頁数	点数 区分
1367 エキノコックス抗体		72	—
★ エコー [各型] 《NT》		60	79 D012 11
598 エステラーゼ染色 [血液特殊染色]		87	頁参照 D005 6・14注
177 エステル型コレステロール		29	—
2250 エストラジオール (E ₂)	〈血清〉	50	167 D008 33
3406 エストロジェンレセプター (ER)		115	720 N002 1
1323 エタノール		35	105 D007 26
1406 エトスクシミド		37	(470) B001 2
1293 エラスターゼ1		53	120 D008 8
1258 エリスロポエチン (EPO)		52	209 D008 41
1991 塩基性フェトプロテイン (BFP)		53	150 D009 17
2479 (塩酸) ビルシカイニド		39	(470) B001 2
1597 1598 エンテロ [70,71型] 《NT》		59	—
1396 エンドトキシン定量 {	《ES法》	72	229 D012 52
2091 }	〈透析液〉 A液	126	—
2092 }	〈透析液〉 B液	126	—
2093 }	〈透析液〉 RO水	126	—
2094 }	〈透析液〉 調整液	126	—
2095 }	〈透析液〉 その他	126	—

オ		頁数	点数 区分
2257 黄体形成ホルモン (LH)		43	105 D008 12
1719 オーム病抗体 {	〈血清〉	72	79 D012 11
1720 }	〈髄液〉	72	79 D012 11
333 オステオカルシン (OC) (BGP)		45	157 D008 26
3313 オリゴクローナルバンド		78	522 D004 11
4468 オンコマイン™ Dx Target Test マルチ CDx システム(肺癌マルチCDx遺伝子解析)		116	6000+12000 D004-2 1

カ		頁数	点数	区分
757	(皮膚) 疥癬	108	67	D017 3
1964	覚せい剤検査	123	—	
763	喀痰中好酸球	87	15	D005 3
4122	ガストリン	51	101	D008 9
2280	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	55	175	D009 24
556	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	88	29	D006 7
1037	カテコールアミン3分画 { 〈血漿〉	47	161	D008 29
1040	{ 〈尿〉	47	161	D008 29
1042	(遊離) カテコールアミン3分画	47	161	D008 29
1344	カドミウム (Cd) { 〈血液〉	32	—	
1345	{ 〈尿〉	32	—	
3347	ガバベンチン	38	(470)	B001 2
2486	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)	55	438	D009 36
2853	可溶性メソテリン関連蛋白 (SMRP)	55	220	D009 30
2960	(抗) ガラクトース欠損IgG抗体 (CA-RF)	81	111	D014 8
48	カリウム (K)	31	11	D007 1
50	カルシウム (Ca)	31	11	D007 1
4111	(抗) カルジオリピン抗体IgG	84	226	D014 30
4112	(抗) カルジオリピン抗体IgM	84	226	D014 30
2345	(抗) カルジオリピン・β ₂ GPI複合体抗体	84	223	D014 29
1025	カルシトニン (CT)	45	130	D008 18
1166	カルニチン	52	頁参照	D007 23
1404	カルバマゼピン	37	(470)	B001 2
5771	カルプロテクチン (糞便)	108	268	D003 9
344	(β) カロチン	33	—	
807	簡易培養 { (酵母様真菌)	99	60	D018 6
842	{ (トリコモナス)	99	60	D018 6
2291	肝細胞増殖因子 (HGF)	52	227	D007 54
3126	カンジダマンナン抗原	71	134	D012 21
1704	カンジダ抗体	71	—	
★	感受性検査 [一般細菌]	99	頁参照	D019
856	感受性検査 [抗酸菌]	100	400	D022
300	間接クームス試験 (抗グロブリン試験)	86	47	D011 2口
4	間接ビリルビン (I-BIL)	21	—	
110	癌胎児性抗原 (CEA)	53	99	D009 3
206	寒冷凝集反応	70	11	D014 1

キ		頁数	点数	区分
1419	キニジン	39	(470)	B001 2
551	凝固第Ⅱ因子活性	88	223	D006 29
552	凝固第Ⅴ因子活性	88	223	D006 29
571	凝固第Ⅶ因子活性	88	223	D006 29
573	凝固第Ⅷ因子活性	88	223	D006 29
572	凝固第Ⅷ因子様抗原 (フォンウィルブランド因子定量)	88	147	D006 20
574	凝固第Ⅸ因子活性	88	223	D006 29
575	凝固第Ⅹ因子活性	88	223	D006 29
576	凝固第Ⅺ因子活性	88	223	D006 29
588	凝固第Ⅻ因子活性	88	223	D006 29
592	凝固第Ⅻ因子活性	88	223	D006 29
3261	凝固第Ⅻ因子抗原	88	223	D006 29
703	蟻虫卵 (セロテープ)	108	20	D003 2
3732	(抗) 筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗MuSK抗体)	85	1000	D014 47

ク		頁数	点数	区分
1392	グアナーゼ	22	35	D007 12
2612	クオンティフェロンTB プラス (QFT-Plus)	125	593	D015 30
299	クームス試験 { 〈直接〉	86	34	D011 2イ
300	{ 〈間接〉	86	47	D011 2口
301	{ 〈定量〉	86	47	D011 2口
1390	クラミジア・トラコマチス抗体IgA & IgG	73	200	D012 43
297	クラミジア・トラコマチス核酸検出 (PCR) { 〈ぬぐい液〉	74	188	D023 1
296	{ 〈尿〉	74	188	D023 1
2086	{ 〈うがい液〉	74	188	D023 1
4043	クラミドフィラニューモニエ抗体 { IgG	73	70	D012 9
4044	{ IgA	73	75	D012 10
4045	{ IgM	73	152	D012 29
311	クリオグロブリン	77	42	D015 5
2368	グリコアルブミン (GA)	27	55	D007 17
79	グリコヘモグロビンA1c (HbA1c)	27	49	D005 9
1312	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	71	169	D012 35
4049	(臍) グルカゴン (IRG)	51	150	D008 23
★	グルコース (血糖)	27	11	D007 1
2540	(抗) グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)	51	134	D008 19
100	(60・120分) クレアチニンクリアランス	36	—	
99	(24時間) クレアチニンクリアランス	36	—	
32	クレアチニン (CRE)	24	11	D007 1
16	クレアチンキナーゼ (CK, CPK)	21	11	D007 1
4117	クロザピン	38	(470)	B001 2
4066	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原毒素	102	80	D012 12
4051	クロストリジオイデス・ディフィシル毒素遺伝子検出	102	450	D023-2 5
49	クロール (Cl)	31	11	D007 1
768	クロール定量 〈髄液〉	107	11	D007 1
1408	クロナゼパム	37	(470)	B001 2
1149	クロバザム	38	(470)	B001 2
1335	クロム (Cr) { 〈血液〉	32	—	
1336	{ 〈血清〉	32	—	

ケ		頁数	点数	区分
2270	頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン (PTDチェック)	35	204	D015 23
462	血液型 { ABO式	86	24	D011 1
461	{ Rh (D) 式	86	24	D011 1
★	血液特殊染色 [各種] { 〈血液像〉	87	各37	D005 6注
★	{ 〈骨髓像〉	87	各60	D005 14注
878	結核菌群核酸増幅同定 (リアルタイムPCR)	100	410	D023 14
2622	結核菌群抗原	100	291	D012 56
2612	結核菌特異IFN-γ (QFT-Plus)	125	593	D015 30
5787	結核菌特異IFN-γ (T-SPOT.TB)	125	593	D015 30
554	血小板数 (PLT)	87	21	D005 5
1752	(抗) 血小板抗体	85	261	D011 8
1362	血小板第4因子 (PF-4)	90	173	D006 25
3757	血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体 (HIT抗体)	85	390	D011 10
1162	血小板表面IgG (PA-IgG)	85	190	D011 6
1064	血漿レニン活性 (PRA)	48	100	D008 8
3342	血清HER2蛋白	55	頁参照	
80	血清アミラーゼ (S-AMY)	22	11	D007 1
2898	血清インジウム	34	—	
53	血清鉄 (Fe)	31	11	D007 1
55	血清銅 (Cu)	31	23	D007 5
227	血清補体価 (CH ₅₀)	78	38	D015 4
1322	結石鑑別〈定量〉	35	117	D010 2
560	血中FDP	89	80	D006 10

検査項目索引

34	血中アンモニア (NH ₃)	25	50	D007	16
4068	血中遊離メタネフリン分画	47	450	D008	51
★	血沈 (ESR)	87	—		
★	血糖 (グルコース)	27	11	D007	1
1222	ケトン体分画 { 静脈血	27	59	D007	19
2201	{ 動脈血	27	59	D007	19
816	嫌気性培養 [一般細菌]	99	122	D018	注1
1422	ゲンタマイシン	40	(470)	B001	2

コ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

5903	抗ARS抗体	82	190	D014	23
3179	抗BP180抗体(血清中抗BP180NC16a抗体)	83	270	D014	36
3257	抗CCP抗体(抗シトルリン化ペプチド抗体)	81	193	D014	24
2345	抗Cdl・ β_2 GPI複合体抗体	84	223	D014	29
4111	抗Cdl抗体IgG	84	226	D014	30
4112	抗Cdl抗体IgM	84	226	D014	30
1735	抗DNA抗体	81	159	D014	17
1237	抗dsDNA抗体 { IgG	81	159	D014	17
1238	{ IgM	81	—		
2540	抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	51	134	D008	19
2968	抗GBM抗体(抗糸球体基底膜抗体)	85	262	D014	34
2933	抗GM1 IgG抗体(抗ガングリオシド抗体GM1 IgG抗体)	83	460	D014	43
2274	抗GQ1b IgG抗体(抗ガングリオシド抗体GQ1b IgG抗体)	83	460	D014	43
4033	抗IA-2抗体	51	213	D008	43
1978	抗Jo-1抗体《CLEIA》	82	140	D014	12
2658	抗LKM-1抗体	84	215	D014	28
5869	抗MDA5抗体	83	270	D014	37
5858	抗Mi-2抗体	83	270	D014	37
3732	抗MuSK抗体(抗筋特異のチロシンキナーゼ抗体)	85	1000	D014	47
3254	抗p53抗体	53	163	D009	22
2306	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	82	170	D014	19
2228	抗RNP抗体《FEIA》	82	144	D014	13
2226	抗Scl-70抗体《FEIA》	82	157	D014	16
2227	抗Sm抗体《FEIA》	81	147	D014	14
2229	抗SS-A/Ro抗体《FEIA》	82	161	D014	18
2230	抗SS-B/La抗体《FEIA》	82	157	D014	16
1676	抗ssDNA抗体 { IgG	81	159	D014	17
2393	{ IgM	81	—		
5863	抗TIF-1- γ 抗体	83	270	D014	37
2825	抗TPO抗体(抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	44	138	D014	11
2228	抗U1-RNP抗体定量(抗RNP抗体)	82	144	D014	13
1131	抗TSHレセプター抗体定量(TrAb)	44	214	D014	27
3777	抗アクアポリン4抗体	85	1000	D014	47
2343	抗アセチルコリンレセプター結合抗体	85	775	D014	45
1743	抗胃壁細胞抗体(抗パリエタル細胞抗体)	84	—		
223	抗核抗体(ANA)	81	99	D014	5
2960	抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA-RF)	81	111	D014	8
2345	抗カルジオリピン・ β_2 GP I 複合体抗体	84	223	D014	29
4111	抗カルジオリピン抗体IgG	84	226	D014	30
4112	抗カルジオリピン抗体IgM	84	226	D014	30
4123	高感度HbC関連抗原定量(HBcrAg)	66	252	D013	12
2328	高感度PSA	54	121	D009	9
2933	抗ガングリオシド抗体GM1 IgG抗体(抗GM1 IgG抗体)	83	460	D014	43
2274	抗ガングリオシド抗体GQ1b IgG抗体(抗GQ1b IgG抗体)	83	460	D014	43
3732	抗筋特異のチロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	85	1000	D014	47
2540	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)	51	134	D008	19
1752	抗血小板抗体	85	261	D011	8
2825	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(TPO-Ab)	44	138	D014	11
2281	抗好中球細胞質抗体(PR-3-ANCA)(C-ANCA)	85	252	D014	33
2282	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)(P-ANCA)	85	251	D014	32
1066	抗サイログロブリン抗体(Tg-Ab)	44	136	D014	10

2339	好酸球塩基性蛋白 (ECP)	77	—
541	好酸球数	87	17 D005 4
3782	抗酸菌抗体定性 (MAC抗体)	72	116 D012 18
2620	抗酸菌同定 (質量分析)	100	361 D021
2968	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	85	262 D014 34
4118	甲状腺刺激抗体 (TSAb)	44	330 D014 40
2265	甲状腺刺激ホルモン (TSH)	43	98 D008 6
3257	抗シトルリン化ペプチド抗体 (抗CCP抗体)	81	193 D014 24
595	高精度分染法	95	頁参照 D006-5
2469	抗セントロメア抗体 (抗CENP・B抗体)	83	174 D014 20
3036	好中球BCR::ABL1 [t (9;22) 転座解析]	96	頁参照 D006-5
1172	好中球アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色)	87	頁参照 D005 6・14注
5852	好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン (尿中NGAL)	75	210 D001 19
489	好中球殺菌能	93	—
488	好中球貪食能	93	—
1664	抗デスモグレイン { 1抗体	83	300 D014 39
1665	{ 3抗体	83	270 D014 36
1744	抗内因子抗体	84	—
1743	抗バリエタル細胞抗体 (抗胃壁細胞抗体)	84	—
1747	抗副腎皮質抗体	84	—
1755	抗平滑筋抗体	84	—
1952	抗ミトコンドリアM2抗体	84	189 D014 22
1754	抗ミトコンドリア抗体 (AMA)	84	181 D014 21
2887	抗ミューラー管ホルモン (AMH)	50	597 D008 52
1010	抗利尿ホルモン (ADH) (AVP)	43	224 D008 47
4067	抗リン脂質抗体 (APL) パネル	84	678 D014 30
4113	抗 β_2 グリコプロテイン I 抗体IgG	84	226 D014 30
4114	抗 β_2 グリコプロテイン I 抗体IgM	84	226 D014 30
2909	コカイン系麻薬検査	123	—
★	コクサッキーA群 { <CF>	60	79 D012 11
★	{ <NT>	60	79 D012 11
★	コクサッキーB群 { <CF>	60	79 D012 11
★	{ <NT>	60	79 D012 11
2851	骨塩定量 (DIP)	126	(140) D217 3
2423	骨型アルカリホスファターゼ (BAP)	23,46	157 D008 26
2809	骨型酒石酸抵抗性酸性ホスファターゼ (TRACP-5b)	46	156 D008 25
553	骨髄像 (マルク)	87	788 D005 14
659	コプロボルフィリン定性	34	—
1309	コプロボルフィリン定量 { <血液>	34	210 D007 52
1310	{ <尿>	34	131 D001 14
2355	(Ⅳ型) コラーゲン	76	131 D007 36
1771	(尿中Ⅳ型) コラーゲン	76	184 D001 15
4075	(Ⅳ型) コラーゲン・7S <CLEIA>	76	148 D007 42
14	コリンエステラーゼ (ChE)	21	11 D007 1
1076	コルチゾール (尿) (非抱合型コルチゾール)	49	121 D008 14
165	コルチゾール (COR)	49	121 D008 14

サ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

1243	サイアミン (ビタミンB ₁)	33	239	D007	56
801	細菌 (塗抹)	99	67	D017	3
1137	サイクリックAMP (c-AMP)	〈血漿〉 〈尿〉	52	165	D008 32
1139			52	165	D008 32
1288	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	55	154	D009	18
4041	サイトメガロウイルス	lgG 《CLIA》 lgM 《CLIA》	59	200	D012 44
4042			59	200	D012 44
1503	サイトメガロ (CMV) 《CF》	59	79	D012	11
1657	サイトメガロウイルス 《DNA》	62	—		
2681	サイトメガロウイルスPP65抗原 (C7-HRP)	62	356	D012	57
2574	サイトメガロウイルスPP65抗原 (C10,C11)	62	356	D012	57
4023	サイトメガロウイルス核酸検出 (新生児尿)	62	801	D023	20

771	細胞種類 (髄液)	107	62	D004	4
770	細胞数 (髄液)	107	62	D004	4
2261	(総) サイロキシシン (T ₄)	44	105	D008	11
2263	(遊離) サイロキシシン (FT ₄)	44	121	D008	14
4072	サイロキシシン結合グロブリン (TBG)	44	130	D008	18
1022	サイログロブリン (Tg) (HTG)	44	128	D008	16
1066	(抗) サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	44	136	D014	10
1425	サリチル酸 (アスピリン)	41	(470)	B001	2
4302	サリバチエッカー®	125	—		
3271	酸化LDL (MDA-LDL)	30	194	D007	50

シ		頁数	点数	区分
1410	ジアゼバム	37	(470)	B001 2
1246	シアノコバラミン (ビタミンB ₁₂)	33	136	D007 39
2957	シアリルLex抗原 (CSLEX抗原)	54	156	D009 19
1236	シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	55	140	D009 13
1680	シアリルTn抗原 (STN)	54	146	D009 16
2146	シアリ化糖鎖抗原KL-6 (KL-6)	25	108	D007 28
2369	子宮頸管粘液中顆粒球エラストーゼ	35	116	D004 8
2968	(抗) 糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	85	262	D014 34
2430	シクロスポリン	41	(470)	B001 2
1414	ジゴキシン	40	(470)	B001 2
3341	シスタチンC	24	112	D007 30
1430	ジソピラミド	39	(470)	B001 2
3257	(抗) シトルリン化ペプチド抗体 (抗CCP抗体)	81	193	D014 24
1288	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	55	154	D009 18
2576	シベンゾリン	39	(470)	B001 2
2919	脂肪酸4分画	30	393	D010 7
710	消化状態 (便)	108	20	D003 2
46	食塩摂取量	36	—	
5762	シロリムス	41	(470)	B001 2
2493	心筋トロポニン I	76	109	D007 29
1294	神経特異エノラーゼ (NSE)	55	142	D009 14
1457	心室筋ミオシン軽鎖 I	76	184	D007 48
181	浸透圧 { 〈血清〉	35	15	D005 3
182	{ 〈尿〉	35	16	D001 3
183	{ 〈その他別材料〉 〈透析液〉	35	—	

ス		頁数	点数	区分
2432	膵アミラーゼ { 〈血清〉	23	48	D007 14
2433	{ 〈尿〉	23	48	D007 14
1346	水銀 (Hg) { 〈血液〉	32	—	
1347	{ 〈尿〉	32	—	
4049	膵グルカゴン (IRG)	51	150	D008 23
242	推算GFRcreat (eGFRcreat)	24	—	
3395	推算GFRcys (eGFRcys)	24	—	
1502	水痘・带状疱疹《CF》	58	79	D012 11
2389	水痘・带状疱疹 { IgG 《EIA》	58	200	D012 44
1972	{ IgM 《EIA》	58	200	D012 44
2235	水痘・带状疱疹ウイルス抗原	62	227	D012 47
1696	膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂)	22	204	D007 51
4307	スチレン代謝物	34	—	

セ		頁数	点数	区分
782	精液量	108	70	D004 5
784	精子数	108	70	D004 5
780	精子運動率	108	70	D004 5
781	精子奇形率	108	70	D004 5
1640	精子不動化抗体	85	—	
1001	成長ホルモン (GH)	43	105	D008 12
502	赤血球数 (RBC)	87	21	D005 5
530	赤血球像	87	25	D005 6
2519	赤血球表面マーカー検査 {	CD55	91	—
2556		CD59	91	—
631	赤血球プロトポルフィリン	34	272	D007 58
1723	セルロプラスミン (Cp)	76	90	D015 9
3158	セレン (Se) 〈血清〉	31	144	D007 40
1058	セロトニン {	〈血液〉	47	—
1171		〈血漿〉	47	—
639	潜血反応 {	〈尿〉	107	—
704	{	《オルトリジン》	108	—
704			《グアヤック》	108
1444	全脂質脂肪酸分画 (TL脂肪酸分画)	30	393	D010 7
★	[染色体検査]	95,96,97	頁参照	D006-5
2469	(抗) セントロメア抗体 (抗CENP・B抗体)	83	174	D014 20
1191	前立腺特異抗原 (PSA)	54	121	D009 9
4127	前立腺特異抗原 (PSA) レクチン結合分画比 (S2・3PSA%)	54	248	D009 31

ソ		頁数	点数	区分
1729	総IgE (非特異的IgE)	79	100	D015 11
39	総コレステロール (T-Cho)	29	17	D007 3
2261	総サイロキシシン (T ₄)	44	105	D008 11
★	総三塩化物 (TTC)	34	—	
121	総胆汁酸 (TBA) { 〈血清〉	30	47	D007 13
122	{ 〈胆汁〉	30	47	D007 13
21	総蛋白 (TP)	21	11	D007 1
54	総鉄結合能 (TIBC) 《比色法》	31	11	D007 1
1	総ビリルビン (T-BIL)	21	11	D007 1
2581	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR) (BCAA/TYR)	26	283	D010 5
5896	ソタロール	39	(470)	B001 2
1399	ゾニサミド	37	(470)	B001 2
1012	ソマトメジン-C (IGF-1)	43	212	D008 42

タ		頁数	点数	区分
2907	大麻・マリファナ検査	123	—	
869	大腸菌ペロトキシン定性	102	184	D023-2 3
2542	タクロリムス	41	(470)	B001 2
1412	(炭酸) リチウム	38	(470)	B001 2
1501	単純ヘルペス { 〈CF〉	59	79	D012 11
★	{ 〈NT〉(1型・2型)	59	79	D012 11
2391	単純ヘルペス { IgG 〈EIA〉	59	200	D012 44
1974	{ IgM 〈EIA〉	59	200	D012 44
1620	単純ヘルペスDNA	62	—	
1671	単純ヘルペスウイルス特異抗原 〈ぬぐい液塗抹標本〉	62	180	D012 39
601	蛋白定性〈尿〉	107	—	

検査項目索引

602	蛋白定量	{ 〈尿〉	107	7	D001	1
776		{ 〈髄液〉	107	11	D007	1
792		{ 〈穿刺液〉	108	11	D007	1
23	蛋白分画 (PR-F)		21	18	D007	4
679	(尿) 蛋白 g・クレアチニン排泄量		36	—		

チ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

41	中性脂肪 (TG)		29	11	D007	1
715	虫体検出 (糞便)		108	23	D003	3
701	虫卵 (糞便)	{ 〈塗抹〉	108	20	D003	2
702		{ 〈集卵〉	108	15	D003	1
299	直接クームス試験 (抗グロブリン試験)		86	34	D011	2イ
3	直接ビリルビン (D-BIL)		21	11	D007	1
613	沈渣	{ 〈尿〉	107	—		
794		{ 〈穿刺液〉	108	—		

ツ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

645	ツツガムシ	Gilliam	72	各株203	D012	45
646		Kato	72	各株203	D012	45
647		Karp	72	各株203	D012	45
648						
649						
650						

テ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

3449	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)		45	154	D008	24
2239	ティコプラニン		40	(470)	B001	2
301	定量クームス試験 (抗グロブリン試験)		86	47	D011	2ロ
3201	デオキシビリジノリン (DPD)		46	191	D008	39
1416	テオフィリン		40	(470)	B001	2
1094	テストステロン		50	119	D008	13
1674	(遊離) テストステロン		50	159	D008	27
1664	(抗) デスモグレイン1抗体		83	300	D014	39
1665	(抗) デスモグレイン3抗体		83	270	D014	36
53	鉄 (Fe) 〈血清〉		31	11	D007	1
578	鉄染色 [血液特殊染色]		87	頁参照	D005 6・14注	
1088	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S)		49	164	D008	31

ト		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

2089	透析液/R2A		126	—		
2090	透析液/R2A-MF		126	—		
605	糖定性 (尿)		107	—		
606	糖定量	{ 〈尿〉	107	9	D001	2
777		{ 〈髄液〉	107	11	D007	1
793		{ 〈穿刺液〉	108	11	D007	1
55	銅 (Cu)	{ 〈血清〉	31	23	D007	5
1334		{ 〈尿〉	31	23	D007	5

118	動脈硬化指数 (AI指数)		29	—		
1050	ドーバミン・総		47	—		
2386	トキンプラズマ抗体	{ IgG	71	93	D012	14
2388		{ IgM	71	95	D012	15
201	特異的吸入性アレルギー (IgEファディアートープ)		79	194	D015	21
★	特異的IgE		79	110	D015	13
2053	特異的IgE Ara h 2 (ピーナッツ由来)		79	110	D015	13
339	特異的IgE MAST 36		79	1430	D015	13
1253	トコフェロール (ビタミンE)		33	—		
2829	トピラマート		38	(470)	B001	2
1423	トブラマイシン		40	(470)	B001	2
801	塗抹	{ [一般細菌]	99	67	D017	3
831		{ [医真菌]	99	67	D017	3
851		{ [抗酸菌]	100	50	D017	1
1721	トランスサイレチン (プレアルブミン)		75	101	D015	12
1257	トランスフェリン (Tf)		76	60	D015	7
★	トリクロル酢酸 (TCA)		34	—		
2843	トリコスボロン・アサヒ抗体		71	822	D012	64
1301	トリプシン		22	189	D007	49
779	トリプトファン反応 (髄液)		107	62	D004	4
1407	トリメタジオン		37	(470)	B001	2
★	特殊目的菌検査		101	頁参照		
2262	トリヨードサイロニン (T _s)		44	99	D008	7
2264	(遊離) トリヨードサイロニン (FT _s)		44	121	D008	14
2493	(心筋) トロポニン I		76	109	D007	29
534	トロニン・アンチトロニンⅢ複合体 (TAT)		89	171	D006	24
2331	トロンボモジュリン (TM)	{ 〈血清〉	90	204	D006	27
2332		{ 〈血漿〉	90	204	D006	27
4119	トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	{ 〈尿〉	74	350	D023	12
4125		{ 〈ぬぐい液〉	74	350	D023	12

ナ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

1744	(抗) 内因子抗体		84	—		
47	ナトリウム (Na)		31	11	D007	1
632	鉛 (Pb)		32	—		

ニ		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

1342	ニッケル (Ni)		32	—		
1409	ニトラゼパム		37	(470)	B001	2
1512	日本脳炎	{ 〈CF〉	61	79	D012	11
1621		{ 〈HI〉	61	79	D012	11
1220	乳酸		27	47	D007	13
18	乳酸脱水素酵素 (LD) (LDH)		21	11	D007	1
2251	乳酸脱水素酵素・アイソザイム		23	48	D007	14
81	尿アミラーゼ (U-AMY)		22	11	D007	1
36	尿酸 (UA)		25	11	D007	1
787	尿酸・ピロリン酸結晶		108	50	D004	2
500	尿素呼気試験		36	70	D023-2	2
35	尿素窒素 (BUN)		25	11	D007	1
679	尿蛋白 g・クレアチニン排泄量		36	—		
1771	尿中Ⅳ型コラーゲン		76	184	D001	15
582	尿中FDP		89	72	D001	7
3710	尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)		75	210	D001	19
5852	尿中NGAL (好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン)		75	210	D001	19
1210	尿中アルブミン		75	99	D001	9
653	尿中ケトン体		107	—		

1334	尿中銅 (Cu)	31	23	D007 5
1438	尿中トランスフェリン	76	98	D001 8
3099	尿中肺炎球菌莢膜抗原	70	188	D012 41
4309	尿中メチルイソブチルケトン (MIBK)	34	—	
3094	尿中レジオネラ抗原	70	205	D012 46
805	尿定量培養 [一般細菌]	99	190	D018 4

ノ	頁数	点数	区分
---	----	----	----

3275	脳梗塞リスクマーカー	125	—	
673	濃縮試験	36	(100)	D289 2
2231	脳性Na利尿ポリペプチド (BNP)	52	130	D008 18
233	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)	52	136	D008 20
1456	農業スクリーニング	35	—	
3225	ノロウイルス (SRSV) -RNA マルチ	62	—	
3324	ノロウイルス抗原 (NV抗原)	62	—	
775	ノンネアペルト反応	107	62	D004 4

ハ	頁数	点数	区分
---	----	----	----

3099	(尿中) 肺炎球菌莢膜抗原	70	188	D012 41
1159	肺サーファクタントプロテイン-A (SP-A)	25	130	D007 35
2958	肺サーファクタントプロテイン-D (SP-D)	25	136	D007 39
4091	肺癌マルチCDx AmoyDx	116	12500	D006-24
4479 4480	肺癌マルチCDx遺伝子解析(オンコマイン™ Dx Target Test マルチ CDx システム)	116	6000+8000	D004-2 1
4423	肺癌KRAS G12C変異解析	116	2500	D004-2 1
455	[梅毒検査] FTA-ABS 《定性》	69	134	D012 23
470	《定量》	69	134	D012 23
1373	RPR法 《定性》	69	15	D012 1
1393	《定量》	69	34	D012 5
451	TPLA法 《定性》	69	32	D012 4
456	《定量》	69	53	D012 6
★	培養 [抗酸菌]	100	頁参照	D020 1-2
★	培養・同定 { [一般細菌]	99	頁参照	D018
★	{ [医真菌]	99	頁参照	D018
501	白血球数 (WBC)	87	21	D005 5
509	白血球像	87	15	D005 3
478	白血病・リンパ腫解析	91	1940	D005 15
1010	バソプレシン (AVP) (ADH)	43	224	D008 47
634	馬尿酸 (HA)	34	—	
662	バニルマンデル酸 (VMA) 《定性》	47	9	D001 2
1047	《定量》	47	90	D008 4
2299	《クレアチニン補正值》	47	90	D008 4
243	ハプトグロビン (Hp)	75	129	D015 14
1535	パラインフルエンザ1型<HI> (HA-2)	58	79	D012 11
1536	パラインフルエンザ2型<HI> (CA)	58	79	D012 11
1537	パラインフルエンザ3型<HI> (HA-1)	58	79	D012 11
1538	パラインフルエンザ4型<HI> (M-25)	58	—	
1405	バルプロ酸ナトリウム	37	(470)	B001 2
1743	(抗) パリエタル細胞抗体 (抗胃壁細胞抗体)	84	—	
138	(ヒト) パルボウイルスB19DNA	62	—	
2538	(ヒト) パルボウイルスB19 { IgG	61	—	
2539	{ IgM	61	200	D012 44
1593	パレコウイルス1型 (エコー22型)	60	79	D012 11
1354	ハロペリドール	38	(470)	B001 2
1678	バンコマイシン	40	(470)	B001 2
774	バンディ反応	107	62	D004 4

ヒ	頁数	点数	区分
---	----	----	----

2443	ヒアルロン酸 { <血液>	27	179	D007 46
2444	{ <その他>	27	—	
640	比重 { <尿>	107	—	
772	{ <髄液>	107	62	D004 4
791	{ <穿刺液>	108	—	
545	鼻汁中好酸球	87	15	D005 3
1315	ヒスタミン	52	—	
1242	ビタミンA (レチノール)	33	—	
1243	ビタミンB ₁ (サイアミン)	33	239	D007 56
1244	ビタミンB ₂ (リボフラビン)	33	235	D007 55
1358	ビタミンB ₆	33	—	
1246	ビタミンB ₁₂ (シアノコバラミン)	33	136	D007 39
1249	ビタミンC (アスコルビン酸)	33	296	D007 60
1241	ビタミンD (1 α ,25-(OH) ₂ ビタミンD)	33, 45	388	D007 63
5893	ビタミンD分画 (25-OHビタミンD分画)	33, 45	—	
4032	ビタミンD (25-OHビタミンD (Total))	33, 45	117	D007 31
1253	ビタミンE (トコフェロール)	33	—	
1110	ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) { <血清>	50	130	D008 18
1111	{ <尿>	50	130	D008 18
1143	ヒト心房性Na利尿ポリペプチド (α -hANP) (ANP)	52	221	D008 46
5769	ヒト精巢上体蛋白4 (HE4)	54	200	D009 29
138	ヒトパルボウイルスB19DNA	62	—	
2538	(ヒト) パルボウイルスB19 IgG	61	—	
2539	(ヒト) パルボウイルスB19 IgM	61	200	D012 44
757	皮膚疥癬	108	67	D017 3
787	(尿酸) ピロリン酸結晶	108	50	D004 2
1076	非抱合型コルチゾール (コルチゾール<尿>)	49	121	D008 14
2918	百日咳菌抗体	70	257	D012 54
2078	百日咳抗体 IgA	70	80	D012 12
2077	百日咳抗体 IgM	70	80	D012 12
5942	百日咳菌DNA	70	360	D023 13
610	ビリルビン定性<尿>	107	—	
2479	ピルシカイニド	39	(470)	B001 2
1221	ピルビン酸	27	47	D007 13
2199	ピルメノール	39	(470)	B001 2

フ	頁数	点数	区分
---	----	----	----

201	ファディアトープ	79	194	D015 21
559	フィブリノゲン (FIB)	88	23	D006 4
3482	フィブリンモノマー複合体定量 (SFMC)	89	215	D006 28
2714	(フィラデルフィア染色体) BCR-ABL1(t(9; 22) 転座解析)	96	頁参照	D006-5
230	風疹抗体価 { <LA>	58	79	D012 11
286	{ <HI>	58	79	D012 11
1618	風疹 IgG 《EIA》	58	200	D012 44
2076	風疹 IgM 《EIA》	58	200	D012 44
1403	フェニトイン	37	(470)	B001 2
671	フェノールスルホンフタレイン排泄試験 (PSPテスト)	36	(150)	D286
1401	フェノバルビタール	37	(470)	B001 2
112	フェリチン	75	102	D007 25
4131	フォンウィルブランド因子活性(リストセチンコファクター)	88	126	D006 14
572	フォンウィルブランド因子定量 (第Ⅷ因子様抗原)	88	147	D006 20
466	不規則抗体	86	159	D011 4
161	副甲状腺ホルモン (PTH) intact { CLIA	45	161	D008 29
4120	{ ECLIA	45	161	D008 29
1028	副甲状腺ホルモン関連蛋白intact (PTHrp-intact)	45	180	D008 36
1006	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)	43	184	D008 37
1747	(抗) 副腎皮質抗体	84	—	
117	不飽和鉄結合能 (UIBC) 《比色法》	31	11	D007 1
584	プラスミノゲン (PLG) { 《定量》	89	100	D006 12
537	{ 《活性》	89	100	D006 12

検査項目索引

1402	プリミドン	37	(470)	B001	2
2965	フリーPSA/トータルPSA比	54	150	D009	17
1721	プレアルブミン (トランスサイレチン)	75	101	D015	12
2208	フレカイニド	39	(470)	B001	2
1092	プレグナジオール (P ₂)	50	213	D008	43
1093	プレグナトリオール (P ₃)	50	232	D008	48
1420	プロカインアミド	39	(470)	B001	2
2603	プロカルシトニン (PCT)	72	276	D007	59
2200	プロゲステロン	50	143	D008	22
1378	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	76	136	D007	39
3407	プロジェステロンレセプター (PgR)	115	690	N002	2
2276	プロテインC (抗原量)	90	226	D006	30
1381	プロテインC活性	90	227	D006	31
2278	プロテインS (抗原量)	90	154	D006	22
1992	プロテインS (遊離型抗原量)	90	154	D006	22
2277	プロテインS活性	90	163	D006	23
631	(赤血球) プロトボルフィリン	34	272	D007	58
555	プロトロンビン時間 (PT)	88	18	D006	2
2417	プロパフェノン	39	(470)	B001	2
1417	プロプラノロール	39	—		
2219	プロムベリドール	38	(470)	B001	2
2259	プロラクチン (PRL)	43	98	D008	6

へ		頁数	点数	区分
1755	(抗) 平滑筋抗体	84	—	
507	平均赤血球血色素濃度 (MCHC)	87	—	
506	平均赤血球血色素量 (MCH)	87	—	
505	平均赤血球容積 (MCV)	87	—	
1280	ヘパリン	88	108	D007 28
1699	ペプシノゲン (PG)	36	—	
3756	ペプリジル	39	(470)	B001 2
504	ヘマトクリット (Ht)	87	21	D005 5
503	ヘモグロビン (Hb)	87	21	D005 5
79	ヘモグロビンA1c (HbA1c)	27	49	D005 9
2399	ヘモグロビン及びトランスフェリン〈便〉	108	56	D003 8
5781	ペランパネル	38	(470)	B001 2
4106	ヘリコバクターピロリ抗体 〈LA〉	36	80	D012 12
550	ペルオキシダーゼ染色 [血液特殊染色]	87	頁参照 D005 6・14注	
869	(大腸菌) ペロトキシン定性	102	184	D023-2 3
312	ベンス・ジョーンズ蛋白同定	77	201	D015 22
5771	(便中) カルプロテクチン	108	268	D003 9
721	便中ヘモグロビン 《ラテックス》	108	37	D003 5
2688	便中ヘリコバクターピロリ抗原	36	142	D012 25

ホ		頁数	点数	区分
227	(血清) 補体価 (CH ₅₀)	78	38	D015 4
1696	(臍) ホスホリパーゼA ₂ (臍PLA ₂)	22	204	D007 51
2956	ホモシステイン	26	279	D010 4イ
1049	ホモバニリン酸 (HVA) 〈尿〉	47	69	D008 3
2298	ホモバニリン酸 (HVA) 〈クレアチニン補正值〉	47	69	D008 3
2494	ポリコナゾール	40	(470)	B001 2
1307	ボルフォビリノーゲン	34	186	D001 16
2477	ボレリア・ブルドルフェリ抗体 (ライム病抗体)	72	—	

マ		頁数	点数	区分
3758	マイクロサテライト不安定性検査 (MSI解析)	116	2500	D004-2 1
2882	マイコバクテリウムアビウムイントラセラー核酸増幅同定 (MAC)	100	421	D023 16
1701	マイコプラズマ抗体 { 〈CF〉	70	32	D012 4
218	{ 〈PA〉	70	32	D012 4
3154	マイコプラズマ抗原	70	148	D012 27
1468	マイコプラズマ分離同定	102	頁参照 D018	
3755	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	70	291	D023 6
52	マグネシウム (Mg)	31	11	D007 1
1561	麻疹 〈NT〉	58	79	D012 11
2383	麻疹 { IgG 〈EIA〉	58	200	D012 44
1643	{ IgM 〈EIA〉	58	200	D012 44
3036	(末梢血) 好中球bcr/abl [t (9;22) 転座解析]	96	頁参照 D006-5	
2709	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	81	116	D014 9
549	マラリア原虫	88	40	D005 7
553	マルク (骨髓像)	87	788	D005 14
1338	マンガン (Mn) 〈血液〉	32	27	D007 8
4308	マンデル酸 (EB)	34	—	

ミ		頁数	点数	区分
1227	ミオグロビン { 〈血清〉	76	131	D007 36
1226	{ 〈尿〉	76	131	D007 36
1457	(心室筋) ミオシン軽鎖 I	76	184	D007 48
5792	ミコフェノール酸	41	(470)	B001 2
1952	(抗) ミトコンドリアM2抗体	84	189	D014 22
1754	(抗) ミトコンドリア抗体 (AMA)	84	181	D014 21
2887	(抗) ミュラー管ホルモン (AMH)	50	597	D008 52

ム		頁数	点数	区分
51	無機リン (P)	31	17	D007 3
1313	ムラミダーゼ (リゾチーム) { 〈血清〉	22	—	
1314	{ 〈尿〉	22	—	
1509	ムンプス { 〈CF〉	58	79	D012 11
1539	{ 〈HI〉	58	79	D012 11
1560	{ 〈NT〉	58	79	D012 11
2385	ムンプス { IgG 〈EIA〉	58	200	D012 44
1645	{ IgM 〈EIA〉	58	200	D012 44

メ		頁数	点数	区分
1190	メキシレチン	39	(470)	B001 2
2853	メソテリン (可溶性メソテリン関連蛋白)	55	220	D009 30
1352	メトトレキサート (メソトレキサート)	41	(470)	B001 2
1046	メタネフリン2分画	47	217	D008 44
4068	(血中遊離) メタネフリン分画	47	450	D008 51
1326	メタノール	35	—	
4309	尿中メチルイソブチルケトン (MIBK)	34	—	

5958	メラノーマBRAF変異解析 (ベムラフェニブ)	116	5000	D004-2	1
4435	メラノーマBRAF変異解析(ダブラフェニブ、エンコラフェニブ)	116	5000	D004-2	1
635	メチル馬尿酸 (MHA)	34	—		
2103	免疫グロブリンH鎖JH再構成	98	2373	D006-6	
2104	免疫グロブリンL鎖Jκ再構成	98	2373	D006-6	
2105	免疫グロブリンL鎖Jλ再構成	98	2373	D006-6	
2081	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比 (フリーライトチェーン)	77	388	D015	29
252	免疫電気泳動 (M蛋白同定) (特異抗血清による同定)	77	218	D015	24

モ

540	網状赤血球数 (レチクロ)	87	12	D005	2
★	モノクローナル抗体によるリンパ球サブセット { 単染色法 }	91	185	D016	2
★	{ 二重染色法 }	91	185	D016	2

ヤ

416	薬剤によるリンパ球幼若化試験 (DLST)	93	頁参照	D016	7
-----	-----------------------	----	-----	------	---

ユ

1042	遊離カテコールアミン3分画	47	161	D008	29
43	遊離コレステロール (F-Cho)	29	11	D007	1
2263	遊離サイロキシニン (FT ₄)	44	121	D008	14
113	遊離脂肪酸 (NEFA)	30	59	D007	19
1674	遊離テストステロン	50	159	D008	27
2264	遊離トリヨードサイロニン (FT ₃)	44	121	D008	14
4068	(血中) 遊離メタネフリン分画	47	450	D008	51
1112	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット) 〈血清〉	50	129	D008	17

ヨ

1247	葉酸	33	146	D007	41
------	----	----	-----	------	----

ラ

2477	ライム病抗体 (ボレリア・ブルドルフェリ抗体)	72	—		
5785	ラコサミド	38	(470)	B001	2
2923	ラモトリギン	38	(470)	B001	2
2258	卵胞刺激ホルモン (FSH)	43	105	D008	12
1194	乱用薬物スクリーニング	123	—		

リ

	頁数	点数	区分
241	リウマチ因子定量 (RF)	81	30 D014 2
4131	リストセチンコファクター (フォンウィルブランド因子活性)	88	126 D006 14
1313	リゾチーム (ムラミダーゼ) { 〈血清〉	22	—
1314	{ 〈尿〉	22	—
1412	リチウム	38	(470) B001 2
1418	リドカイン	39	(470) B001 2
1303	リパーゼ 〈血清〉	22	24 D007 6
790	リバルタ反応	108	—
76	リポ蛋白 (a) (Lp (a))	30	107 D007 27
2260	リポ蛋白分画〈アガロース〉	30	49 D007 15
67	リポ蛋白分画〈PAG・濃度図解析〉	30	80 D007 21
1383	リポ蛋白リパーゼ (LPL)	30	219 D007 53
1244	リボフラビン (ビタミンB ₂)	33	235 D007 55
291	淋菌核酸検出 (淋菌PCR) { 〈ぬぐい液〉	74	198 D023 2
290	{ 〈尿〉	74	198 D023 2
2067	{ 〈うがい液〉	74	198 D023 2
4069	淋菌/クラミジア・トラコマチス同時核酸検出 { 〈ぬぐい液〉	74	262 D023 5
4070	(淋菌/クラミジア・トラコマチスPCR) { 〈尿〉	74	262 D023 5
4071	{ 〈うがい液〉	74	262 D023 5
42	リン脂質 (PL)	30	15 D007 2
4067	(抗) リン脂質抗体 (APL) パネル	84	678 D014 30
411	リンパ球幼若化試験 { (PHA)	93	345 D016 7
341	{ (Con-A)	93	345 D016 7

ル

2404	ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアグラント)	88	265	D014	35
------	---------------------------	----	-----	------	----

レ

	頁数	点数	区分
3094	(尿中) レジオネラ抗原	70	205 D012 46
5941	レジオネラ核酸同定	70	292 D023 7
540	レチクロ (網状赤血球数)	87	12 D005 2
1242	レチノール (ビタミンA)	33	—
1228	レチノール結合蛋白 (RBP)	33	132 D015 15
1064	(血漿) レニン活性 (PRA)	48	100 D008 8
4086	レニン濃度 (活性型) (ARC)	48	102 D008 10
2890	レベチラセタム	38	(470) B001 2
2360	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLPコレステロール)	30	174 D007 44

ロ

	頁数	点数	区分
15	ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)	21	11 D007 1
4065	ロイシンリッチα2グリコプロテイン (LRG)	77	268 D007 57
1649	ロタウイルス抗原〈便〉	62	65 D012 8

検査項目索引

アルファベットで始まる項目

A		頁数	点数	区分
22	A/G	21	—	
462	ABO式血液型	86	24	D011 1
1069	ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	49	136	D007 39
1006	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	43	184	D008 37
1287	ADA (アデノシンデアミナーゼ)	{	22	32 D007 11
1186			22	32 D007 11
5764	ADAMTS13活性	90	400	D006 33
5765	ADAMTS13インヒビター定量	90	1000	D006 35
1010	ADH (バソプレシン) (抗利尿ホルモン)	43	224	D008 47
111	AFP (α-フェトプロテイン)	53	98	D009 2
2232	AFPレクチン分画	53	185	D009 26
1330	Al (アルミニウム)	31	109	D007 29
118	AI指数 (動脈硬化指数)	29	—	
29	ALB (アルブミン)	21	11	D007 1
19	ALD (アルドラーゼ)	21	11	D007 1
17	ALP (アルカリホスファターゼ)	21	11	D007 1
2253	ALPアイソザイム	23	48	D007 14
1172	ALP染色 [血液特殊染色]	87	頁参照 D005 6・14注	
3137	ALK [2p23転座解析]	97	頁参照 D006-5	
10	ALT (GPT)	21	17	D007 3
1754	AMA (抗ミトコンドリア抗体)	84	181	D014 21
2887	AMH (抗ミュラー管ホルモン)	50	597	D008 52
2713	(RUNX1) AML-1 (21q22転座解析)	96	頁参照 D006-5	
3035	(RUNX1) AML-1/ETO(MTG8) [t(8;21) 転座解析]	96	頁参照 D006-5	
4091	AmoyDx® 肺癌マルチ遺伝子PCRパネル (肺癌マルチ遺伝子PCRパネル)	116	12500	D006-24
2272	AMYアイソザイム {	{	23	48 D007 14
2273			23	48 D007 14
1137	c-AMP (サイクリックAMP) {	{	52	165 D008 32
1139			52	165 D008 32
223	ANA (抗核抗体)	81	99	D014 5
1143	ANP (α-hANP) (ヒト心房性Na利尿ポリペプチド)	52	221	D008 46
2734	Angelman症候群 (15染色体)	95	頁参照 D006-5	
556	APTT (活性化部分トロンボプラスチン時間)	88	29	D006 7
3316	(BIRC3) API2/MALT1 [t(11;18) 転座解析]	97	頁参照 D006-5	
4126	APOA2 (アポリポ蛋白A2) アイソフォーム	53	335	D009 35
4067	(抗リン脂質抗体) APLパネル	84	678	D014 30
2053	(IgE) Ara h 2 (ピーナッツ由来)	79	110	D015 13
4086	ARC (レニン濃度)	48	102	D008 10
5903	(抗) ARS抗体	82	190	D014 23
328	ASO (ASLO)	69	15	D012 1
9	AST (GOT)	21	17	D007 3
5901	ATM [11q22.3欠失解析]	97	頁参照 D006-5	
536	ATⅢ (アンチトロンビンⅢ) 《活性》	89	70	D006 9
1970	ATLA抗体 (HTLV-Ⅰ抗体) {	{	68	159 D012 31
4035			68	425 D012 60
1010	AVP (バソプレシン) (抗利尿ホルモン)	43	224	D008 47

B

B		頁数	点数	区分
2423	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) (骨型ALP)	23,46	157	D008 26
1673	BCA225	53	158	D009 20
2581	BCAA/TYR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) (BTR)	26	283	D010 5
5917	BCL2 [18q21転座解析]	97	頁参照 D006-5	
3469	BCL6 [3q27転座解析]	97	頁参照 D006-5	
2714	BCR::ABL1 [t(9;22) 転座解析]	96	頁参照 D006-5	
1991	BFP (塩基性フェトプロテイン)	53	150	D009 17
333	BGP (オステオカルシン) (OC)	45	157	D008 26
3316	BIRC3::MALT1 [t(11;18) 転座解析]	97	頁参照 D006-5	

2231	BNP (脳性Na利尿ポリペプチド)	52	130	D008 18
3179	(抗) BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体)	83	270	D014 36
2581	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) (BCAA/TYR)	26	283	D010 5
35	BUN (尿素窒素)	25	11	D007 1
★	B細胞サブクラスSm-Ig Total(IgG, A, M, D, K鎖, L鎖)	91	155	D016 1

C

★	C分染法	95	頁参照 D006-5	
1137	c-AMP (サイクリックAMP) {	{	52	165 D008 32
1139			52	165 D008 32
162	C-ペプチド (CPR) {	{	51	105 D008 12
163			51	105 D008 12
2300	C1インアクチベーター活性	78	253	D015 25
330	C1q	78	—	
249	C3	78	70	D015 8
250	C4	78	70	D015 8
50	Ca (カルシウム)	31	11	D007 1
2960	CA-RF (抗ガラクトース欠損IgG抗体)	81	111	D014 8
141	CA125	53	136	D009 11
1297	CA15-3	53	112	D009 6
93	CA19-9	53	121	D009 9
2362	CA54/61	54	184	D009 25
1272	CA72-4	54	146	D009 16
2349	CA602	54	190	D009 27
3257	(抗) CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	81	193	D014 24
2281	C-ANCA (抗好中球細胞質抗体) (PR-3-ANCA)	85	252	D014 33
2307	CBFB [inv (16) 逆位、t (16; 16) 転座解析]	96	頁参照 D006-5	
1344	Cd (カドミウム) {	{	32	—
1345			32	—
2519	CD55 (赤血球表面マーカー)	91	—	
2556	CD59 (赤血球表面マーカー)	91	—	
4066	CD (クロストリジオイデス・ディフィシル) 抗原毒素	102	80	D012 12
4051	CD (クロストリジオイデス・ディフィシル) 毒素遺伝子検出	102	450	D023-2 5
5914	CDKN2A [9p21欠失解析]	96	頁参照 D006-5	
2345	(抗) Cdl・β ₂ GPI複合体抗体	84	223	D014 29
4111	(抗) Cdl抗体IgG	84	226	D014 30
4112	(抗) Cdl抗体IgM	84	226	D014 30
110	CEA (癌胎児性抗原)	53	99	D009 3
2469	(抗) CENP-B抗体 (抗セントロメア抗体)	83	174	D014 20
14	ChE (コリンエステラーゼ)	21	11	D007 1
227	CH ₅₀ (血清補体価)	78	38	D015 4
16	CK (CPK) (クレアチンキナーゼ)	21	11	D007 1
1397	CK-MB {	{	23	55 D007 17
257			23	90 D007 22
2256	CKアイソザイム (CPKアイソザイム)	23	55	D007 17
49	Cl (クロール)	31	11	D007 1
5918	(MYC) c-myc [8q24転座解析]	97	頁参照 D006-5	
3082	(MYC) c-myc/IgH [t(8;14) 転座解析]	97	頁参照 D006-5	
1503	CMV (サイトメガロ) 《CF》	59	79	D012 11
1657	CMV (サイトメガロウイルス) 《DNA》	62	—	
4041	CMV (サイトメガロ) {	{	59	200 D012 44
4042			59	200 D012 44
2681	CMV (サイトメガロウイルス) PP65抗原 (C7-HRP)	62	356	D012 57
2574	CMV (サイトメガロウイルス) PP65抗原 (C10, C11)	62	356	D012 57
4023	CMV (サイトメガロウイルス) 核酸検出 (新生児尿)	62	801	D023 20
165	COR (コルチゾール)	49	121	D008 14
1723	Cp (セルロプラスミン)	76	90	D015 9
162	CPR (C-ペプチド) {	{	51	105 D008 12
163			51	105 D008 12
1335	Cr (クロム) {	{	32	—
1336			32	—

32	CRE (クレアチニン)	24	11	D007	1
326	CRP { 《定性》	76	16	D015	1
325	{ 《定量》	76	16	D015	1
2957	CSLEX抗原 (シアリルLex抗原)	54	156	D009	19
1025	CT (カルシトニン)	45	130	D008	18
55	Cu (銅) { 《血清》	31	23	D007	5
1334	{ 《尿》	31	23	D007	5

D

3	D-BIL (直接ビリルビン)	21	11	D007	1
1266	Dダイマー	89	127	D006	15
1088	DHEA-S (デハイドロエピアンドロステロンサルフェート)	49	164	D008	31
2851	DIP (骨塩定量)	126	(140)	D217	3
416	DLST (薬剤によるリンパ球幼若化試験)	93	頁参照	D016	7
1735	(抗) DNA抗体	81	159	D014	17
3201	DPD (尿中デオキシビリジノリン)	46	191	D008	39
1237	(抗) dsDNA抗体 { IgG	81	159	D014	17
1238	{ IgM	81	—		
1197	DUPAN-2	53	115	D009	7
3441	D13S319 (13q14欠失解析)	97	頁参照	D006-5	
5913	D20S108 (20q12欠失解析)	96	頁参照	D006-5	

E

2250	E ₂ (エストラジオール) 《血清》	50	167	D008	33
★	EBV 《FAT》	61	頁参照	D012 11-44	
2339	ECP (好酸球塩基性蛋白)	77	—		
242	eGFRcreat (推算GFRcreat)	24	—		
3395	eGFRcys (推算GFRcys)	24	—		
5939	EGFR遺伝子変異解析v2.0	116	2500	D004-2	1
3046	EGFRタンパク免疫染色標本作製	115	690	N002	4
1258	EPO (エリスロポエチン)	52	209	D008	41
★	ESR (血沈)	87	—		
2738	ETV6 [12p13転座/欠失解析]	96	頁参照	D006-5	
3078	ETV6::RUNX1 [t (12; 21) 転座解析]	96	頁参照	D006-5	
3730	EWSR1 [22q12転座解析]	97	頁参照	D006-5	

F

43	F-Chol (遊離コレステロール)	29	11	D007	1
560	FDP { 《血中》	89	80	D006	10
582	{ 《尿》	89	72	D001	7
53	Fe (鉄) 《血清》	31	11	D007	1
3164	FGFR3/IGH [t (4; 14) 転座解析]	97	頁参照	D006-5	
559	FIB (フィブリノゲン)	88	23	D006	4
2084	FIB-4 Index	22	—		
2932	FIP1::PDGFRA [4q12欠失解析]	96	頁参照	D006-5	
4494	FLT 3 遺伝子変異解析 ITD/TKD	98	4200	D006-14	
2258	FSH (卵巣刺激ホルモン)	43	105	D008	12
2264	FT ₃ (遊離トリヨードサイロニン)	44	121	D008	14
2263	FT ₄ (遊離サイロキシン)	44	121	D008	14
455	(梅毒) FTA-ABS { 《定性》	69	134	D012	23
470	{ 《定量》	69	134	D012	23

G

★	G分染法	95, 96	頁参照	D006-5	
2368	GA (グリコアルブミン)	27	55	D007	17
2540	(抗) GAD抗体 (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	51	134	D008	19

2968	(抗) GBM抗体 (抗糸球体基底膜抗体)	85	262	D014	34
1001	GH (成長ホルモン)	43	105	D008	12
★	GLU (グルコース)	27	11	D007	1
9	GOT (AST)	21	17	D007	3
10	GPT (ALT)	21	17	D007	3

H

634	HA (馬尿酸)	34	—		
1143	(α) hANP (ヒト心房性Na利尿ポリペプチド)	52	221	D008	46
1623	HA抗体 《CLIA》	66	146	D013	8
1624	HA-IgM抗体 《CLIA》	66	146	D013	8
503	Hb (ヘモグロビン)	87	21	D005	5
79	HbA1c (グリコヘモグロビンA1c)	27	49	D005	9
283	HbC抗体 《CLIA》	66	130	D013	6
285	HbC-IgM抗体 《CLIA》	66	146	D013	8
4123	(高感度) HBVコア関連抗原 (HBcAg)	66	252	D013	12
281	HBe抗原 《CLIA》	66	98	D013	4
282	HBe抗体 《CLIA》	66	98	D013	4
228	HBs抗原 { 《RPHA》	66	29	D013	1
279	{ 《CLIA》	66	88	D013	3
229	HBs抗体 { 《PHA》	66	32	D013	2
280	{ 《CLIA》	66	88	D013	3
2611	HBV-DNA (定量) (リアルタイムPCR)	66	256	D023	4
2850	HBVゲノタイプ	66	340	D013	14
1110	HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン) { 《血清》	50	130	D008	18
1111	{ 《尿》	50	130	D008	18
1112	HCG-βサブユニット《血清》	50	129	D008	17
2457	HCV-RNAサブタイプ (ジェノタイプ)	67	—		
2592	HCV-RNA定量 (リアルタイムPCR)	67	412	D023	15
2392	HCV群別測定	67	215	D013	11
2099	HCVコア蛋白	67	102	D013	5
1959	HCV抗体《CLIA》	67	102	D013	5
2683	HCVモニターゲノタイプ	67	—		
108	HDL-コレステロール (HDL-Cho)	29	17	D007	3
5769	HE4 (ヒト精巢上体蛋白4)	54	200	D009	29
3342	(血清) HER2蛋白	55	頁参照		
2721	HER2蛋白免疫染色標本作製	115	690	N002	3
3418	HER2遺伝子標本作製	115	2700	N005	1
3752	HEV抗体IgA	67	210	D013	10
1346	Hg (水銀) { 《血液》	32	—		
1347	{ 《尿》	32	—		
2291	HGF (肝細胞増殖因子)	52	227	D007	54
2304	HIV-抗原・抗体	68	109	D012	16
4115	HIV-1/2抗体確認検査	68	660	D012	63
2593	HIV-1RNA定量 (リアルタイムPCR)	68	520	D023	18
3757	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	85	390	D011	10
3167	HLA-A、B (血清対応型タイピング)	94	—		
2197	HLA-A遺伝子型判定 (A Locus)	94	—		
2659	HLA-B遺伝子型判定 (B Locus)	94	—		
3255	HLA-C遺伝子型判定 (C Locus)	94	—		
2337	HLA-DPB1遺伝子型判定	94	—		
3170	HLA-DQA1遺伝子型判定	94	—		
2336	HLA-DQB1遺伝子型判定	94	—		
3168	HLA-DR (血清対応型タイピング)	94	—		
2335	HLA-DRB1遺伝子型判定	94	—		
243	Hp (ハプトグロビン)	75	129	D015	14
3298	HPV-DNA ハイリスクグループ	63	347	D023	10
3783	HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定	63	347	D023	11
5777	HPV E6/E7 mRNA同定	63	347	D023	10
2926	HPV-DNA型判定 (ハイリスク13種)	63	2000	D023	25
504	Ht (ヘマトクリット)	87	21	D005	5
1022	HTG (サイログロブリン) (Tg)	44	128	D008	16

検査項目索引

1970	HTLV- I 抗体 (ATLA抗体)	《CLIA》	68	159	D012	31
4035		《確認試験》LIA	68	425	D012	60
1049	HVA (ホモバニリン酸)	《尿》	47	69	D008	3
2298		《クレアチニン補正值》	47	69	D008	3

I		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

4	I-BIL (間接ビリルビン)	21	—	
4033	(抗) IA-2抗体	51	213	D008 43
37	ICG	36	(100)	D289 2
234	IgA	78	38	D015 4
201	IgE (ファディア トープ)	79	194	D015 21
1729	IgE (総)	79	100	D015 11
★	IgE (特異的IgE)	79	110	D015 13
2053	IgE Ara h 2 (ピーナッツ由来)	79	110	D015 13
339	IgE MAST 36	79	1430	D015 13
2060	IgE View アレルギー-39	79	1430	D015 13
1012	IGF-1 (ソマトメジン-C)	43	212	D008 42
235	IgG	78	38	D015 4
3329	IgG ₂	78	239	D014 31
2654	IgG ₄	78	377	D014 41
2412	IgG型リウマチ因子	81	198	D014 26
5916	IGH [14q32転座解析]	96	頁参照	D006-5
3081	IGH::BCL2 [t (14 ; 18) 転座解析]	97	頁参照	D006-5
3077	IGH::CCND1 [t (11 ; 14) 転座解析]	96	頁参照	D006-5
3164	IGH::FGFR3 [t (4 ; 14) 転座解析]	97	頁参照	D006-5
3163	IGH::MAF [t (14 ; 16) 転座解析]	97	頁参照	D006-5
3082	IGH::MYC [t (8 ; 14) 転座解析]	97	頁参照	D006-5
236	IgM	78	38	D015 4
5912	IRF1 (5q31欠失解析)	96	頁参照	D006-5
4049	IRG (豚グルカゴン)	51	150	D008 23
★	IRI (インスリン)	51	100	D008 8

J		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

4468	JAK2V617F遺伝子変異	98	2504	D006-16
1978	(抗) Jo-1抗体《CLEIA》	82	140	D014 12

K		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

48	K (カリウム)	31	11	D007 1
2146	KL-6 (シアル化糖鎖抗原KL-6)	25	108	D007 28
2737	KMT2A (11q23転座解析)	96	頁参照	D006-5
5922	KRAS遺伝子変異解析	116	2100	D004-214(2)

L		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

1428	L-ドーパ	41	—	
15	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ)	21	11	D007 1
18	LD (LDH) (乳酸脱水素酵素)	21	11	D007 1
2251	LDアイソザイム (LDHアイソザイム)	23	48	D007 14
2452	LDL-コレステロール (LDL-Cho) 酵素法	29	18	D007 4
2489	LDL-コレステロール (LDL-Cho) Friedewald式	29	—	
107	LDL/HDLコレステロール比	29	—	
3710	L-FABP (尿中L型脂肪酸結合蛋白)	75	210	D001 19
2257	LH (黄体形成ホルモン)	43	105	D008 12

2658	(抗) LKM-1抗体	84	215	D014 28
76	Lp (a) (リポ蛋白 (a))	30	107	D007 27
1383	LPL (リポ蛋白リパーゼ)	30	219	D007 53
4065	LRG (ロイシンリッチ α 2グリコ蛋白)	77	268	D007 57
416	LST (薬剤によるリンパ球幼若化試験) (DLST)	93	頁参照	D016 7

M		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

252	M蛋白同定 (免疫電気泳動)	77	218	D015 24
4132	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体	76	194	D007 50
5951	Major <i>BCR::ABL 1</i> 高感度IS%	98	2520	D006-3 1
4308	MA (マンデル酸)	34	—	
2882	MAC (マイコバクテリウムアビウムイントラセラー核酸増幅同定)	100	421	D023 16
3782	MAC抗体 (抗酸菌抗体定性)	72	116	D012 18
3163	MAF-IGH [t (14 ; 16) 転座解析]	97	頁参照	D006-5
3040	MALT1 [18q21転座解析]	97	頁参照	D006-5
339	MAST36 (IgE)	79	1430	D015 13
506	MCH (平均赤血球色素量)	87	—	
507	MCHC (平均赤血球色素濃度)	87	—	
505	MCV (平均赤血球容積)	87	—	
3271	MDA-LDL (酸化LDL)	30	194	D007 50
5869	(抗) MDA5抗体	83	270	D014 37
52	Mg (マグネシウム)	31	11	D007 1
635	MHA (メチル馬尿酸)	34	—	
5858	(抗) Mi-2抗体	83	270	D014 37
4309	MIBK (尿中メチルイソブチルケトン)	34	—	
2735	Miller-Dieker症候群 (17染色体)	95	頁参照	D006-5
2737	(KMT2A) MLL (11q23転座解析)	96	頁参照	D006-5
2709	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	81	116	D014 9
1338	Mn (マンガン) (血液)	32	27	D007 8
2282	MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	85	251	D014 32
876	MRSAスクリーニング	102	—	
877	MRSA/緑膿菌スクリーニング	102	—	
3758	MSI解析 (マイクロサテライト不安定性検査)	116	2500	D004-2 1
3732	(抗) MuSK抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	85	1000	D014 47
5918	MYC [8q24転座解析]	97	頁参照	D006-5
5919	MYCN [2q24.1増幅解析]	97	頁参照	D006-5
4132	M2BPGi定量 (Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	76	194	D007 50

N		頁数	点数	区分
---	--	----	----	----

676	N-メチルホルムアミド	34	—	
5919	(MYCN) N-myc [2p24.1増幅解析]	97	頁参照	D006-5
47	Na (ナトリウム)	31	11	D007 1
184	NAG	22	41	D001 5
1262	NCC-ST-439	53	112	D009 6
113	NEFA (遊離脂肪酸)	30	59	D007 19
5852	(尿中) NGAL (好中球セラチナーゼ結合性リポカリン)	75	210	D001 19
34	NH ₃ (血中アンモニア)	25	50	D007 16
1342	Ni (ニッケル)	32	—	
404	NK細胞活性	93	—	
31	non HDL-コレステロール	29	—	
4027	NPM1変異解析	98	2100	D006-2
1294	NSE (神経特異エノラーゼ)	55	142	D009 14
233	NT-proBNP(脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	52	136	D008 20
2743	NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) (尿)	46	156	D008 25
3324	NV抗原 (ノロウイルス抗原)	62	—	
4492	NUDT15遺伝子コドン139多型解析	98	2100	D006-17

O

	頁数	点数	区分
333 OC (オステオカルシン) (BGP)	45	157	D008 26

P

	頁数	点数	区分
51 P (無機リン)	31	17	D007 3
1378 P-Ⅲ-P (プロコラーゲンⅢペプチド)	76	136	D007 39
2822 (total) P1NP (Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	46	160	D008 28
1092 P ₂ (プレグナンジオール)	50	213	D008 43
1093 P ₃ (プレグナントリオール)	50	232	D008 48
5914 (CDKN2A) p16 [9p21欠失解析]	97	頁参照	D006-5
2237 (T) P53 [17p13.1欠失解析]	97	頁参照	D006-5
3254 (抗) p53抗体	53	163	D009 22
4087 PAC/PRA (アルドステロン/レニン活性比)	48	—	
4088 PAC/ARC (アルドステロン/レニン濃度比)	48	—	
1162 PA-IgG (血小板表面IgG)	85	190	D011 6
2282 P-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体) (MPO-ANCA)	85	251	D014 32
577 PAS染色 [血液特殊染色]	87	頁参照	D005 6-14注
632 Pb (鉛)	32	—	
2603 PCT (プロカルシトニン)	72	276	D007 59
1362 PF-4 (血小板第4因子)	90	173	D006 25
1699 PG (ペブシノゲン)	36	—	
773 pH { 〔髄液〕	107	—	
783 { 〔精液〕	108	—	
637 { 〔尿〕	107	—	
1156 PIC (α ₂ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	89	150	D006 21
1467 PIVKA-Ⅱ (腫瘍)	53	131	D009 10
42 PL (リン脂質)	30	15	D007 2
1696 PLA ₂ (膵ホスホリパーゼA ₂)	22	204	D007 51
584 PLG (プラスミノゲン) { 〔定量〕	89	100	D006 12
537 { 〔活性〕	89	100	D006 12
554 PLT (血小板数)	87	21	D005 5
2712 PML/RARA [t(15;17) 転座解析]	96	頁参照	D006-5
2281 PR-3-ANCA (抗好中球細胞質抗体) (C-ANCA)	85	252	D014 33
23 PR-F (蛋白分画)	21	18	D007 4
1064 PRA (血漿レニン活性)	48	100	D008 8
2733 Prader-Willi症候群 (15染色体)	95	頁参照	D006-5
2259 PRL (プロラクチン)	43	98	D008 6
2280 ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	55	175	D009 24
2328 (高感度) PSA	54	121	D009 9
1191 PSA (前立腺特異抗原)	54	121	D009 9
2963 PSA-ACT	54	121	D009 9
2965 (フリー) PSA/トータルPSA比	54	150	D009 17
671 PSPテスト (フェノールスルホンフタレイン排泄試験)	36	(150)	D286
555 PT (プロトロンビン時間)	88	18	D006 2
2270 PTDチェック (頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン)	35	204	D015 23
161 PTH-intact (副甲状腺ホルモンintact) { CLIA	45	161	D008 29
4120 { ECLIA	45	161	D008 29
1028 PTHrp-intact (副甲状腺ホルモン関連蛋白intact)	45	186	D008 38

Q

	頁数	点数	区分
★ Q分染法	95	頁参照	D006-5
2612 QFT-Plus (クオンティフェロンTB プラス)	125	593	D015 30

R

	頁数	点数	区分
★ R分染法	95	頁参照	D006-5
327 RA	81	—	

5976 RAS・BRAF遺伝子変異解析	116	4000	D004-2 1注14
502 RBC (赤血球数)	87	21	D005 5
1228 RBP (レチノール結合蛋白)	33	132	D015 15
241 RF (リウマチ因子定量)	81	30	D014 2
461 Rh (D) 式 血液型	86	24	D011 1
2360 RLPコレステロール (レムナント様リポ蛋白コレステロール)	30	174	D007 44
2306 (抗) RNAポリメラーゼⅢ抗体	82	170	D014 19
2228 (抗) RNP抗体 (FEIA)	82	144	D014 13
5949 ROS1融合遺伝子解析	116	2500	D004-2 1
1373 (梅毒) RPR法 { 〔定性〕	69	15	D012 1
1393 { 〔定量〕	69	34	D012 5
1507 RS { 〔CF〕	59	79	D012 11
1559 { 〔NT〕	59	79	D012 11
2713 RUNX1 (21q22転座解析)	96	頁参照	D006-5
3035 RUNX1::RUNX1T1 [t(8;21) 転座解析]	96	頁参照	D006-5

S

	頁数	点数	区分
80 S-AMY (血清アミラーゼ)	22	11	D007 1
1070 SAA (アミロイドA蛋白)	76	47	D015 6
1298 SCC抗原	55	101	D009 4
2226 (抗) Scl-70抗体 (FEIA)	82	157	D014 16
3158 Se (セレン) (血清)	31	144	D007 40
3482 SFMC (フィブリンモノマー複合体定量)	89	215	D006 28
★ Sm-Ig (B細胞サブクラス IgG,A,M,D、K鎖、L鎖)	91	155	D016 1
2227 (抗) Sm抗体 (FEIA)	81	147	D014 14
2853 SMRP (可溶性メソテリン関連蛋白)	55	220	D009 30
2486 sIL-2R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	55	438	D009 36
1236 SLX (シアリルLe ^x -i抗原)	55	146	D009 16
1727 Span-1抗原	53	144	D009 15
1159 SP-A (肺サーファクタント蛋白-A)	25	130	D007 35
2958 SP-D (肺サーファクタント蛋白-D)	25	136	D007 39
3225 SRSV (ノロウイルス) -RNAマルチ	62	—	
2229 (抗) SS-A/Ro抗体 (FEIA)	82	161	D014 18
2230 (抗) SS-B/La抗体 (FEIA)	82	157	D014 16
1676 (抗) ssDNA抗体 { IgG	81	159	D014 17
2393 { IgM	81	—	
1680 STN (シアリルTn抗原)	54	146	D009 16
3769 STDマイコプラズマ核酸同定	74	—	
4127 S2-3PSA% (前立腺特異抗原 (PSA) レクチン結合分画比)	54	248	D009 31

T

	頁数	点数	区分
1 T-BIL (総ビリルビン)	21	11	D007 1
39 T-Cho (総コレステロール)	29	17	D007 3
5787 T-SPOT.TB (結核菌特異IFN-γ)	125	593	D015 30
2262 T ₃ (トリヨードサイロニン)	44	99	D008 7
2261 T ₄ (総サイロキシ)	44	105	D008 11
1951 TARC (Th2ケモカイン)	79	179	D015 18
534 TAT (トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体)	89	171	D006 24
121 TBA (総胆汁酸) { 〔血清〕	30	47	D007 13
122 { 〔胆汁〕	30	47	D007 13
4072 TBG (サイロキシ結合グロブリン)	44	130	D008 18
★ TCA (トリクロル酢酸)	34	—	
5915 TCF3::PBX1 [t(1;19) 転座解析]	96	頁参照	D006-5
1257 Tf (トランスフェリン)	76	60	D015 7
1022 Tg (サイログロブリン) (HTG)	44	130	D008 18
1066 Tg-Ab (抗サイログロブリン抗体)	44	136	D014 10
41 TG (中性脂肪)	29	11	D007 1
54 TIBC (総鉄結合能) 〔比色法〕	31	11	D007 1
5863 (抗) TIF1-γ 抗体	83	270	D014 37
1444 TL脂肪酸分画 (全脂質脂肪酸分画)	30	393	D010 7

[illegible]

依頼書のご記入方法 (総合・細菌検査依頼書)

依頼書のご記入にあたって (ご記入にあたっては、ボールペンで強くお書き下さい。)

エンボッサーも
ご利用できます。

①患者名

カタカナでご記入下さい。名字(姓)と名前(名)は、それぞれの行にご記入下さい。

②性別

必ず男女の別をご記入下さい。

③年齢

④担当医名

⑤入院・外来

⑥院内セット

各院所に独自のセットを組み込み、印字を致します。

⑦マーク

ご依頼検査項目のご指定は項目名の左枠 ☐ に✓印をつけて下さい。

その後取消時は ☐

もう一度復活させる時は ☐

枠内にアリと指示して下さい。

⑧負荷試験

血糖、尿糖及びインスリン項目の負荷試験時は ☐ 枠内に✓印をつけて下さい。

総合検査依頼書

⑨日付

・提出日、採取日、採取時をご記入下さい。

⑩検体情報

・検査の材料の欄をご記入下さい。
・身長、体重、妊娠週、尿量等必要に応じてご記入下さい。

⑪記入用紙

総合検査依頼書の項目マーク記入用紙は、1枚目と2枚目です。

⑫その他の項目

記載事項以外の項目のご依頼は、ここにご記入下さい。

⑬指定印字項目

当社指定の検査項目印字欄です。ご依頼検査項目のご指定は項目名の左枠 ☐ に✓印をつけて下さい。

⑭薬物投与

薬物投与中の材料採取の場合は、薬物投与欄に✓印でご指示下さい。

細菌検査依頼書

お願い

・検体ラベルの「依頼書用」部分を下の欄へ貼り下さい。

・2本以上の場合はすべてお貼り下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分にカタカナ、ローマ字、数字を記入して下さい。

・検査項目の指定は項目名の左枠 ☐ に✓印をつけて下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

・検体ラベルの「依頼書用」部分に「依頼書用」の文字を記入して下さい。

依頼書のご記入方法（細胞診・病理検査依頼書）

①固定

- ・「湿固定標本」「乾燥標本」にはスライドガラスの枚数をご記入下さい
- ・「生・液状検体」には容器数をご記入下さい

②採取方法

- ・☐枠に✓印をつけて下さい

病理検査依頼書

⑥依頼項目

- ・☐枠に✓印をつけて下さい

⑦生検→生検数

- EMR等→切除数をご記入下さい

⑧容器数

- 提出容器数をご記入下さい

⑨採取臓器

- ・提出されるすべての臓器の☐枠に✓印をつけて下さい
- ・依頼書未記載の臓器はその他欄に臓器名をご記入下さい
- ・左右の区別がある場合は☐枠に✓印をつけて下さい

⑩臨床診断等のご記入

- ・「臨床診断」「臨床所見・経過」は必ずご記入下さい

③検査材料

- ・☐枠に✓印をつけて下さい
- ・依頼書未記載の材料はその他材料欄に材料名をご記入下さい

④検診項目

- ・検診の種類について☐枠に✓印をつけて下さい

⑤追加項目のご依頼

- ・☐枠に✓印をつけて下さい
- ・特殊染色のご依頼は染色名もご記入下さい

【バーコード付き依頼書の使用上注意事項について】

検査依頼書に付属の検体ラベルは、依頼書と検体がペアであることを識別するために、検査依頼書と検体ラベルのバーコードが対になっております。他の依頼書に付属された検体ラベルを使用しますと、検体取り違いの原因になりますので、必ず依頼書に付属された検体ラベルをご利用ください。

検査報告書

＜総合検査報告書＞

＜細菌検査報告書＞＜抗酸菌検査報告書＞

＜アイソザイム検査報告書＞＜蛋白分画報告書＞

＜細胞診検査報告書＞＜病理組織検査報告書＞

チャート報告書

＜腫瘍マーカー検査報告書＞

＜アレルギー検査報告書＞

＜甲状腺機能検査報告書＞

＜肝炎ウイルス検査報告書＞

＜肝炎ウイルス検診報告書＞

本文の記載のご説明

●本文には、採取量、提出量、検査方法、基準値、実施料・判断料など、検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記してあります。以下の例及び説明文をご参照の上、正確な検体の採取にご協力下さい。

例 1 — 検査材料が血清である例 —

検査項目名		略 称		判断料区分を表します		生化学検査				
区分	コード No.	検査項目	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基 準 値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備 考
低分子窒	32	クレアチニン (CRE) 3C015	血 液 2 ↓ 01 血 清 0.5 冷蔵			酵素法	M 0.40~1.14 F 0.31~0.88 mg/dL	11 生 I	1 2	(遠) 尿中クレアチニン[コードNo.: 189] 基準値。 1.0~1.5g/day
	242	推算GFRcreat (eGFRcreat)				計算法	mL/min/1.73m ²	—	1 2	血清クレアチニン(CRE)をご依頼の上、 性別、年齢を必ず記載して下さい。 18歳未満は適用できません。 *

「提出材料」の保存条件です。

記号の内容は19ページをご参照下さい。
(本例では、生化学的検査Ⅰ)

当社「汎用容器(分離剤入り) 01」に、血液2mL採取し、
遠心操作後そのままご提出下さい。(↓: 遠心操作)
(採取、提出とも同一容器(01)で、別容器への移しかえは不要です)

★容器の吸引量よりも採取量が少ない場合は、
検体の溶血を防ぐため、容器内の陰圧を抜いて下さい。

例 2 — 検査材料が添加剤入り血液である例 —

検査項目	採取量 (mL)	容器	保存
網状赤血球数 (レチクロ)	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵

当社「血液学用容器(13)」に、血液2mL採取し、
転倒混和の上ご提出下さい。

例 3 — 添加剤入り容器に採血後、遠心分離して、上清をご提出頂く例 —

検査項目	採取量 (mL)	容器	保存
BNP (脳性Na利尿ポリペプチド)	血液 2	08	↓ 02 凍結

当社「アプロチニン容器(08)」に、血液2mL採取し
遠心操作後、血漿を別容器(02)に移し替えてご
提出下さい。

採取及び容器

- ・本文および検体容器一覧(151ページ〜)をご参照のうえ、所定の容器に必要量を採取して下さい。
- ・本案内書には、おおむねの採取量・提出量を記してあります。ご提出量は原則として再検査に応じられるよう設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
- ・培養をともなう検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

検体の保存

- ・検査精度を維持するために、提出材料の保存条件にご協力下さい。
凍結：凍結検体・・・12℃以下で凍結保存して下さい。
凍結温度指定のあるものは、その旨記載いたします。
- 冷蔵**：冷蔵保存・・・1～15℃で保存して下さい。
また、数日以上にわたり保存される場合は、凍結していただくようお願いいたします。
なお、凍結不可の材料についてはその旨記載いたします。
- 室温**：室温保存・・・16～25℃の室温で保存して下さい。
- 遮光**：遮光保存・・・直射日光、蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。
- ★検査項目により保存状態の影響を受けるものもありますのでお取扱いにご注意下さい。

材料に関する主な用語

- ・血液・・・検査のために採取していただく静脈血を表します。
- ・～加血液・・・採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。
添加剤の種類により、「NaF加血液」、「EDTA加血液」、「クエン酸加血液」、「ヘパリン加血液」などと表示します。
(所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取した後、転倒混和して下さい)
- ・～加血漿・・・採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。
添加剤の種類により、「NaF血漿」、「EDTA血漿」、「クエン酸血漿」、「ヘパリン血漿」などと表示します。
なお、単に『血漿』とあるものについては、備考欄又は容器一覧に添加剤の種類を別記しております。
- ・血清・・・採血後、血餅収縮を待って遠心分離して得られた上清を表します。
特に添加剤を用いる必要がある場合は、その旨備考欄に記載しております。

備考欄

・検査のご依頼や検体の取扱について、特にお願いしたい事項について記載しています。

◆「備考欄」中の記号の説明

- ④ ……「慢性維持透析患者外来医学管理料」該当項目です。（20ページ参照）
- ……保険点数算定条件を記載しています。
- 予約検査 ……予約検査となっておりますので、採血・採取前にご連絡願います。
- 検査まで 時間 ……採血から検査に入るまで。記載時間以上経過した検体では検査できません。
- 受付曜日 ……受付できる曜日が限定されておりますので、採血・採取前にご確認願います。
- 倫理指針対象 ……検査にあたり、被検者への十分な説明と、ご本人もしくはご家族の自由意志による同意が得られた場合にのみ検査を受託いたします。同意が得られている事を、依頼書の担当医師署名にて確認させていただきます。なお、被検者名はプライバシー保護のため、匿名化をお願いします。
- 専用依頼書あり ……専用依頼書を添えてご提出下さい。依頼書には臨床情報等をご記入下さい。

検体の受領と報告

◆検体の受領

・ご依頼の検体は、原則として貴病院・医院の_____に当社営業員が受領にお伺いします。

◆所要日数

- ・検体をお預かりした翌日を起算日とし検査結果を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
- ・所要日数は、休日を除く、のべ日数です。
- ・再検査の場合は、更に若干の日数を要することがあります。

◆検体の保管

- ・検査実施後の検体は、当社規定により一定期間保管させていただきます。（病理学的検査については、120ページ参照。）
- ・保管日数は、お預かりした検体の種類によっても異なりますが、腐敗、変性の著しい材料は、検査実施後速やかに処分させていただきます。ただし、そのうちプール化及び匿名化が可能なものについては、個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従ったうえで、検査精度維持、向上等のために保管期間終了後に使用することがありますので、予めご了承下さい。
- ・保管期間内にご希望の場合は、検体をお返し致します。
- ・お預かりした医療機関以外へは、検査済み検体の提供は行いません。

◆検査結果のご報告

- ・検査結果は、当社所定の報告書にてお届けいたします。
- ・緊急でお預かりしました検体の検査結果は、まず電話またはFAXでご報告いたします。
- ・本案内書で指定した緊急報告対象項目で異常データを示した場合は、測定後速やかに電話にてご報告いたします。（報告基準に関しては、131ページをご参照下さい。）

◆再検査

- ・当ラボラトリー再検査基準に基づき再検査をいたします。

◆検体の搬送時間について

- ・お預かりいたしました検体のラボに搬送するのにかかる時間は約_____時間です。
- ・各拠点のラボから、株式会社サンリツへの平均検体搬送時間は、以下の通りです。
 千葉ラボラトリー 1時間 市川ラボラトリー 1時間 さいたま東葛ラボラトリー 1.5時間
 宇都宮ラボラトリー 2.5時間 栃木ラボラトリー 3.5時間

検査委託先

検査委託先と株式会社サンリツからの平均検体搬送時間

記号	報告書	検査委託施設名	平均検体搬送時間	記号	報告書	検査委託施設名	平均検体搬送時間
02	' , "	LSIメディエンス	1.5	23		アミンファーマ研究所	1～3日
16	」	エスアールエル	2	25	\$	Mayo Clinic Laboratories	6～11日
17	/	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所	12	30	。	Quest Diagnostics Clinical Laboratories	2日
18	.	ビー・エム・エル	2.5	33	°	株式会社サリバテック	2日
19	<	北海道臨床衛生検査技師会立衛生検査所	24	64		千葉細胞病理検査センター	1日
21	；	常磐特殊分析センター	3	65		武蔵臨床検査所	2日

無印 株式会社 サンリツ
、 安房地域検査センター

- ・検査委託施設は各項目備考欄に数字で示しております。
- ・ご依頼元との取決めにより異なる場合がございます。

検体検査実施料について

実施料

- 「実施料」欄は、総合検査案内発行年度6月現在の検体検査実施料に準じております。
- 「実施料」欄中、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料などは、点数に()を付してあります。
- 「実施料」欄中、青色にて印刷されている点数は、下表に従い点数が算出されます。
- 検体検査判断料の区分は「実施料」欄に下記の通り併記してあります。

1. 尿・糞便等検査判断料区分(34点).....	尿便	5. 生化学的検査(Ⅱ)判断料区分(144点).....	生Ⅱ
2. 遺伝子関連・染色体検査判断料(100点).....	遺染	6. 免疫学的検査判断料区分(144点).....	免疫
3. 血液学的検査判断料区分(125点).....	血液	7. 微生物学的検査判断料区分(150点).....	微生
4. 生化学的検査(Ⅰ)判断料区分(144点).....	生Ⅰ	8. 検体検査判断料なし.....	
- 下記(適用項目)に掲げた検査を、1回に採取した材料を用いて、複数検査を行った場合、その点数は、項目数に応じて実施料欄に示したように算出されます。
※病理診断につきましては、120ページを参照下さい。

①血液化学検査

項目名	項目名	項目名	項目名
総ビリルビン	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	総蛋白	アルブミン
尿素窒素	クレアチニン	尿酸	アルカリホスファターゼ(ALP)
コリンエステラーゼ(ChE)	γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γ-GT)	中性脂肪	ナトリウム及びクロール
カリウム	カルシウム	マグネシウム	クレアチン
グルコース	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	アミラーゼ	ロイシナミノペプチダーゼ(LAP)
クレアチンキナーゼ(CK)	アルドラーゼ	遊離コレステロール	鉄(Fe)
血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンブル法・固定化酵素電極によるもの)	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	リン脂質
HDL-コレステロール	無機リン及びリン酸	総コレステロール	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	LDL-コレステロール	蛋白分画	銅(Cu)
リパーゼ	イオン化カルシウム	マンガン(Mn)	

項目数	実施料
5項目以上 7項目以下	93
8項目又は9項目	99
10項目以上	103

②内分泌学的検査

項目名	項目名	項目名	項目名
成長ホルモン(GH)	卵巣刺激ホルモン(FSH)	C-ペプチド(CPR)	黄体形成ホルモン(LH)
アルドステロン	テストステロン	遊離サイロキシシン(FT ₄)	遊離トリヨードサイロニン(FT ₃)
コルチゾール	サイロキシシン結合グロブリン(TBG)	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)	脳性Na利尿ペプチド(BNP)
サイログロブリン	サイロキシシン結合能(TBC)	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	ヒト胎盤性ラクトゲン(HPL)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)	カルシトニン	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
グルカゴン	プロゲステロン	I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NT _x)	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)
骨型アルカリホスファターゼ(BAP)	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	オステオカルシン(OC)	遊離テストステロン
インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PINP)	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿)	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量	I型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)
I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PINP)	サイクリックAMP(cAMP)	副甲状腺ホルモン(PTH)	カテコールアミン分画
デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	エストリオール(E ₃)	エストロゲン半定量	エストロゲン定量
副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント(C-PTHrP)	エストラジオール(E ₂)	デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)
17-ケートジェニックスステロイド(17-KGS)	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	カテコールアミン	エリスロポエチン
17-ケートステロイド分画(17-KS分画)	17α-ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)	抗IA-2抗体	プレグナンジオール
17-ケートジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)	メタネフリン	ソマトメジンC	心房性Na利尿ペプチド(ANP)
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	抗利尿ホルモン(ADH)	プレグナントリオール	ノルメタネフリン
インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)	遊離メタネフリン 遊離ノルメタネフリン分画		

項目数	実施料
3項目以上 5項目以下	410
6項目又は7項目	623
8項目以上	900

③腫瘍マーカー

項目名	項目名	項目名	項目名
癌胎児性抗原 (CEA)	α -フェトプロテイン (AFP)	組織ポリペプチド抗原 (TPA)	扁平上皮癌関連抗原 (SCC抗原)
DUPAN-2	NCC-ST-439	CA15-3	エラスターゼ1
前立腺特異抗原 (PSA)	CA19-9	PIVKA-II 半定量	PIVKA-II 定量
CA72-4	SPan-1	シアリルTn抗原 (STN)	神経特異エノラーゼ (NSE)
CA125	塩基性フェトプロテイン (BFP)	核マトリックスプロテイン 22 (NMP22) 定量 (尿)	核マトリックスプロテイン 22 (NMP22) 定性 (尿)
シアリルLe ^x -i抗原 (SLX)	遊離型PSA比 (PSA F/T比)	サイトケラチン8・18 (尿)	抗p53抗体
BCA225	サイトケラチン19フラグメント (シフラ)	シアリルLe ^x 抗原 (CSLEX)	I型コラーゲンC-テロペプチド (ICTP)
ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)	CA54/61	癌関連ガラクトース転移酵素 (GAT)	CA602
α -フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)	γ -セミノプロテイン (γ -Sm)	ヒト精巣上体蛋白4 (HE4)	可溶性メソテリン関連ペプチド
癌胎児性抗原 (CEA) 定性 (乳頭分泌液)	癌胎児性抗原 (CEA) 半定量 (乳頭分泌液)	HER2蛋白	可溶性インターロイキン-2レセプター (sIL-2R)
組織因子経路インヒビター-2 (TFPI2)	プロステートヘルスインデックス (phi)	S2,3 PSA%	アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォーム

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	385

④肝炎ウイルス関連検査

項目名	項目名	項目名	項目名
HBs抗原	HBs抗体	HBe抗原	HBe抗体
HCV抗体定性・定量	HCVコア蛋白	HBc抗体半定量・定量	HCVコア抗体
HA-IgM抗体	HA抗体	HBc-IgM抗体	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	HE-IgA抗体定性	HCV血清群別判定	HBVコア関連抗原 (HBcrAg)
デルタ肝炎ウイルス抗体	HCV特異抗体価	HBVジェノタイプ判定	

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	425

⑤自己抗体検査

項目名	項目名	項目名	項目名
抗サイログロブリン抗体	抗RNP抗体定性	抗RNP抗体半定量	抗RNP抗体定量
抗Jo-1抗体定性	抗Jo-1抗体半定量	抗Jo-1抗体定量	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
抗Sm抗体定性	抗Sm抗体半定量	抗Sm抗体定量	抗SS-B/La抗体定性
抗SS-B/La抗体半定量	抗SS-B/La抗体定量	C1q結合免疫複合体	抗Scl-70抗体定性
抗Scl-70抗体半定量	抗Scl-70抗体定量	抗SS-A/Ro抗体定性	抗SS-A/Ro抗体半定量
抗SS-A/Ro抗体定量	抗RNAポリメラーゼIII抗体	抗ARS抗体	抗MDA5抗体
抗TIF1- γ 抗体	抗Mi-2抗体		

項目数	実施料
2項目	320
3項目以上	490

⑥出血・凝固検査

項目名	項目名	項目名	項目名
Dダイマー定性	プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)	Dダイマー半定量	von Willebrand因子 (VWF) 活性
Dダイマー	α_2 -マクログロブリン	PIVKA-II	凝固因子インヒビター
von Willebrand因子 (VWF) 抗原	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)	プロテインS抗原	プロテインS活性
β -トロンボグロブリン (β -TG)	血小板第4因子 (PF ₄)	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)	プロトロンビンフラグメントF1+2
トロンボモジュリン	凝固因子 (II、V、VII、VIII、IX、X、XI、XII、XIII)	フィブリンモノマー複合体	プロテインC抗原
tPA・PAI-1複合体	プロテインC活性		

項目数	実施料
3項目又は4項目	530
5項目以上	722

〔慢性維持透析患者外来医学管理料〕 2211 点

注1. 入院中の患者以外の慢性維持透析患者に対して検査の結果に基づき計画的な医学管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

注2. 検査のうち検査項目備考欄に④のある項目は、所定点数に含まれるものとし、また尿・糞便等検査判断料、血液学的検査判断料、生化学的検査 (I) 判断料、生化学的検査 (II) 判断料又は免疫学的検査判断料は別に算定できないものとする。

(但し、出血時間、血液ガス分析、ベントシジン等については検査案内書中には未掲載)

※弊社で扱っていない検査項目も掲載しています。

生化学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
蛋白・ 膠質反応	21	総蛋白 (TP) 3A010	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	ビウレット法	g/dL 6.7～8.3	11 生 I	1 2	①
	29	アルブミン (ALB) 3A015	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	BCP改良法	g/dL 3.8～5.3	11 生 I	1 2	①
	22	A/G 3A016	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	BCP改良法/ ビウレット法	1.1～2.0	—	1 2	
	23	蛋白分画 (PR-F) 3A020	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	電気泳動法	22ページ参照	18 生 I	1 2	①
生体 色素	1	総ビリルビン (T-BIL) 3J010	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	バナジン酸 酸化法	mg/dL 0.2～1.1	11 生 I	1 2	①
	3	直接ビリルビン (D-BIL) 3J015	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	バナジン酸 酸化法	mg/dL 0.1～0.5	11 生 I	1 2	直接・間接ビリルビンのご依頼の 場合、保険請求は総ビリルビン、 直接ビリルビンとご明記下さい。
	4	間接ビリルビン (I-BIL) 3J020	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	計算法	mg/dL 0.1～0.6	—	1 2	
酵 素	9	AST (GOT) 3B035	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	JSCC対応法	U/L 5～40	17 生 I	1 2	① 溶血血清は著しく高値を示す場合 があります。
	10	ALT (GPT) 3B045	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	JSCC対応法	U/L 5～45	17 生 I	1 2	①
	18	LD (乳酸脱水素酵素) 〈IFCC〉 3B050	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	IFCC	U/L 120～240	11 生 I	1 2	① 溶血血清は著しく高値を示す場合 があります。 全血のまま放置しますと高値を示 す場合があります。
	17	ALP (アルカリ ホスファターゼ) 〈IFCC〉 3B070	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	IFCC	U/L 38～113	11 生 I	1 2	① 基準値は小児、成長期及び妊娠に より増加傾向が認められます。
	15	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ) 3B135	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	L-ロイシル-p- ニトロアニリド 基質法	U/L 35～75	11 生 I	1 2	①
	13	γGT (γグルタミルトランスフェラーゼ) (γGTP) 3B090	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	JSCC対応法	U/L M 85以下 F 45以下	11 生 I	1 2	① 基準値は飲酒群を含みます。
	14	コリンエステラーゼ (ChE) 3B110	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	JSCC対応法	U/L M 240～490 F 190～455	11 生 I	1 2	①
	16	CK (クレアチンキナーゼ) 3B010	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	JSCC対応法	U/L M 40～220 F 40～160	11 生 I	1 2	①
	19	アルドラーゼ (ALD) 3B100	血液 2 ↓ 0.5 血清 0.5 冷蔵	01	UV	IU/L 2.7～5.9	11 生 I	2 3	溶血血清は高値を示す場合があり ます。

① 蛋白分画、総蛋白及びアルブミン(BCP改良法・BCG法)を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
酵	80	血清アミラーゼ (S-AMY) 3B160	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	JSCC対応法	U/L 40～129	11 生I	1 2	透
	81	尿アミラーゼ (U-AMY) 3B160	尿 5	25	冷蔵	JSCC対応法	U/L 700以下参考値	11 生I	1 2	透
	1392	グアナーゼ 3B125	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	U/L (37℃) 0.4～1.1	35 生I	3 4	18
	1287	ADA (アデノシン デアミナーゼ) 3B130	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷蔵	酵素法	U/L 8.6～20.5	32 生I	2 3	02
	1186	胸水 3B130	胸水 0.4	25	冷蔵		U/L	32 生I		
	1313	リゾチーム (ムラミダーゼ) 3B255	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	比濁法	μg/mL 4.2～11.5	—	3 6	02
	1314	尿 3B255	尿 1	25	凍結		μg/mL 1.0未満 (検出限界値)			
	1303	リパーゼ (血清) 3B180	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	MGLP・ カラーレート法	U/L 10～50	24 生I	2 3	
	1301	トリプシン 3B185	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	ng/mL 210～570	189 生I	2 4	18
	1696	膵ホスホリパーゼA ₂ (膵PLA ₂) 3B192	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	RIA (ビーズ固相法)	ng/dL 130～400	204 生I	2 5	02
	184	NAG 3B330	尿 5	25	冷蔵	合成基質法 (MPT-NAG)	U/L 11.5以下	41 尿便	2 3	
	2084	FIB-4 Index	血液 2 ↓ 血清 0.5 および EDTA加血液 2	01 13	冷蔵 凍結不可	計算法	低 値：1.30未満 中間値：1.30～2.66 高 値：2.67以上 (参考基準値)	—	1 2	溶血検体、血小板異常低値検体では病態が正確に反映されない場合があります。 AST、ALT、血小板数をご依頼の上、年齢を必ず記載して下さい。 ※単独依頼不可 *

*: 必須項目の同時依頼がない場合は、自動的に追加させていただきます。

蛋白分画基準値

	百分率(%)
ALB	61.0~71.6
α ₁	1.9~ 3.0
α ₂	5.9~ 9.9
β	6.4~10.4
γ	10.0~20.1

提出血清量

項目	数	提出血清量(mL)
1項目以上	5項目以下	0.5~1
6項目以上	10項目以下	1~2
11項目以上	20項目以下	2~3
21項目以上	30項目以下	3~4

多検査項目同時依頼時は、上記の提出血清量を目安として下さい。
なお、検査項目によって多少異なる場合がありますのでご注意下さい。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	13	血液学用容器	25	尿一般容器

生化学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ア イ ソ ザ イ ム	2251	LDアイソザイム (乳酸脱水素酵素・ アイソザイム) 3B055	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	凍結不可 冷蔵	電気泳動法	LD1 20.0～31.0 LD2 28.8～37.0 LD3 21.5～27.6 LD4 6.3～12.4 LD5 5.4～13.2 %	48 生I	2 ↓ 4	凍結は、LD4、LD5を損失するため 不可。 全血では室温保存が望まれます。
	2253	ALPアイソザイム (アルカリホスファターゼ・ アイソザイム) 3B080	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	電気泳動法	成人 ALP1 0.0～ 5.3 ALP2 36.6～69.2 ALP3 25.2～54.2 ALP5 0.0～18.1 小児 ALP2<<ALP3 %	48 生I	2 ↓ 4	
	2423	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) 3B072	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍結	CLEIA	M 3.7～20.9 F 閉経前 2.9～14.5 閉経後 3.8～22.6 μg/L	157 生II	2 ↓ 4	①
	2256	CKアイソザイム 3B025	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	必ず 凍結	電気泳動法	BB 0～2 MB 0～5 MM 94～100 %	55 生I	2 ↓ 4	検体検査実施料名称 「CKアイソザイム」
	1397	CK-MB 《UV》 3B015	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	必ず 凍結	UV	0～16 U/L	生I	1 ↓ 2	検体検査実施料名称 「CKアイソザイム」
	257	CK-MB 《CLIA》 3B015	血液 2 ↓ 血清 0.4	01 02	必ず 凍結	CLIA	2.2以下 ng/mL	90 生I	2 ↓ 3	02
	2272	AMYアイソザイム (アミラーゼ アイソザイム) 3B165	血清 血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	電気泳動法	S 40～70 P 30～60 P/S比 0.40～1.50 %	48 生I	2 ↓ 4	
	2273	AMYアイソザイム (アミラーゼ アイソザイム) 3B165	尿 5	25	凍結		S 10～45 P 55～90 P/S比 1.00～8.00 %	48 生I		
	2432	膵アミラーゼ 3B175	血清 血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	免疫阻害法	14～44 U/L	48 生I	2 ↓ 3	検体検査実施料名称 「アミラーゼアイソザイム」
	2433	膵アミラーゼ 3B175	尿 5	25	冷蔵		U/L	48 生I		

① 骨型アルカリホスファターゼ (BAP)、I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (P1NP)、インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact P1NP) 及びALPアイソザイム (PAG電気泳動法) のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるものののみ算定する。

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
低分子窒素化合物	32	クレアチニン (CRE) 3C015	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵		酵素法	M 0.40~1.14 F 0.31~0.88 mg/dL	11 生I	1 2	④ 尿中クレアチニン[コードNo: 189] 基準値。 1.0~1.5g/day
	242	推算GFRcreat (eGFRcreat)			計算法	mL/min/1.73m ²	—	1 2	血清クレアチニン(CRE)をご依頼の上、 性別、年齢を必ず記載して下さい。 18歳未満は適用できません。 *
	3341	シスタチンC 3C016	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 02 凍結		金コロイド 凝集法	M 0.63~0.95 F 0.56~0.87 mg/L	112 生I	2 3	④ ①
	3395	推算GFRcys (eGFRcys)			計算法	mL/min/1.73m ²	—	2 3	シスタチンCをご依頼の上、性別、 年齢を必ず記載して下さい。 18歳未満は適用できません。 *

① シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

*: 必須項目の同時依頼がない場合は、自動的に追加させていただきます。

■推算GFR —— 腎機能の評価は18歳以上に適用されます。

男性

$$eGFR_{creat} (mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287}$$

$$eGFR_{cys} (mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys - C^{-1.019} \times 0.996^{年齢}) - 8$$

女性

$$eGFR_{creat} (mL/分/1.73m^2) = 194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287} \times 0.739$$

$$eGFR_{cys} (mL/分/1.73m^2) = (104 \times Cys - C^{-1.019} \times 0.996^{年齢} \times 0.929) - 8$$

- ・上記推算式は18歳以上に適用
- ・筋肉量が少ない症例(長期臥床、四肢切断者など)と筋肉量が多い症例(アスリート、運動習慣のある高齢者など)ではeGFRcysの推算式がより適切
- ・真値の±30%に入る正確度は、eGFRcreatで75%、eGFRcysで78%、両者の平均値では82%

■慢性腎臓病(CKD)の定義 —— エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023：日本腎臓学会（編）

健康に影響を与える腎臓の構造や機能の異常(以下のいずれか)が3カ月を越えて持続

腎障害の指標	尿蛋白 (0.15g/24時間以上；0.15g/gCr以上) アルブミン尿 (30mg/24時間以上；30mg/gCr以上) 尿沈査の異常 尿細管障害による電解質異常やその他の異常 病理組織検査による異常、画像検査による形態異常 腎移植の既往
GFRの低下	GFR 60mL/分/1.73m ² 未満

慢性腎臓病（CKD）の重症度

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病性腎臓病	尿アルブミン定量 (mg/日)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	30未満	30~299	300以上
高血圧性腎硬化症 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/1.73m ²)	G1	正常または高値	≥90	
	G2	正常または軽度低下	60~89	
	G3a	軽度~中等度低下	45~59	
	G3b	中等度~高度低下	30~44	
	G4	高度低下	15~29	
	G5	高度低下~末期腎不全	<15	

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。慢性腎臓病（CKD）の重症度は死亡、末期腎不全、心血管疾患（CVD）死亡発症のリスクを緑■のステージを基準に、黄■、オレンジ■、赤■の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

生化学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
低分子窒素化合物	36	尿酸 (UA) 3C020	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			酵素法	M 3.8~7.0 F 2.4~7.0 mg/dL	11 生 I	1 2	④ 尿中尿酸[コードNo.:188]基準値。 0.4~1.2g/day 高尿酸血症の定義、治療基準につきましては下表をご参照下さい。
	35	尿素窒素 (BUN) 3C025	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			ウレアーゼ GLDH	8.0~20.0 mg/dL	11 生 I	1 2	④ 尿中尿素窒素[コードNo.:187]基準値。 7~14g/day
	34	血中アンモニア (NH ₃) 3C040	血液 1 05 ↓ 除蛋白上清 2 02 凍結			酵素 サイクリング法	30~86 [採血直後測定] μg/dL	50 生 I	1 2	専用容器(除蛋白液(4mL)入り)に 正確に1.0mLの血液を加え、十分 混和した後、直ちに遠心分離後上 清2.0mLを凍結し、ご提出下さい。
血清蛋白	2146	KL-6 (シアル化糖鎖抗原KL-6) 5C210	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			ラテックス 凝集法	500未満 U/mL	108 生 I	2 3	①
	2958	SP-D (肺サーファクタント プロテイン-D) 3F253	血液 2 ↓ 01 血清 0.3 冷蔵			CLEIA	110.0未満 ng/mL	136 生 I	2 4	① 18
	1159	SP-A (肺サーファクタント プロテイン-A) 3F250	血液 2 ↓ 01 血清 0.6 冷蔵			CLEIA	43.8未満 ng/mL	130 生 I	2 4	① 18

① KL-6、肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) 及び肺サーファクタント蛋白-D (SP-D) のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

参考. <高尿酸血症について>

- 日本痛風・尿酸核学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」より
- 高尿酸血症の定義
血漿中尿酸の生化学的性状を考慮し、性別を問わず、血清尿酸値7.0mg/dL以上を高尿酸血症と定義する。
 - 無症候性高尿酸血症の定義
血清尿酸値が7.0mg/dL以上で、痛風性関節炎を伴わない病態を無症候性高尿酸血症と定義する。
 - 無症候性高尿酸血症の治療基準
血清尿酸値7.0~7.9mg/dLは要観察、8.0mg/dL以上で腎障害、腎結石(既往歴を含む)、高血圧、高脂血症、虚血性心疾患、糖尿病、肥満症等の合併症、もしくは、痛風・高尿酸血症の家族歴を有する症例は要治療、種々の合併症、家族歴を有しない症例は9.0mg/dL以上を治療対象とする。

血中アンモニア検査の検体採取方法

- 採血後は直ちに「アンモニア用容器」に全血1.0mLを入れ、十分に混和して下さい。
検体容器は真空採血管の形状をしていますが、除蛋白液が4.0mLと多く充填されています。そのため、直接採血しますと、除蛋白溶液が逆流するおそれがありますので避けるようお願いいたします。
- <手順>
- 検体容器内の側面や上蓋内部に付着している除蛋白液を軽く下にふり落としして下さい。
 - 採血した血液を、直ちに1.0mL添加ライン※まで入れて下さい。
キャップを開け、シリンジの針を外して行うか、キャップにシリンジを刺して、ゆっくり入れて下さい。強く押しますと溶血するおそれがあります。
※1.0mL添加ラインは、検体容器の側面に白色のライン、ラベル部分には黒色のラインが入っています。
 - キャップを閉め、強めに10回以上振って、十分混和して下さい。
 - 遠心分離後、上清を滅菌されたチューブに分注し、凍結後、ご提出下さい。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
低分子窒素化合物	1201	アミノ酸分画 3C045	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.5 02 凍結		LC-MS/MS	下表参照	1107	5 ↓ 6	採血後、直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。 02
	1204	アミノ酸分画 3C045	尿 (早朝2番尿) 0.5 25 凍結				生II		早朝2番尿を直ちに凍結して下さい。 (トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないで下さい。) 02
	1205	アミノ酸11分画 3C045	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.5 02 凍結		LC-MS/MS	下表参照	1107	4 ↓ 5	採血後、直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。 02
	2581	BTR (総分岐鎖アミノ酸/ チロシンモル比) (BCAA/TYR) 3C047	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 02 凍結		酵素法	BCAA/TYR 4.99~9.45 BCAA 379~688 μmol/L チロシン 53~104 μmol/L	283	2 ↓ 4	溶血は、高値の影響があります。 18
	2956	ホモシステイン 3C070	血液 2 14 ↓ EDTA血漿 0.4 02 冷蔵		HPLC	M 6.3~18.9 nmol/mL F 5.1~11.7	279	5 ↓ 12	採血後速やかに血漿分離して下さい。 18

アミノ酸分画について

特に指定がない場合は非蛋白態アミノ酸を分画します。

〈血漿〉血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸 (Asp, Glu, Ala, Lys) が増加をきたします。

溶血血漿ではAsp, Gluが著しい高値を、Cys Cys, Trpが低値を示します。

〈尿〉蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝2番尿による測定をおすすめします。

アミノ酸およびアミノ化合物の基準値

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)	成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)
タウリン	Tau	34.5~80.6	23.3~2349	β-アラニン	β-Ala	8.0以下	84.6以下
ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下	フェニルアラニン	Phe	49.0~90.8	7.9~135.5
アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下	β-アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7以下	7.8~3013
ハイドロキシプロリン	Hyp	19.7以下	20.2以下	ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
トレオニン	Thr	89.2~241.6	28.7~788.8	γ-アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
セリン	Ser	78.4~200.1	56.4~1062	モノエタノールアミン	MEA	6.7~12.2	73.6~1076
アスパラギン	Asn	37.7~78.5	20.6~361.8	ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
グルタミン酸	Glu	13.3~86.7	33.6以下	オルニチン	Orn	50.8~137.4	76.1以下
グルタミン	Gln	503.4~851.4	57.8~1439	1-メチルヒスチジン	1-Me-His	26.5以下	23.2~1990
サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下	ヒスチジン	His	68.0~116.6	86.1~2375
α-アミノアジピン酸	α-AAA	5.0以下	117.2以下	リジン	Lys	138.6~294.2	20.2~1500
プロリン	Pro	89.8~304.7	42.0以下	3-メチルヒスチジン	3-Me-His	7.2以下	26.2~755.8
グリシン	Gly	136.8~397.7	277.7~4443	トリプトファン	Trp	46.7~92.0	8.4~186.7
アラニン	Ala	253.6~601.9	38.4~956.7	アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
シトルリン	Cit	18.2~50.1	34.4以下	カルノシン	Carno	5.0以下	51.9以下
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2~40.1	33.7以下	アルギニン	Arg	44.1~115.2	77.4以下
バリン	Val	162.9~351.4	5.1~94.4	アロイソロイシン	allo-Ile	5.0以下	5.0以下
シスチン	Cys Cys	34.9~77.7	221.8以下	グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0以下	32.8以下
メチオニン	Met	18.1~43.5	25.1以下	ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
シスタチオニン	Cysthio	5.0以下	58.4以下	S-スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
イソロイシン	Ile	44.9~120.3	30.9以下	キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
ロイシン	Leu	84.4~200.2	77.5以下	アルギニノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
チロシン	Tyr	46.7~103.6	10.0~263.6	フィッシャー比*		2.36~4.69	—

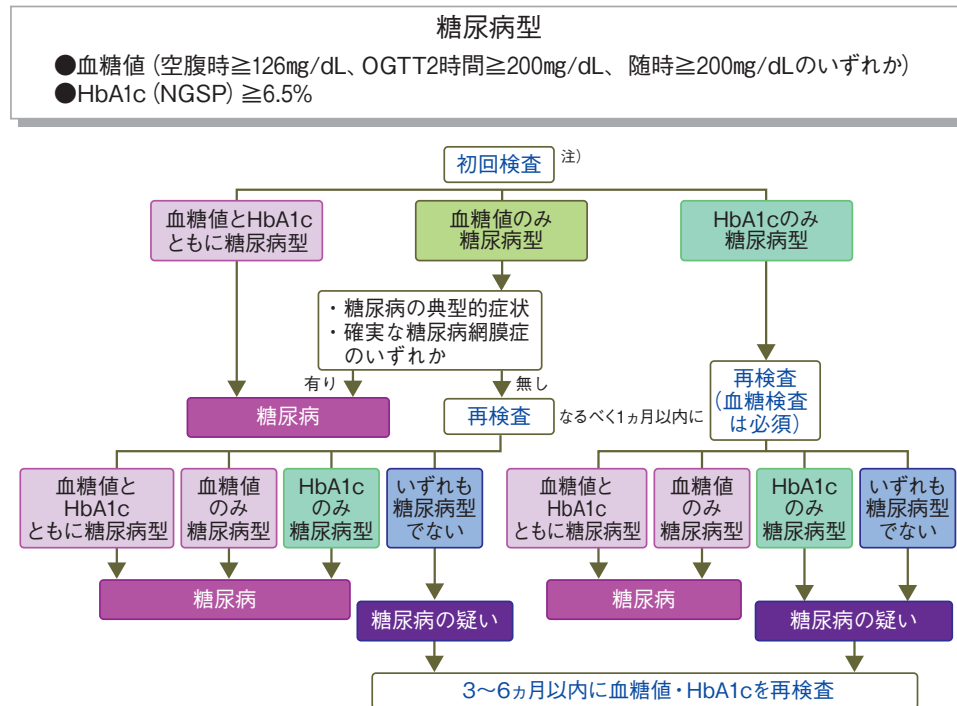
成分名	略号	血漿 (nmol/mL)
バリン	Val	162.9~351.4
メチオニン	Met	18.1~43.5
イソロイシン	Ile	44.9~120.3
ロイシン	Leu	84.4~200.2
チロシン	Tyr	46.7~103.6
フェニルアラニン	Phe	49.0~90.8
オルニチン	Orn	50.8~137.4
ヒスチジン	His	68.0~116.6
リジン	Lys	138.6~294.2
トリプトファン	Trp	46.7~92.0
アルギニン	Arg	44.1~115.2
フィッシャー比*		2.36~4.69

*フィッシャー比= $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$
(フィッシャー比は単位なし)

01 汎用容器 (分離剤入り)	02 分離用容器	05 アンモニア用容器	10 ヘパリン容器	14 内分泌学用容器	25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
糖 ・ 有 機 酸	104	血糖 (グルコース) 3D010	NaF加血液 2	04	凍結不可 冷蔵	酵素法	mg/dL 70~109	11 生I	1 2	④ 空腹時血糖値および75g糖負荷試験2時間値の判定基準は、下表参照下さい。
	79	HbA1c(NGSP) (ヘモグロビンA1c NGSP) 3D046	NaF加血液 2	04	凍結不可 冷蔵	酵素法	% 4.6~6.2	49 血液	1 2	④ ①
	2368	グリコアルブミン (GA) 3D055	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	% 11.6~16.4	55 生I	2 3	④ ①
	317	1,5AG (1, 5-アンヒドロ-D-グルシトール) 3D085	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	μg/mL 14.0~46.0	80 生I	2 3	④ ①
	2443	〈血清〉 ヒアルロン酸 3D080	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	凍結	ラテックス凝集免疫比濁法	ng/mL 50以下	179 生I	2 3	肝硬変の判定基準。130ng/mL以上(50~130ng/mLの場合、肝の線維化が疑われます。) ②
	2444	〈その他〉 3D080	胸水など 0.5	25	凍結	ラテックス凝集免疫比濁法	ng/mL	—	2 4	
	1220	乳酸 3E010	血液 1 ↓ 除蛋白上清 0.5	06	凍結	酵素法	mg/dL 3.7~16.3 (空腹安静時)	47 生I	2 3	専用容器(0.8N過塩素酸入り)はあらかじめご依頼下さい。 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分攪拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出下さい。 ③ ②
	1221	ピルビン酸 3E015	血液 1 ↓ 除蛋白上清 0.5	06	凍結	酵素法	mg/dL 0.30~0.90 (空腹安静時)	47 生I	2 3	専用容器(0.8N過塩素酸入り)はあらかじめご依頼下さい。 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分攪拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出下さい。 ③ ②
	1222	〈静脈血〉 ケトン体分画 3E045	血液 各2 ↓ 血清 各0.3	01	必ず -70℃以下	酵素法	総ケトン体 26~122 アセト酢酸 13~69 3-ハイドロキシ酪酸 76以下 アセト酢酸/ 3-ハイドロキシ酪酸比 0.7以上	59 生I	2 3	④ ② ③ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾

糖尿病の臨床診断のフローチャート



注) 糖尿病が疑われる場合は、血糖値と同時にHbA1cを測定する。同日に血糖値とHbA1cが糖尿病型を示した場合には、初回検査だけで糖尿病と診断する。

血糖コントロール目標

コントロール目標値 ^{注4)}			
目 標	血糖正常化を 目指す際の目標 ^{注1)}	合併症予防 のための目標 ^{注2)}	治療強化が 困難な際の目標 ^{注3)}
HbA1c(%)	6.0未満	7.0未満	8.0未満

治療目標は年齢、罹病期間、臓器障害、低血糖の危険性、サポート体制などを考慮して個別に設定する。

注1) 適切な食事療法や運動療法だけで達成可能な場合、または薬物療法中でも低血糖などの副作用なく達成可能な場合の目標とする。

注2) 合併症予防の観点からHbA1cの目標値を7%未満とする。対応する血糖値としては、空腹時血糖値 130mg/dL 未満、食後2時間血糖値 180mg/dL 未満をおおよその目安とする。

注3) 低血糖などの副作用、その他の理由で治療の強化が難しい場合の目標とする。

注4) いずれも成人に対しての目標値であり、また妊娠例は除くものとする。



区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
脂質	41	中性脂肪 (TG) 3F015	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	50～149	mg/dL	11 生I	1 2	④ 10時間以上絶食後、採血して下さい。 下表参照
	39	総コレステロール (T-Chol) 3F050	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	130～219	mg/dL	17 生I	1 2	④ 女性では、加齢と共に増加傾向が 認められます。 ①
	43	遊離コレステロール (F-Chol) 3F065	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	30～60	mg/dL	11 生I	2 3	コレステロールエステル比70～80%
	177	エステル型コレステロール 3F055	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	80～200	mg/dL	—	2 3	
	108	HDL-コレステロール (HDL-Chol) 3F070	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	M 40～90 F 40～100	mg/dL	17 生I	1 2	④ ① 下表参照
	2452	LDL-コレステロール (LDL-Chol) 3F077	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	酵素法	70～139	mg/dL	18 生I	1 2	④ 食事の影響で低下を示す場合がある ため、空腹時における採血をお すすめします。① 下表参照
	2489	LDL-コレステロール (Friedewald式) 3F077			計算法	70～139	mg/dL	—	2 3	総コレステロールとHDL-コレス テロールと中性脂肪を同時にご依 頼下さい。 ※単独依頼不可 *、**
	107	LDL/HDLコレステロール比			計算法	2.0以下		—	2 3	HDL-コレステロールとLDL-コレ ステロールを同時にご依頼下さい。 ※単独依頼不可 *
	31	non HDL-コレステロール 3F069			計算法		mg/dL	—	2 3	総コレステロールとHDL-コレス テロールを同時にご依頼下さい。 ※単独依頼不可 *
	118	動脈硬化指数 (AI指数)			計算法	3.0未満		—	2 3	総コレステロールとHDL-コレス テロールを同時にご依頼下さい。 ※単独依頼不可 *

① HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

*： 必須項目の同時依頼がない場合は、自動的に追加させていただきます。

**： 中性脂肪の検査結果が400mg /dL以上の場合は、計算法での結果が不適切となるため「計算不適」で検査結果をお返しします。

脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140 mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139 mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40 mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセリド	150 mg/dL以上(空腹時採血*)	高トリグリセリド血症
	175 mg/dL以上(随時採血*)	
non HDL-コレステロール	170 mg/dL以上	高non HDL-コレステロール血症
	150～169 mg/dL	境界域高non HDL-コレステロール血症**

*基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合は「随時」とする。

**スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

• LDL-CはFriedewald式(TC-HDL-C-TG/5)で計算する(ただし空腹時採血の場合のみ)。または直接法で求める。

• TGが400mg/dl以上で随時採血の場合はnon-HDL-C(=TC-HDL-C)がLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dlより小さくなる可能性を念頭に置いてリスクを評価する。

• TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。

• HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

リスク区別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値(mg/dL)			
		LDL-C	non HDL-C	TG	HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後薬物療法の適用を考慮する	低リスク	<160	<190	<150(空腹時)*** <175(随時)	≥40
	中リスク	<140	<170		
	高リスク	<120 <100*	<150 <130*		
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患またはアテローム血栓性脳梗塞(明らかなアテローム****を伴うその他の脳梗塞を含む)の既往	<100 <70**	<130 <100*		

*糖尿病において、PAD、細小血管症(網膜症、腎症、神経障害)合併時、または喫煙ありの場合に考慮する。(第3章 5.2参照)

**「急性冠症候群」、「家族性高コレステロール血症」、「糖尿病」、「冠動脈疾患とアテローム血栓性脳梗塞(明らかなアテロームを伴うその他の脳梗塞を含む)」の4病態のいずれかを合併する場合に考慮する。

• 一次予防における管理目標達成の手段は非薬物療法が基本であるが、いずれの管理区分においてもLDL-Cが180mg/dl以上の場合は薬物治療を考慮する。家族性高コレステロール血症の可能性も念頭に置いておく。(第4章 参照)

• まずLDL-Cの管理目標値を達成し、次にnon-HDL-Cの達成を目指す。LDL-Cの管理目標を達成してもnon-HDL-Cが高い場合は高TG血症を伴うことが多く、その管理が重要となる。低HDL-Cについては基本的には生活習慣の改善で対処すべきである。

• これらの値はあくまでも到達努力目標であり、一次予防(低・中リスク)においてはLDL-C低下率20～30%も目標値として得る。

• ***10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。それ以外の条件を「随時」とする。

• ****頭蓋内外動脈の50%以上の狭窄、または弓部大動脈粥腫(最大肥厚4mm以上)

• 高齢者については動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022版 第7章を参照

(日本動脈硬化学会(編)：動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版、日本動脈硬化学会、2017.)

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

10 ヘパリン容器

25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
脂	42	リン脂質 (PL) 3F025	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	150~280 mg/dL	15 生 I	2 3	
	113	遊離脂肪酸 (NEFA) 3F035	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	冷蔵 凍結	酵素法	0.10~1.00 mEq/L	59 生 I	1 2	運動により高値となります。 食事により低値となります。 室温、冷蔵で放置しますと高値を 示す場合があります。
	3271	MDA-LDL (酸化LDL) 3F087	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	必ず 凍結	ELISA	男性: 45才未満 46~82 45才以上 61~105 女性: 55才未満 46~82 55才以上 61~105 U/L	194 生 I	3 14	採血後、冷蔵保存にて6時間以内に 血清分離し、速やかに凍結保存して 下さい。 16
	40	β-リポ蛋白 (β-LP) 3F130	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	比濁法 (ヘパリンMg 比濁法)	220~650 mg/dL	—	1 2	
	2260	リポ蛋白分画 《アガロース》 3F135	血液 2 ↓ 血清 0.2	01	凍結不可 冷蔵	アガロース 電気泳動法	M 23~47 F 30~52 Pre β 7~33 7~29 β 34~53 35~51 %	49 生 I	2 4	食事による影響が大きいため早期 空腹時採血を厳守して下さい。
	67	リポ蛋白分画 《PAG・濃度図解析》 3F140	血液 4 ↓ 血清 1.0	01	凍結不可 冷蔵	ポリアクリルアミ ドゲルディスク 電気泳動法	VLDL 3~12 5~12 IDL 2~5 2~5 LDL 56~70 59~69 S-LDL 0~3 0~3 HDL 23~36 23~32 %	80 生 I	6 8	保存血清による検査は不可。 ヘパリン血漿は不可。 65
	76	リポ蛋白(a) (Lp(a)) 3F156	血液 2 ↓ 血清 1.0	01	冷蔵	TIA	30.0以下 mg/dL	107 生 I	2 3	EDTA血漿も検査可。 2
	1383	LPL (リポ蛋白リパーゼ) 3F160	血液 2 ↓ ヘパリン血漿 0.3	10 02	必ず 凍結	ELISA	164~284 ng/mL	219 生 I	2 8	早朝空腹時にヘパリンを体重1kg当り30単 位静注し、15分後に指定の容器に採取し、 4℃で遠心分離後、血清の血漿を凍結保存 にてご提出下さい。EDTA血漿は検査不可。 基準値につきましては上記採取条件に基 づき設定しております。 4 16
	2360	RLPコレステロール (レムナント様リポ蛋白 コレステロール) 3F078	血液 2 ↓ 血清 0.2	01	凍結不可 冷蔵	選択的可溶性酵素法	7.5以下 mg/dL	174 生 I	2 3	4
	1444	全脂質脂肪酸分画 (TL脂肪酸分画) 3F095	血液 3 ↓ 血清 0.8	01 02	凍結	LC-MS/MS	32ページ参照 (24成分) μg/mL, weight%	393 生 II	15 22	血漿も検査可。 脂肪酸名は32ページ参照。 02
質	2919	脂肪酸4分画 3F040	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍結	LC-MS/MS	32ページ参照 μg/mL	393 生 II	4 5	血漿も検査可。 脂肪酸名は32ページ参照。 02
	151	A-I 3F180	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M 119~155 mg/dL	1項目 31	2 3	検体検査実施料名称 「アポリポ蛋白」 5
	152	A-II 3F185					M 25.9~35.7 mg/dL F 24.6~33.3	2項目 62		
	153	B 3F190					M 73~109 mg/dL F 66~101	3項目 94		
	154	C-II 3F195					M 1.8~4.6 mg/dL F 1.5~3.8	生 I		
	155	C-III 3F200					M 5.8~10.0 mg/dL F 5.4~9.0	生 I		
	156	E 3F205					M 2.7~4.3 mg/dL F 2.8~4.6	生 I		
	121	総胆汁酸 (TBA) 3F110	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	10.0以下 nmol/mL	47 生 I	2 3	02
	122	胆汁酸 (胆汁) 3F110	胆汁 0.5	25	冷蔵		μmol/mL	47 生 I		

- マロンジアルデヒド修飾LDL (MDA-LDL) は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。
- リポ蛋白(a) は、3月に1回を限度として算定できる。
- リポ蛋白リパーゼ (LPL) は、高トリグリセリド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。
- レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C) は、3月に1回を限度として算定できる。
- アポリポ蛋白は、AI、AII、B、CII、CIII及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。

生化学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
電 解 質 ・ 微 量 金 属	47	ナトリウム (Na) 3H010	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			電極法	mEq/L 137～147	11	1 2	① 尿中ナトリウム(Na) [コードNo:190] 基準値。 70～250mEq/day 1.5～6.0g/day ①
	49	クロール (Cl) 3H020	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			電極法	mEq/L 98～108	生 I	1 2	① 尿中クロール(Cl) [コードNo:192] 基準値。 70～250mEq/day 2.5～10.0g/day ①
	48	カリウム (K) 3H015	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			電極法	mEq/L 3.5～5.0	11 生 I	1 2	① 尿中(K) [コードNo:191] 基準値。25～100mEq/day, 0.9～3.9g/day 溶血及び全血の冷蔵保存で高値となります。採血後速やかに血清を遠心分離又はできない場合は室温で保存して下さい。
	52	マグネシウム (Mg) 3H025	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			酵素法	mg/dL 1.9～2.5	11 生 I	1 2	① 尿中マグネシウム [コードNo: 197] 基準値。 0.1～0.2g/day
	50	カルシウム (Ca) 3H030	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			アルセナゾⅢ法	mg/dL 8.4～10.4	11 生 I	1 2	① 尿中カルシウム [コードNo: 193] 基準値。 0.1～0.2g/day EDTA血漿・NaF血漿などは検査不可。
	51	無機リン (P) 3H040	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			酵素法	mg/dL 2.5～4.5	17 生 I	1 2	① 尿中無機リン [コードNo:194] 基準値。 0.5～2.0g/day
	53	血清鉄 (Fe) 3I010	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			比色法	M 50～200 F 40～180 μg/dL	11 生 I	1 2	① EDTA血漿・NaF血漿などは検査不可。
	54	総鉄結合能 (TIBC) 3I015	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			比色法	μg/dL 250～440	11 生 I	1 2	① EDTA血漿・NaF血漿などは検査不可。 ②
	117	不飽和鉄結合能 (UIBC) 3I020	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			比色法	μg/dL 191～269	11 生 I	1 2	① EDTA血漿・NaF血漿などは検査不可。 ②
	55	銅 (Cu) 3I025	血液 2 ↓ 01 血清 0.4 冷蔵			比色法	μg/dL 70～132	23 生 I	2 3	血漿は検査不可。 02
	1334	尿 3I025	尿 5 59 冷蔵			原子吸光法	μg/L 18以下	23 生 I	3 6	02
	1331	亜鉛 (Zn) 3I030	血液 2 ↓ 01 血清 0.5 冷蔵			比色法	μg/dL 80～130 (空腹時)	132 生 I	2 3	測定値に影響が出ますので、溶血検体でのご依頼は避けて下さい。
	1332	尿 3I030	尿 5 59 冷蔵			原子吸光法	μg/L 64～947 (空腹時)	132 生 I	3 6	必ず指定容器を使用し、専用検体としてご提出下さい。(同じ容器を用いる項目は同一検体でも可) 02
	1330	アルミニウム (Al) 3K105	血液 2 ↓ 63 血清 0.5 冷蔵			原子吸光法	μg/dL 0.9以下	109 生 I	4 5	① 金属分析容器63容器に採血して遠心分離後、別の容器に分注せず、63容器のままご提出下さい。 02
	3158	セレン (Se) 3I035	血液 2 ↓ 63 血清 0.5 冷蔵			ICP-MS	μg/dL 10.0～16.0	144 生 I	3 4	③ 金属分析容器63容器に採血して遠心分離後、別の容器に分注せず、63容器のままご提出下さい。 02

- ① ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
- ② 総鉄結合能(TIBC) (比色法) と不飽和鉄結合能(UIBC) (比色法) を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC) (比色法) 又は総鉄結合能(TIBC) (比色法) の所定点数を算定する。
- ③ セレンは、長期静脈栄養管理若しくは長期成分栄養剤を用いた経腸栄養管理を受けている患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者又は重症心身障害児(者) に対して、診察及び他の検査の結果からセレン欠乏症が疑われる場合の診断及び診断後の経過観察を目的として実施した場合に限り算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
電 解 質 ・ 微 量 金 属	1338	マンガン (Mn) 3K125	ヘパリン加血液 0.5	10 冷蔵	ICP-MS	0.4~2.0 $\mu\text{g/dL}$	27 生I	5 10	尿提出の際は、金属分析専用容器 59容器をご使用下さい。 尿中マンガン(Mn) [コードNo: 1340] 基準値: 2.0未満 $\mu\text{g/L}$ ① (注) 02
	1342	ニッケル (Ni) 3K130	血液 2 ↓ 血清 0.5	63 冷蔵	原子吸光法	0.6以下 $\mu\text{g/dL}$	—	6 11	金属分析容器63容器に採血して遠 心分離後、別の容器に分注せず、 63容器のままご提出下さい。 02
	632	鉛 (Pb) 3K110	ヘパリン加血液 1	10 冷蔵	原子吸光法	1.0以下 $\mu\text{g/dL}$	—	4 5	(注) 02
	1335	クロム (Cr) 3K115	ヘパリン加血液 0.5	10 冷蔵	原子吸光法	$\mu\text{g/dL}$	—	6 12	血清提出の際は、金属分析容器63 容器に採血して遠心分離後、別の 容器に分注せず、63容器のままご 提出下さい。
	1336	3K115	血液 2 ↓ 血清 0.5	63 冷蔵		$\mu\text{g/dL}$			尿提出の際は、金属分析専用容器 59容器をご使用下さい。 02
	1344	カドミウム (Cd) 3K120	ヘパリン加血液 0.5	10 冷蔵	ICP-MS	0.5以下 $\mu\text{g/dL}$	—	4 7	(注)
	1345	3K120	尿 1	59 冷蔵		3.8以下 $\mu\text{g/L}$			4 10 02
	1346	水銀 (Hg) 3K150	ヘパリン加血液 0.5	10 冷蔵	原子吸光法	5以下 $\mu\text{g/dL}$	—	5 10	(注)
	1347	3K150	尿 1	59 冷蔵		25以下 $\mu\text{g/L}$			02

① マンガン(Mn)は、1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができます。
(注) 産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は127ページを参照してください。

全脂質脂肪酸分画 (TL脂肪酸分画)

No.	脂肪酸名	略 号	基準 値	
			濃度 ($\mu\text{g/mL}$)	成分比 (weight%)
1	ラウリン酸	C12:0	4.2以下	0.16以下
2	ミリスチン酸	C14:0	8.2~40	0.33~1.77
3	ミリストレイン酸	C14:1 ω 5	3.4以下	0.10以下
4	パルミチン酸	C16:0	451~898	18.38~22.80
5	パルミトレイン酸	C16:1 ω 7	25~112	0.90~3.05
6	ステアリン酸	C18:0	164~306	6.30~9.10
7	オレイン酸	C18:1 ω 9	432~1069	17.53~26.82
8	リノール酸	C18:2 ω 6	697~1280	25.30~37.02
9	γ -リノレン酸	C18:3 ω 6	3.6~22	0.14~0.71
10	リノレン酸	C18:3 ω 3	10~41	0.31~1.06
11	アラキジン酸	C20:0	1.2~2.7	0.07以下
12	エイコセン酸	C20:1 ω 9	3.2~8.2	0.12~0.23
13	エイコサジエン酸	C20:2 ω 6	3.6~10	0.17~0.29
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3 ω 9	1.2~5.4	0.17以下
15	ジホモ- γ -リノレン酸	C20:3 ω 6	23~72	0.92~2.24
16	アラキドン酸	C20:4 ω 6	142~307	4.86~9.42
17	エイコサペンタエン酸	C20:5 ω 3	12~112	0.36~3.42
18	ベヘニン酸	C22:0	1.3~2.6	0.08以下
19	エルシン酸	C22:1 ω 9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4 ω 6	2.9~7.6	0.11~0.23
21	ドコサペンタエン酸	C22:5 ω 3	26~60	0.98~1.79
22	リグノセリン酸	C24:0	1.6~2.9	0.09以下
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6 ω 3	51~185	1.69~5.55
24	ネルボン酸	C24:1 ω 9	2.1~4.0	0.13以下
T/T比 (C20:3 ω 9/C20:4 ω 6)			0.02以下	
EPA/AA比 (C20:5 ω 3/C20:4 ω 6)			0.06~0.44	

「T/T比」は必須脂肪酸の欠乏状態、「EPA/AA比」は血栓形成や動脈硬化の指標となります。

脂肪酸4分画

No.	脂肪酸名	略 号	基準 値
			濃度 ($\mu\text{g/mL}$)
1	ジホモ- γ -リノレン酸 DHLA	C20:3 ω 6	23~72
2	アラキドン酸 AA	C20:4 ω 6	142~307
3	エイコサペンタエン酸 EPA	C20:5 ω 3	12~112
4	ドコサヘキサエン酸 DHA	C22:6 ω 3	51~185
EPA/AA比 (C20:5 ω 3/C20:4 ω 6)			0.06~0.44
DHA/AA比 (S22:6 ω 3/C20:4 ω 6)			0.25~0.81
(EPA+DHA)/AA比 (C20:5 ω 3+C22:6 ω 3)/C20:4 ω 6)			0.30~1.11



生化学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ビタミン	344	β-カロチン 3G011	血液 2 01 ↓ 血清 0.6 65 凍結			HPLC	M 6.6～47.6 F 20.4～105.2 μg/dL	—	5 ↓ 11	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 16
	1242	ビタミンA (レチノール) 3G015	血液 2 01 ↓ 血清 0.4 65 冷蔵			HPLC	97～316 IU/dL	—	4 ↓ 6	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 16
	1228	レチノール結合蛋白 (RBP) 5C030	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 mg/dL	132 免疫	2 ↓ 3	02
	1243	ビタミンB ₁ (サイアミン) 3G025	EDTA加血液 1 93 凍結			LC-MS	2.6～5.8 μg/dL	239 生I	3 ↓ 4	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 ガラス管の場合は、プラスチック 容器に移してから凍結して下さい。 02
	1244	ビタミンB ₂ (リボフラビン) 3G030	EDTA加血液 1 93 凍結			HPLC	12.8～27.6 μg/dL	235 生I	3 ↓ 4	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 ガラス管の場合は、プラスチック 容器に移してから凍結して下さい。 02
	1358	ビタミンB ₆ 3G035	血液 3 01 ↓ 血清 1 65 冷蔵			HPLC	下表参照 ng/mL	—	3 ↓ 5	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02
	1246	ビタミンB ₁₂ (シアノコバラミン) 3G040	血液 2 01 ↓ 血清 0.4 02 凍結			CLIA	233～914 pg/mL	136 生I	2 ↓ 4	
	1247	葉酸 3G105	血液 2 01 ↓ 血清 0.4 02 凍結			CLIA	3.6～12.9 ng/mL	146 生I	2 ↓ 4	
	1249	ビタミンC (アスコルビン酸) 3G060	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 58 ↓ 除蛋白上清 0.5 65 凍結 必ず			HPLC	5.5～16.8 μg/mL	296 生I	3 ↓ 5	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 正確に血清0.5mLをビタミンC専用容 器に加え、混和後遠心分離し、その 上清を遮光容器にてご提出下さい。 16
	5893	25-OHビタミンD分画 3G066	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	D ₂ 12.1以下 D ₃ 5.5～41.4 ng/mL	—	6 ↓ 12	02
	1241	1α,25-(OH) ₂ ビタミンD 3G070	血液 3 01 ↓ 血清 1 02 凍結			RIA (二抗体法)	20～60 pg/mL	388 生I	3 ↓ 6	(透) ① 02
	4032	25-OHビタミンD (Total) 3G065	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 冷蔵			CLEIA	ng/mL *1,*2	117 生I	2 ↓ 4	②
	1253	ビタミンE (トコフェロール) 3G080	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 65 凍結			蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	—	3 ↓ 9	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02

- ① 1,25-ジヒドロキシビタミンD₃は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD₃剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD₃剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。
- ② 25-ヒドロキシビタミンDは、
ア 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。
イ ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

ビタミンB ₆ 基準値 (ng/mL)		
	M	F
ピリドキサミン(PAM)	0.6以下	0.6以下
ピリドキサル(PAL)	6.0～40.0	4.0～19.0
ピリドキシン(PIN)	3.0以下	3.0以下

*1：日本小児内分秘学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準（血清25OHD低値）として下記が記載されています。
・20ng/mL以下 ・15ng/mL以下であればより確実

*2：「ビタミンD不足・欠乏の判定指針（策定：厚生労働省難治性疾患克服研究事業ホルモン受容機構異常に関する調査研究班、日本骨代謝学会、日本内分秘学会）」において、次の数値が示されています。
・ビタミンD不足：20.0ng/mL 以上 29.9ng/mL ・ビタミンD欠乏：20.0ng/mL未満

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ポ ル フ イ リ ン 関 連	633	δアミノレブリン酸 (δ-ALA) 3J075	尿 1	67	冷蔵	HPLC	※ mg/L	106	4 5	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02
	1307	ポルフォビリノーゲン 3J065	蓄尿 3	67	冷蔵	比色法 (Mauzerall-Granick)	2.0以下 mg/day	186	5 8	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 18
	1308	ウロポルフィリン 3J050	尿 3	67	冷蔵	HPLC	36以下 μg/g・Cr	105	5 11	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02
	659	コプロポルフィリン定性 3J040	尿 10	67	冷蔵	蛍光法	(-)	-	2 3	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。
	1309	コプロポルフィリン 〈血液〉 3J040	ヘパリン加血液 1.5	66	凍結不可 冷蔵	HPLC	1以下 μg/dLRBC	210	5 10	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 18
	1310	コプロポルフィリン 〈尿〉 3J040	尿 3	67	冷蔵		170以下 μg/g・Cr	131	5 11	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02
	631	赤血球 プロトポルフィリン 3J055	ヘパリン加血液 0.5	66	凍結不可 冷蔵	HPLC	※ μg/dL全血	272	4 10	遮光 遮光専用容器をご使用下さい。 02
産 業 衛 生 関 連 検 査	634	馬尿酸 (HA) 3K025	尿 1	25	冷蔵	LC-MS	※ g/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) 02
	635	メチル馬尿酸 (MHA) 3K030	尿 1	25	冷蔵	LC-MS	※ g/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) 02
	4307	スチレン代謝物 3K042	尿 1	25	冷蔵	LC-MS	0.43以下 (合算値) g/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) マンデル酸 (MA)、フェニルグリオキシル酸 (PGA) 合算値を報告します。 02
	4308	マンデル酸 (EB) 3K041	尿 1	25	冷蔵	LC-MS	g/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) 02
	664 665 666	総三塩化物 (TTC) 3K011 3K012 3K013	尿 1	25	冷蔵	GC	※ mg/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注2) 02
	667 668 669	トリクロル酢酸 (TCA) 3K016 3K017 3K018	尿 1	25	冷蔵	GC	※ mg/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注2) 02
	676	N-メチルホルムアミド 3K045	尿 2	25	冷蔵	GC	※ mg/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) 02
	677	2,5-ヘキサンジオン (2,5-HD) 3K050	尿 3	25	冷蔵	GC	※ mg/L	-	4 5	防腐剤使用不可。 (注1) 02
	2898	血清インジウム 3K121	血液 5 血清 0.5	01	冷蔵	ICP-MS	μg/L	-	5 11	02
	4309	尿中メチルイソブチル ケトン (MIBK) 3K043	尿 15	A1	冷蔵	GC	mg/L	-	14 21	◎専用容器以外受託不可。事前 にお取り寄せ下さい。 (注3) 検査実施場所： 労働衛生調査分析センター

【ご注意】「産業衛生関連検査」を複数項目ご依頼になる場合は、25番容器で尿6mLをご提出下さい。

(注1) [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

(注2) [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

(注3) 採尿はその日の作業終了後に実施し、専用容器の目盛り一杯 (15mL) まで尿を採取してください。検査対象物質が揮発性の為、容器内の空間部分が多くなると報告値の誤差が大きくなります。

※産業衛生関連検査一覧は127ページ参照

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	25	尿一般容器	58	ビタミンC用容器	65	汎用容器(遮光)	66	ヘパリン容器 (遮光)	67	尿一般容器 (遮光)	93	ビタミンB ₁ ・B ₂ 用容器	A1	メチルイソブ チルケトン

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	1323	エタノール 3Z040	ヘパリン加血液 1	10	凍結	GC	0.1未満 mg/mL	105	6 生 I	ガラス管の場合はプラスチック容器に移してから凍結して下さい。検出限界未満を基準値とします。採血にあたってはエタノール消毒を行う場合、血液の中にエタノールが入らないよう注意下さい。(エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用)
	1326	メタノール 3K065	尿 2	25	凍結	GC	3未満 mg/L	—	4 生 I	検出限界未満を基準値とします。
	1327	アセトン 〈血清〉 3E060	血液 2 ↓ 血清 0.4	03 02	凍結	GC	5未満 μg/mL	—	4 生 I	分離剤入り容器は使用しないで下さい。検出限界未満を基準値とします。
	1328	アセトン 〈尿〉 3E060	尿 1	25	凍結					
	1456	農薬スクリーニング 3K185	ヘパリン加血液 4 または 尿 4	10 25	凍結	LC-MS/MS	検出せず μg/mL	—	8 生 I	対象農薬については下表参照。
	1322	結石鑑別 《定量》 3Z065	結石 10mg		室温	IR (KBr Wafer)	組成比率 %	117	6 生 II	(注1)
	2270	PTDチェック (頸管腔分泌液中癌胎児性 フィブロネクチン) 5C111	腔分泌液 (後腔円蓋)	60	凍結	EIA	(一)	204 免疫	2 生 I	腔部洗浄前に検体採取精液が混入している検体は不可。細胞や血液の混入により、正確な情報が得られないことがあります。採取方法については、135ページをご参照下さい。①
	2369	子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ 3B200	腔分泌液 (子宮頸管部)	72	凍結	ラテックス凝集 比濁法	1.6以下 μg/mL	116 尿便	2 生 I	腔部洗浄前に検体採取。採取方法については、135ページをご参照下さい。②
	181	浸透圧 〈血清〉 3H045	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	氷点降下法	270～295 mOsm/L	15 血液	2 生 I	
	182	浸透圧 〈尿〉 3H045	尿 5	25	冷蔵		50～1,300 mOsm/L	16 尿便		
	183	〈その他別材料〉 〈透析液〉 3H045	その他別材料 透析液 5	25	冷蔵		mOsm/L	—		

(注1) 1：容器は必ず密栓し(シャーレの代用不可)、摘出臓器および結石の種別(胆石、尿路結石などの別)を必ず明示して下さい。
2：試料は乾燥させた上で、ご提出下さい。血液等の付着した試料については蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出下さい。液状成分を含む試料は、分析対象として不適当です。
3：試料はガーゼやティッシュペーパー等で包まず、結石の外観を目視可能な状態でご提出下さい。
4：多数検体の場合は、予めご連絡下さい。

① 癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腔分泌液)は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。

② 顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

農薬スクリーニング対象薬物

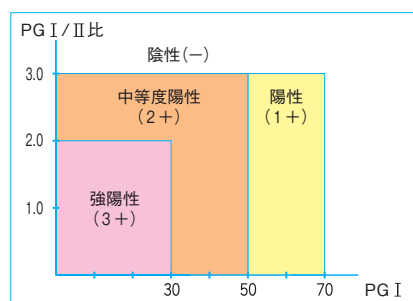
有機リン系農薬	スミチオン(MEP)、マラチオン、CYAP、エチルチオメトン、EPN、ダイアジノン、MPP、メチダチオン(DMTP)、イソキサチオン、ピリミホスメチル、DDVP、トリクロルフォン(DEP)
ピレスロイド剤	フェンバレレート、シベルメトリン、ベルメトリン
トリアジン系農薬	メトリブジン、シマジン(CAT)
カーバメイト系農薬	フェノブカルブ(BPMC)、カルバリル(NAC)、メソミル
アニリン系農薬	アラクロール、プロパニル(DCPA)

01 汎用容器
(分離剤入り)

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	37	ICG 8A010	血液 3 ↓ 血清 1 01 冷蔵			比色法	0~10 [15分血中停滞率] %	(100)	1 2	採取方法については136ページを ご参照下さい。
	100	60・120分 クレアチニン クリアランス 8A020	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵			酵素法	70~156 mL/min	—	2 3	血清、尿の両材料をご提出下さい。 身長、体重、尿量を依頼書に必ず ご記入下さい。 採取方法については135ページを ご参照下さい。
	99	24時間クレアチニン クリアランス (CCR) 8A025	および 蓄尿 5 25 冷蔵				100~225 L/day 70~156 mL/min			
	673	濃縮試験 8A080	尿 各5 25 冷蔵			Fishberg 濃縮試験	3回尿のうち、少なくと も1つの比重が1.022 以上	(100)	2 3	採取方法については136ページを ご参照下さい。
	671	PSPテスト (フェノールスルホン) (フタレイン排泄試験) 8A070	尿 各全量 26 冷蔵			Chapman- Halsted変法	15分 25~50 % 30分 40~60 60分 50~75 120分 55~85	(150)	2 3	採取方法については136ページを ご参照下さい。
	679	尿蛋白g・ クレアチニン排泄量	尿 0.5 25 冷蔵			計算法	排泄量 g/g/Cre 尿蛋白 mg/dL クレアチニン値 mg/dL	7 + 11 尿便 生I	2 3	検体検査実施料名称 「尿蛋白」および「尿クレアチニン」
	46	食塩摂取量	尿 10 25 冷蔵			計算法	摂取量 g/day Na排泄量 mEq/day CRE推定量 mg/day	—	2 3	尿中Naと尿中クレアチニンをご依 頼の上、年齢、身長、体重を必ず 記載してください。 ※単独依頼不可 *
	1699	ペプシノゲン (PG) 3B339	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵			ラテックス 凝集法	ng/mL 下表参照	—	2 3	加齢により、PG I / PG II 比は低下 します。
	4106	ヘリコバクター ピロリ抗体 (LA) 5E064	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法	判定(一) 4.0未満 U/mL	80 免疫	2 3	ヘリコバクター・ピロリ感染診断の 保険診療上の取扱いについては、 136ページをご参照下さい。
	500	尿素呼気試験 6Z100	呼気 250c.c. 76 室温			赤外分光 分析法 (IR)	判定(一) 変化量2.5未満 %	70 微生物	2 3	採取方法については136ページを ご参照下さい。 ヘリコバクター・ピロリ感染診断の 保険診療上の取扱いについては、 136ページをご参照下さい。
	2688	便中ヘリコバクター ピロリ抗原 5E068	糞便 83 冷蔵			EIA	(一)	142 免疫	2 5	採取方法については137ページを ご参照下さい。 ヘリコバクター・ピロリ感染診断の 保険診療上の取扱いについては、 136ページをご参照下さい。

* : 必須項目の同時依頼がない場合は、自動的に追加させていただきます。

ペプシノゲンによる胃粘膜萎縮度の判定基準				
判 定	PG I (ng/mL)	PG I / II 比		
強陽性 (3+)	30以下	かつ 2.0以下		
中等度陽性 (2+)	50以下	かつ 3.0以下		
陽性 (1+)	70以下	かつ 3.0以下		
陰性 (一)	上記以外			



02	分離用容器	03	汎用容器 (分離剤なし)	10	ヘパリン容器	25	尿一般容器	26	褐色ポリ瓶	60	PTDチェック容器	72	子宮頸管粘液中 エラスターゼ用	76	尿素呼気試験	83	便中ヘリコバクター ピロリ専用容器

薬物検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	有効治療濃度 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	主な商品名	備考
抗 て ん か ん 剤	1401	フェノバルビタール 3L175	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	15.0~30.0 μg/mL	(470)	1 ↓ 2	フェノバル、ルミナール ルビアル、ワコビタール ノーベルバル	
	1402	プリミドン 3L190	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	5~12 μg/mL	(470)	2 ↓ 4	プリミドン	18
	1403	フェニトイン 3L185	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	10.0~20.0 μg/mL	(470)	1 ↓ 2	ヒダントール アレビアチン アクセノン エトトイン	
	1404	カルバマゼピン 3L115	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	抗けいれん 4.0~12.0 三叉神経痛 6.0~8.0 μg/mL	(470)	1 ↓ 2	テグレート テレスミン レキシ	
	1405	バルプロ酸ナトリウム 3L195	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	50.0~100.0 μg/mL	(470)	1 ↓ 2	デバケン、ハイセレン バレリン、エビレナート セニカR	バルプロ酸として測定。
	1406	エトスクシミド 3L135	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	40.0~100.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 9	ザロンチン エビレオブチマル	18
	1407	トリメタジオン 3L205	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 凍結			LC-MS/MS	300~500 μg/mL	(470)	6 ↓ 13	バスタレル ミノアレ	活性代謝物であるジメタジオンを測定。 02
	1408	クロナゼパム 3L125	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	20.0~70.0 ng/mL	(470)	3 ↓ 5	ランドセン リボトリール	18
	1409	ニトラゼパム 3L165	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	20.0~100.0 ng/mL	(470)	3 ↓ 5	ベンザリン ネルボン ネルロレン	18
	1410	ジアゼパム 3L130	血液 2 03 ↓ 血清 0.2 02 凍結			LC-MS/MS	600~1,000 ng/mL	(470)	4 ↓ 7	セルシン、ジアバックス ホリゾン、ダイアップ ソナコン	18
	1399	ゾニサミド 3L210	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			ラテックス凝集法	10.0~30.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 3	エクセグラン ゾニサミド	18

【ご注意】 薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合がありますので、血清分離剤入り容器の使用は避けて下さい。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	有効治療濃度 ^(単位)	実施料 判断料	所要 日数	主な商品名	備考
抗 て ん か ん 剤	1669	アセタゾラミド 3L950	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			HPLC	μg/mL	(470)	5 ↓ 12	ダイアモックス	16
	1149	クロバザム 3L145	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			LC-MS/MS	Trough クロバザム 30~300 デスメチルクロバザム 300~3,000	(470)	3 ↓ 5	マイスタン	02
	3347	ガバペンチン 3L215	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 7	ガバベン	18
	2890	レベチラセタム 3L230	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	Trough 12~46	(470)	3 ↓ 4	イーケブラ	全血で放置すると酵素による分解により、測定値に影響を及ぼす可能性があります。採血後は速やかに遠心分離し、指定容器に移して下さい。 02
	2923	ラモトリギン 3L220	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	Trough 2.50~15.00	(470)	3 ↓ 6	ラミクタール	18
	2829	トピラマート 3L225	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	Trough 5~20	(470)	3 ↓ 5	トピナ	02
	5781	ペランパネル 3L245	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 5	フィコンバ錠	02
	5785	ラコサミド 3L248	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 5	ビムバット	02
向 精 神 薬	1412	リチウム 3L320	血液 3 03 ↓ 血清 1 02 冷蔵			比色法	0.40~1.20	mEq/L (470)	2 ↓ 3	リーマス リチオマル	
	1354	ハロペリドール 3L300	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			金コロイド 凝集法	3.0~17.0	ng/mL (470)	2 ↓ 3	セレネース、リントン ハロステン、ネオペリドール ハロマンズ	血漿可(ヘパリンEDTA2Na)。 18
	2219	ブロムペリドール 3L302	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			金コロイド 凝集法	15.0以下	ng/mL (470)	2 ↓ 4	インプロメン ルナブロン	18
	4117	クロザピン 3L304	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			LC-MS/MS	ng/mL (470)		3 ↓ 4	クロザリル	クロザピンおよび活性代謝物であるデスメチルクロザピンの各定量値をご報告します。 EDTA血漿も検査可 02

【ご注意】 薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合がありますので、血清分離剤入り容器の使用は避けて下さい。



薬物検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	有効治療濃度 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	主な商品名	備考
抗 不 整 脈 剤	1417	プロプラノロール 3L895	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 冷蔵			HPLC	50~100 ng/mL	—	6 ↓ 13	インデラル ヘルツベース	16
	1419	キニジン 3L900	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法 (KIMS)	2.0~6.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 5	硫酸キニジン	16
	1420	プロカインアミド 3L890	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	4.0~8.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 5	アミサリン	18
	1430	ジソピラミド 3L865	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	2~5 μg/mL	(470)	2 ↓ 4	ノルベース、リスモダン ジソピラン、リスラミド ジソピラミド	18
	1418	リドカイン 3L875	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	1.5~5.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 9	キシロカイン リドカイン オリベス	18
	1695	アプリンジン 3L855	血液 2 03 ↓ 血清 0.2 02 冷蔵			LC-MS/MS	0.25~1.25 μg/mL	(470)	4 ↓ 7	アスベノン	18
	2417	プロパフェノン 3L897	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.5 02 冷蔵			LC-MS/MS	50~1,500 ng/mL	(470)	3 ↓ 6	プロノン ソビラル	(注1) 02
	2576	シベンゾリン 3L898	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	Trough 70.0~250.0 ng/mL	(470)	3 ↓ 5	シベノール	18
	2479	ピルシカイニド 3L896	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	0.20~0.90 μg/mL	(470)	3 ↓ 6	サンリズム、リズムサット タツビルジン、リズムコート	18
	2632	アミオダロン 3L800	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	ng/mL	(470)	3 ↓ 6	アンカロン	アミオダロンとデス エチルアミオダロン (活性代謝産物) の両方を測定。 18
	2199	ピルメノール 3L899	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.2 02 凍結			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 10	ピメノール	最小有効血中濃 度は0.40μg/mL 前後と推定され ています。 18
	1190	メキシレチン 3L880	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	0.50~2.00 μg/mL	(470)	3 ↓ 6	メキシチール チルミメール メキシレート	18
	2208	フレカイニド 3L905	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	200.0~1,000.0 ng/mL	(470)	4 ↓ 7	タンボコール	18
	3756	ペプリジル 3L802	血液 2 03 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	250.0~800.0 ng/mL	(470)	4 ↓ 7	ペプリコール	18
	5896	ソタロール 3L801	血液 2 14 ↓ EDTA血漿 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 6	ソタコール	(注2) 02

(注1) プロパフェノンおよび主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値をご報告します。有効治療濃度はプロパフェノンと5-OHプロパフェノンとの総量値です。
(注2) 血清での受託も可能ですが、分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

【ご注意】 薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合がありますので、血清分離剤入り容器の使用は避けて下さい。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	有効治療濃度 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	主な商品名	備考
強心剤	1414	ジゴキシン 3L765	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	0.8~2.0 ng/mL	(470)	1 ↓ 2	ジゴキシン ジゴシン	メチルジゴキシ、 デスラノシド、 ラナトシドCは ジゴキシン濃度 として測定。
拡張管 剤支	1416	テオフィリン 3M070	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EMIT	10.0~20.0 (成人) μg/mL	(470)	1 ↓ 2	テオドル、テオロング ユニフィル、スロービッド チルミン、ネオフィリン	
	1422	ゲンタマイシン 3M606	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	Peak 15.0~20.0 Trough 1.0未満 μg/mL	(470)	2 ↓ 5	ゲンタシン ルイネシン エルタシン	18
	1423	トブラマイシン 3M602	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	Peak 15.0~20.0 Trough 1.0未満 μg/mL	(470)	2 ↓ 5	トブラシン トービイ	18
抗生 剤	1424	アミカシン 3M601	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法 (KIMS)	Peak 50.0~60.0 Trough 4.0未満 μg/mL	(470)	2 ↓ 5	アミカマイシン プロテツシン ロミカシン	18
	1678	バンコマイシン 3M530	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			EIA	Trough 10.0~15.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 4	塩酸バンコマイシン	18
	2478	アルペカシン 3M610	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法	Peak 15.0~20.0 Trough1.0~2.0未満 μg/mL	(470)	2 ↓ 4	ハベカシン	18
	2239	テイコブラニン 3M000	血液 2 03 ↓ 血清 0.5 02 冷蔵			ラテックス 凝集比濁法	Trough 15.0~30.0 μg/mL	(470)	2 ↓ 4	タゴシッド	18
抗真菌剤	2494	ポリコナゾール 3M698	血液 2 10 ↓ ヘパリン血漿 0.3 02 冷蔵			LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 ↓ 6	グイフェンド	16

[ご注意] 薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合がありますので、血清分離剤入り容器の使用は避けて下さい。

02 分離用容器



03 汎用容器
(分離剤なし)



10 ヘパリン容器



14 内分泌学用容器



薬物検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)		容器	保存	検査方法	有効治療濃度		(単位)	実施料 判断料	所要 日数	主な商品名	備考
鎮解 痛熱 剤・ 抗 炎症 剤	1442	アセトアミノフェン 3L005	血液 2 03	↓			EIA	μg/mL 中毒濃度 4時間後 200.0以上 8時間後 100.0以上 12時間後 50.0以上	180	生I	2 5	ナバ、ピリナジン カロナール、アニルメ カルジール、サルツー	① 18	
			血清 0.5 02 冷蔵											
抗 がん 剤	1425	サリチル酸 (アスピリン) 3M205	血液 2 03	↓			酵素法	μg/mL 150～300 (抗炎症用時)	(470)	2 5	アスピリン バファリン イスキア	活性代謝物で あるサリチル 酸を測定。 18		
			血清 0.5 02 冷蔵											
腫瘍 悪 性 剤	1352	メトトレキサート (メソトレキサート) 3M725	血液 2 03	↓			EIA	μmol/L 中毒域(大量投薬時) 24時間後 10.00以上 48時間後 1.00以上 72時間後 0.10以上	(470)	2 4	メソトレキサート	18		
			血清 0.5 02 冷蔵											
抗 がん 剤	1428	L-ドーパ 3L555	血液 5 14	↓			LC-MS/MS	ng/mL	—	3 5	ドバストン ドバゾール	血清は検査 不可。 (注1) 02		
			EDTA血漿 2 02 凍結											
免疫 抑制 剤	2430	シクロスポリン 3M805	EDTA加血液 1 14 冷蔵				ECLIA	ng/mL	(470)	2 3	サンディミュン ネオール アマドラ	ヘパリン加血 液は不可。 02		
	2542	タクロリムス 3M810	EDTA加血液 1 13 冷蔵				ECLIA	ng/mL	(470)	2 4	プログラフ グラセプター	02		
	5762	シロリムス 3M814	EDTA加血液 1 14 冷蔵				LC-MS/MS	ng/mL	(470)	4 10	ラバリムス	参考トラフ推奨値: 5～15ng/mL 02		
	5792	ミコフェノール酸 3M816	血液 2 14	↓				LC-MS/MS	μg/mL	(470)	3 5	セルセプト	活性代謝産物で あるミコフェノール 酸(MPA)を測定 します。 02	
			EDTA血漿 0.3 02 冷蔵											

(注1) 検体採取後、3日を超える場合は、－70℃以下で保存して下さい。
① アセトアミノフェンは、同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。

【ご注意】 薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合がありますので、血清分離剤入り容器の使用は避けて下さい。

02 分離用容器

03 汎用容器
(分離剤なし)

13 血液学用容器

14 内分泌学用容器

特定薬剤治療管理料（特定薬剤治療管理料1）

薬 剤 名	検 査 項 目	特定薬剤治療管理料		加算点	備 考
		1～3ヶ月	4ヶ月以降		
ジギタリス製剤 (心疾患)	ジゴキシン	470点	235点		ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合、所定点数(470点)にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
抗てんかん剤 (てんかん)	フェノバルビタール、プリミドン、フェニトイン、カルバマゼピン、エトスクシミド、バルプロ酸、ゾニサミド、トリメタジオン、クロナゼパム、ニトラゼパム、ジアゼパム、クロバザム、レベチラセタム、トピラマート、ラモトリギン、ガバペンチン、アセタゾラミド、ラコサミド、ペランパネル、スチリペンツール、ルフィナミド	470点	470点	280点 (薬剤の投与を行った初回月のみ加算)	てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り算定できる。てんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数(470点)にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
免疫抑制剤 (臓器移植後)	シクロスポリン、タクロリムス、エベロリムス、ミコフェノール酸	470点	470点	2740点 (臓器移植を行った日の属する月を含めた3月に限り加算)	
テオフィリン製剤 (気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作)	テオフィリン	470点	235点		
不整脈用剤 (不整脈)	プロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アブリンジン、リドカイン、ビルシカイニド、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリン、ビルメノール、アミオダロン、ソタロール塩酸塩、ペプリジル	470点	235点		
ハロペリドール製剤 (統合失調症)	ハロペリドール	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った初回月のみ加算)	ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、同一暦月に複数の免疫抑制剤の濃度を測定しその結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、6月に1回に限り250点を加算する。エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、2種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、同一暦月に複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、初回投与を行った日の属する月を含め3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を加算する。
ブロムペリドール製剤 (統合失調症)	ブロムペリドール				
抵抗性統合失調症治療薬 (統合失調症)	クロザピン	470点	235点		
リチウム製剤 (躁うつ病)	リチウム	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム (躁うつ病又は躁病)	バルプロ酸	470点	470点		
カルバマゼピン (躁うつ病又は躁病)	カルバマゼピン				
シクロスポリン (免疫抑制剤) (注1)	シクロスポリン	470点	470点		
タクロリムス水和物 (免疫抑制剤) (注2)	タクロリムス	470点	470点		
サリチル酸系製剤 (若年性関節リウマチ、リウマチ熱、関節リウマチ)	サリチル酸	470点	235点		
メトトレキサート (悪性腫瘍)	メトトレキサート	470点	235点		
エベロリムス (結節性硬化症)	エベロリムス	470点	235点		
アミノ配糖体抗生物質 (入院中)	ゲンタマイシン、トブラマイシン、アミカシン、アルベカシン	470点	235点	280点 (薬剤の投与を行った初回月のみ加算)(バンコマイシン除く)	同一暦月にバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回目に限り530点を加算する。
グリコペプチド系抗生物質 (入院中)	バンコマイシン、テイコブラニン				
トリアゾール系抗真菌剤 (重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植) (入院中)	ボリコナゾール	470点	235点		
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点		
シロリムス製剤 (リンパ脈管筋腫症)	シロリムス	470点	235点		
スニチニブ (抗悪性腫瘍剤) (腎細胞癌)	スニチニブ	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム (片頭痛)	バルプロ酸	470点	235点		

(注1) ベーチェット病(活動性・難治性眼症状を有するもの)、その他の非感染性ぶどう膜炎(既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る)、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎(既存治療で十分な効果が得られない患者に限る)、ネフローゼ症候群、川崎病の急性期

(注2) 全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎(多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る)

内分泌検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
下 垂 体	1001	GH (成長ホルモン) 4A010	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		ECLIA	ng/mL M 2.47以下 F 0.13～9.88	105 生Ⅱ	2 ↓ 4	EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。 02
	1012	ソマトメジン-C (IGF-1) 4A015	血液 2 01 ⇕ 血清 0.4 02 凍結			ECLIA	ng/mL 下表参照	212 生Ⅱ	2 ↓ 3	性別、年齢を必ずご記入下さい。 (血漿、血清とも検査可) 02
	2257	LH (黄体形成ホルモン) 4A030	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	M 0.1～8.7 mlU/mL F 卵泡期 1.2～13.3 排卵期 1.3～55.7 黄体期 0.5～16.5 閉経後 13.3～61.6	105 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	2258	FSH (卵泡刺激ホルモン) 4A035	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	M 0.8～22.9 mlU/mL F 卵泡期 3.1～23.9 排卵期 3.5～24.0 黄体期 1.0～17.2 閉経後 12.6～235.7	105 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	1006	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン) 4A025	血液 2 14 ⇕ EDTA血漿 0.3 02 凍結			ECLIA	pg/mL 7.2～63.3 (早朝安静時)	184 生Ⅱ	2 ↓ 3	提出は、必ず血漿でお願いします。 抗凝固剤として必ずEDTAをご使用下さい。 溶血検体では測定値が低下傾向となります。 02
	2265	TSH (甲状腺刺激ホルモン) 4A055	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	μIU/mL 0.35～4.00	98 生Ⅱ	2 ↓ 3	(透)
	2259	プロラクチン (PRL) 4A020	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	ng/mL M 3.7～16.3 F 3.5～32.7	98 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	1010	抗利尿ホルモン (バソプレシン) (AVP) (ADH)	血液 4 14 ⇕ EDTA血漿 1.2 02 凍結			RIA (二抗体法)	pg/mL 水制限：4.0以下 自由飲水：2.8以下	224 生Ⅱ	5 ↓ 7	血清検体検査不可。 溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 02

① ソマトメジンCとインスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

ソマトメジン-C (IGF-1)基準値 (ng/mL)

年齢	M	F	年齢	M	F	年齢	M	F	年齢	M	F
0歳	11～149	15～154	20歳	142～470	175～499	40歳	94～263	98～245	60歳	79～232	70～201
1歳	14～148	23～186	21歳	139～436	168～459	41歳	94～261	95～240	61歳	77～230	69～198
2歳	18～154	32～213	22歳	135～405	161～425	42歳	93～259	93～236	62歳	76～228	68～196
3歳	24～164	40～227	23歳	131～379	155～397	43歳	92～257	90～233	63歳	75～226	66～194
4歳	32～176	48～238	24歳	128～356	151～375	44歳	92～255	88～229	64歳	73～224	65～191
5歳	44～193	56～252	25歳	125～337	147～358	45歳	91～253	87～226	65歳	72～221	64～188
6歳	55～215	69～287	26歳	119～329	146～336	46歳	90～250	85～224	66歳	70～219	62～186
7歳	63～247	89～357	27歳	116～322	141～328	47歳	90～250	83～221	67歳	68～216	61～183
8歳	72～292	111～438	28歳	114～315	137～320	48歳	89～248	82～219	68歳	66～213	60～180
9歳	84～350	133～517	29歳	111～309	133～312	49歳	88～246	81～218	69歳	65～209	59～177
10歳	99～423	155～588	30歳	109～303	129～304	50歳	87～245	80～216	70歳	63～206	57～175
11歳	113～499	175～638	31歳	107～297	126～297	51歳	87～243	79～215	71歳	61～202	56～172
12歳	125～557	188～654	32歳	105～292	122～290	52歳	86～242	78～213	72歳	58～198	55～170
13歳	133～579	193～643	33歳	103～287	119～283	53歳	85～240	77～212	73歳	56～194	54～167
14歳	138～570	193～625	34歳	102～283	115～277	54歳	84～239	76～211	74歳	54～190	53～165
15歳	141～552	192～614	35歳	100～279	112～271	55歳	84～238	75～210	75歳	52～185	52～163
16歳	142～543	192～611	36歳	99～275	109～265	56歳	83～237	74～208	76歳	50～181	50～160
17歳	142～540	191～599	37歳	97～272	106～260	57歳	82～236	73～207	77歳	48～177	49～158
18歳	142～526	188～574	38歳	96～269	103～254	58歳	81～235	72～205	78歳	45～172	48～155
19歳	143～501	182～539	39歳	95～266	100～250	59歳	80～233	71～203	79歳	43～167	44～152
									80歳以上	41～163	43～149

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
甲状腺	2261	T ₄ (総サイロキシン) 4B030	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 冷蔵	CLIA	4.8~11.0 μg/dL	105 生II	2 ~ 3	(透)
	2262	T ₃ (トリヨード サイロニン) 4B010	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 冷蔵	CLIA	0.70~1.70 ng/mL	99 生II	2 ~ 3	(透)
	2263	FT ₄ (遊離サイロキシン) 4B035	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 冷蔵	CLIA	0.8~1.7 ng/dL	121 生II	2 ~ 3	(透)
	2264	FT ₃ (遊離トリヨード サイロニン) 4B015	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 冷蔵	CLIA	2.2~4.1 pg/mL	121 生II	2 ~ 3	(透)
	4072	TBG (サイロキシン結合 グロブリン) 4B045	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02 凍結	CLEIA	14.0~31.0 μg/mL	130 生II	2 ~ 5	02
	1022	サイログロブリン (Tg) (HTG) 4B040	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02 凍結	ECLIA	33.7以下 ng/mL	128 生II	2 ~ 3	
	1066	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab) 5G290	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02 凍結	ECLIA	28未満 IU/mL	136 免疫	2 ~ 3	
	2825	抗甲状腺 ペルオキシダーゼ抗体 (TPO-Ab) (抗TPO抗体) 5G285	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02 凍結	ECLIA	16未満 IU/mL	138 免疫	2 ~ 3	①
	1131	抗TSHレセプター抗体定量 (TRAb) 5G310	血液 2 ↓ 血清 0.4	01 冷蔵	ECLIA	2.0未満 IU/L	214 免疫	2 ~ 3	②
甲状腺	4118	甲状腺刺激抗体 (TSAb) 5G300	血液 3 ↓ 血清 0.5	01 冷蔵	バイオアッセイ法	110未満 %	330 免疫	3 ~ 5	溶血は低値の影響があります。 血清以外は培養系に影響を与えます ので測定不可、防腐剤などの添加物 使用の場合も測定不可となります。 ②

① 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

② 抗TSHレセプター抗体(TRAb)及び甲状腺刺激抗体(TSAb)を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	14	内分泌学用容器

内分泌検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
副 甲 状 腺 関 連	161	PTH-intact (副甲状腺ホルモンintact) 4C025	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 02 凍結			CLIA	10~65 pg/mL	161 生II	2 ↓ 3	(透) (注1)
	4120	PTH-intact (副甲状腺ホルモンintact) 4C025	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 02 凍結			ECLIA	10~65 pg/mL	161 生II	2 ↓ 3	(透) (注1)
	1028	PTHrp-intact (副甲状腺ホルモン 関連蛋白intact) 4C034	血液 2 08 ↓ 血漿 0.5 02 凍結			IRMA (ビーズ固相法)	1.1未満 pmol/L	186 生II	5 ↓ 7	血清検体検査不可。 専用容器(EDTA・アプロチニン入) は、あらかじめご依頼下さい。 提出は、必ず血漿でお願いします。 02
	1025	カルシトニン (CT) 4C035	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 02 凍結			ECLIA	M 5.15以下 F 3.91以下 (空腹時) pg/mL	130 生II	2 ↓ 3	(透) 02
	333	オステオカルシン (OC)(BGP) 4Z280	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 02 凍結			FEIA	8.3~32.7 ng/mL	157 生II	2 ↓ 5	溶血検体では測定値が低下傾向と なる場合があります。 1 2 02
	3449	低カルボキシル化 オステオカルシン (ucOC) 4Z282	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 02 凍結			CLEIA	4.50未満 ng/mL	154 生II	3 ↓ 7	溶血により測定値に影響を受ける 場合があるので、溶血した検体は 使用しないで下さい。 3 18
	5893	25-OHビタミンD分画 3G066	血液 2 01 ↓ 血清 0.3 02 凍結			LC-MS/MS	D ₂ 12.1以下 D ₃ 5.5~41.4 ng/mL	—	6 ↓ 12	02
	4032	25-OHビタミンD (Total) 3G065	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 冷蔵			CLEIA	ng/mL *1,*2	117 生I	2 ↓ 4	4
	1241	1α,25-(OH) ₂ ビタミンD 3G070	血液 3 01 ↓ 血清 1 02 凍結			RIA (二抗体法)	20~60 pg/mL	388 生I	3 ↓ 6	(透) 5 02

(注1) PTHは採血後、直ちに冷却下で血清を分離する方が不活性化を防ぎます。実施料は「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定となります。

① オステオカルシン(OC)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)、デオキシピリジノリン(DPD)(尿)、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

② オステオカルシン(OC)は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。

③ 低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)は、骨粗鬆症におけるビタミンK₂剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。

④ 25-ヒドロキシビタミンDは、

(1) 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

(2) ビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中に測定した場合は、診断時には1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

⑤ 1,25-ジヒドロキシビタミンD₃は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症I型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD₃剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD₃剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

*1: 日本小児内分泌学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25OHD低値)として下記が記載されています。
・20ng/mL以下 ・15ng/mL以下であればより確実

*2: 「ビタミンD不足・欠乏の判定指針(策定:厚生労働省難治性疾患克服研究事業ホルモン受容機構異常に関する調査研究班、日本骨代謝学会、日本内分泌学会)」において、次の数値が示されています。
・ビタミンD不足: 20.0ng/mL 以上 29.9ng/mL ・ビタミンD欠乏: 20.0ng/mL未満

骨粗鬆症の治療方針の選択及び薬剤効果判定の指標

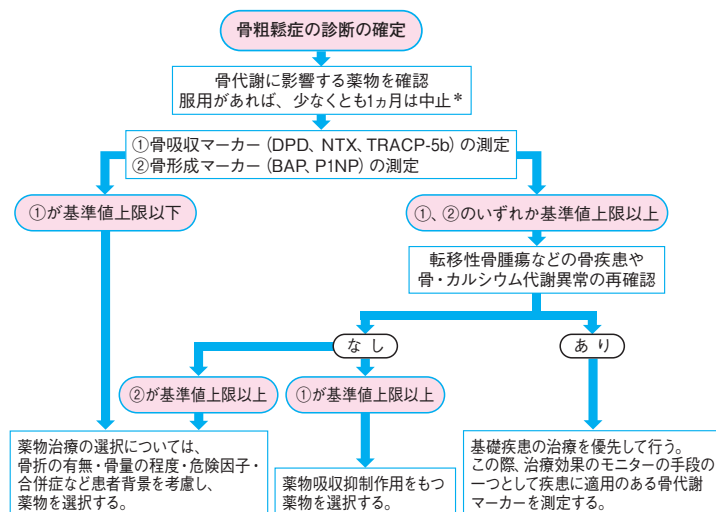
● NTX(尿) (nmolBCE/mmol・Cr)		
骨粗鬆症 薬剤治療の 指標	骨 折 リ ス ク	54.3
	骨 量 減 少	35.3
骨 吸 収 亢 進 の 指 標		55以上
副 甲 状 腺 摘 出 術 の 指 標		200以上
悪 性 腫 瘍 の 骨 転 移 の 指 標		100以上

● DPD (nM/mM・Cr)		
骨粗鬆症 薬剤治療の 指標	骨 折 リ ス ク	7.6
	骨 量 減 少	5.9

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
副 甲 状 腺 関 連	2743	NTx (I型コラーゲン架橋〈尿〉 N-テロペプチド) 5C123	尿 2 (早朝第二尿)	25 冷蔵	CLEIA	判定基準 nmolBCE/mmol-Cr 男 性 13.0~66.2 閉経前女性 9.3~54.3 閉経後女性 14.3~89.0	156 生II	2 5	骨粗鬆症の治療方針の選択及び 薬剤効果判定の指標については、 45ページの表をご参照下さい。 ① ② 18
	2809	TRACP-5b (骨型酒石酸抵抗性 酸性ホスファターゼ) 3B222	血液 2 血清 0.5	01 凍結	EIA	mU/dL 男性 170~590 女性(YAM) 120~420	156 生II	2 4	YAM: 若年成人平均値 女性の基準値は、健常閉経前女性(30~ 44歳)で確立された平均±1.96標準偏差 の範囲としています。 ① ③ 18 なお、閉経後女性にも適用されます。
	3201	デオキシピリジノリン (DPD) 5C146	尿 2 (早朝第二尿)	25 冷蔵	EIA	nM/mM・Cr M 2.1~5.4 F 2.8~7.6	191 生II	3 6	骨粗鬆症の治療方針の選択及び 薬剤効果判定の指標については、 45ページの表をご参照下さい。 ① ② 18
	2822	total P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド) 5C120	血液 2 血清 0.3	01 冷蔵	ECLIA	判定基準 µg/L 男 性 (30~83歳) 18.1~74.1 閉経前女性 (30~44歳) 16.8~70.1 閉経後女性 (45~79歳) 26.4~98.2	160 生II	2 3	溶血の影響により、測定値が低値 になる可能性があります。 ④
	2423	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) 3B072	血液 2 血清 0.5	01 凍結	CLEIA	判定基準 µg/L M 3.7~20.9 F 閉経前 2.9~14.5 閉経後 3.8~22.6	157 生II	2 4	④

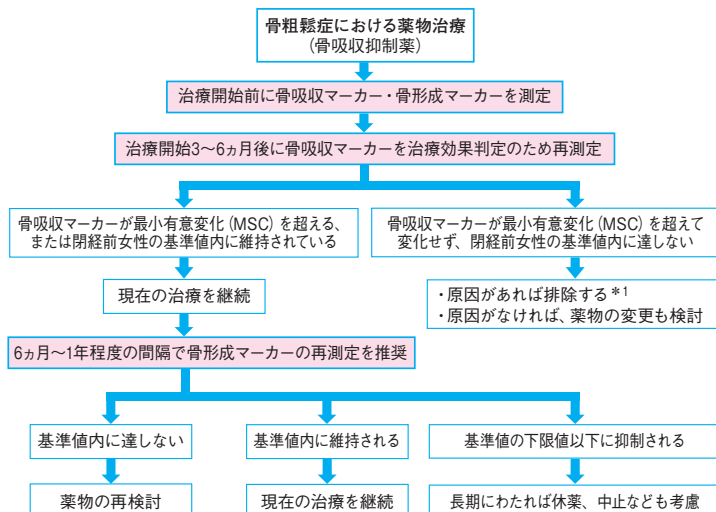
- ① オステオカルシン(OC)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)、デオキシピリジノリン(DPD) (尿)、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。
- ② I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)及びデオキシピリジノリン(DPD) (尿)は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。
なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料のその他のものを算定する。
- ③ 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)は、代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料のその他のものを算定する。
- ④ 骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、I型プロコラーゲン-N-プロペプチド(P1NP)、インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact P1NP)およびALPアイソザイム(PAG電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

骨粗鬆症治療薬の選択時における骨吸収マーカーと骨形成マーカーの測定



* ビスホネート薬では少なくとも3ヵ月の中止後。

骨吸収マーカーを用いた骨吸収抑制薬の治療効果判定



*1 薬物治療で骨代謝マーカーが有意な変化を示さないときに考えられる原因



- 測定の変動、検体採取に関連した原因
 - ・治療開始時と測定時刻が異なっている
 - ・長期にわたる測定のための誤差 (季節変動、患者の状態の変化など)
 - ・測定間隔が短すぎた
 - ・測定を依頼した検査センターが変更になった
- 不十分な服薬状況
 - ・食事とのタイミング (ビスホスホネート薬)
 - ・服薬に対する不良なコンプライアンス
- 続発性骨粗鬆症を惹起する他の疾患の合併
- 最近発生した骨折が存在する

骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド2018年版
(日本骨粗鬆症学会 骨代謝マーカー検討委員会)

内分泌検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
副腎 髄質 ・ 交感 神経 ・ 中 枢 神経	1037	カテコールアミン 3分画 〈血漿〉 4E016	血液 3 14 ↓ EDTA血漿 1 02 凍結			HPLC	ng/mL アドレナリン (A) 0.17 以下 ノルアドレナリン (NA) 0.15~0.57 ドーパミン (DA) 0.03 以下	161 生Ⅱ	3 4	提出は、必ず血漿でお願いします。 採血後、速やかに血漿分離の後、 -20℃以下の条件でご提出下さい。 穿刺のストレスのみで増加するた め肘静脈に留置針をあらかじめ挿 入することが望ましいです。30分 以上安静臥床後に採血します。 02
	1040	カテコールアミン 3分画 〈尿〉 4E016	酸性蓄尿 1 25 冷蔵			HPLC	μg/day アドレナリン (A) 1.1~22.5 ノルアドレナリン (NA) 29.2~118 ドーパミン (DA) 100~1000	161 生Ⅱ	3 4	「6mol/L塩酸 (6N) 約20mL (蓄尿1リットル当 たり)」または「酸性ユリメジャー・T」を加え冷所に蓄 尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出 下さい(上記はいずれも市販品です。貴施設にてあ らかじめご購入下さい)。 24時間蓄尿量を明記してご提出下さい。
	1042	遊離カテコールアミン3分画 4E021	酸性蓄尿 1 25 冷蔵			HPLC	μg/day アドレナリン (A) 0.6~14.1 ノルアドレナリン (NA) 9.7~41.4 ドーパミン (DA) 120~310	生Ⅱ	3 4	02
	4068	血中遊離メタネフリン分画 4E041	血液 5 14 ↓ 血漿 1.0 02 凍結			EIA	pg/mL メタネフリン (MN) 130.0以下 ノルメタネフリン (NMN) 506.0以下 〔褐色細胞腫のカットオフ〕	450 生Ⅱ	4 11	*1, *2, *3, *4 ① 18
	1046	メタネフリン2分画 4E040	酸性蓄尿 2 25 冷蔵			LC-MS/MS	mg/day メタネフリン (MN) 0.05~0.20 ノルメタネフリン (NMN) 0.10~0.28	220 生Ⅱ	3 4	「6mol/L塩酸 (6N) 約20mL (蓄尿1リットル当 たり)」または「酸性ユリメジャー・T」を加え冷所に蓄 尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出 下さい(上記はいずれも市販品です。貴施設にてあ らかじめご購入下さい)。 24時間蓄尿量を明記してご提出下さい。 02
	662	《定性》 4E060	酸性蓄尿 2 25 冷蔵			試験管法	(一)	9 尿便	2 3	「6mol/L塩酸 (6N) 約20mL (蓄尿1リット ル当たり)」または「酸性ユリメジャー・T」を加え冷所に蓄 尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出 下さい(上記はいずれも市販品です。貴施設にてあ らかじめご購入下さい)。 24時間蓄尿量を明記してご提出下さい。 正常児参考基準値 (クレアチニン補正 値) についてはP48参照。
	1047	《定量》 4E060	酸性蓄尿 1 25 冷蔵			LC-MS/MS	1.4~4.9 mg/day	90	3	02
	2299	《クレアチニン補正值》 4E060	尿 1 25 冷蔵				1.2~4.9 μg/mg・Cr	生Ⅱ	4	
	1049	《尿》 4E055	酸性蓄尿 1 25 冷蔵			LC-MS/MS	1.6~5.5 mg/day	69	3	02
	2298	《クレアチニン補正值》 4E055	尿 1 25 冷蔵				1.6~5.5 μg/mg・Cr	生Ⅱ	4	
	1050	ドーパミン・総 4E050	血液 5 14 ↓ EDTA血漿 2 02 凍結			HPLC	ng/mL 0.5~6.2	—	6 11	提出は、必ず血漿でお願いします。 02
	1058	〈血液〉 4E065	EDTA加血液 0.6 14 凍結			LC-MS/MS	ng/mL 52.8~200	—	3 9	ガラス管の場合はプラスチック容 器に移してから凍結して下さい。 必ず専用検体としてご提出下さい。 02
	1171	〈血漿〉 4E065	EDTA加血液 2 14 ↓ 多血小板血漿 0.6 02 凍結				ng/mL 623以下			採血後、4℃、900rpm、20分遠心 分離により多血小板血漿 (PRP) を採 取して下さい。 02
	1062	5-ハイドロキシ インドール酢酸 (5-HIAA) 4E070	酸性蓄尿 1 25 冷蔵			LC-MS/MS	mg/day 0.6~4.1	95 生Ⅱ	3 4	「6mol/L塩酸 (6N) 約20mL (蓄尿1リットル当 たり)」または「酸性ユリメジャー・T」を加え冷所に蓄 尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出 下さい(上記はいずれも市販品です。貴施設にてあ らかじめご購入下さい)。 24時間蓄尿量を明記してご提出下さい。 02

*1: 測定値が上昇するおそれがあるため、仰臥位(ぎょうがい)にて20分間安静にした後に採血して下さい。
*2: 著しい溶血や乳びが認められる検体は不可です。(特に溶血血漿は低値となる可能性があります。)
*3: COMTによるドーパミン代謝物である3-methoxytyramineが著しく高値の場合、褐色細胞腫以外のドーパミン産生腫瘍の疾患では稀に偽陽性となる場合がありますのでご注意ください。
*4: セロトニン、ノルアドレナリン再取り込み阻害剤、三環系抗うつ剤、MAO阻害剤、L-DOPA、交感神経刺激剤等の薬物投与を受けた後の検体では、測定値に影響を与える場合がありますのでご注意ください。
① 褐色細胞腫の鑑別診断を行った場合に1回に限り算定する。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守し、褐色細胞腫を疑う医学的な理由を診療録に記載すること。メタネフリン、メタネフリン・ノルメタネフリン分画、ノルメタネフリン又は遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

14 内分泌学用容器

25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
腎・副腎皮質	1064	血漿レニン活性 (PRA) 4Z010	血液 2 14 ↓ EDTA血漿 0.6 02 凍結			EIA	ng/mL/hr 臥位 0.2~2.3 座位 0.2~3.9 立位 0.2~4.1	100 生II	3 4	必ず血漿分離の上で提出下さい。 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。 ① 02
	4086	レニン濃度(活性型) (ARC) 4Z020	血液 2 14 ↓ EDTA血漿 0.5 02 凍結			CLEIA	pg/mL 随時 2.21~39.49	102 生II	2 3	「レニン定量」 検体提出時は凍結してご提出下さい。 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。 (注1) ① 02
	4083	〈血漿〉 4D115	血液 2 14 ↓ EDTA血漿 0.5 02 凍結			CLEIA	pg/mL 4.0~82.1	122 生II	2 3	採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。 02
	4084	アルドステロン (PAC) 〈血清〉 4D115	血液 2 01 ↓ 血清 0.5 02 凍結							
	4085	〈尿〉 4D115	蓄尿 2 25 凍結							
	4087	アルドステロン/ レニン活性比 (PAC/PRA比) 4D120				計算法	200未満	*1 —	3 4	血漿アルドステロンまたは血清アルドステロンと血漿レニン活性を同時に依頼下さい。 ※単独依頼不可 02
	4088	アルドステロン/ レニン濃度比 (PAC/ARC比) 4D122				計算法	40未満	*1 —	2 3	血漿アルドステロンまたは血清アルドステロンと血漿レニン濃度を同時に依頼下さい。 ※単独依頼不可 02

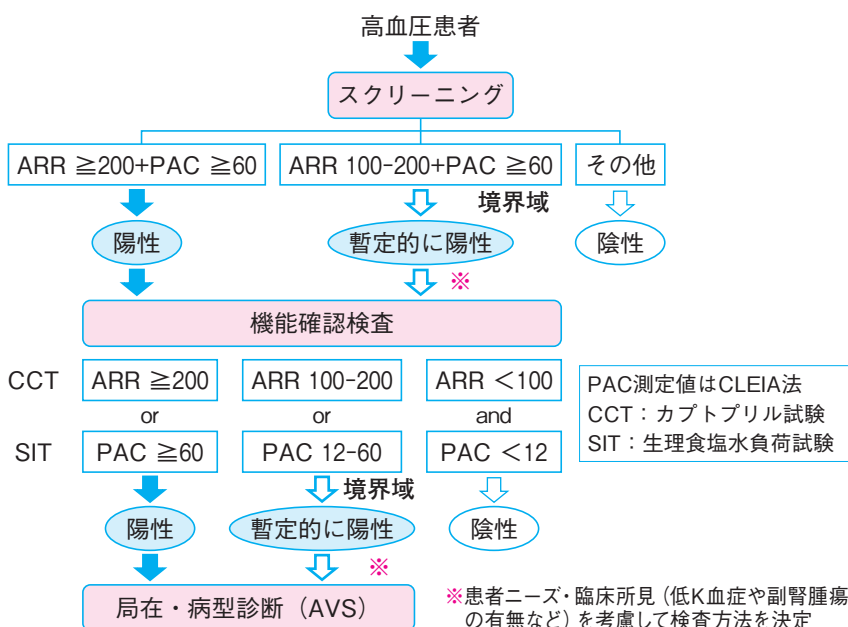
*1: 基準値は日本内分泌学会推奨の原発性アルドステロン症一次スクリーニングのためのカットオフ値です。

*2: 必須項目の同時依頼がない場合は、自動的に追加させていただきます。

(注1) 血漿分離後、-20℃以下の条件で速やかに凍結して下さい。水結点(0℃)前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

① レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

原発性アルドステロン症のスクリーニングおよび機能確認検査の陽性判定基準



[尿中VMA/HVA (クレアチニン補正值): 正常児参考基準値]

月 齢	VMA (μg/mg Cr) mean±S.D	HVA (μg/mg Cr) mean±S.D
1 ~ 3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11 ~ 12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1 ~ 12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典: 沼田公介, 他: 小児科診療 12, 2921, 1990.

【カプトプリル負荷試験】

- 30分安静臥位で(または座位)採血
- カプトプリル(12.5mg)4錠(=50mg)を服用
- 60(90)分後に安静臥位(または座位)で採血
- 判定: 服用後のPAC/PRA比>200陽性, 100~200は境界域(またはPAC/ARC比>40陽性, 20~40は境界域)
(原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021より引用)

内分泌検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
腎・副腎皮質	1069	ACE (アンジオテンシン I 転換酵素) 3B325	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	比色法 (笠原法)	IU/L 7.7~29.4	136 生 I	2 ~ 3	EDTA血漿は検査不可。 02
	165	コルチゾール (COR) 4D040	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	CLEIA	μg/dL 5.6~21.3 (午前8時~10時)	121 生 II	2 ~ 3	
	1076	コルチゾール〈尿〉 (非抱合型コルチゾール) 4D045	蓄尿 0.5 冷蔵	25	CLIA	μg/day 5.5~66.7	121 生 II	2 ~ 4	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。 24時間尿量を明記してご提出下さい。保険 請求の際は「コルチゾール」とご記入下さい。 02
	1083	11-ヒドロキシ コルチコステロイド (11-OHCS) 4D035	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	蛍光法 (DeMoor変法)	μg/dL 7.0~23.0 (午前10時採血)	60 生 II	2 ~ 8	16
	1088	デハイドロエピアンドロ ステロンサルフェート (DHEA-S) 4D090	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	CLEIA	μg/dL 下表参照	164 生 II	2 ~ 3	02

DHEA-S基準値 (μg/dL)

年齢	M	F
20~29 歳	159 ~ 538	92 ~ 399
30~39 歳	125 ~ 475	58 ~ 327
40~49 歳	123 ~ 422	41 ~ 218
50~59 歳	76 ~ 386	30 ~ 201

抗ミュラー管ホルモン (AMH) 基準値 (ng/mL)

年齢(歳)	例数	中央値	基準値範囲
≤27	558	4.69	0.76~14.18
28	387	4.27	0.84~12.44
29	555	4.14	0.86~11.97
30	663	4.02	0.79~12.74
31	865	3.85	0.44~13.08
32	872	3.54	0.62~13.87
33	959	3.32	0.4 ~12.76
34	1064	3.14	0.38~11.16
35	1191	2.62	0.37~10.18
36	1122	2.5	0.33~ 9.93
37	1154	2.27	0.24~ 8.5
38	1230	1.9	0.11~ 7.81
39	1176	1.8	0.13~ 7.45
40	1057	1.47	0.08~ 6.13
41	888	1.3	0.06~ 5.52
42	715	1	0.05~ 5.81
43	509	0.72	0.03~ 4.49
44	309	0.66	0.03~ 3.98
45	144	0.41	0.03~ 3.43
46≤	127	0.3	0.02~ 1.67
全群	15545	2.36	0.12~10.67

●抗ミュラー管ホルモン (AMH) の測定に関する留意事項
平成27~28年度生殖・内分泌委員会生殖医療リスクマネジメント小委員会報告では、生殖医療の発展に伴い、妊娠を希望する女性の高齢化や難治化が進み、これからもAMH測定は増加すると考えられます。そこで、臨床の現場でAMH測定を適切に行う観点から、測定に際し留意事項として以下の4項目が示されています。

1. AMHは卵子の質とは関連しない
2. AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巢年齢」の推定はできない。
3. 測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
4. 測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
性 腺 ・ 胎 盤	1094	テストステロン 4F065	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	M 1.92~8.84 F (閉経前) 0.15~0.44 (閉経後) 0.12~0.31 ng/mL	119 生II	2 3	午前中(9~12時)に採血して下さい。 性別・年齢を必ず記入して下さい。 02
	1674	遊離テストステロン 4F070	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	冷蔵 凍結	RIA (固相法)	下表参照 pg/mL	159 生II	2 6	午前中(9~12時)に採血して下さい。 性別・年齢を必ず記入して下さい。 18
	2200	プロゲステロン 4F045	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	下表参照 ng/mL	143 生II	2 3	
	1092	プレグナンジオール (P ₂) 4F055	蓄尿 2	25	冷蔵	LC-MS/MS	M P ₂ 0.12~0.93 P ₃ 0.25~1.48 mg/day	213 生II	5 7	蓄尿時は冷暗所に保管し、よく混 和し所定量をご提出下さい。 (保存剤による影響はありません) 24時間尿量を明記してご提出下さ い。
	1093	プレグナントリオール (P ₃) 4F060	蓄尿 2	25	冷蔵	LC-MS/MS	F 黄体期 P ₂ 0.16~1.28 P ₃ 0.07~1.24 P ₂ 0.69~4.70 P ₃ 0.25~1.58 閉経後 P ₂ 1.00以下 P ₃ 1.00以下 mg/day	232 生II	5 7	随時尿でのご依頼の場合は、濃 度報告 (mg/L) になります。基準 値の設定はありません。 02
	2250	エストラジオール (E ₂) 4F025	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	下表参照 pg/mL	167 生II	2 3	
	1110	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン (HCG) <血清> 4F080	血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷蔵	CLIA	下表参照 mIU/mL	130 生II	1 3	①
	1111	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン (HCG) <尿> 4F080	尿 1	25	冷蔵	CLEIA	下表参照 mIU/mL	130 生II	2 3	①
	1112	HCG-β サブユニット <血清> (遊離HCG-β) 4F090	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	0.28未満 ng/mL	129 生II	2 3	(注1) ① ② 02
	2887	抗ミューラー管ホルモン (AMH) 4F100	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLEIA	49ページ参照 ng/mL	597 生II	3 5	③

(注1) 遊離型のHCG-βのみを測定致します(LHとの交差反応は認められません)。

- ① ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
- ② ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。
- ③ 抗ミューラー管ホルモン(AMH)は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体として測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

遊離テストステロン基準値 (pg/mL)

年齢	M	F
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	
60~69	5.3~11.5	0.8~1.7
70以上	4.6~16.9	

プロゲステロン基準値 (ng/mL)

M	0.9以下
F (非妊婦)	
卵 胞 期	1.2以下
排 卵 期	0.3~10.4
黄 体 期	1.4~20.6
閉 経 後	0.9以下
妊 婦	
前期 (1~16週)	11.2~90.0
中期 (17~28週)	25.5~89.4
後期 (29~40週)	48.4~422.5

エストラジオール基準値(血清) (pg/mL)

エストラジオール(E ₂)	
M	39.8以下
F	
卵 胞 期	19.5~144.2
排 卵 期	63.9~356.7
黄 体 期	55.8~214.2
閉 経 後	32.2以下
妊 婦	
前期 (1~16週)	135~3,916
中期 (17~28週)	1,710~15,690
後期 (29~40週)	3,720~29,280

ヒト絨毛性ゴナドトロピン

(HCG)基準値 (血清) (尿) (mIU/mL)

M	2.0未満	20以下
F (非妊婦)	2.0未満	20以下
妊 婦		
~ 6週	4,700~87,200	1,100~62,600
7~10週	6,700~202,000	1,800~191,000
11~20週	13,800~68,300	3,100~125,000
21~40週	4,700~65,300	1,400~29,400

内分泌検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
膵・消化管	401	インスリン (IRI) 4G010	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	1.5~12.0 (空腹時) μU/mL	100 生Ⅱ	2 ↓ 3	溶血血清では著しく低値となります。
	4121	インスリン抗体 5G360	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		RIA	0.4未満 U/mL	107 免疫	3 ↓ 6	02
	2540	抗GAD抗体 (抗グルタミン酸デカルボ キシラーゼ抗体) 5G340	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		ELISA	5.0未満 U/mL	134 生Ⅱ	2 ↓ 4	①
	4033	抗IA-2抗体 5G342	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		EIA	0.6未満 U/mL	213 生Ⅱ	3 ↓ 7	② 18
	162	〈血清〉 C-ペプチド (CPR) 4G020	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	0.7~3.5 (空腹時) ng/mL	105 生Ⅱ	2 ↓ 3	③ ④
	163	〈尿〉 C-ペプチド (CPR) 4G020	蓄尿 または 1 部分尿	25 冷蔵			15.0~133.0 30~140 (参考値) μg/day μg/L	105 生Ⅱ	3	③ ④ ★安定化剤を加えて冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。 24時間尿量を明記してご提出下さい。
	4049	膵グルカゴン (IRG) 4G030	血液 2 ↓ 血漿 0.4 凍結	08 02		EIA	5.4~55.0 (空腹時) pg/mL	150 生Ⅱ	3 ↓ 9	専用容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離して下さい。 血漿は必ず凍結保存して下さい。 溶血検体は低値傾向となります。 乳白検体は高値傾向となります。 02
	4122	ガストリン 4G040	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02		RIA	11.9~46.9 pmol/L	101 生Ⅱ	3 ↓ 8	02

- ① 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
- ② 抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ③ C-ペプチド(CPR)を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

08 アプロチニン容器

14 内分泌学用容器

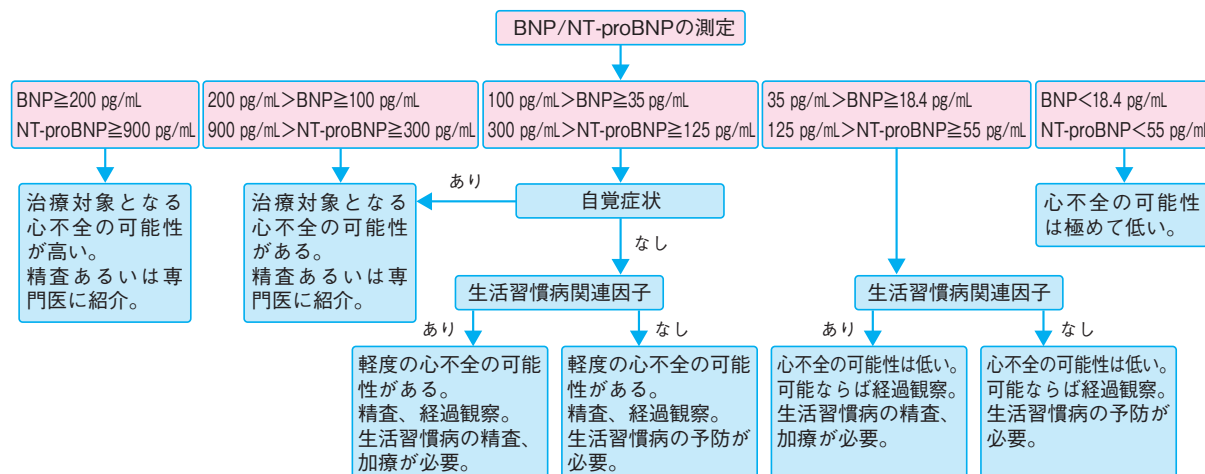
25 尿一般容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	2291	肝細胞増殖因子 (HGF) 4Z315	血液 2 ↓ 血清 0.2 01 冷蔵		EIA	0.39以下 ng/mL	227 生 I	2 6	① 18
	1143	α-hANP (ヒト心房性Na利尿ポリペプチド) (ANP) 4Z270	血液 2 ↓ 血漿 0.5 08 02 凍結		CLEIA	43.0以下 pg/mL	221 生 II	2 4	④ 溶血の場合は低値となりますので ご注意ください。 (注1) ②
	2231	BNP (脳性Na利尿ポリペ プチド) 4Z271	血液 2 ↓ 血漿 0.5 08 02 凍結		CLIA	18.4以下 pg/mL	130 生 II	2 3	④ (注1) ② ③
	233	NT-proBNP 4Z272	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵		ECLIA	125以下 pg/mL	136 生 II	2 3	② ④
	1258	エリスロポエチン (EPO) 4Z275	血液 3 ↓ 血清 0.7 01 冷蔵		CLEIA	4.2~23.7 mIU/mL	209 生 II	2 3	⑤
	1166	カルニチン 3G055	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵		酵素サイク リング法	総カルニチン 45.0~91.0 遊離カルニチン 36.0~74.0 アシルカルニチン 6.0~23.0 μmol/L	95 95 生 I	2 4	⑥ 18
	1137	サイクリックAMP (c-AMP) 4Z255	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.3 14 02 凍結		RIA (DCC)	11~21 pmol/mL	165 生 II	事前にご確 認下さい。	提出は、必ず血漿でお願いします。 低温(4℃)で血漿分離して下さい。 16
	1139	蓄尿 4Z255	蓄尿 1 25 凍結			1.8~6.3 μmol/day	165 生 II		トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿 し、よく混和し所定量をご提出下さい。 24時間尿量を明記してご提出下さい。 16
	1315	ヒスタミン 4Z265	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.3 14 02 凍結		EIA	0.15~1.23 ng/mL	— 生 I	14 21	提出は、必ず血漿でお願いします。 血清は検査不可。 採血後20分以内に4~10℃、900×g で10分間遠心分離して下さい。血 漿の上部を所定量ご提出下さい。02
その他	3278	アディポネクチン 4Z401	血液 2 ↓ 血清 0.5 01 冷蔵		ラテックス 凝集比濁法	4.0以上 μg/mL	— 生 I	2 4	18

(注1) EDTA採血の場合は、直ちに分離の上、凍結保存して下さい。提出は、必ず血漿でお願いします。

- 肝細胞増殖因子(HGF)は、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。
- 心房性Na利尿ペプチド(ANP)、脳性Na利尿ペプチド(BNP)及び脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。また、2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- 脳性Na利尿ペプチド(BNP)は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
- 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
- エリスロポエチンは、赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータベゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断、骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定、のいずれかの目的で行った場合に算定する。
- 総カルニチン及び遊離カルニチンは、本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。小児患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

BNP/NT-proBNP値の心不全診断へのカットオフ値



腫瘍関連検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
腫瘍 関連 検査	111	AFP (α-フェトプロテイン) 5D015	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	10.0以下 ng/mL	98 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	2232	AFPレクチン分画 5D018	血液 2 ↓ 血清 0.4	01		LBA (LBA-EATA)	L3分画 10.0未満 %	185 生Ⅱ	3 ↓ 4	02
	1467	PIVKA-II 5D520	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	40未満 mAU/mL	131 生Ⅱ	2 ↓ 4	
	110	CEA (癌胎児性抗原) 5D010	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	5.0以下 ng/mL	99 生Ⅱ	2 ↓ 3	①
	4126	APOA2アイソフォーム (アポリポ蛋白A2アイソ フォーム) 5D320	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		ELISA	INDEX 59.5以上 μg/mL	335 生Ⅱ	3 ↓ 10	② 18
	3254	抗p53抗体 5D560	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLEIA	1.30以下 U/mL	163 生Ⅱ	2 ↓ 4	③ 18
	1991	BFP (塩基性フェトプロテイン) 5D025	血液 2 ↓ 血清 0.6	03		EIA	75未満 ng/mL	150 生Ⅱ	2 ↓ 6	採血後2時間以内に血清のみを分取し、ご提出下さい。溶血検体、または分離剤入り容器による採血では高値になる場合がありますので避けて下さい。 18
	1197	DUPAN-2 5D170	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		EIA	150以下 U/mL	115 生Ⅱ	3 ↓ 6	① 18
	1293	エラスターゼⅠ 3B195	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		ラテックス凝集法	300以下 ng/dL	120 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	93	CA19-9 5D130	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	37.0以下 U/mL	121 生Ⅱ	2 ↓ 3	
	1727	Span-1抗原 5D220	血液 2 ↓ 血清 0.4	01		IRMA (RIA・固相法)	30.0以下 U/mL	144 生Ⅱ	2 ↓ 4	18
	1297	CA15-3 5D120	血液 2 ↓ 血清 0.2	01		CLIA	27.0以下 U/mL	112 生Ⅱ	2 ↓ 3	④
	1262	NCC-ST-439 5D200	血液 2 ↓ 血清 0.4	01		EIA	M : 4.5未満 F (49歳以下) : 7.0未満 F (50歳以上) : 4.5未満 U/mL	112 生Ⅱ	3 ↓ 4	02
	1673	BCA225 5D125	血液 2 ↓ 血清 0.6	01		CLEIA	160.0未満 U/mL	158 生Ⅱ	2 ↓ 4	18
	141	CA125 5D100	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	35.0以下 U/mL	136 生Ⅱ	2 ↓ 3	⑤

① 癌胎児性抗原(CEA)とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

② アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して、肝癌の診断の補助を目的として、血液を検体として測定した場合に、肝癌の診断確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会の定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(イ) 関連学会が定める指針に基づき肝癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。

(ロ) 関連学会が定める指針に基づき肝癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。

(ハ) 関連学会が定める指針に基づき肝癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。

イ. アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォームと、癌胎児性抗原(CEA)、DUPAN-2又はSpan-1を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

ウ. アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォームをアの(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、アの(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

③ 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

④ CA15-3とシアリルLe^x抗原(CSLEX)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

⑤ CA125及び、CA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
腫瘍 関 連 検 査	5769	ヒト精巣上体蛋白4 (HE4) 5D110	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	CLIA	pomL/L 閉経前：70.0以下 閉経後：140.0以下	200 生II	2 6	18
	2349	CA602 5D103	血液 2 ↓ 血清 0.6 冷蔵	01	EIA	U/mL 63.0以下	190 生II	2 5	18
	2362	CA54/61 5D155	血液 2 ↓ 血清 0.6 冷蔵	01	EIA	U/mL 12.0以下	184 生II	2 5	18
	1272	CA72-4 5D150	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	ECLIA	U/mL 6.9以下	146 生II	2 4	18
	1680	シアリルTn抗原 (STN) 5D153	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01	RIA (固相法)	U/mL 45.0以下	146 生II	2 4	18
	2957	シアリルLex抗原 (CSLEX抗原) 5D177	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02	EIA	U/mL 8.0未満	156 生II	3 7	18
	1191	PSA (前立腺特異抗原) 5D305	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02	CLEIA	ng/mL 4.00以下	121 生II	2 3	前立腺癌診断のCut off値としては "10.0ng/mL"が推奨されています。 4 5 7
	2328	高感度PSA 5D305	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02	CLEIA	ng/mL 4.000以下	121 生II	2 3	4 5 7
	2963	PSA-ACT 5D306	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	CLIA	ng/mL 3.4以下	121 生II	2 4	前立腺肥大症と前立腺癌の判別の カットオフ値は7.0ng/mLが推奨さ れます。 4 5 7
	2965	フリーPSA/ トータルPSA比 5D308	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02	CLEIA	% (基準値について) PSAのグレイゾーン(4.00~10.0ng/ mL)における前立腺肥大症と前立 腺癌の判別に用いるカットオフ値 は25%です。(低値ほど前立腺癌の 確率が高くなります)。6 7	150 生II	2 3	
	1465	γ-Sm (γ-セミノプロテイン) 5D310	血液 2 ↓ 血清 0.4 凍結	01 02	CLEIA	ng/mL 4.00以下	192 生II	2 3	02
	4127	S2・3PSA% (前立腺特異抗原(PSA) レクチン結合分画比) 5D304	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01	LBA-EATA	% 38.0未満	248 生II	3 7	18

- CA125及び、CA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- シアリルLe^x抗原(CSLEX)とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- シアリルLe^x抗原(CSLEX)は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
- 前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- S2・3PSA%と、前立腺特異抗原(PSA)、遊離型PSA比(PSA F/T比)又はプロステートヘルスインデックス(phi)を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
- 遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診療及び他の検査(PSA等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
- S2・3PSA%
ア S2・3PSA%は、前立腺癌であることが強く疑われる者であって、前立腺特異抗原(PSA)の結果が4.0ng/mL以上10.0ng/mL以下である者に対して、S2・3PSA%を測定した場合に限り算定できる。
イ 本検査は、前立腺癌の診断に当たって実施した場合に、原則として1回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
ウ S2・3PSA%と、前立腺特異抗原(PSA)、遊離型PSA比(PSA F/T比)又はプロステートヘルスインデックス(phi)を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
エ 診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原(PSA)の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を2回以上算定する場合は、本検査の2回以上の実施が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



腫瘍関連検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
腫瘍 関 連 検 査	2233	I型コラーゲン Cテロペプチド (ICTP) 5C124	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		RIA (二抗体法)	4.5未満 (骨転移判定のCut off値) ng/mL	※	2 ↓ 4	※悪性腫瘍特異物質治療管理料 (56ページ参照) 02
	1236	SLX (シアリルLe ^x -i抗原) 5D175	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		IRMA (RIA・固相法)	38.0以下 U/mL	140 生II	3 ↓ 5	溶血検体でのご依頼は避けて下さい。 18
	1298	SCC抗原 5D300	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	1.5以下 ng/mL	101 生II	2 ↓ 3	唾液・フケ・皮膚等の混入により 高値傾向を示す場合があります。
	1288	シフラ (サイトケラチン19) フラグメント 5D325	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		ECLIA	3.5以下 ng/mL	154 生II	2 ↓ 3	2
	1294	NSE (神経特異エノラーゼ) 5D410	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		ECLIA	16.3以下 ng/mL	142 生II	2 ↓ 3	溶血検体ではNSE値は上昇するた めご注意ください。 3
	2280	ProGRP (ガストリン放出 ペプチド前駆体) 5D550	血液 2 ↓ EDTA血漿 0.6 冷蔵	14 02		CLIA	81.0未満 pg/mL	175 生II	2 ↓ 4	3 18
	3342	血清HER2蛋白 5D590	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02		CLIA	15.2以下 ng/mL	※	2 ↓ 6	※悪性腫瘍特異物質治療管理料 (56ページ参照) 4 02
	2486	可溶性インターロイキン-2 レセプター (sIL-2R) 5J095	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		CLEIA	121～613 U/mL	438 生II	2 ↓ 3	5 02
	2853	メソテリン (可溶性メソテリン関連蛋白) (SMRP) 5D600	血液 2 ↓ 血清 0.3 凍結	01 02		CLEIA	1.5未満 nmol/L	220 生II	3 ↓ 9	血漿も可 6 02

- ① I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP)、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)又はデオキシピリジノリン(DPD)(尿)は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
- ② サイトケラチン19フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
- ③ ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- ④ HER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する。
- ⑤ 可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料により算定する。
- ⑥ 可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。
悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、①石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者②体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者③画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。

悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア 急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合

イ 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、 α -フェトプロテイン（AFP）、PIVKA II半定量又は定量を行った場合（月1回に限る。）

ウ 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125又はCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。）

エ 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

上記にかかわらず、CA125及びCA602について、1つを悪性腫瘍特異物質治療管理料の項目とし、他の1つの検査を腫瘍マーカーの項目として算定することはできず、いずれか一方のみ算定する。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

測定方法	検査項目	悪性腫瘍特異物質治療管理料(同一患者月1回)	加算点(初回月)
尿中BTAに係るもの	尿中BTA★	220点	
その他のもの	癌胎児性抗原(CEA) PIVKA-II 定量 CA602 α -フェトプロテイン(AFP) 塩基性フェトプロテイン(BFP) AFPレクチン分画(AFP-L3%) 組織ポリペプチド抗原(TPA) シアリルLe ^x -i抗原(SLX) γ -セミノプロテイン(γ -Sm) 扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原) CA125 可溶性メソテリン関連ペプチド DUPAN-2 サイトケラチン8・18(尿) 乳頭分泌液中CEA(定性・半定量) NCC-ST-439 遊離型PSA比(PSA F/T比) ヒト精巣上体蛋白(HE4) CA15-3 抗p53抗体 可溶性IL-2レセプター エラスターゼ1 BCA225 HER2蛋白★ 前立腺特異抗原(PSA) シアリルLe ^x 抗原(CSLEX) I型コラーゲンCテロペプチド(ICTP)★ CA19-9 サイトケラチン19フラグメント(シフラ) I型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)★ CA72-4 ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP) 尿中デオキシビリジノリン(DPD)★ SPan-1 CA54/61 TRACP-5b★ シアリルTn抗原(STN) 癌関連ガラクトース転移酵素(GAT) 神経特異エノラーゼ(NSE) 前立腺特異抗原(PSA)レクチン結合分画比 アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム	1項目 360点 2項目以上400点	150点 <初回月加算> 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。 ★腫瘍マーカーとしては、算定できないが、悪性腫瘍特異物質治療管理料として算定する。

弊社で扱っていない項目も掲載しています。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

- 悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。
- 悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
- 腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。
- 初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。ただし、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
- 腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	14	内分泌学用容器

腫瘍関連検査

主な腫瘍マーカーと対象となる腫瘍部位

(●：特に有用性の高いもの、○：有用性を認められているもの)

項目 コード	部位 疾患名 項目名	肺・乳腺		消化器系				肝・胆・膵			性腺・泌尿器系					保険点数 検査 実施料
		肺がん	悪性 中皮腫	乳がん	食道がん	胃がん	大腸がん	肝がん	胆嚢・胆道がん	膵がん	卵巣がん	子宮がん	膀胱がん	前立腺がん	腎がん	
111	AFP (α-フェトプロテイン)							●								98
2232	AFPレクチン分画							●								185
1467	PIVKA-II							●								131
110	CEA (癌胎児性抗原)	●		○	○	○	●	○	○	○	○	○	○		○	99
4126	アポリポ蛋白A2 (APOA2) アイソフォーム									●						335
3254	抗p53抗体			●	●		●									163
1991	BFP (塩基性フェトプロテイン)	○					○	○	○	○	○	○	●	○	●	150
1197	DUPAN-2					○		○	●	●						115
1293	エラスターゼ1									●						120
93	CA19-9					○	○	○	●	●						121
1727	Span-1抗原					○	○	○	●	●						144
1297	CA15-3			●												112
1262	NCC-ST-439	●		●		○	○	○	●	●	○					112
1673	BCA225			●												158
141	CA125	○				○				○	●	○				136
5769	ヒト精巣上体蛋白4 (HE4)										●					200
2349	CA602										●	○				190
2362	CA54/61					○	○			○	●	○				184
1272	CA72-4					●	○			○	●	○				146
1680	シアリルTn抗原 (STN)					●	○			○	●	○				146
1191	PSA (前立腺特異抗原)													●		121
2963	PSA-ACT													●		121
2965	フリーPSA/トータルPSA比													●		150
4127	S2・3PSA% (前立腺特異抗原 (PSA) レクチン結合比)													●		248
1465	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)													●		192
1236	SLX (シアリルLeX-i抗原)	●						○	●	●	●					140
1298	SCC抗原	●			○							●				101
1288	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	●														154
1294	NSE (神経特異エノラーゼ)	●														142
2280	ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	●														175
3342	血清HER2蛋白			●												※
2853	メソテリン (可溶性関連蛋白) (SMRP)	○	●													220

※腫瘍マーカーとしては算定できないが、悪性腫瘍特異物質治療管理料として算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
ウ イ ル ス 抗 体 の 検 出	1505	インフルエンザA型 〈C F〉 5F400	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 5 6	HI法における測定株の種類は ワクチンに対応して変更され ます。測定株につきましては お問合せ下さい。
	2245	インフルエンザA型 〈H I〉 (ワクチン株) 5F400	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.5	25	冷蔵	HI	血清 10倍 髄液 1倍	免疫	3 5 7	
	1506	インフルエンザB型 〈C F〉 5F410	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 5 6	
	1532	インフルエンザB型 〈H I〉 (ワクチン株) 5F410	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.5	25	冷蔵	HI	血清 10倍 髄液 1倍	免疫	3 5 7	
	1535	パラインフルエンザ1型 (HA-2) 5F421	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3	01	冷蔵	HI	血清 10倍 髄液 1倍	各 79 免疫	3 5 7	「ウイルス型別」のある項目では、 必ず「型」をご指定下さい。
	1536	パラインフルエンザ2型 (CA) 5F422	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3	01	冷蔵					
	1537	パラインフルエンザ3型 (HA-1) 5F423	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.4	25	冷蔵					
	1538	パラインフルエンザ4型 (M-25) 5F424	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.4	25	冷蔵			—	—	18
	1509	ムンプス 〈C F〉 5F432	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 5 6 7 14	・下記判定基準参照
	1539	ムンプス 〈H I〉 5F432	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.5	25	冷蔵	HI				
	1560	ムンプス 〈N T〉 5F432	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.3 又は 髄 液 各0.5	25	冷蔵	NT				
	2385	ムンプスIgG 5F432	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6	01	冷蔵	EIA	血清 陰性(－) IgG：EIA価 2.0未満 IgM：index 0.80未満 髄液 陰性(－)	200	3 5 2 4	・下記判定基準参照
	1645	ムンプスIgM 5F432	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6 又は 髄 液 各0.7	25	冷蔵					
	1561	麻疹 〈N T〉 5F431	血 液 2 ↓ 血 清 0.3 又は 髄 液 0.4	01	冷蔵	NT	血清 4倍 髄液 1倍	79	7 5 14	18
	2383	麻疹IgG 5F431	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6	01	冷蔵	EIA	血清 陰性(－) IgG：EIA価 2.0未満 IgM：index 0.80未満 髄液 陰性(－)	200	3 5 2 4	・下記判定基準参照
	1643	麻疹IgM 5F431	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6 又は 髄 液 各0.7	25	冷蔵					
	230	風疹抗体価 〈L A〉 5F395	血 液 2 ↓ 血 清 0.2	01	冷蔵	ラテックス 免疫比濁法	10未満 IU/mL	79	2 5 3	・下記判定基準参照
	286	風疹抗体価 〈H I〉 5F395	血 液 2 ↓ 血 清 0.2	01	冷蔵	H I	血清 8倍	免疫	2 5 3	
	1618	風疹IgG 5F395	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.5	01	冷蔵	EIA	血清 陰性(－) IgG：EIA価 2.0未満 IgM：index 0.80未満 髄液 陰性(－)	200	2 5 4	
	2076	風疹IgM 5F395	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.5 又は 髄 液 各0.7	25	冷蔵					
	1502	水痘・帯状ヘルペス 5F193	血 液 2 ↓ 血 清 0.3 又は 髄 液 0.5	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 5 6	18
	2389	水痘・帯状ヘルペス IgG 5F193	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6	01	冷蔵	EIA	血清 陰性(－) IgG：EIA価 2.0未満 IgM：index 0.80未満 髄液 陰性(－)	200	3 5 2 4	・下記判定基準参照
	1972	水痘・帯状ヘルペス IgM 5F193	血 液 各2 ↓ 血 清 各0.6 又は 髄 液 各0.7	25	冷蔵					

※ 急性期(発病2～7日)と回復期(2～3週)の検体を測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍以上上昇したとき、血清学的に有意とされています。

★ウイルス検査の検査実施料点数算定については、61ページを参照



ウイルス抗体価(EIA法)の
判定基準

	IgG (血清)	IgM (血清)
判定	EIA価	抗体指数(index)
(—)	2.0未満	0.80未満
(±)	2.0～3.9	0.80～1.20
(+)	4.0以上	1.21以上

ウイルス学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考			
ウイルス学 抗体検査 の 検出	1507	RS 5F430	血液 各2	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 6	18			
	1559		血清 各0.3			NT		免疫	7 14				
	1503	サイトメガロ(CMV) 5F194	又は 髄液 各0.5	25	冷蔵	CF		79	3 6				
	4041	サイトメガロIgG(CMV) 5F194	血液 2	01	冷蔵	CLIA	陰性(－) AU/mL 抗体濃度：6.0未満	200	2 4	・下記判定基準参照 18			
	4042	サイトメガロIgM(CMV) 5F194	血清 各0.5				陰性(－) index：0.85未満						
	4098	サイトメガロIgG(髄液) 5F194	髄液 0.7	25	冷蔵		陰性(－)	免疫					
	4099	サイトメガロIgM(髄液) 5F194											
	1501	単純ヘルペス 5F190	血液 各2	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 6	18			
	1547	単純ヘルペス1型 5F191	血清 各0.3			NT		免疫	7 12		「ウイルス型別」のある項目では、必ず「型」をご指定下さい。単純ヘルペスウイルスでは、中和試験(NT)においても1型と2型間には交差性があります。		
	1548	単純ヘルペス2型 5F192	又は 髄液 各0.5	25	冷蔵								
	2391	単純ヘルペスIgG 5F190	血液 各2	01	冷蔵	EIA	血清 陰性(－) IgG：EIA価 2.0未満	200	2 4	判定基準58ページ備考欄参照 18			
	1974	単純ヘルペスIgM 5F190	血清 各0.6 又は 髄液 各0.7				IgM：index 0.80未満 髄液 陰性(－)						
	1504	アデノ 5F150	血液 各2 01 冷蔵 又は	25	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 6	「ウイルス型別」のある項目では、必ず「型」をご指定下さい。 18			
	1549	アデノ1型 5F151				NT			8 15				
	1550	アデノ2型 5F152											
	1551	アデノ3型 5F153											
	1552	アデノ4型 5F154											
	1553	アデノ5型 5F155											
	1554	アデノ6型 5F156											
	1555	アデノ7型 5F157											
	1556	アデノ8型 5F158				血清 8倍 髄液 1倍	免疫	9 21	02				
	1557	アデノ11型 5F161				血清 4倍 髄液 1倍		8 15	18				
	1558	アデノ19型 5F169							18				
	1597	エンテロ70型 5F270	血液 各2	01	冷蔵	NT	血清 4倍 髄液 1倍	－	8 15	「ウイルス型別」のある項目では、必ず「型」をご指定下さい。 18			
	1598	エンテロ71型 5F271	血清 各0.2 又は 髄液 各0.2								25	冷蔵	

※ 急性期(発病2～7日)と回復期(2～3週)の検体を測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍以上上昇したとき、血清学的に有意とされています。
★ウイルス検査の検査実施料点数算定については、61ページを参照

01 汎用容器
(分離剤入り)

25 尿一般容器



サイトメガロウイルス抗体価(CLIA法)の判定基準(血清)

	IgG	IgM
判定	抗体濃度	Index
(－)	6.0未満	0.85未満
(±)	－	0.85～0.99
(＋)	6.0以上	1.00以上

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
ウイルス学検査の実施 抗体の検出	1577	エコー1型<NT> 5F311	血液 各2 血清 各0.3 冷蔵 又は 髄液 各0.4 25 冷蔵			NT	血清 4倍 髄液 1倍	79	8 〜 15	18 02
	1578	エコー3型<NT> 5F313								
	1579	エコー4型<NT> 5F314								
	1580	エコー5型<NT> 5F315								
	1581	エコー6型<NT> 5F316								
	1582	エコー7型<NT> 5F317								
	1583	エコー9型<NT> 5F319								
	1584	エコー11型<NT> 5F321								
	1585	エコー12型<NT> 5F322								
	1586	エコー13型<NT> 5F323								
	1587	エコー14型<NT> 5F324								
	1588	エコー16型<NT> 5F326								
	1589	エコー17型<NT> 5F327								
	1590	エコー18型<NT> 5F328								
	1591	エコー19型<NT> 5F329								
	1592	エコー21型<NT> 5F331								
	1593	エコー22型<NT> (パレコウイルス1型) 5F332								
	1594	エコー24型<NT> 5F334								
	1595	エコー25型<NT> 5F335								
	1596	エコー30型<NT> 5F340								
	2373	コクサッキーA群2型<NT> 5F282								
	2374	コクサッキーA群3型<NT> 5F283								
	1565	コクサッキーA群4型<NT> 5F284								
	2375	コクサッキーA群5型<NT> 5F285								
	1566	コクサッキーA群6型<NT> 5F286								
	1567	コクサッキーA群7型<NT> 5F287								
	1517	コクサッキーA群9型<CF> 5F289				CF				
	1568	コクサッキーA群10型<NT> 5F289				NT				
	1569	コクサッキーA群10型<NT> 5F290				NT				
	1570	コクサッキーA群16型<NT> 5F296				CF				
	1518	コクサッキーB群1型<CF> 5F301				CF				
	1571	コクサッキーB群1型<NT> 5F301				NT				
	1519	コクサッキーB群2型<CF> 5F302				CF				
	1572	コクサッキーB群2型<NT> 5F302				NT				
	1520	コクサッキーB群3型<CF> 5F303				CF				
	1573	コクサッキーB群3型<NT> 5F303				NT				
	1521	コクサッキーB群4型<CF> 5F304				CF				
	1574	コクサッキーB群4型<NT> 5F304				NT				
	1522	コクサッキーB群5型<CF> 5F305				CF				
	1575	コクサッキーB群5型<NT> 5F305				NT				
	1523	コクサッキーB群6型<CF> 5F306				CF				
	1576	コクサッキーB群6型<NT> 5F306				NT				

※ 急性期(発病2〜7日)と回復期(2〜3週)の検体を測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍以上上昇したとき、血清学的に有意とされています。

★ウイルス検査の検査実施料点数算定については、61ページを参照

ウイルス学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	最低希釈倍率	実施料 判断料	所要 日数	備 考
ウイルス抗体の検出	1601	EBV VCA IgG 5F202	血液 各2 ⇓ 血清 各0.2 冷蔵	01	冷蔵	FAT	血清 10倍 髄液 1倍	200 免疫	2 5	
	1602	EBV VCA IgA 5F202						79 免疫		
	1603	EBV VCA IgM 5F202						200 免疫		
	1604	EBV EA-DR IgG 5F203	又は 髄液 各0.4 25 冷蔵	25	冷蔵			79 免疫		
	1605	EBV EA-DR IgA 5F203						79 免疫		
	1606	EBV EA-DR IgM 5F203						79 免疫		
	1608	EBV EBNA 5F204						免疫		
	1512	日本脳炎 〈CF〉 5F385	血液 各2 ⇓ 血清 各0.3 冷蔵	01	冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍	79	3 6	
	1621	日本脳炎 〈HI〉 5F385	又は 髄液 各0.5 25 冷蔵			HI	血清 10倍 髄液 1倍	免疫	4 11	
	2538	パルボウイルスB19 IgG 5F011	血液 各2 ⇓ 血清 各0.2 冷蔵	01	冷蔵	EIA	下表参照	—	2 4	
2539	パルボウイルスB19 IgM 5F011	血清 各0.2 冷蔵	200 免疫							

※ 急性期(発病2～7日)と回復期(2～3週)の検体を測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍以上上昇したとき、血清学的に有意とされています。

★ウイルス抗体の検査実施料点数算定について

- 1) ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)
- ① ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
(アデノウイルス、コクサッキーウイルス、サイトメガロウイルス、EBウイルス、エコーウイルス、ヘルペスウイルス、インフルエンザウイルスA型、インフルエンザウイルスB型、ムンプスウイルス、パラインフルエンザウイルスⅠ型、パラインフルエンザウイルスⅡ型、パラインフルエンザウイルスⅢ型、ポリオウイルスⅠ型、ポリオウイルスⅡ型、ポリオウイルスⅢ型、RSウイルス、風疹ウイルス、麻疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、オーム病クラミジア、水痘・帯状疱疹ウイルス)
- 同一検体についてウイルス抗体価(定性・半定量・定量)の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
- ② 同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。
- 2) グロブリンクラス別ウイルス抗体価
- ① グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ただし、ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
(ヘルペスウイルス、風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、EBウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、ヒトパルボウイルスB19、水痘・帯状疱疹ウイルス)
- 同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。
- ② 同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
- ③ 1)のウイルス抗体価(定性・半定量・定量)と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

●パルボウイルスB19 (IgM、IgG) の判定基準について

判定	抗体指数
(-)	0.80未満
(±)	0.80～0.99
(+)	1.00以上

●ウイルス抗体価の検体量について

項目数	提出検体量 (mL)	
	血清(血液)	髄液
2～5	0.6 (2.0)	1.0
6～10	1.0 (3.0)	1.8
11～15	1.5 (4.0)	2.5
16～20	2.0 (5.0)	3.0

複数項目を同時に依頼の場合は左記の血清量及び髄液量を目安としてご提出下さい。
尚、検査項目によって多少異なる場合がありますのでご注意下さい。

01 汎用容器
(分離剤入り)



25 尿一般容器



区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ウ イ ル ス 抗 原 の 検 出	138	ヒトパルボウイルス B19 DNA 5F011	血液 5	57 必ず速く凍結 「開栓不可」	PCR	陰性(—)	—	3 5	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けて下さい。 16
	1671	単純ヘルペスウイルス 特異抗原 5F190	塗抹標本	56 -20℃以下凍結	FAT	1型：陰性(—) 2型：陰性(—)	180 免疫	3 5	専用容器(無蛍光スライド)はあらかじめご依頼下さい。 検体採取については136ページの図をご参照下さい。 ① 02
	1620	単純ヘルペスDNA 5F190	髄液 1 血液 5 患部ぬぐい液 組織 50mg	88 必ず凍結 14 凍結不可冷蔵 88 凍結 88 必ず凍結	PCR	陰性(—)	—	3 5	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けて下さい。 専用容器がございましたので、あらかじめお問合せ下さい。(注1) 16
	2574	サイトメガロウイルス PP65抗原(C10,C11) 5F194	EDTA加血液 5	14 凍結不可冷蔵	間接酵素 抗体法	陰性(—)	356 免疫	2 4	採血後24時間以内に検査 ② 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 血液は採血後すみやかに提出して下さい。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 18
	2681	サイトメガロウイルス PP65抗原(C7-HRP) 5F194	EDTA加血液 3	14 室温	直接酵素 抗体法	陰性(—)	356 免疫	2 4	採血後24時間以内に検査 ② 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 血液は採血後すみやかに提出して下さい。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 16
	1657	サイトメガロウイルス DNA 5F194	髄液 1 部分尿 2 血液 5 患部ぬぐい液 組織 50mg	88 必ず凍結 88 凍結 14 凍結不可冷蔵 88 凍結 88 必ず凍結	PCR	陰性(—)	—	3 5	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けて下さい。 専用容器がございましたので、あらかじめお問合せ下さい。(注1) 16
	4023	サイトメガロウイルス 核酸検出(新生児尿) 5F194	尿 0.2	27 -20℃以下凍結	等温核酸 増幅法	検出せず	801 微生物	3 9	生年月日を明記して下さい。 生後3週間以内の新生児尿を採取して下さい。反応阻害因子の影響をできる限り避けるため、採尿の際は、便の混入に注意して行って下さい。必ず専用検体としてご提出下さい。 ③
	2235	水痘・帯状ヘルペス ウイルス抗原 5F193	塗抹標本 2枚	87 必ず凍結	FA	陰性(—)	227 免疫	2 4	専用容器をあらかじめご依頼下さい。 検体採取については136ページの図をご参照下さい。 16
	1649	ロタウイルス抗原 5F610	糞便 1g	29 凍結	イムノクロマト法	陰性(—)	65 免疫	2 3	培地入容器は使用不可。 ④
	3324	ノロウイルス抗原 (NV抗原) 5F630	糞便 1.0g	29 凍結	EIA	陰性(—)	—	2 5	培地入容器は使用不可。 18
	3225	ノロウイルス(SRSV) -RNAマルチ 5F630	糞便	86 必ず凍結	リアルタイム RT-PCR	陰性(—)	—	3 7	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 採取容器に同封の採便方法に従い検体をご提出下さい。 検査対象項目のノロウイルスGI、GII、ロタウイルスA群、C群、アデノウイルス40/41型、アストロウイルスについて、個々の検査結果をご報告致します。 18

- (注1) 患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツ (容器番号：88) に入れ、そのまま凍結保存して下さい。
(PBSまたは生理食塩水は予め医療機関にてご用意下さい。)
- ① 単純ヘルペス抗原定性は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
- ② サイトメガロウイルスpp65抗原定性は、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ③ (1) サイトメガロウイルス核酸検出は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として等温核酸増幅法により測定した場合に、1回に限り算定できる。
(2) 先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、サイトメガロウイルス核酸検出とウイルス抗体価(定性・半定量・定量)におけるサイトメガロウイルス又はグロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- ④ ロタウイルス抗原定性(糞便)又は定量(糞便)とアデノウイルス抗原定性(糞便)を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

14	内分泌学用容器	27	滅菌スピッツ管	29	採便容器	56	HSV抗原容器	57	PCR専用容器	86	ノロウイルスRNA用容器	87	VZV抗原用容器	88	HSV-DNA CMV-DNA用容器
															

ウイルス学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
ウイルス 抗原の 検出	3298	HPV-DNA ハイリスクグループ 5F101	患部ぬぐい液	70	室温	ハイブリット キャプチャー法	陰性(ー)	347	2 3 4	測定対象は16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 68型です。 ただし型別の判定ではありません。 ① ② 02
	3783	HPV-DNA 簡易ジェノタイプ判定 5F101	子宮頸部擦過細胞	78 または 92	室温	リアルタイム PCR	16型：陰性 18型：陰性 その他ハイリスクグループ：陰性	微生物	3 3 5	(注1) ① ② 02
	2926	HPV-DNA型判定 (ハイリスク13種) 5F101	子宮頸部擦過細胞	78 または 92	室温	PCR-rSSO	検出せず	2000 微生物	5 3 7	検出可能な型は、16,18,31,33,35,39,45,51, 52,56,58,59,68型です。 本検査方法ではコンタミネーションの影響が より大きくなりますので、検体採取にあたって は取り扱いに十分ご注意ください。他項目との 重複依頼は避けて下さい。 ③ 02
	5777	HPV E6/E7 mRNA 同定 5F101	子宮頸部擦過細胞	78	室温	TMA	検出せず	347 微生物	4 3 7	測定対象は16,18,31,33,35,39,45,51, 52,56,58,59,66,68型です。 ただし型別の判定ではありません。 ① ②

(注1) 測定対象は16型,18型,その他ハイリスクグループ (31,33,35,39,45,51,52,56,58,59,68型および66型) です。「その他ハイリスクグループ」については、型別の判定ではありません。必ず専用容器で採取してご提出下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。検体に血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。

① HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届けた保険医療機関において、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

② HPV核酸検出とHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

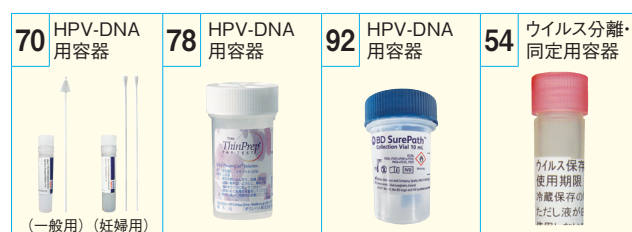
③ HPVジェノタイプ判定は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。当該検査は、HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれかに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

●ウイルス分離[コードNo：1651]・ウイルス同定[コードNo：1652]

分離可能ウイルス		主 要 検 体			保存条件	同定可能な型	実施料 判断料	所要 日数	備 考
ウ イ ル ス 分 離 ・ 同 定	サイトメガロ(CMV)	咽頭 ぬぐい液	尿		凍結不可 冷蔵		—	14 55	主要検体の内訳 ■：主として用いられる検体 ■：必要に応じて用いられる検体 専用依頼書あり 検査方法 組織培養 ：HeLa（ヒト子宮頸癌細胞） Hep-2（ヒト喉頭癌細胞） HEL（ヒト胎児肺細胞） MDCK（イヌ腎細胞） Vero（ミドリザル腎細胞） RD18S（ヒト横紋筋腫細胞） B95a（マーモセットリンパ球由来細胞） A549（ヒト肺癌細胞） LLC-MK2（アカゲザル腎細胞） 同定方法 蛍光抗体法、中和試験等。 水疱液の採取に際しては、予め滅菌生理食塩水にて皮膚を洗浄して下さい（アルコール消毒は不可）。 ウイルス分離検査・同定検査は、同時にご依頼して下さい。 ウイルスが分離された場合のみ同定検査を実施致します。 ウイルス「分離」および「同定」は個別に検査料金を申し受けます。
	水痘・帯状ヘルペス	水疱							
	単純ヘルペス	咽頭 ぬぐい液	水疱	陰部 ぬぐい液	-70℃以下 凍結	1, 2型			
	アデノ	咽頭 ぬぐい液	糞便	尿		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 11, 37型			
	インフルエンザ	咽頭 ぬぐい液				A/H1, A/H3, B型			
	パラインフルエンザ	咽頭 ぬぐい液	喀痰			1, 2, 3, 4型			
	コクサッキーA群	髄液	咽頭 ぬぐい液	糞便		7, 9, 16, 24型			
	コクサッキーB群	髄液	咽頭 ぬぐい液	糞便		1, 2, 3, 4, 5, 6型			
	エコー	髄液	咽頭 ぬぐい液	糞便		1, 3, 4, 6, 7, 9, 11, 13, 14, 16, 22, 25, 30型			
	エンテロ	髄液	咽頭 ぬぐい液	糞便		71型			
	麻疹	咽頭 ぬぐい液							

〔依頼書〕ご依頼に際しては、専用依頼書を用意しておりますのでご使用下さい。

- 検体は、発症後速やかに（一般的に4日以内）無菌的に採取・保存して下さい。細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合がありますので、ご注意下さい。
 - ①各種ぬぐい液および水疱：滅菌済みのプラスチック製綿棒にて採取。ウイルス保存液入りバイアルびんに綿棒を入れてよく攪拌後、綿棒を容器上部で折り、密栓して下さい。
木製綿棒の使用は避けて下さい。
木製綿棒を使用した場合は、綿棒を抜いて密栓して下さい。
 - ②糞便：小指頭大の半分（0.5g）をウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
 - ③髄液：1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
 - ④喀痰・尿：1mLをウイルス保存液入りバイアルびんに入れて密栓して下さい。
- 凍結は-70℃とし、-20℃では保存しないで下さい。
- サイトメガロ、水痘・帯状ヘルペスは、凍結により活性が低下するため、冷蔵で保存して下さい。他のウイルスと同時に依頼される場合は、2本に分けて（1本冷蔵、1本凍結）提出して下さい。
- ウイルス保存液（ゲンタマイシン加0.5%BSA含有ブイヨン）入りバイアルびんは、当社にて準備致しますので、担当者にお申し付け下さい。（容器番号54）
- 麻疹ウイルスの分離をご依頼される場合は、事前にご連絡下さい。

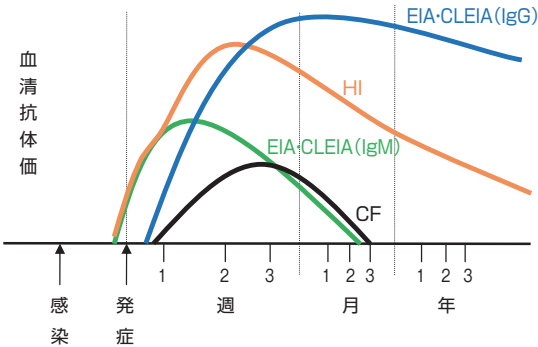


ウイルス抗体検査について

〔主な検査方法の特徴〕

検査法	測定原理	特 徴
CF (補体結合反応) Complement Fixation Test	補体が抗原抗体複合体と結合することによって溶血反応を引き起こすことを利用した方法	・簡便である ・比較的早期に抗体が消失する ・型特異性が低い
HI (赤血球凝集抑制試験) Hemagglutination Inhibition Test	ウイルスのもつ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体によって抑制されることを利用した方法	・早期に抗体価が上昇し、持続する ・型特異性がある
NT (中和試験) Neutralization Test	ウイルスが抗体との反応により、感染力が失われる (中和) ことを利用した方法	・ウイルス特異性および型特異性が高い ・検査に時間を要する
EIA (酵素免疫測定法) Enzyme Immunoassay	検体中のウイルス抗体を抗原と結合させ、さらに酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法	・グロブリンクラス別の測定が可能 ・IgM、IgG抗体を測定することにより初感染または既往感染の推定ができる

ウイルス抗体価の推移



〔ウイルス抗体価測定の意義〕

抗 体	特 徴
IgM	感染後、早期に産生され2〜3ヶ月程度で消失する
IgG	感染後IgMに遅れて出現し、長期間持続的に検出される

〔目的別ウイルス抗体検査の目安〕

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
風疹 (Rubella)	EIA (IgM、IgG)、HI、LA	EIA (IgG)、HI、LA	EIA (IgG)、HI、LA
麻疹 (Measles) (はしか)	EIA (IgM、IgG)、NT	EIA (IgG)、NT	EIA (IgG)、NT
ムンプス (Mumps) (おたふく・流行性耳下腺炎)	EIA (IgM、IgG)、HI、CF、NT	EIA (IgG)、NT	EIA (IgG)
水痘・帯状 (Varicella-Zoster) (水疱瘡・帯状疱疹)	EIA (IgM、IgG)、CF	EIA (IgG)	EIA (IgG)
インフルエンザ (Influenza)	HI、CF		HI

※上表は、あくまで検査方法選択の目安です。
一般に自然感染の判定は、急性期 (発病後2〜7日) と回復期 (発病後2〜3週間) に採取した検体 (ベア血清) を測定し、回復期の抗体価が急性期の結果の4倍以上上昇した時、血清学的に有意とされています。
ワクチン接種の効果判定及び既往の有無の判定には、通常CF法は適していません。

●肝炎ウイルス 専用容器 (57) による検体提出方法

- ホルダーに採血針をつけ、PCR専用真空採血管 (57) を用いて採血して下さい。
- 4〜5回、静かに転倒混和し、室温で30〜60分静置して下さい。
- 凝固完了を確認後、遠心分離して下さい。
- 栓を開けずに速やかに凍結保存して下さい。
検体中へのヘパリンの混入はPCRの反応系に影響を及ぼしますので、遠析患者さんでPCR検査をご依頼の際はヘパリン投与施行中の採血は避け下さい。

《注意》

- ・コンタミネーション防止のため、栓は開けないで下さい。
- ・PCR専用として用い、他の検査のための分注は避けて下さい。
- ・必ず遠心分離した後に凍結して下さい。
- ・遠心分離後、血清分離剤の上に赤血球成分の残存が認められた場合、血清の上澄部分だけを別の専用採血管に無菌的に移し替え、必ず凍結してご提出下さい。

●肝炎ウイルスマーカー選択基準

	急性型別肝炎診断	B型急性肝炎 経過観察 治療判定	C型急性肝炎 経過観察 治療判定	慢性型別肝炎診断	B型慢性肝炎 経過観察 急性増悪時 抗ウイルス療法時	B型経無症候性キャリア診断	C型慢性肝炎 経過観察 抗ウイルス療法時	H対Bワクチン接種別	集検・ドックなど	入のスクリーニング
HA-IgM抗体	●									
HBs抗原	●	●		●	○	○			●	●
HBs抗体		●							●	○
HBc抗体									○	○
HBc-IgM抗体	●				●					
HBe抗原		○			●	●	●			
HBe抗体		○			●	●	●			
HBV DNA		●	○		●	●	●			
HCV抗体	●		○	●	○					●
HCV RNA	○		○	●				○	●	
HCVコア抗原	○		○	○				○	●	

●必須、○必要に応じて行う

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
肝炎ウイルス関連検査	1623	HA抗体 5F350	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		CLIA	S/CO 陰性(ー) 1.0未満	146 免疫	2 ↓ 3	①
	1624	HA-IgM抗体 5F350	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		CLIA	S/CO 陰性(ー) 0.8未満	146 免疫	2 ↓ 3	① 判定保留0.8以上～1.2未満
	228	HBs抗原 5F016	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		RPHA	8倍未満	29 免疫	1 ↓ 2	②
	279		血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	IU/mL 陰性(ー) 0.05未満	88 免疫	2 ↓ 3	②
	229	HBs抗体 5F016	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		PHA	8倍未満	32 免疫	2 ↓ 3	②
	280		血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	mIU/mL 陰性(ー) 10.0未満	88 免疫	2 ↓ 3	②
	281	HBe抗原 5F019	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	S/CO 陰性(ー) 1.0未満	98 免疫	2 ↓ 3	
	282	HBe抗体 5F019	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	Inh % 陰性(ー) 50.0未満	98 免疫	2 ↓ 3	
	283	HBe抗体 5F018	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	S/CO 陰性(ー) 1.0未満	130 免疫	2 ↓ 3	② ③
	285	HBe-IgM抗体 5F018	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		CLIA	S/CO 陰性(ー) 1.0未満	146 免疫	2 ↓ 3	③
	2850	HBVゲノタイプ 5F015	血液 2 ↓ 血清 0.6 冷蔵	01		EIA		340 免疫	3 ↓ 5	HBs抗原量の少ない検体は、判定保留となる場合があります。 ④ 16
	2611	HBV-DNA (定量) 5F015	血液 5 必ず遠心後 57 凍結 「開栓不可」			リアルタイム PCR	LogIU/mL 検出せず	256 微生物	3 ↓ 5	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 検体採取および検体提出方法は65 ページの図をご参照下さい。 (注1) ⑤ ⑥
	4123	高感度HBc関連抗原定量 (高感度HBVコア関連抗原: HBcrAg) 5F018	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLEIA	LogU/mL 2.1未満	252 免疫	2 ↓ 4	⑥ 18

(注1) 測定値下限 (1.0LogIU/mL) 未満であっても反応シグナルが検出される場合があり、その場合はHBV-DNAを検出したものとして「1.0>」として報告させていただきます。
※肝炎ウイルスマーカー選択基準については65ページ参照。

- HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
- 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前にHBs抗原、HBs抗体及びHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。
- HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
- HBVゲノタイプ判定は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
- HBV核酸定量は、B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。
- HBVコア関連抗原(HBcrAg)は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原(HBcrAg)を測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。



ウイルス学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
肝炎ウイルス関連検査	1959	HCV抗体 5F360	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	カットオフインデックス 陰性(ー) 0.8未満	102 免疫	1 ↓ 2	④判定保留0.8以上～1.0未満
	2099	HCVコア蛋白 5F360	血液 3 ↓ 血清 1	01	冷蔵	CLIA	fmol/L 3.0未満	102 免疫	2 ↓ 3	
	2392	HCV群別測定 5F360	血液 2 ↓ 血清 0.6	01	冷蔵	CLEIA	検出せず	215 免疫	2 ↓ 4	検出抗体からHCVグループを鑑別してご報告いたします。 判定基準については下表参照。 ①
	2592	HCV-RNA定量 5F360	血液 5	57	必ず遠心後凍結 [開栓不可]	リアルタイムPCR	LogIU/mL 検出せず	412 微生物	3 ↓ 5	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 検体提出方法は65ページの図をご参照下さい。 (注1) ②
	2457	HCV-RNAサブタイプ (ジェノタイプ) 5F360	血液 5	57	必ず遠心後凍結 [開栓不可]	リアルタイムRT-PCR	型 検出せず	—	3 ↓ 10	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 検体提出方法は65ページの図をご参照下さい。 ①
	2683	HCVモニターゲノタイプ 5F360	血液 5	57	必ず遠心後凍結 [開栓不可]	リアルタイムRT-PCR + ダイレクトシーケンス	LogIU/mL 定量：検出せず ゲノタイプ：検出せず	—	6 ↓ 8	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 検体提出方法は65ページの図をご参照下さい。 ①
	3752	HEV抗体 IgA 5F370	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	EIA	陰性(ー)	210 免疫	3 ↓ 10	

(注1) 測定値下限(1.2LogIU/mL)未満であっても反応シグナルが検出される場合があります、その場合はHCV-RNAを検出したものとして「1.2>」として報告させていただきます。
① HCV血清群別判定は、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
② HCV核酸定量は、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。

HCV群別(判定基準)

判定保留	どちらのグループも陽性で抗体価の比較が2倍以上と ならない場合で、どちらのグループか判定できない場合
検出せず	どちらのグループの抗体も陰性の場合

01 汎用容器
(分離剤入り)

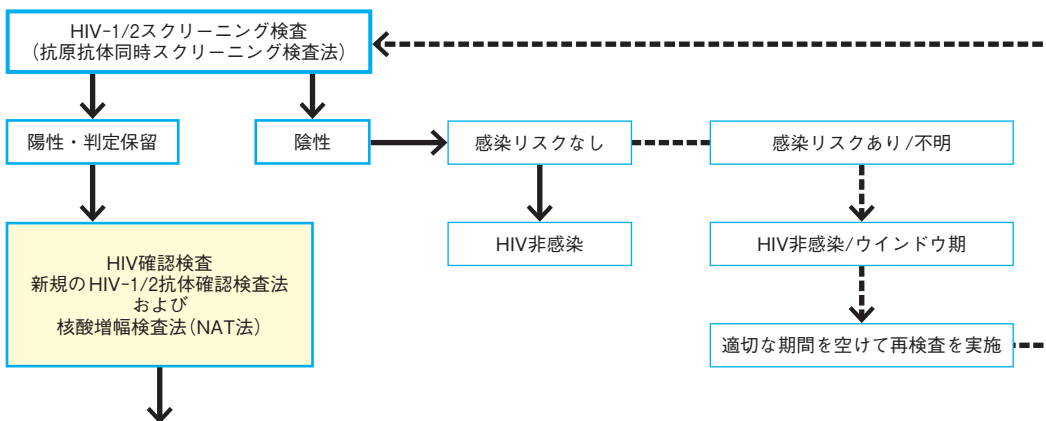
02 分離用容器

57 PCR専用容器

91 リアルタイムPCR
(DNA)用容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
レトロウイルス	2304	HIV-抗原・抗体 5F560	血液 3 ↓ 血清 1	01	冷蔵	CLIA	陰性(一)	109 免疫	2 5	[親展報告]
	4115	HIV-1/2抗体確認検査 5F560	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	イムノクロマト法	陰性(一)	660 免疫	4 6	他項目との重複依頼は避けて下さい。 確認検査(イムノクロマト法)をご依頼の際には、改めて採血しご提出下さい。 ①
	2593	HIV-1RNA定量 (リアルタイムPCR) 5F500	血液 5	91	必ず遠心後 凍結 [菌性不可]	リアルタイムPCR	検出せず コピー/mL	520 微生物	4 6	専用容器にて必ず単独でご提出下さい。 専用容器(91)に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出下さい。 ②
	1970	HTLV-I抗体 (ATLA抗体) 5F450	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLIA	陰性(一) S/CO 1.0未満	159 免疫	2 5	
	4035	HTLV-I抗体《確認試験》 (ATLA抗体) 5F450	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラインプロット法	陰性(一)	425 免疫	3 10	③

- ①** HIV-1特異抗体・HIV-2特異抗体は、スクリーニング検査としてのHIV-1,2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性は、HIV-1抗体、HIV-1,2抗体定量又は、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として、全血、血清又は血漿を検体とし、イムノクロマト法により測定した場合に算定する。なお、本検査を実施した場合、本区分のHIV-1抗体(ウエスタンブロット法)及びHIV-2抗体(ウエスタンブロット法)は、別に算定できない。
- ②** HIV-1核酸定量は、HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体又はHIV-1,2抗体定性、同半定量、HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性、同定量、又は、HIV-1,2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合のみ算定する。HIV-1核酸定量とHIV-1抗体(ウエスタンブロット法)を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができる。
- ③** HTLV-I抗体(ウエスタンブロット法及びラインプロット法)は、HTLV-I抗体定性、半定量又はHTLV-I抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として行った場合に算定する。



①HIV-1/2抗体確認検査法			総合判定(可能性含む)	
			②HIV-1核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	検出(定量下限値未満含む) 【陽性】	検出せず 【陰性】
陽性	陽性	HIV感染者	HIV-1及びHIV-2重複感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)・HIV-2感染者
	判定保留	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)
	陰性	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者(低ウイルス量感染または治療中患者)
判定保留	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者及びHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1/2判定保留(2週間後再検査)
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1判定保留(HIV-1抗体偽反応)＜2週間後再検査＞
陰性	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染症及びHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-2判定保留(HIV-1抗体偽反応)＜2週間後再検査＞
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染者	HIV非感染(リスクなし)又はHIV判定保留 ＜2週間後再検査＞(リスクあり)

「診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版」抜粋
(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法)

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症免疫学的検査	451	TPLA 5E075	血液 各2 血清 各0.5 01 冷蔵			LA	陰性(一)	32 免疫	1 2	(透)
	1373	RPR 5E074				LA				
	455	FTA-ABS 5E079				FAT				
	456	TPLA 5E075	血液 各2 血清 各0.5 01 冷蔵			LA	10未満 TU	53 免疫	1 2	(透)
	1393	RPR 5E074				LA	1未満 RU	34 免疫		
	470	FTA-ABS 5E079				FAT	20倍未満	134 免疫		
	328	ASO (ASLO) 5E035	血液 2 血清 0.5 01 冷蔵			ラテックス凝集法	160未満 IU/mL	15 免疫	1 2	

百日咳診断基準（2022）

(A) 1歳未満
臨床診断例：咳があり（期間は限定なし）、かつ以下の特徴的な咳、あるいは症状を1つ以上呈した症例

- ・ 吸気性笛声
- ・ 発作性の連続性の咳嗽
- ・ 咳嗽後の嘔吐
- ・ 無呼吸発作（チアノーゼの有無は問わない）

確定例：

- ・ 臨床診断例の定義を満たし、かつ検査診断陽性
- ・ 臨床診断例の定義を満たし、かつ検査確定例と接触があった例

(B) 1歳以上の患者（成人を含む）
臨床診断例：1週間以上の咳を有し、かつ以下の特徴的な咳、あるいは症状を1つ以上呈した症例

- ・ 吸気性笛声
- ・ 発作性の連続性の咳嗽
- ・ 咳嗽後の嘔吐
- ・ 無呼吸発作（チアノーゼの有無は問わない）

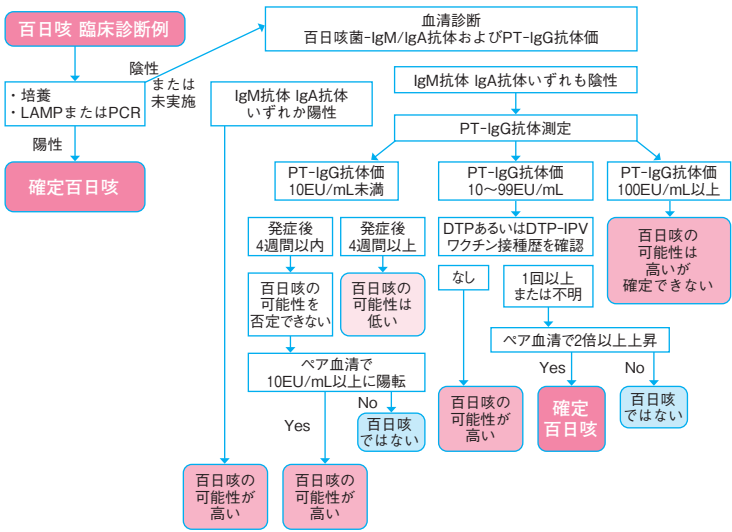
確定例：

- ・ 臨床診断例の定義を満たし、かつ検査診断陽性
- ・ 臨床診断例の定義を満たし、かつ検査確定例と接触があった例

(C) 検査での確定：

- (1) 咳発症後4週間未満は、百日咳菌の分離、あるいは遺伝子検査（LAMP法、PCR法）、あるいは抗原検査（イムノクロマト法）において陽性
- (2) 咳発症後4週間以上は、IgM/IgA抗体検査、あるいはPT-IgG抗体検査

百日咳 臨床診断例での確定フローチャート



(小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2022より引用)

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症免疫学的検査	2918	百日咳菌抗体 5E054	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 EU/mL	257 免疫	3 6	百日咳 臨床診断例での確定フローチャートについては69ページ参照。 18
	2078	百日咳抗体 IgA 5E101	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		EIA	NTU値：8.5未満 陰性(－)	80	2 6	判定基準については下表参照。 18
	2077	百日咳抗体 IgM 5E102	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		EIA	NTU値：8.5未満 陰性(－)	免疫	2 6	判定基準については下表参照。 18
	5942	百日咳菌DNA 6B636	後鼻腔ぬぐい液 96 必ず凍結			LAMP	陰性(－)	360 微生物	2 5	後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブ(容器番号96)で採取し、ご提出下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。 1 18
	206	寒冷凝集反応 5E105	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		HA	64倍未満	11 免疫	3 5	採血後、できるだけ速やかに血清分離して保存して下さい。(血清分離するまで37℃、少なくとも20℃以上の室温で操作) 18
	1701	マイコプラズマ抗体《CF》 5E106	血液 2 ↓ 血清 0.3 又は 髄液 0.4 冷蔵	01 25		CF	血清 4倍 髄液 1倍 (最低希釈倍率)	32	3 5	2 02
	218	マイコプラズマ抗体《PA》 5E106	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		PA	40倍未満	免疫	2 3	2 18
	3154	マイコプラズマ抗原 5E107	咽頭液 27 冷蔵			イムノクロマト法	陰性(－)	148 免疫	1 2	滅菌綿棒で拭い、綿棒を滅菌スピッツ(容器番号27)に入れてご提出下さい。 2 02
	3755	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定 6B616	喀痰 1 または 咽頭・鼻咽頭ぬぐい液 27 －20℃以下凍結			QProbe	検出せず	291 微生物	2 4	必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。咽頭・鼻咽頭ぬぐい液は、滅菌プラスチック軸の綿棒で拭い、綿棒を滅菌スピッツ(容器番号27)に入れてご提出下さい。 02
	3094	尿中レジオネラ抗原 5E056	尿 1 27 冷蔵			イムノクロマト法	陰性(－)	205 免疫	1 2	3 02
	5941	レジオネラ核酸同定 6B611	喀痰 1 27 凍結			LAMP	検出せず	292 微生物	3 9	レジオネラ属11菌種を検査しますが、菌種の同定はできません。必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい) 02
	3099	尿中肺炎球菌荚膜抗原 5E041	尿 1 27 凍結			イムノクロマト法	陰性(－)	188 免疫	1 2	

- ① 百日咳菌核酸検出は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、測定した場合に算定できる。
- ② マイコプラズマ抗原定性(免疫クロマト法)又はマイコプラズマ抗体定性、マイコプラズマ抗体半定量、マイコプラズマ抗原定性(FA法)を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ③ レジオネラ抗原定性(尿)は、症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して、実施した場合に限り1回を限度として算定する。

百日咳抗体IgA・百日咳抗体IgMの判定基準について

判定	NTU値(ノバグスト単位)
(－)	8.5未満
(±)	8.5～11.5
(＋)	11.6 以上

※判定(±)の場合は、2～4週間後に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

01	汎用容器 (分離剤入り)	25	尿一般容器	27	滅菌スピッツ管	96	フロックスワブ

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症免疫学的検査	2386	トキソプラズマIgG抗体 5E156	血液 各2 ↓ 血清 各0.5	01	冷蔵	CLEIA	IU/mL 7.5未満	93 免疫	2 ↓ 3	判定基準については下記参照。
	2388	トキソプラズマIgM抗体 5E157	血液 各2 ↓ 血清 各0.5	01	冷蔵	CLEIA	S/CO 0.8未満	95 免疫	2 ↓ 3	
	4294	アスペルギルスIgG抗体 5E146	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ELISA	AU/mL 陰性(ー) 5.0未満	390 免疫	2 ↓ 4	16
	2691	アスペルギルス抗原 5E148	血液 3 ↓ 血清 0.7	01	冷蔵	EIA	陰性(ー)	157 免疫	2 ↓ 5	
	1312	クリプトコックス・ネオフォルムス抗原 5E140	血液 3 ↓ 血清 0.8	01	冷蔵	ラテックス凝集法	陰性(ー)	169 免疫	2 ↓ 4	18
	3126	カンジダマンナン抗原 5E142	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ELISA	U/mL 0.05未満	134 免疫	2 ↓ 6	
	1704	カンジダ抗体 5E143	血液 3 ↓ 血清 1	01 02	凍結	免疫拡散法	陰性(ー)	—	16 ↓ 18	30
	2843	トリコスポロン・アサヒ抗体 5E154	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	Antigen-captured ELISA	CAI 0.15未満	822 免疫	7 ↓ 14	

- ① アスペルギルスIgG抗体は、慢性進行性肺アスペルギルス症又はアレルギー性気管支肺アスペルギルス症が疑われる患者に対して測定した場合に算定する。なお、本検査は、関連学会の定める指針に従って実施すること。
- ② アスペルギルス抗原は、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。
- ③ (1→3)-β-D-グルカンを、カンジダ抗原定性、同半定量、同定量、D-アラビニトール、アスペルギルス抗原、クリプトコックス抗原半定量又は同定性と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ④ カンジダ抗原定性、同半定量又は同定量は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
- ⑤ 抗トリコスポロン・アサヒ抗体は、夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

トキソプラズマIgG抗体（判定基準）

IU/mL	判定	解 釈
7.5未満	ー	トキソプラズマの感染は認められません。
7.5～10.4	±	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
10.5以上	+	トキソプラズマ感染が考えられます。

トキソプラズマIgM抗体（判定基準）

s/co	判定	解 釈
0.8未満	ー	最近のトキソプラズマ感染のことが考えられます。
0.8～0.9	±	10～20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	+	

トリコスポロン・アサヒ抗体（判定基準）

CAI (Corrected Absorbance Index) *	判定
0.15未満	陰 性
0.15～0.30未満	判定保留
0.30以上	陽 性

※CAI (Corrected Absorbance Index)：補正吸光度

アスペルギルス抗体IgG（判定基準）

AU/mL	判定
5.0未満	陰性
5.0～9.9	判定保留
10以上	陽性

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症免疫学的検査	2321	(1→3)-β-D-グルカン 5E151	血液 2	51	凍結不可 冷蔵 [開栓不可]	発色合成基質法	20以下 pg/mL	195	2 3	検体はエンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取して下さい。 ① ② 02
	1396	エンドトキシン《ES法》 定量 5E048	血液 3	51	凍結不可 冷蔵 [開栓不可]	比濁時間分析法	5.0未満 pg/mL	229	2 3	検体はエンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取して下さい。 ③ 02
	2603	プロカルシトニン (PCT) 5C215	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍結	CLIA	0.05以下 ng/mL	276	1 2	敗血症(細菌性)鑑別診断のカットオフ値: 0.50未満。 敗血症(細菌性)重症度判定のカットオフ値: 2.00以上 ③
	645	ツ Gilliam IgG 5E128	血液 各2 ↓ 血清 各0.2	01 冷蔵	FAT	各 10倍未満	各株 203	3 6	免疫	感染の有無はペア血清で判断して下さい。 ④ 18
	646	ツ IgM 5E129								
	647	ガ Kato IgG 5E125								
	648	ム IgM 5E126								
	649	シ Karp IgG 5E122								
	650	シ Karp IgM 5E123								
	1719	オーム病抗体 5E026	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 冷蔵	CF	血清 4倍 髄液 1倍 (最低希釈倍率)	79	3 5	免疫	02
	1720		髄液 0.4							
	1367	エキノコックス抗体 5E225	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	EIA	陰性(-)	-	4 8		EDTA、ヘパリン等の抗凝固剤は使用不可 19
	2477		血清 0.5							
	2477	ライム病抗体 (ボレリア・ブルドル フェリ抗体) 5E096	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	凍結	ELISA・ イムノブロット法	陰性(Negative)	-	15 22	ELISA法にて陽性または判定保留の場合、イムノブロット法による確認検査を実施致します。 IgG、IgM抗体をご報告致します。 25
	3782	MAC抗体 (抗酸菌抗体定性) 5E069	血液 2 ↓ 血清 0.2	01 冷蔵	EIA	陰性(-) 0.70未満	116	4 6	免疫	18

- (1→3)-β-D-グルカンは、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。
- (1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原定性、カンジダ抗原半定量、カンジダ抗原定量、アスペルギルス抗原、D-アラビニートル、クリプトコックス抗原半定量又はクリプトコックス抗原定性、アスペルギルスIgG抗体(ただし、慢性進行性肺アスペルギルス症と侵襲性肺アスペルギルス症の併存が疑われる患者に対して本検査を実施した場合を除く。)と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- プロカルシトニン(PCT)定量又は同半定量は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。ただし、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ツツガムシ抗体半定量又は同定性は、各株ごとに算定する。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	25	尿一般容器	51	エンドトキシン用

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症免疫学的検査	1390	クラミジア・トラコ マチス抗体IgA&IgG 5E020	血液 2 ↓ 血清 0.6 冷蔵	01		EIA	陰性(一)	200 免疫	2 ~ 4	判定基準については下記参照。 ① 18
	4043	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエ抗体IgG 5E031	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		EIA	陰性(一) 30未満	70 免疫	3 ~ 5	
	4044	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエ抗体IgA 5E032	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		EIA	陰性(一) 8未満	75 免疫	3 ~ 5	判定基準については下記参照。 ② 02
	4045	クラミドフィラ(クラミジア)・ ニューモニエ抗体IgM 5E033	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01		EIA	陰性(一) S/CO 0.5未満	152 免疫	3 ~ 5	

- ① クロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨髄内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ② クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

「クラミジア・トラコマチス抗体IgA&IgG」判定基準

判定	カットオフ・インデックス
陰性(一)	0.90未満
判定保留(±)	0.90以上、1.10未満
陽性(+)	1.10以上

「クラミドフィラニューモニエ抗体 IgG, IgA, IgM」判定基準

判定基準	測定値		
	IgG(EIU)	IgA(EIU)	IgM(S/CO)
陰性(一)	30未満	8未満	0.5未満
判定保留(±)	30~45	8~12	0.5~1.1
陽性(+)	46以上	13以上	1.2以上

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
感染症 免疫学的 検査	297	《ぬぐい液》 クラミジア・ トラコマチス 核酸検出 (クラミジア トラコマチスPCR)	ぬぐい液 (咽頭含) 5E021	A2	室温	リアルタイム PCR	検出せず	188	2 3 微生物	採尿前1時間は排尿しないで下さい。泌尿器、生殖器検体と咽頭検体の同一診療報酬請求はできません。検体採取および注意については、139ページおよび140ページをご参照下さい。 (注1) (注2) (注3) ① ②
	296	《尿》 初尿	4.5	A2	室温					
	2086	《うがい液》 うがい液	2	A2	室温					
	291	《ぬぐい液》 淋菌核酸検出 (淋菌PCR)	ぬぐい液 (咽頭含) 6B610	A2	室温	リアルタイム PCR	検出せず	198	2 3 微生物	採尿前1時間は排尿しないで下さい。泌尿器、生殖器検体と咽頭検体の同一診療報酬請求はできません。検体採取および注意については、139ページおよび140ページをご参照下さい。 (注1) (注2) (注3) ③ ④
	290	《尿》 初尿	4.5	A2	室温					
	2087	《うがい液》 うがい液	2	A2	室温					
	4069	《ぬぐい液》 淋菌/クラミジア・ トラコマチス 同時核酸検出	ぬぐい液 (咽頭含) 6B615	A2	室温	リアルタイム PCR	検出せず	262	2 3 微生物	採尿前1時間は排尿しないで下さい。泌尿器、生殖器検体と咽頭検体の同一診療報酬請求はできません。検体採取および注意については、139ページおよび140ページをご参照下さい。 (注1) (注2) (注3) ⑤ ⑥
	4070	《尿》 初尿	4.5	A2	室温					
	4071	《うがい液》 うがい液	4.5	A2	室温					
	4119	《尿》 トリコモナス・ マイコプラズマ・ ジェニタリウム 同時核酸検出	初尿	4.5	A2	リアルタイム PCR	トリコモナス：検出せず マイコプラズマ・ ジェニタリウム：検出せず	350	2 3 微生物	採尿前1時間は排尿しないで下さい。ぬぐい液検体の採取部位は、膣または子宮頸管です。 ⑦
	4125	《ぬぐい液》 ぬぐい液 (膣または子宮頸管)		A2	室温					
	3769	STDマイコプラズマ 核酸同定	初尿 または ぬぐい液	2.0 55	冷蔵	リアルタイム PCR	M.genitalium：検出せず M.hominis：検出せず U.parvum：検出せず U.urealyticum：検出せず	—	2 3 4	採尿前1時間は排尿しないで下さい。検体採取および注意については、140ページをご参照下さい。 (注4)

(注1) 分泌物、尿：検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

(注2) 男性尿道ぬぐい液：PCR反応阻害物質の影響が稀に認められる場合がありますので、尿検体での検査をお勧めいたします。

(注3) うがい液：検体採取前の食事、うがい、歯磨きなどは避けて下さい。

(注4) 咽頭材料は参考値報告になります。

① クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原性を併用した場合は、主なもののみ算定する。

② クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、ハイブリッドキャプチャー法若しくはTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法若しくは核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に算定できる。

③ 淋菌核酸検出、淋菌抗原性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。

④ 淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による同時検出法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による同時検出法においては咽頭からの検体も算定できる。

⑤ 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、淋菌抗原性、クラミジア・トラコマチス抗原性、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、淋菌核酸検出又はクラミジア・トラコマチス核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

⑥ 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法による。淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む）によるものである。なお、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、SDA法PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。

⑦ 膣トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。

ア 膣トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。

イ 膣トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。



免疫学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
蛋白	1721	プレアルブミン (トランスサイレチン) 5C010	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.3 冷蔵	01		TIA	22~40 mg/dL	101 免疫	2 ↓ 3	02
	1210	尿中アルブミン 3A015	蓄尿 または 1 25 部分尿 冷蔵	25		TIA	1日量 22.0以下 mg/day mg/gクレアチニン クレアチニン補正 13.6以下	99 尿便	2 ↓ 3	1日蓄尿の場合、尿量をご記入いただければ、1日量(mg/day)でご報告いたします。随時尿の場合は、クレアチニン補正にてご報告になります。
	1229	α ₁ マイクログロブリン (α ₁ MG) 5C015	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.5 冷蔵	01		ラテックス凝集法	9.7~19.9 mg/L	129 免疫	2 ↓ 4	18
	1230	α ₁ マイクログロブリン (α ₁ MG) 5C015	尿 1 25 冷蔵	25			M 0.8~14.1 mg/L F 0.5~7.0	129 免疫		
	70	β ₂ マイクログロブリン (β ₂ MG) 5C065	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.5 冷蔵	01		ラテックス凝集法	0.8~1.9 mg/L	98 免疫	2 ↓ 3	(透)
	71	β ₂ マイクログロブリン (β ₂ MG) 5C065	尿 1 25 凍結	25			30~340 μg/L	98 免疫		
	3710	尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 5C100	尿 1 25 凍結	25		ラテックス凝集比濁法	8.4以下 μg/g・Cr	210 尿便	2 ↓ 3	クレアチニン補正值(μg/gCr)及び濃度(ng/mL)をご報告致します。濃度が0.50ng/mL未満の場合は、0.50ng/mLを用いてクレアチニン補正し、未満を付記してご報告致します。2 3 02
	5852	尿中NGAL (好中球セラチナーゼ結合性リボカリン) 5C230	尿 1 25 冷蔵	25		CLIA	30.5以下 ng/mL 21.7以下 μg/g・Cr	210 尿便	2 ↓ 4	(注1) 3 4 02
	112	フェリチン 5C095	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.5 冷蔵	01		CLIA	M 30.0~340.0 ng/mL F 7.0~112.0	102 生I	2 ↓ 3	(透)
	1281	α ₁ アシドグリコプロテイン (α ₁ AG) 5C025	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.3 冷蔵	01		TIA	42~93 mg/dL	—	2 ↓ 5	02
	243	ハプトグロビン (Hp) 5C041	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.3 冷蔵	01		TIA/薄層アクリルアミドゲル電気泳動法	1-1型 43~180 mg/dL 2-1型 38~179 2-2型 15~116	129 免疫	4 ↓ 5	感度以下の場合は型判定が出来ません。 02
	1184	α ₂ マクログロブリン 5C035	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.4 冷蔵	01		ネフェロメトリー法	M 100~200 mg/dL F 130~250	138 血液	2 ↓ 5	02
	1282	α ₁ アンチトリプシン (α ₁ AT) 5C020	血液 2 ↓ 0.1 血清 0.4 冷蔵	01		ネフェロメトリー法	94~150 mg/dL	80 血液	2 ↓ 5	02

① トランスフェリン(尿)、アルブミン定量(尿)及びⅣ型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

② L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

③ 好中球セラチナーゼ結合性リボカリン(NGAL)とL型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

④ 好中球セラチナーゼ結合性リボカリン(NGAL)(尿)は、急性腎障害の診断時又はその治療中に測定した場合に算定できる。ただし、診断時においては1回、その後は急性腎障害に対する一連の治療につき3回を限度として算定する。なお、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(注1) 濃度(ng/mL)およびクレアチニン補正(μg/g・Cr)をご報告致します。
濃度が10.0ng/mL未満の場合は、10.0ng/mLを用いてクレアチニン補正し、未満を付記してご報告致します。
濃度が150000ng/mL以上の場合は、150000を用いてクレアチニン補正し、以上を付記してご報告致します。

01 汎用容器
(分離剤入り)

02 分離用容器

25 尿一般容器

71 尿中ミオグロビン用容器

73 尿中Ⅳ型コラーゲン用容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
蛋白	326	CRP 5C070	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラテックス 免疫凝集 比濁法	(一)	16 免疫	1 2	①
	325		血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵		0.30以下	16 免疫	2	
	1070	アミロイドA蛋白 (SAA) 5C080	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラテックス 凝集比濁法	3.0以下	47 免疫	2 3	①
	1723		血液 2 ↓ 血清 0.4	01	冷蔵		21~37	90 免疫	2 3	02
	1257	トランスフェリン (Tf) 5C060	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	免疫比濁法	190~320	60 免疫	2 4	①
	1438		尿 1	25	凍結不可 冷蔵		1.0以下	98 尿便	2 3	②
	1227	ミオグロビン 5C090	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	CLIA	M 154.9以下 F 106.0以下	131 生I	2 3	02
	1226		尿 6	71	冷蔵		2.0未満	131 生I	2 4	02
	1457	心室筋ミオシン軽鎖I 5C092	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	EIA	2.5以下	184 生I	2 6	③
	2493		血液 2 ↓ 血清 0.5	01	凍結		45.0以下	109 生I	1 2	④
	1378	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P) 5C130	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	IRMA (RIA・固相法)	1.0以下	136 生I	3 6	⑤
	4075		血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵		4.4以下	148 生I	2 4	02
	2355	Ⅳ型コラーゲン 5C134	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラテックス 凝集法	140以下	131 生I	2 4	⑤
	1771		尿 (早朝第一尿) 5	73	冷蔵		30歳代 4.0以下 40歳以上 4.9以下	184 尿便	3 10	②
	4132	M2BPGi定量 (Mac-2結合蛋白糖鎖 修飾異性体) 5C141	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLEIA	0.84未満	194 生I	2 4	⑥ ⑦
										18

- 血清アミロイドA蛋白(SAA)をC反応性蛋白(CRP)定性又はC反応性蛋白(CRP)と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- トランスフェリン(尿)、アルブミン定量(尿)及びⅣ型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
- 心室筋ミオシン軽鎖Iは、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
- 心筋トロポニンIと心筋トロポニンT(TnT)定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、ヒアルロン酸、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
- Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
- Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、Ⅳ型コラーゲン、Ⅳ型コラーゲン・7S又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

免疫学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
蛋白	4065	LRG (ロイシンリッチα2グリコ プロテイン) 5C245	血液 2 ⇕ 血清 0.5 冷蔵	01		ラテックス 凝集比濁法	16.0未満 μg/mL (炎症性腸疾患の活動 期の判定補助におけ る参考基準値)	268 生I	2 3	判定上の留意事項： 感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の 悪性腫瘍においてLRG値が上昇することが ありますのでご注意ください。 健常者参考値：6.48～13.92 μg/mL 02
	2339	好酸球塩基性蛋白 (ECP) 5C180	血液 2.5～3 68 ⇕ 血清 0.2 02 凍結	必ず		FEIA	(成人) 14.9以下 μg/L	—	3 10	血液2.5～3.0mLを専用容器に採血 し、転倒混和を5回繰り返した後、 室温(24～28℃)で60～120分間静 置して下さい。静置後10分間遠心 分離し、血清を(02)(ポリスピッ ツ)にてご提出下さい。なお、静 置時の温度条件により値が大きく 変動する場合がありますので温度 変化にご注意下さい。 18
	2081	免疫グロブリン 遊離L鎖κ/λ比 (フリーライトチェーン) 5A141	血液 3 ⇕ 血清 0.8 冷蔵	01		免疫比濁法	κ型 3.3 ～19.4 mg/L λ型 5.7 ～26.3 κ/λ比 0.26 ～ 1.65	388 免疫	2 3 4	18
	252	免疫電気泳動 (特異抗血清による同定) (M蛋白同定) 5A135	血液 2 ⇕ 血清 0.3 冷蔵	01		IFE (免疫固定電気 泳動法)		218 免疫	6 3 10	3 ★特異抗血清による同定： IgG,IgA,IgM,κ 鎖,λ 鎖の特異抗 血清を用いて検査を実施いたし ます。 18
	312	ベンス・ジョーンズ蛋白同定 5A145	尿 5 25 冷蔵	25		IFE (免疫固定電気 泳動法)		201 免疫	6 3 10	18
	311	クリオグロブリン 5A160	血液 2 ⇕ 血清 0.3 冷蔵	01		ゲル内拡散法	(—)	42 免疫	4 3 5	採血から血清分離までの間は37℃ の状態で行って下さい。 血清分離の際は冷却遠心を避けて 下さい。 02

- ①
- ロイシンリッチα2グリコプロテインは、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要
性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- ②
- ロイシンリッチα2グリコプロテインと、カルプロテクチン（糞便）又は大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるものののみ算定する。
- ③
- 免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）については、同一検体につき1回に限り算定する。
同一検体について免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
免疫電気泳動法（特異抗血清）は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
免疫グロブリン	235	IgG 5A010	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	870~1700 mg/dL	38 免疫	2 ↓ 3	①
	234	IgA 5A015	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	110~410 mg/dL	38 免疫	2 ↓ 3	①
	236	IgM 5A020	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	M 33~190 F 46~260 mg/dL	38 免疫	2 ↓ 3	①
	3329	IgG ₂ 5A056	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	免疫比濁法	239~838 mg/dL	239 免疫	2 ↓ 6	②
	2654	IgG ₄ 5A058	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	ラテックス 免疫比濁法	11~121 mg/dL	377 免疫	2 ↓ 4	②
	3313	オリゴクローナルバンド 5A150	血液 2 ↓ 血清 0.4 および 髄液 0.4	01 27	冷蔵	等電点電気 泳動法	陰性：バンド数0~1 本	522 尿便	6 ↓ 9	③
補体	227	血清補体価 (CH ₅₀) 5B010	血液 2 ↓ 血清 0.5	01 02	必ず 凍結	リポゾーム 免疫測定法	30~50 U/mL	38 免疫	2 ↓ 3	① 採血後、速やかに遠心分離し、血清を直ちに凍結(−20℃以下)して下さい。 同時に他の項目の検査がある場合は、 血清補体価は単独でご提出下さい。
	249	C3 5B023	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	65~135 mg/dL	70 免疫	2 ↓ 3	①
	250	C4 5B024	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	TIA	13~35 mg/dL	70 免疫	2 ↓ 3	①
	330	C1q 5B040	血液 2 ↓ 血清 0.4	01 02	凍結	ネフェロメトリー法	8.8~15.3 mg/dL	—	2 ↓ 8	①
	2300	C1インアクチベーター 活性 5B045	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.2	15 02	必ず 凍結	発色性合成 基質法	70~130 %	253 免疫	2 ↓ 4	① 採血後、速やかに血漿分離して下さい。

- ① 免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。
 ② IgG₂は、原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。
 ③ IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	15	凝固検査用容器	25	尿一般容器	27	滅菌スピッツ管	68	ECP用容器

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
免疫グロブリン	1729	総IgE (非特異的IgE) 5A090	血液 2 ↓ 血清 0.2	01	冷蔵	CLEIA	IU/mL 170以下	100 免疫	2 ↓ 3	
		IgE (特異的IgE) 5A100	血液 各2 ↓ 血清 各0.2	01	冷蔵	CLEIA FEIA	IU _A /mL 0.10未満 U _A /mL 0.35未満	110 免疫	2 ↓ 4	各種アレルゲンについては80ページ参照。 判定基準については下表参照。 ①
	2053	特異的IgE Ara h 2 (ピーナッツ由来) 5A100	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	FEIA	U _A /mL 陰性(ー) 0.35未満	110 免疫	2 ↓ 4	特異的IgEピーナッツの陽性者が対象です。判定基準については下表参照。 ① 18
	201	アトピー鑑別試験 (特異的吸入性アレルゲン) (IgEファディアトープ) 5A100	血液 2 ↓ 血清 0.3	01	冷蔵	FEIA	陰性(ー)	194 免疫	2 ↓ 4	アレルゲン構成については下表参照。 02
	1951	TARC (Th2ケモカイン) 5J228	血液 2 ↓ 血清 0.4	01 02	凍結	CLEIA	pg/mL 小児(6〜12ヶ月) : 1367未満 小児(1〜2歳) : 998未満 小児(2歳以上) : 743未満 成人 : 450未満	179 免疫	2 ↓ 4	血漿はデータ低下が見られますので避けて下さい。 トロンビン入りの採血管は測定値に影響を与える可能性があるため使用しないで下さい。 ②
	339	特異的IgE MAST 36 5A100	血液 2 ↓ 血清 0.5	01	冷蔵	CLEIA	ルミカウント(LC) クラス0 1.39以下	1430 免疫	4 ↓ 6	アレルゲン構成と判定基準については下表参照。 ① 02
	2060	Viewアレルギー39 5A100	血液 3 ↓ 血清 0.9	01	冷蔵	FEIA	Index クラス0 0.27未満	1430 免疫	3 ↓ 4	アレルゲン構成と判定基準は下表参照。 ① 02

- ① 特異的IgE半定量・定量は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1,430点を限度として加算する。
- ② TARCは、以下のいずれかの場合に算定できる。
・アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。
・COVID-19と診断された患者（呼吸不全管理を要する中等症以上の患者を除く。）の重症化リスクの判定補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合は、一連の治療に付き1回を限度として算定できる。

IgE (特異的) 判定基準					
判定	クラス	CLEIA (IU _A /mL)	判定	クラス	FEIA (U _A /mL)
陰性	0	0.10未満	陰性	0	陰性:0.35未満
微弱陽性		0.10〜0.34			
弱陽性	1	0.35〜0.69	陽性	1	0.35〜0.69
陽性	2	0.70〜3.49		2	0.70〜3.49
	3	3.50〜17.4		3	3.50〜17.4
	4	17.5〜52.4		4	17.5〜49.9
	5	52.5〜99.9		5	50.0〜99.9
	6	100以上		6	100以上

「IgE MAST 36」構成アレルゲン (各36項目について個々のデータをご報告致します。)	
イネ科植物花粉	オオアワガエリ、カモガヤ
雑草花粉	ブタクサ混合物1、ヨモギ
樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ
室内塵、ダニ	コナヒョウヒダニ、ハウスダスト1
真菌類 (カビ)	カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス
動物上皮	ネコ皮膚屑、イヌ皮膚屑
食餌系	小麦、大豆、米、マグロ、サケ、エビ、カニ、ミルク、牛肉、鶏肉、豚肉、卵白、ソバ、ピーナッツ、キウイ、バナナ、トマト、モモ、ゴマ、オボムコイド
その他	ラテックス

「IgE MAST 36」判定基準		
判定	クラス	ルミカウント (LC)
陰性	0	0〜1.39
疑陽性	1	1.40〜2.77
陽性	2	2.78〜13.4
	3	13.5〜58.0
	4	58.1〜119
	5	120〜159
	6	160〜200

「IgE Ara h 2 (ピーナッツ由来)」判定基準	
判定	特異的IgE抗体値 (U _A /mL)
陰性	0.35未満
疑陽性	0.35〜3.99
陽性	4.00以上

アトピー鑑別試験 (IgEファディアトープ) 混合アレルゲンの構成 (個々のアレルゲンのご報告はありません)	
ファディアトープ	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコフケ、イヌフケ、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ、スギ、カンジダ、アルテルナリア

「IgE View アレルギー39」構成アレルゲン (各39項目について個々のデータをご報告致します。)	
イネ科植物花粉	カモガヤ、オオアワガエリ
雑草花粉	ブタクサ、ヨモギ
樹木花粉	スギ、ヒノキ、ハンノキ (属)、シラカンバ (属)
室内塵、ダニ	ハウスダスト1、ヤケヒョウヒダニ
真菌類 (カビ)	カンジダ、アルテルナリア、アスペルギルス、マラセチア (属)
動物上皮	ネコ (フケ)、イヌ (フケ)
食餌系	小麦 (実)、大豆、米、マグロ、サケ、サバ、エビ、カニ、牛乳、牛肉、豚肉、鶏肉、卵白、ソバ、ピーナッツ、リンゴ、バナナ、キウイ、ゴマ、オボムコイド
昆虫	ゴキブリ、ガ
その他	ラテックス

「IgE View アレルギー 39」判定基準		
判定	クラス	index値
陰性	0	0.27未満
疑陽性	1	0.27〜0.49
陽性	2	0.50〜1.79
	3	1.80〜7.04
	4	7.05〜17.34
	5	17.35〜29.30
	6	29.31以上

特異的IgEアレルギー一覧

イネ科植物花粉	動物	ダニ	食品		
1801 ハルガヤ (g 1)	1852 ネコ(フケ) (e 1)	1866 ヤケヒョウヒダニ (ダニ1) (d 1)	1876 卵白 (f 1)	1900 ゴマ (f 10)	1795 メロン (f 87)
1802 ギョウギンバ (g 2)	1854 ウマ(フケ) (e 3)	1867 コナヒョウヒダニ (ダニ2) (d 2)	1877 牛乳 (f 2)	1885 ソバ (f 11)	1948 マンゴ (f 91)
1803 カモガヤ (g 3)	1855 ウシ(フケ) (e 4)	1797 アシブトコナダニ (d 70)	1921 卵黄 (f 75)	1892 アーモンド (f 20)	1493 パナナ (f 92)
1804 ヒロハウシツケサ (g 4)	1856 イヌ(フケ) (e 5)	1798 サヤアシニクダニ (d 71)	1913 α-ラクトアルブミン (f 76)	1949 ビール酵母 (f 45)	1997 洋ナシ (f 94)
1805 ホソムギ (g 5)	1857 モルモット(上皮) (e 6)	1799 ケナゴコナダニ (d 72)	1914 β-ラクトグロブリン (f 77)	1786 マスタード (f 89)	2004 モモ (f 95)
1806 オオアワガエリ (g 6)	1916 ガチョウ(羽毛)* (e 70)	1800 イエニクダニ (d 73)	1794 カゼイン (f 78)	1773 カカオ (f 93)	2021 アボカド (f 96)
1807 アシ (g 7)	2842 マウス上皮 (e 71)	室内塵	1946 グルテン (f 79)	1500 ベカンナッツ (f 201)	1495 グレープフルニツ (f 209)
1808 ナガハグサ (g 8)	1934 ラット上皮 (e 73)	1868 ハウスダスト1 (lh 1)	1796 チーズ (f 81)	2052 カシューナッツ* (f 202)	1893 カニ (f 23)
1809 コヌカグサ(属) (g 9)	1935 ラット血清蛋白 (e 75)	2033 ハウスダスト6 (lh 6)	1775 モールドチーズ* (f 82)	2048 クルミ (f 256)	1894 エビ (f 24)
1812 セイバンモロコシ (g 10)	1938 セキセイインコのふん* (e 77)	真菌(カビ)/細菌	2041 オボムコイド (f 233)	2056 Jug r1* (グルミ由来) (f 441)	1902 ムササキガイ (f 37)
1816 コムギ(属)(カフン) (g 15)	1939 セキセイインコ(羽毛) (e 78)	1870 ペニシリウム (m 1)	2050 ω-5グリジン* (f 416)	2057 Ana o3* (カシューナッツ由来) (f 443)	2009 イカ (f 58)
1817 オオスズメフツボウ (g 16)	1941 ヤギ(上皮) (e 80)	1871 クラドスポリウム (m 2)	1879 コムギ (f 4)	1895 トマト (f 25)	2010 タコ (f 59)
1813 スズメノヒエ(属) (g 17)	1911 ヒツジ(上皮) (e 81)	1872 アスペルギルス (m 3)	1810 ライムギ (f 5)	1896 ニンジン (f 31)	1973 ロブスター (f 80)
	1942 家兎(上皮) (e 82)	1873 ムコール (m 4)	1881 オオムギ (f 6)	1898 ジャガイモ (f 35)	2045 アサリ (f 207)
雑草花粉	1909 ブタ(上皮) (e 83)	1874 カンジダ (m 5)	1882 オートムギ (f 7)	1906 ニンニク (f 47)	2044 牡蠣(カキ) (f 290)
1818 ブタクサ (w 1)	1943 ハムスター(上皮) (e 84)	1875 アルテルナリア (m 6)	1883 トウモロコシ (f 8)	1907 玉ネギ (f 48)	2046 ホタテ (f 338)
1819 ブタクサモドキ (w 2)	1910 ニワトリ(羽毛)* (e 85)	1923 ヘルミントスポリウム (m 8)	1884 米 (f 9)	2015 タケノコ (f 51)	1878 タラ (f 3)
1820 オオブタクサ (w 3)	1912 アヒル(羽毛) (e 86)	1924 フザリウム (m 9)	1888 大豆 (f 14)	2014 サツマイモ (f 54)	1899 マグロ (f 40)
1821 ニセブタクサ (w 4)	1944 ラット (e 87)	1925 ステムフィリウム (m 10)	2013 キビ* (f 55)	1985 セロリ (f 85)	1904 サケ (f 41)
1822 ニガヨモギ (w 5)	1945 マウス (e 88)	1926 リゾプス (m 11)	2011 アワ* (f 56)	1785 パセリ (f 86)	2002 サバ (f 50)
1823 ヨモギ (w 6)	職業性アレルギー	1927 オーレオバジウム (m 12)	1947 麦芽 (f 90)	2049 ヤマイモ (f 97)	2003 アジ (f 60)
1824 フランスギク (w 7)	2034 オオバコ種子* (k 72)	1928 フォーマ (m 13)	2054 Gly m 4 (大豆由来)* (f 353)	2024 ホウレンソウ (f 214)	2008 イワシ (f 61)
1825 タンポポ(属) (w 8)	2029 イソシアネートTDI* (k 75)	1929 エビコッカム (m 14)	1886 エンドウ (f 12)	1830 レタス (f 215)	2026 カレイ (f 254)
1826 ヘラオオバコ (w 9)	2030 イソシアネートMDI* (k 76)	1931 カーブラリア (m 16)	1887 ピーナッツ (f 13)	2025 カボチャ (f 225)	2042 イクラ (f 349)
1827 シロザ (w 10)	2031 イソシアネートHDI* (k 77)	2051 マラセチア (m 70)	1889 インゲン (f 15)	2047 スイカ (f 329)	2043 タラコ (f 350)
1829 アキノキリンソウ (w 12)	2027 エチレンオキシド* (k 78)	2039 黄色ブドウ球菌A(SEA) (m 80)	1890 ハシバミ (f 17)	1897 オレンジ (f 33)	1903 豚肉 (f 26)
2062 アオゲイトウ (w 14)	2032 無水フタル酸* (k 79)	2040 黄色ブドウ球菌B(SEB) (m 81)	1891 ブラジルナッツ (f 18)	1905 イチゴ (f 44)	1917 牛肉 (f 27)
1835 ヒメスイバ (w 18)	1936 ホルマリン* (k 80)	2037 トリコフィトン* (m 205)	1901 ココナッツ (f 36)	1983 リンゴ (f 49)	1919 鶏肉 (f 83)
1832 イラクサ(属) (w 20)	2023 ラテックス (k 82)	2058 Asp f1* (アスペルギルス由来) (m 218)		1966 キウイ (f 84)	1989 羊肉 (f 88)
2005 カナムグラ (w 22)	2055 Hev b 6.02 (ラテックス由来)* (k 220)	昆虫	「マルチ・アレルギー」(個々のアレルギーのご報告はありません)		
樹木花粉	薬物	1859 ミツバチ (i 1)	項目名	混合アレルギーの内容	
1836 カエデ(属) (t 1)	1776 ヒトインスリン* (c 73)	2063 スズメバチ(ホウワイト) (i 2)	272 イネ科・マルチ	ハルガヤ、ギョウギンバ、カモガヤ、オオアワガエリ、アシ	
1837 ハンノキ(属) (t 2)	2038 ゼラチン* (c 74)	1860 スズメバチ (i 3)	273 雑草・マルチ	ブタクサ、ヨモギ、フランスギク、タンポポ(属)、アキノキリンソウ	
1838 シラカンバ(属) (t 3)	その他	1861 アシナガバチ (i 4)	276 動物上皮・マルチ	ネコフケ、イヌフケ、モルモット上皮、ラット、マウス	
1840 ブナ(属) (t 5)	2028 綿 (o 1)	2064 スズメバチ(イエロー) (i 5)	277 カビ・マルチ	ペニシリウム、クラドスポリウム、アスペルギルス、カンジダ、アルテルナリア、ヘルミントスポリウム	
1841 ビャクシン(属) (t 6)		1862 ゴキブリ (i 6)	274 食物・マルチ	卵白、牛乳、小麦、ピーナッツ、大豆	
1842 コナラ(属) (t 7)		2001 ガ (i 8)	275 穀物・マルチ	米、小麦、トウモロコシ、ゴマ、ソバ	
1843 ニレ(属) (t 8)		1915 ヤブカ(属)* (i 71)			
1844 オリーブ (t 9)		2006 ユスリカ(成虫) (i 73)			
1845 クルミ(属) (t 10)		寄生虫			
1847 ヤナギ(属) (t 12)		1863 回虫* (p 1)			
1851 マツ(属) (t 16)		2007 アニサキス (p 4)			
1848 スギ (t 17)					
1780 アカシア(属) (t 19)					
2061 ホソイトスギ (t 23)					
1784 クワ(属) (t 70)					
1774 ヒノキ (t 80)					

*項目はFEIA法での実施となります。

＜アレルギー検査依頼書＞



免疫学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
自己免疫関連	241	RF (リウマチ因子定量) 5G160	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		ラテックス凝集法	IU/mL 15.0以下	30 免疫	1 ↓ 2	① ②
	327	RA 5G160	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		ラテックス凝集法	(-)	-	1 ↓ 2	
	2960	CA・RF (抗ガラクトース欠損IgG抗体) 5G166	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		CLEIA	AU/mL 6.0未満	111 免疫	3 ↓ 7	① ② ④ 18
	2412	IgG型 リウマチ因子 5G161	血液 2 ↓ 血清 0.6	01		EIA	(-) インデックス(IgG RF値) 2.0未満	198 免疫	2 ↓ 5	① ④ 18
	2709	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3) 3B503	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02		ラテックス凝集免疫比濁法	ng/mL M 36.9~121.0 F 17.3~59.7	116 免疫	2 ↓ 3	① ④
	3257	抗CCP抗体 (抗シトルリン化) ペプチド抗体 5G167	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		CLIA	U/mL 4.5未満	193 免疫	2 ↓ 4	③ ④
	223	抗核抗体 (ANA) 5G010	血液 2 ↓ 血清 0.5	01		FAT	40倍未満	99 免疫	2 ↓ 3	
	1735	抗DNA抗体 5G520	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		RIA (硫酸塩析法)	IU/mL 6以下	159	2 ↓ 4	02
	1237	IgG 抗dsDNA抗体 5G036	血液 2 ↓ 血清 0.4	01		CLEIA	IU/mL 12.0以下	免疫	2 ↓ 3	
	1238	IgM 抗dsDNA抗体 5G038	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		EIA	U/mL 6未満	-	2 ↓ 8	02
	1676	IgG 抗ssDNA抗体 5G026	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		ELISA	AU/mL 25以下	159 免疫	2 ↓ 4	
	2393	IgM 抗ssDNA抗体 5G028	血液 2 ↓ 血清 0.3	01			U/mL 17未満	-	2 ↓ 15	16
	2227	抗Sm抗体 5G065	血液 2 ↓ 血清 0.4	01		FEIA	判定基準 (-)7.0未満 (±)7.0~10.0以下 (+)10.0を超える U/mL	147 免疫	2 ↓ 4	18

- ① リウマトイド因子(RF)定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、C₁q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。
- ② 抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量とリウマトイド因子(RF)定量を併せて実施した場合は、主たるものののみ算定する。
- ③ 抗シトルリン化ペプチド抗体定性又は同定量は、(1)(2)のいずれかの場合に算定できる。
(1) 関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
(2) (1)とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状、検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
- ④ 抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、C₁q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
自己免疫関連	2228	抗RNP抗体 (抗U1-RNP抗体定量) 5G066	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	FEIA	判定基準 U/mL (-) 3.5未満 (±) 3.5以上～5.0以下 (+) 5.0を超える	144 免疫	2 ～ 4	18
	2229	抗SS-A/Ro抗体 5G076	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	FEIA	判定基準 U/mL (-) 7.0未満 (±) 7.0以上～10.0以下 (+) 10.0を超える	161 免疫	2 ～ 4	18
	2230	抗SS-B/La抗体 5G077	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	FEIA	判定基準 U/mL (-) 7.0未満 (±) 7.0以上～10.0以下 (+) 10.0を超える	157 免疫	2 ～ 4	18
	2226	抗Scl-70抗体 5G085	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	FEIA	判定基準 U/mL (-) 7.0未満 (±) 7.0以上～10.0以下 (+) 10.0を超える	157 免疫	2 ～ 4	18
	2306	抗RNAポリメラーゼ Ⅲ抗体 5G087	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	ELISA	判定基準 Index (-) 28未満 (±) 28～50未満 (+) 50以上	170 免疫	2 ～ 4	16
	1978	抗Jo-1抗体 5G120	血液 2 ↓ 血清 0.4 冷蔵	01	CLEIA	10.0未満	140 免疫	2 ～ 4	02
	5903	抗ARS抗体 5G121	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01	EIA	インデックス 25.0未満	190 免疫	2 ～ 5	18

- ① 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体は、びまん性強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。
また、その際陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、また、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。
- ② 抗Jo-1抗体定性、半定量又は同定量と抗ARS抗体を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。



区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
自己免疫関連	5869	抗MDA5抗体 5G122	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		EIA	インデックス 陰性(ー) 32未満	270 免疫	2 ↓ 5	① 02
	5858	抗Mi-2抗体 5G123	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		EIA	インデックス 陰性(ー) 53未満	270 免疫	2 ↓ 5	① 02
	5863	抗TIF1-γ抗体 5G124	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		EIA	インデックス 陰性(ー) 32未満	270 免疫	2 ↓ 5	① 02
	2469	抗セントロメア抗体 (抗CENP・B抗体) 5G090	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		FEIA	判定基準 U/mL (ー)7.0未満 (±)7.0以上～10.0以下 (+)10.0を超える	174 免疫	2 ↓ 4	② 18
	1664	抗デスモグレイン1抗体 5G396	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		CLEIA	20.0未満 U/mL	300 免疫	2 ↓ 5	不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ③ ④ 18
	1665	抗デスモグレイン3抗体 5G397	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		CLEIA	20.0未満 U/mL	270 免疫	2 ↓ 5	不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ③ ④ 18
	3179	抗BP180抗体 (血清中抗BP180NC16a抗体) 5G398	血液 2 ↓ 血清 0.3	01		CLEIA	9.0未満 U/mL	270 免疫	2 ↓ 5	不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ⑤ 18
	2933	抗GM1 IgG抗体 (抗ガングリオシド抗体 GM1 IgG抗体)	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	ELISA	C.O.I 陰性(ー) 0.70未満	460 免疫	7 ↓ 13	判定基準については下表参照。 ⑥ 18
	2274	抗GQ1b IgG抗体 (抗ガングリオシド抗体 GQ1b IgG抗体)	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 02	凍結	ELISA	C.O.I 陰性(ー) 0.70未満	460 免疫	7 ↓ 13	判定基準については下表参照。 ⑦ 18

- ① 抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体及び抗Mi-2抗体は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において、測定した場合に算定できる。
- ② 抗セントロメア抗体定量又は同定性は、原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。
- ③ 抗デスモグレイン1抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ④ 抗デスモグレイン3抗体は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ⑤ 抗BP180-NC16a抗体は、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。
- ⑥ 抗GM1IgG抗体は、進行性筋力低下又は、深部腱反射低下等のギラン・バレー症候群が疑われる所見が見られる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。
- ⑦ 抗GQ1bIgG抗体は、眼筋麻痺又は小脳性運動失調等のフィッシャー症候群が疑われる場合において、診断時に1回に限り算定でき、経過観察時は算定できない。

抗GM1 IgG抗体・抗GQ1b IgG抗体判定基準

判定	基準範囲
陰性	0.70未満
判定保留	0.70以上～1.00未満
陽性	1.00以上

●抗デスモグレイン1抗体・抗デスモグレイン3抗体の診断基準

血清学的診断	抗デスモグレイン1抗体	抗デスモグレイン3抗体
尋常性天疱瘡（粘膜優位型）	－	＋
尋常性天疱瘡（粘膜皮膚型）	＋	＋
落葉状天疱瘡	＋	－

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
自己 免疫 関連	1754	抗ミトコンドリア抗体 (AMA) 5G175	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 冷蔵	FAT	20倍未満	181 2 3 免疫	検体検査実施料名称 「抗ミトコンドリア抗体半定量」	02	
	1952	抗ミトコンドリア M2抗体 5G176	血液 2 ↓ 血清 0.4 01 冷蔵	CLEIA	陰性(－) 7.0未満 Index	189 2 3 免疫	検体検査実施料名称 「抗ミトコンドリア抗体定量」	02	
	2658	抗LKM-1抗体 5G555	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 冷蔵	EIA	判定基準 (－)17.0未満 (±)17.0以上～50.0未満 (+)50.0以上 Index	215 2 6 免疫	①	18	
	1755	抗平滑筋抗体 5G180	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 冷蔵	FAT	20倍未満	－ 2 3		02	
	1743	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体) 5G185	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 冷蔵	FAT	10倍未満	－ 4 6		18	
	1744	抗内因子抗体 5G190	血液 3 ↓ 血清 0.8 01 凍結	CLEIA	陰性(－)	－ 2 5	ビタミンB ₁₂ 摂取後、1週間以内の 検体は偽陽性を呈する可能性が ありますので、検査のご依頼は避 けて下さい。	02	
	1747	抗副腎皮質抗体 5G205	血液 5 ↓ 血清 2 01 冷蔵	FAT	陰性(－)	－ 15 19		30	
	4111	抗カルジオリピン 抗体IgG 5G508	血液 各2 ↓ 血清 各0.5 01 冷蔵	EIA	12.3以下 U/mL	226 2 6 免疫	② ⑥	18	
	4112	抗カルジオリピン 抗体IgM 5G510			20.8以下 U/mL	226 2 6 免疫	② ③ ⑥	18	
	4113	抗β ₂ グリコプロテイン I 抗体IgG 5G515	血液 各2 ↓ 血清 各0.5 01 冷蔵	CLEIA	0.7未満 U/mL	226 2 5 免疫	② ④ ⑥	18	
	4114	抗β ₂ グリコプロテイン I 抗体IgM 5G517			17.5以下 U/mL	226 2 5 免疫	② ⑤ ⑥	18	
	2345	抗カルジオリピン・ β ₂ GP I 複合体抗体 5G504	血液 2 ↓ 血清 0.3 01 凍結	EIA	3.5未満 U/mL	223 2 4 免疫	⑥	02	
	4067	抗リン脂質抗体 (APL)パネル 5G519	血液 2 ↓ 血清 0.6 01 凍結	CLIA	各20.0以下 U/mL	678 3 5 免疫	抗カルジオリピン抗体IgGおよび IgM、抗β ₂ GP I IgGおよびIgM の4種の抗リン脂質抗体をご報告 いたします。 ② ③ ⑦	02	

- ① 抗LKM-1抗体は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に限り算定できる。本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載すること。
- ② 抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β₂グリコプロテイン I IgG抗体及び抗β₂グリコプロテイン I IgM抗体を併せて実施した場合は、主たるものの3つに限り算定する。
- ③ 抗カルジオリピンIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
- ④ 抗β₂グリコプロテイン I IgG抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
- ⑤ 抗β₂グリコプロテイン I IgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。
- ⑥ 抗カルジオリピンβ₂グリコプロテイン I 複合体抗体と抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β₂グリコプロテイン I IgG抗体又は抗β₂グリコプロテイン I IgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
- ⑦ 抗リン脂質抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、抗カルジオリピン抗体および抗カルジオリピンβ₂グリコプロテイン I 複合体抗体の測定を行った場合に、抗カルジオリピン抗体の所定点数3回分を合算した点数3回分を合算した点数を準用して一連の治療につき2回に限り算定できる。



区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
自己免疫関連	2281	PR-3-ANCA (抗好中球細胞質抗体) (C-ANCA) 5G551	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLEIA	3.5未満 U/mL	252 免疫	2 ↓ 4	不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 16
	2282	MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシターゼ抗体) (P-ANCA) 5G552	血液 2 ↓ 血清 0.5 冷蔵	01		CLEIA	3.5未満 U/mL	251 免疫	2 ↓ 4	1 不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい 16
	2968	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体) 5G420	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		CLEIA	3.0未満 U/mL	262 免疫	2 ↓ 4	2 不活化(非動化)検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい 16
	2343	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 5G385	血液 2 ↓ 血清 0.3 凍結	01 02		RIA (抗ヒトIgG法)	判定基準 (-)0.2以下 (±)0.3~0.5 (+)0.6以上 nmol/L	775 免疫	3 ↓ 6	3 4 02
	3732	抗筋特異的 チロシンキナーゼ抗体 (抗MuSK抗体) 5G386	血液 2 ↓ 血清 0.3 冷蔵	01		RIA	0.02未満 nmol/L	1000 免疫	3 ↓ 9	4 16
	3777	抗アクアポリン4抗体 5G821	血液 2 ↓ 血清 0.4 凍結	01 02		EIA	3.0未満 U/mL	1000 免疫	3 ↓ 7	5 18
	1640	精子不動化抗体 5G440	血液 2 ↓ 血清 0.3 凍結	01 02		不動化法 (Isojima法)	(-)	-	5 ↓ 10	判定基準については下表参照。 溶血・乳び検体等では、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。 18
	1752	抗血小板抗体 5G520	血液 2 ↓ 血清 0.5 凍結	01 02		MPHA	(-)	261 免疫	3 ↓ 5	02
	1162	PA-IgG (血小板表面IgG) 5G525	血液 7 遠心不可 冷蔵	52		EIA	30.2以下 ng/10 ⁷ cells	190 免疫	2 ↓ 3	採血後24時間以内に検査 受付曜日 月～金曜日。土曜日及び祝祭日の前日は受付不可。 血小板数3万/μL以下の場合は、2倍量の血液をご提出下さい。(専用採血管2本) 6 02
	3757	HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体) 5G530	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5 凍結	15 02		ラテックス 比濁法	1.0未満 U/mL	390 免疫	2 ↓ 6	採血後、速やかに血漿分離して下さい。血小板第4因子・ヘパリン複合体に対するHIT抗体(IgG・IgM・IgA)を測定しております。なお、検査結果はグロブリンクラス別での報告ではありません。 7 16

- ① 抗好中球細胞質ミエロペルオキシターゼ抗体(MPO-ANCA)は、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
- ② 抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。
- ③ 抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
- ④ 抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。本検査と抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ⑤ 抗アクアポリン4抗体は、視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ⑥ 血小板関連IgG(PA-IgG)は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
- ⑦ 血小板第4因子ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)はヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

精子不動化抗体 (判定基準)	
不動化値	判定
1.40以下	(-)
1.41～1.99	判定保留
2.00～20.00	(+)
20.01以上	強陽性

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
輸血関連 (免疫血液学)検査	462	血液型 ABO式 5H010	血液 2	81	凍結不可 冷蔵	カラム凝集法 試験管法 マイクロプレート法		24 免疫	1 3	他の項目とは別に単独にて、ご提出下さい。
	461	血液型 Rh(D)式 5H020	血液 2	81	凍結不可 冷蔵			24 免疫	1 3	●血液型 ABO式 新生児の場合、おもて試験のみの判定結果をご報告いたします。生後1年程度までは、うら試験において抗体が産生されても非常に弱いため、生後1年以上たってから再検査することをおすすめいたします。
	299	抗グロブリン試験 5H121	血液 2	81	室温	試験管法 (クームス法)	(一)	34 免疫	2 3	検体検査実施料名称 「Coombs試験」 他の項目とは別に単独にて、ご提出下さい。
	300	間接クームス試験 5H122	血液 5	03	室温	カラム凝集法 (クームス法)	(一)	47	2 3	採血後、速やかにご提出下さい。
	301	定量クームス試験 5H020	血液 5	03	室温	試験管法 (クームス法)	1倍未満	免疫	2 3	
	466	不規則抗体 5H180	血液 10	03	室温	カラム凝集法 (クームス法、 酵素法)		159 免疫	2 3	他の項目とは別に単独にて、ご提出下さい。 採血後、速やかにご提出下さい。 ①

① 不規則抗体は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、第2章第10部手術第7款の各区分に掲げる胸部手術、同部第8款の各区分に掲げる心・脈管手術、同部第9款の各区分に掲げる腹部手術又は区分番号「K877」子宮全摘術、「K879」子宮悪性腫瘍手術、「K889」子宮付属器悪性腫瘍手術(両側)、「K898」帝王切開術若しくは「K912」異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。
また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は区分番号「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。
「注6」不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず1月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあっては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。

〔輸血検査に関するお願い〕
輸血検査に関しましては、安全性及び迅速性を考慮し、
TYPE & SCREEN (不規則抗体、血液型 ABO式、血液型 Rh (D)式)を事前に実施していただきますようお願い申し上げます。

01 汎用容器
(分離剤入り)



02 分離用容器



03 汎用容器
(分離剤なし)



15 凝固検査用容器



52 PA-IgG用



81 血液型用容器



血液学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
血球 計 数	501	白血球数 (WBC) 2A010	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	半導体レーザーを用いた フローサイトメトリ法	3.5～9.3 千/ μ L	21	血液	1 ～ 2 ①
	502	赤血球数 (RBC) 2A020				シーソフローDC 検出法	M 430～570 万/ μ L F 380～510			
	503	ヘモグロビン (Hb) 2A030				SLSヘモグロビン法	M 14.0～18.0 g/dL F 12.0～16.0			
	504	ヘマトクリット (Ht) 2A040				赤血球パルス波 高値検出法	M 42.0～53.0 % F 37.0～47.0			
	554	血小板数 (PLT) 2A050				シーソフローDC 検出法	12.0～35.0 万/ μ L			
	505	平均赤血球容積 (MCV) 2A060					87～102 fL			
	506	平均赤血球血色素量 (MCH) 2A070					28.0～34.0 pg			
	507	平均赤血球血色素濃度 (MCHC) 2A080					30.0～35.0 %			
	540	網状赤血球数 (レチクロ) 2A110	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	半導体レーザーを用いた フローサイトメトリ法	3～18 ‰	12	血液	1 ～ 2 ②
	541	好酸球数 2A090	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	半導体レーザーを用いた フローサイトメトリ法	100～300 / μ L	17	血液	1 ～ 2
そ の 他	763	喀痰中好酸球 2A090	塗抹標本 嗽吐以上	85	室温	鏡検法		15	血液	2 ～ 3
	545	鼻汁中好酸球 2A300	塗抹標本 嗽吐以上	85	室温	鏡検法		15	血液	2 ～ 3
	566	血沈 (ESR) 2Z010	クエン酸加血液 2	16	凍結不可 冷蔵	Westergren	(1時間値) M 10以下 F 15以下 mm	—	1 ～ 2	③ (注1)
形 態 学 的 検 査	509	白血球像 2A160	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	半導体レーザーを用いた フローサイトメトリ法 /鏡検法★	Neut 41～71% ★ {Stab 1～15%} {Seg 30～71%} Lymphocyte 20～50% Mono 2～8% Eosino 0～6% Baso 0～2%	15	血液	1 ～ 3 ④
	530	赤血球像 2A160	または 塗抹標本 3枚	20	室温		鏡検法			
	553	骨髓像 (マルク) 2A170	塗抹標本 嗽吐以上	20	室温	鏡検法		788	血液	4 ～ 8
	550	血 ペルオキシダーゼ染色 2A230	塗抹標本 嗽吐以上	20	室温	2・7ジアミノ フローレン法		(血液像) 各 37 加算	2 ～ 3	塗抹標本を作製できない場合はヘ パリン採血にて血液をご提出下 さい。
	598	液 エステラーゼ染色 2A190	塗抹標本 嗽吐以上	20	室温	エステラーゼ 二重染色		(骨髄像) 各 60 加算	2 ～ 3	
	578	特 鉄染色 2A240	塗抹標本 嗽吐以上	20	室温	ベルリンブルー		2 ～ 3	注) やむを得ず塗抹標本を作製 できない場合は、ヘパリン採血 にて血液をご提出下さい。	
	1172	染 ALP染色 2A180	塗抹標本 注)	嗽吐以上	20	室温	朝長法	陽性率(%) M 60.5～99.5 F 67.5～99.5 スコア 169.5～335.0 188.5～367.0		
	577	色 PAS染色 2A200	塗抹標本 嗽吐以上	20	室温	McManus変法		2 ～ 3		

(注1) 3.8%クエン酸ナトリウム液0.4mL入り容器に血液1.6mLを正確に入れ、全量2.0mL(容器表示血液量ライン)にして、良く混和後、ご提出下さい。

① 末梢血液一般検査は、赤血球数、白血球数、血色素測定(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。

② 同一検体について好酸球数及び末梢血液像(自動機械法)又は末梢血液像(鏡検法)を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

③ 赤血球沈降速度(ESR)(9点)は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できる。

④ 末梢血液像(自動機械法)、末梢血液像(鏡検法)及び骨髓像の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
出血凝固検査	555	プロトロンビン時間 (PT) 2B030	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5	15	凍結	凝固時間法	70～140 %	18 血液	1 ↓ 2	(注1)
	556	活性化部分トロンボ ラスチン時間 (APTT) 2B020	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5	15	凍結	凝固時間法	23.4～36.0 秒	29 血液	1 ↓ 2	(注1)
	559	フィブリノゲン (FIB) 2B100	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5	15	凍結	凝固時間法	155～415 mg/dL	23 血液	1 ↓ 2	
	2404	ループス抗凝固因子 (ループスアンチコアグラント) 5G501	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5	15	凍結	希釈ラッセル 蛇毒試験法 (dRVVT)	1.2以下	265 免疫	2 ↓ 3	(注1) ①
	1280	ヘパリン 3M415	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.3	15	凍結	発色性 合成基質法	IU/mL	108 生I	4 ↓ 8	(注1) ②
	551	第Ⅱ因子活性(F2) 2B350	血液 各1.8 ↓ クエン酸血漿 各0.5	15	凍結	PT法	74～146 %	223 血液	2 ↓ 5	(注1)
	552	第Ⅴ因子活性(F5) 2B370				PT法	70～152 %	223 血液		
	571	第Ⅶ因子活性(F7) 2B380				PT法	63～143 %	223 血液		
	573	第Ⅷ因子活性(F8) 2B390				APTT法	62～145 %	223 血液		
	574	第Ⅸ因子活性(F9) 2B400				APTT法	74～149 %	223 血液		
	575	第Ⅹ因子活性(F10) 2B410				PT法	71～128 %	223 血液		
	576	第Ⅺ因子活性(F11) 2B420				APTT法	73～136 %	223 血液		
	588	第Ⅻ因子活性(F12) 2B430				APTT法	46～156 %	223 血液		
	592	第Ⅻ因子活性(F13) 2B440				合成基質法	70～140 %	223 血液		
	3261	第Ⅻ因子抗原 2B440				LA (ラテックス凝集比濁法)	70以上 %	223 血液		
	572	第Ⅷ因子様抗原 (フォンウィルブランド因子定量) 2B450	LA (ラテックス凝集比濁法)	血液型O型 42.0～140.8 % 血液型A,B,AB型 66.1～176.3	147 血液					
	4131	フォンウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター) 2B480	LA (ラテックス凝集比濁法)	血液型O型 48.2～201.9 % 血液型A,B,AB型 60.8～239.8	126 血液					
	寄生血液虫類	549	マラリア原虫 2A400	EDTA加血液 2	凍結不可 冷蔵	鏡検法	(一)	40 血液	2 ↓ 3	塗抹標本でご提出の場合は、薄層塗抹標本と厚層塗抹標本をご提出下さい。

(注1) 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、遠心機の温度設定を18℃～25℃とし、遠心力と遠心時間は1,500×gで15分以上または2,000×gで10分以上遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。
出血凝固検査を5項目以上同時に依頼される場合は、2本採血してご提出下さい。

① ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

② ヘパリンの血中濃度測定においては、同一の患者につき1月以内に当該検査を2回以上行った場合においては、算定は1回とし、1回目の測定を行ったときに算定する。

<骨髓像檢查依頼書>

[illegible]

●白血球像分類名称

欧 名	和 名
Neut	好中球
Stab	桿状核球
Seg	分葉核球
Lymphocyte	リンパ球
Mono	単球
Eosino	好酸球
Baso	好塩基球

02	分離用容器	13	血液学用容器	15	凝固検査用容器	16	血沈用容器	20	プレバート	85	鼻汁中好酸球用 スライドガラス

血液学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
出血凝固検査	536	ATⅢ (アンチトロンビンⅢ)《活性》 2B200	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			合成基質法	% 80～130	70 血液	1 2	(注1)
	534	TAT (トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体) 2B210	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			CLEIA	ng/mL 3.0未満	171 血液	2 3	採血時に組織液の混入により異常高値となる場合があります。ツーンリッジ採血法をお勧めいたします。 (注1) ① 02
	3482	フィブリンモノマー複合体定量 (SFMC) 2B110	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.4 02 凍結			ラテックス凝集比濁法	μg/mL 6.1以下	215 血液	2 5	(注1) ① ② 02
	560	血中FDP 2B120	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			ラテックス免疫比濁法	μg/mL 5.0未満	80 血液	1 2	ヘパリン投与患者はその旨依頼書へご記入下さい。 (注1)
	582	尿中FDP 2B120	尿 2 17 冷蔵			LPIA	ng/mL 100以下	72 尿便	2 3	抗プラスミン剤入容器。 02
	1266	Dダイマー 2B140	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			ラテックス免疫比濁法	μg/mL 1.0未満	127 血液	1 2	(注1)
	584	《定量》 プラスミノゲン (PLG) 2B260	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.3 02 凍結			ラテックス凝集法	mg/dL 9.1～14.5	100 血液	2 4	(注1)
	537	《活性》 2B260	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			合成基質法	% 80～130	100 血液	2 3	18
	538	アンチプラスミン (α ₂ PI)《活性》 (α ₂ プラスミンインヒビター) 2B270	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.5 02 凍結			合成基質法	% 80～130	128 血液	2 3	(注1) 18
	1156	α ₂ プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC) 2B280	血液 1.8 15 ↓ クエン酸血漿 0.3 02 凍結			ラテックス凝集法	μg/mL 0.8以下	150 血液	2 4	(注1) 18

(注1) 3.2% クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、遠心機の温度設定を18℃～25℃とし、遠心力と遠心時間は1,500×gで15分以上または2,000×gで10分以上遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。
出血凝固検査を5項目以上同時にご依頼される場合は、2本採血してご提出下さい。

- ①
- フィブリンモノマー複合体、トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)及びプロトロンビンフラグメントF1+2のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
- ②
- フィブリンモノマー複合体は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓塞栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
出血凝固検査	2331	《血清》 トロンボモジュリン (TM) 2B730	血液 2 ↓ 血清 0.3	01 凍結	CLEIA	12.1~24.9 U/mL	204	2 ↓ 5	① 02
	2332	《血漿》 2B730	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.3	15 凍結		8.7~22.7 U/mL	血液	5	提出は、必ず血漿でお願いします。 (注1) ① 02
	2276	プロテインC (抗原量) 2B700	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.3	15 必ず 凍結	LPPIA	70~150 %	226 血液	2 ↓ 5	提出は、必ず血漿でお願いします。 (注1) 02
	1381	プロテインC活性 2B700	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.4	15 必ず 凍結	凝固時間法	64~146 %	227 血液	2 ↓ 4	16
	2278	プロテインS (抗原量) 2B710	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.2	15 必ず 凍結	ラテックス凝集反応法	M 73~137 F 59~143 %	154 血液	2 ↓ 4	測定対象はトータル (遊離型および複合体型) です。 (注1) 16
	1992	プロテインS (遊離型抗原量) 2B710	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.2	15 必ず 凍結	ラテックス凝集反応法	M 50~131 F 49~133 %	154 血液	2 ↓ 4	測定対象は遊離型です。 (注1) 16
	2277	プロテインS活性 2B710	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.4	15 必ず 凍結	凝固時間法	M 67~164 F 56~126 %	163 血液	2 ↓ 4	(注1) 16
	1363	βトロンボグロブリン (β-TG) 2B600	血液 2.7 ↓ 乏血小板血漿 0.5	19 凍結	EIA	60以下 ng/mL	171 血液	3 ↓ 9	採血方法は137ページ参照。 (注2) 02
	1362	血小板第4因子 (PF-4) 2B620	血液 2.7 ↓ 乏血小板血漿 0.5	19 凍結	EIA	20以下 ng/mL	173 血液	3 ↓ 9	採血方法は137ページ参照。 (注2) 02
	5764	ADAMTS13活性 2B495	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.2	15 凍結	EIA	0.10以上 10以上 IU/mL %	400 血液	3 ↓ 5	② ③ (注3) 02
	5765	ADAMTS13インヒビター 定量 2B496	血液 1.8 ↓ クエン酸血漿 0.5	15 凍結	Bethesda	0.5未満 BU/mL	1000 血液	3 ↓ 5	④ ⑤ 02

(注1) 3.2%クエン酸ナトリウム液0.2mL入り容器に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和後、遠心機の温度設定を18℃~25℃とし、遠心力と遠心時間は1,500×gで15分以上または2,000×gで10分以上遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。
出血凝固検査を5項目以上同時に依頼される場合は、2本採血してご提出下さい。

(注2) 専用容器(テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール他入り)は、予めご依頼下さい。なお、ジピリダモールは蛍光灯に48時間晒されると不活性化するため、使用時までは遮光保存をお願い致します。

(注3) 測定値が0.10IU/mL(10%)未満は血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)と判定されます。
健常者参考値：0.78IU/mL(78%)以上

- ① トロンボモジュリンは、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。
- ② ADAMTS13活性は、他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
- ③ ADAMTS13活性は、血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。
なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ④ ADAMTS13インヒビターは、ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
- ⑤ ADAMTS13インヒビターは、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。
なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

01	汎用容器 (分離剤入り)	02	分離用容器	15	凝固検査用容器	17	FDP用容器 (尿中)	19	β-TG, PF-4用容器

細胞性免疫検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
細胞形態検査	591	T細胞B細胞百分率 51020	EDTA加血液 または ヘパリン加血液	13 3 10	室温	フローサイトメトリー法 〔T細胞〕 CD3 〔B細胞〕 CD19	〔T細胞〕 CD3：51～87 〔B細胞〕 CD19：8～25	% 193 免疫	2 3	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 専用依頼書あり
	478	白血病・リンパ腫解析	EDTA加血液 または ヘパリン加血液	13 5 10	室温	フローサイトメトリー法		% 1940 血液	2 3	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 (CD1a, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 10, 13, 14, 19, 20, 33, 34, 56, 抗HLA-DRの各抗体につき検査実施 致します) ② 専用依頼書あり
		モノクローナル抗体 によるリンパ球サブ セット《単染色法》 《Single-color解析》	EDTA加血液または ヘパリン加血液 (5抗体まで3mL, 5抗体 追加毎に2mL追加)	13 3 10	室温	フローサイトメトリー法	92ページ健常者 参考値参照	185 免疫	2 4	採血後48時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ① 専用依頼書あり 02
	493	モノクローナル抗体 によるリンパ球サブ セット《二重染色法》 《Two-color解析》	EDTA加血液または ヘパリン加血液 (1組追加毎 に1mL追加)	13 3 10	室温	フローサイトメトリー法		185 免疫	3 4	採血後48時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ① 専用依頼書あり 02
	405	Sm-IgG 51021	EDTA加血液	3	13 室温	フローサイトメトリー法	3～12	% 155	3 4 免疫	採血後48時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 専用依頼書あり
	406	Sm-IgA 51022					3～9	%		
	407	Sm-IgM 51023					2～7	%		
	408	Sm-IgD 51024					1～6	%		
	409	Sm-Ig κ鎖 51025					1～13	%		
	410	Sm-Ig λ鎖 51026					1～10	%		
	2519	赤血球表面マーカー検査 CD55 51235	ヘパリン加血液	1	10 室温	フローサイトメトリー法	85.4以上	% —	4 6	採血後48時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 専用依頼書あり
	2556	赤血球表面マーカー検査 CD59 51247	ヘパリン加血液	1	10 室温	フローサイトメトリー法	99.8以上	%		16

- ① T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。
- ② 造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)は、白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の表面抗原又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できる。
対象疾病は白血病、悪性リンパ腫等である。

細胞性免疫検査のご依頼について

〔検査のご依頼日〕

- 1) 土、日、祭日、祭日前日の検体は受け付けられないことがありますので、必ず確認の上ご提出下さい。
- 2) 検査項目によって、検査実施日が異なることがありますので、必ず確認の上ご提出下さい。
- 3) 組織等、血液以外の材料でご提出の場合は、予め当社担当者にご確認下さい。
- 4) 受付曜日は、各項目の備考欄に記載してあります。ただし、直接検査室に搬入できる場合は条件により検査可能な場合もあります。
受付可能日、および受付可能時刻等については営業担当者にご相談下さい。

〔依頼書〕

- 1) 細胞性免疫検査ご依頼に際しては、専用依頼書を用意してありますので、ご使用下さい。
- 2) 依頼書所定事項中、採血年月日、時刻、疾患名を必ずご記入下さい。

〔採血〕

- 1) 溶血、雑菌混入は絶対にさけて、無菌的に採血して下さい。
- 2) 必要量採血後、直ちに所定容器に移して下さい。
- 3) ヘパリン加血液、EDTA加血液は、採血後、直ちに転倒混和し凝固を防止して下さい。
- 4) 提出検体は、室温(20℃前後)で保存して下さい。
- 5) 白血球が減少した患者検体において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出下さい。

〔採血後、検査にとりかかるまでの保存可能時間〕

検査項目	材料	全血	保存液入採血管
リンパ球関連検査全般 (モノクローナル抗体による リンパ球サブセットを除く)	—	—	24時間以内
モノクローナル抗体による検査	24時間以内	—	—
組織適合性検査 好中球貪食能・殺菌能	24時間以内	—	—

Single-color解析による細胞表面マーカー検査(リンパ球サブセット検査)

項目名	抗原分布(別名、機能)	陽性細胞百分率(%)	項目名	抗原分布(別名、機能)	陽性細胞百分率(%)
T細胞系			CD16	NK細胞、顆粒球、マクロファージ、単球(Fc-γレセプターⅢA/ⅢB)	3~33
CD1a	胸腺細胞	1以下	CD33	単球、骨髄細胞	2以下
CD2	T細胞、NK細胞、LFA-2(E-ロゼットレセプター)	72~90	CD34	造血前駆細胞	2以下
CD3	成熟T細胞(TCRα・β・γ・δに結合)	56~86	CD35	顆粒球、単球/マクロファージ、赤血球、B細胞、一部のNK細胞(CR1)	6~24
CD4	helper/inducer T細胞(HIV-レセプター)	29~55	NK細胞系		
CD5	T細胞、B細胞サブセット	56~84	CD56	NK細胞、T細胞サブセット(N-CAM、NKH1)	4~35
CD7	T細胞、NK細胞、未成熟骨髄細胞サブセット	58~86	CD57	NK細胞サブセット、T細胞サブセット(HNK1)	4~30
CD8	suppressor/cytotoxic T細胞、NK細胞サブセット	19~41	血小板系		
CD38	前駆細胞、形質細胞、活性化T細胞、B細胞、胸腺細胞	26~63	CD41	血小板、巨核球(GPⅡbⅢa)	5以下
TCRγ/δ	T細胞	11以下	CD42b	血小板、巨核球(GPⅠbα)	2以下
B細胞系			接着分子		
CD10	common ALL、pre-B細胞、胸腺細胞サブセット、顆粒球	1以下	CD11b	単球、NK細胞、顆粒球、マクロファージ、(MAC-1αインテグリンαM、CR3)	11~41
CD19	pro-B細胞を含むB細胞	6~23	CD11c	単球、顆粒球、マクロファージ、(p150インテグリンαX、CR4)	2~22
CD20	B細胞、濾胞内樹状細胞	7~30	その他		
CD21	成熟B細胞(CR2、EBVレセプター)	2~19	CD25	活性化T細胞、B細胞、活性化マクロファージ(Tac抗原、IL-2Rα)	8以下
CD22	B細胞全般(BL-CAM)	3~20	CD30	活性化T/B細胞、Reed-Sternberg/Hodgkin細胞、 伝染性単核症の異形リンパ球、未分化大細胞性リンパ腫細胞、 成人T細胞白血病細胞、正常リンパ組織の大型リンパ芽球	3以下
CD23	(A型)成熟B細胞全般(B型)活性化B細胞、好酸球、単球/マクロファージ、血小板(FcεレセプターⅡ)	9以下			
CD24	B細胞、顆粒球	5~24	CD71	活性化細胞(T9抗原、トランスフェリンレセプター)	6以下
骨髄球系			抗HLA-DR	B細胞、単球、活性化T細胞(HLAクラスⅡ-DR抗原)	11~36
CD13	単球、顆粒球、骨髄細胞	4以下	抗HLA-DQ	B細胞サブセット(HLAクラスⅡ-DQ抗原)	7~20
CD14	単球、樹状細胞、マクロファージ	2以下	抗グリコホリンA	赤芽球、赤血球	7以下
CD15	顆粒球、ホジキン病	4以下			

・CD4とCD8を同時にご依頼の場合はCD4/CD8比をご報告させていただきます。

・陽性細胞百分率はリンパ球領域をゲーティングした場合です。

・上記以外のモノクローナル抗体につきましては、お問い合わせ下さい。

CD4/CD8比0.6~2.4

Two-color解析による細胞表面マーカー検査(リンパ球サブセット検査)

モノクローナル抗体の組み合わせ			陽性細胞百分率(%)	モノクローナル抗体の組み合わせ			陽性細胞百分率(%)
CD3×抗HLA-DR	CD3 ⁺ 抗HLA-DR ⁺		11以下	CD4×CD45RA	CD4 ⁺ CD45RA ⁺		5~21
	CD3 ⁺ 抗HLA-DR ⁻		55~84		CD4 ⁺ CD45RA ⁻		16~49
	CD3 ⁻ 抗HLA-DR ⁺		1~16		CD4 ⁻ CD45RA ⁺		20~47
	CD3 ⁻ 抗HLA-DR ⁻		2~29		CD4 ⁻ CD45RA ⁻		2~34
CD4×抗HLA-DR	CD4 ⁺ 抗HLA-DR ⁺		4以下	CD4×CD45RO	CD4 ⁺ CD45RO ⁺		16~33
	CD4 ⁺ 抗HLA-DR ⁻		28~56		CD4 ⁺ CD45RO ⁻		2~24
	CD4 ⁻ 抗HLA-DR ⁺		4~19		CD4 ⁻ CD45RO ⁺		10~36
	CD4 ⁻ 抗HLA-DR ⁻		25~60		CD4 ⁻ CD45RO ⁻		32~51
CD8×抗HLA-DR	CD8 ⁺ 抗HLA-DR ⁺		7以下	CD5×CD20	CD5 ⁺ CD20 ⁺		10以下
	CD8 ⁺ 抗HLA-DR ⁻		16~39		CD5 ⁺ CD20 ⁻		47~85
	CD8 ⁻ 抗HLA-DR ⁺		4~19		CD5 ⁻ CD20 ⁺		16以下
	CD8 ⁻ 抗HLA-DR ⁻		46~67		CD5 ⁻ CD20 ⁻		4~34
CD3×CD56	CD3 ⁺ CD56 ⁺		11以下	CD8×CD11b	brightCD8 ⁺ CD11b ⁺		9以下
	CD3 ⁺ CD56 ⁻		48~81		brightCD8 ⁺ CD11b ⁻		6~25
	CD3 ⁻ CD56 ⁺		7~17		brightCD8 ⁻ dullCD8 ⁺ CD11b ⁺		40以下
	CD3 ⁻ CD56 ⁻		11~27		CD8 ⁻ CD11b ⁻		34~73
CD4×CD8	CD4 ⁺ CD8 ⁺		1以下	CD57×CD16	CD57 ⁺ CD16 ⁺		19以下
	CD4 ⁺ CD8 ⁻		28~57		CD57 ⁺ CD16 ⁻		22以下
	CD4 ⁻ CD8 ⁺		9~38		CD57 ⁻ CD16 ⁺		7以下
	CD4 ⁻ CD8 ⁻		15~45		CD57 ⁻ CD16 ⁻		55~95
CD4×CD29	CD4 ⁺ CD29 ⁺		12~36	抗TCRγ/δ×CD3	抗TCRγ/δ ⁺ CD3 ⁺		8以下
	CD4 ⁺ CD29 ⁻		7~29		抗TCRγ/δ ⁺ CD3 ⁻		0
	CD4 ⁻ CD29 ⁺		16~50		抗TCRγ/δ ⁻ CD3 ⁺		50~81
	CD4 ⁻ CD29 ⁻		7~38		抗TCRγ/δ ⁻ CD3 ⁻		13~44

・上記以外のモノクローナル抗体の組み合わせにつきましては、お問い合わせ下さい。



細胞性免疫検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考	
細胞機能検査	411	リンパ球幼若化試験 (リンパ球分離培養法) PHA 51010	ヘパリン加血液 各5 (同時依頼の場合は8mL)	10	室温	³ H-サイミジン 取込能測定法	PHA+ CONTROL 20500~56800 cpm 127~456	345	8	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 白血球数3000/μL以下の場合は倍 量採血し、ご提出下さい。 (注1) ① 専用依頼書あり	
	341	Con-A 51011					con-A+ CONTROL 20300~65700 cpm 127~456	免疫	9		
	416	薬剤によるリンパ球幼若化試験 (リンパ球分離培養法) (DLST) 51014	ヘパリン (1薬剤) 12 加血液 + 室温 1薬剤増すごとに ヘパリン加血液 5 1回投与量の薬剤 2薬剤以上の場合→備考参照	10	³ H-サイミジン 取込能測定法	陰性	1項目 345 ・ 2項目 425 ・ 3項目 以上 515 免疫	9 ・ 11	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 1薬剤追加ごとにヘパリン加血液 を5mL追加 白血球数3000/μL以下の場合は倍 量採血し、ご提出下さい。 (注2) ① 専用依頼書あり		
	404	NK細胞活性 51900	保存液入り 採血管 6	21	室温	⁵¹ Cr遊離法	下表参照	%	—	4 ・ 5	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。白 血球数3000/μL以下の場合は倍 量採血し、ご提出下さい。 ① 専用依頼書あり
	488	好中球貪食能 51970	ヘパリン加血液 2	10	室温	フローサイト メトリー法	70～87	%	—	3 ・ 4	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。
489	好中球殺菌能 51990	ヘパリン加血液 2	10	室温	フローサイト メトリー法	93～97	%	—	3 ・ 4	貪食能、殺菌能を同時にご依頼の 場合は血液は2mLで検査可能です。 ① 専用依頼書あり	

- (注1) リンパ球幼若化試験のご依頼に際して
- 1) リンパ球幼若化試験用マイトジェンは、PHA、Con-Aの中からご指定下さい。特にご指定のない場合は、PHAのみにて検査させていただきます。
- (注2) 薬剤によるリンパ球幼若化試験のご依頼に際して
- 1) 1薬剤で500万個のリンパ球が必要です。目安として、白血球数が $3.0 \times 10^3/\mu\text{L}$ 以下の場合は、倍量程度採血しご提出下さい。
- 2) 2項目以上ご依頼の場合は必ず優先順位順に専用依頼書へ薬剤名をご記入下さい。
- 3) 血液と同時に依頼薬剤もご提出下さい。
- 錠剤 (1錠)、カプセル (1カプセル)、粉末 (1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬 (0.5mL程度)、注射薬 (1バイアル【アンプル】)。
- 皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。
- 4) ヘパリンが起因薬剤として疑われる場合は専用容器をご用意致しますので、予め当社担当にお申しつけ下さい。
- 5) 「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
- 6) ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤が含まれていないことをご確認いただき、専用依頼書へご署名をお願い致します。ご署名のない場合は、受領致しかねます。
- ① リンパ球刺激試験 (LST) は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

NK細胞活性健常者対照表

[NK細胞活性健常者対照表 E/T比 50：1]

	男性 (%)	女性 (%)
̄	59.79	50.09
SD	15.65	13.36
̄±1SD	44.1~75.4	36.7~63.4

[NK細胞活性健常者年齢別・性別対照表 E/T比 50：1]

年齢		男性 (%)	女性 (%)	男女 (%)
20～29歳	̄	58.71	52.62	55.53
	SD	15.50	12.68	14.28
	̄±1SD	43.2~74.2	39.9~65.3	41.2~69.8
30～39歳	̄	58.97	44.05	52.39
	SD	16.11	11.91	16.07
	̄±1SD	42.8~75.0	32.1~55.9	36.3~68.4
40～49歳	̄	60.54	51.40	56.73
	SD	13.65	17.24	15.66
	̄±1SD	46.8~74.1	34.1~68.6	41.0~72.3
50～59歳	̄	62.38	50.97	55.72
	SD	20.15	11.16	16.19
	̄±1SD	42.2~82.5	39.8~62.1	39.5~71.9

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
組織適合性抗原	3167	HLA型判定 A、B Locus (血清対応型タイピング) 5K020	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-rSSO		—	4 6	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	3168	HLA型判定 DR Locus (血清対応型タイピング) 5K065	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-rSSO		—	4 6	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	2197	HLA-A遺伝子型判定 (A Locus) 5K116	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	2659	HLA-B遺伝子型判定 (B Locus) 5K117	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	3255	HLA-C遺伝子型判定 (C Locus) 5K118	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	2335	HLA-DRB1 遺伝子型判定 5K120	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	3170	HLA-DQA1 遺伝子型判定 5K129	EDTA加血液 3	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SSP		—	5 11	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	2336	HLA-DQB1 遺伝子型判定 5K130	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02
	2337	HLA-DPB1 遺伝子型判定 5K121	EDTA加血液 2	13	凍結不可 冷蔵	PCR-SBT		—	6 9	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 容器番号14(EDTA-2Na)でも検査可。 専用依頼書あり 02

HLA型判定、遺伝子型判定検査の留意点

◆検体の取り扱い、および依頼法

- 1) 「HLA型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互のcross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。

①真空採血管を使用し、採血して下さい。

②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。

③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。

④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず1検体ずつ処理して下さい。
- 2) 複数項目を同時にご依頼の場合、HLA型判定A、B LocusおよびDR LocusはEDTA加血液2mL、HLA遺伝子型判定群では3項目までは同2mL、4項目以上は同4mLで検査可能です。

ただし、DQA1は単独でEDTA加血液3mLが必要となります。
- 3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/μL以下の場合、所定量の2倍の血液をご提出下さい。

4) 血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。

※HLA遺伝子型と種類は143ページ、144ページ参照



染色体検査

区分	コード No.	検査項目	統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
先天異常染色体検査	590	G分染法	8B200	ヘパリン加血液 各3	10	凍結不可 冷蔵	分染法	2477 + 397 分染法 加算	14 〜 19	倫理指針対象 採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 Q分染法、R分染法、C分染法、高精度分染法は、最初にG分染法を実施し、さらに検査が必要な場合に実施させていただきます。 判定にあたり精査が必要な場合、さらに10日前後報告日数が延長となります。
		Q分染法	8B200							
		R分染法	8B200							
		C分染法	8B200							
		高精度分染法	8B200							
	2728	13染色体(13トリソミー/Patau症候群)	8B430	ヘパリン加血液 各3	10	凍結不可 冷蔵	FISH	2477	6 〜 8	倫理指針対象 採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 2 専用依頼書あり
	2729	18染色体(18トリソミー/Edwards症候群)	8B480							
	586	21染色体(21トリソミー/Down症候群)	8B510							
	2731	X-染色体	8B530							
	2732	Y-染色体	8B540							
	2136	7染色体(Williams症候群)	8B373							
	2733	15染色体(Prader-Willi症候群)	8B453							
	2734	15染色体(Angelman症候群)	8B454							
	2735	17染色体(Miller-Dieker症候群)	8B473							
	2736	22染色体(22q11.2欠失/重複解析)	8B523							
										02

- 1 分染法を行った場合は、397点加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。
- 2 FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご依頼について

- 〔検査のご依頼日〕
検体の性質上、休祭日とその前日は受付致しかねますのでご了承下さい。
- 〔採血・採取〕
1) 血液・骨髄液は、滅菌採取器具(ヘパリン加真空採血管又は専用保存液入り容器)を用いて、無菌的に採取して下さい。
骨髄液では、有核細胞数が1×10⁷個以上必要です。
2) 採取後、速やかに転倒混和を4〜5回行って下さい。検体に微小な凝固が見られた場合、分裂像が得られず検査不可となることがあります。
3) ご提出検体は、冷室温(4〜20℃)で保存して下さい。
- 〔依頼書〕
ご依頼に際しては、専用依頼書を用意してありますのでご使用下さい。



〔検体保存時間〕			1) 左記時間以上経過した検体では検査できません。 2) 骨髄液は専用保存液入り容器をご使用の場合、24時間保存可能です。 ご連絡により専用容器をお届け致します。
	ヘパリン加検体	専用保存液入り検体	
〈血液〉	24時間以内	-	
〈骨髄液〉	-	24時間以内	

区分	コード No.	検査項目	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
血液疾患染色体检査	590	G分染法	8B220	ヘパリン加血液 各3	10	凍結不可 冷蔵	2477 + 397 分染法 加算	14 ~ 19	採血後24時間以内に検査 受付曜日 ：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 Q分染法は、最初にG分染法を実施し、さらに検査の必要な場合に実施させていただきます。 判定にあたり精査が必要な場合、さらに10日前後報告日数が延長となります。① 専用依頼書あり 02
	593	Q分染法	8B220	または 骨髓液 各0.5	22	凍結不可 冷蔵		15 ~ 22	
	3036	好中球BCR::ABL1 [t(9;22)転座解析]	8B396	ヘパリン加血液 3	10	凍結不可 冷蔵	2477	6 ~ 8	採血後24時間以内に検査 受付曜日 ：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 ② (注1) 専用依頼書あり 02
	2714	BCR::ABL1 [t(9;22)転座解析]	8B395	または 骨髓液 各0.5	22	凍結不可 冷蔵			
	2713	RUNX1 (21q22転座解析)	8B513	または その他 (リンパ節、胸水、腹水、組織、カルノア固定液等)					
	3035	RUNX1::RUNX1T1 [t(8;21)転座解析]	8B385	ヘパリン加血液 各3	10	凍結不可 冷蔵			
	2712	PML::RARA [t(15;17)転座解析]	8B455	または 骨髓液 各0.5	22	凍結不可 冷蔵			
	2307	CBFB [inv(16)逆位、t(16;16)転座解析]	8B463	または その他 (リンパ節、胸水、腹水、組織、カルノア固定液等)					
	2737	KMT2A [11q23転座解析]	8B413						
	5911	7染色体(7モノソミー/7q31欠失解析)	8B370						
	2704	8染色体(8トリソミー)	8B380						
	5912	IRF1 (5q31欠失解析)	8B353						
	5913	D20S108 (20q12欠失解析)	8B504						
	2711	異性間BMT	8B550						
	2932	FIP1::PDGFRA [4q12欠失解析]	8B345	ヘパリン加血液 3	10	凍結不可 冷蔵	2477 + 397 分染法 加算	6 ~ 8	採血後24時間以内に検査 受付曜日 ：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 ② (注2) 専用依頼書あり 02
	2738	ETV6 [12p13転座/欠失解析]	8B423	または 骨髓液 0.5	22	凍結不可 冷蔵			
	3078	ETV6::RUNX1 [t(12;21)転座解析]	8B424	ヘパリン加血液 各3	10	凍結不可 冷蔵			
	5914	CDKN2A [9p21欠失解析]	8B393	または 骨髓液 各0.5	22	凍結不可 冷蔵			
	5915	TCF3::PBX1 [t(1;19)転座解析]	8B314	または その他 (リンパ節、胸水、腹水、組織、カルノア固定液等)					
	2808	12染色体(12トリソミー)	8B420						
	5916	IGH [14q32転座解析]	8B444						
	3077	IGH::CCND1 [t(11;14)転座解析]	8B414						

(注1)検査結果は、分葉球細胞(好中球を含む)、単核球細胞のそれぞれにつきご報告致します。

(注2)本検査は、FIP1L1/PDGFR α キメラ遺伝子形成時に生じる4q12領域の欠失/挿入の有無を検出します。

① 分染法を行った場合は、397点加算する。分染法加算については、その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。
 ② FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査

区分	コード No.	検査項目	統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
血液疾患染色体检査	5917	BCL2〔18q21転座解析〕	8B484	ヘパリン加血液 各3 または 骨髄液 各0.5 または その他 (リンパ節、胸水、腹水、 組織、カルノア固定液等)	10	凍結不可 冷蔵	FISH	2477	6 〜 8	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ① ご依頼に際しては『染色体検査依頼書』をご利用下さい。 専用依頼書あり
	3163	IGH::MAF〔t(14;16)転座解析〕	8B445							
	3081	IGH::BCL2〔t(14;18)転座解析〕	8B443							
	3469	BCL6〔3q27転座解析〕	8B333							
	5918	MYC〔8q24転座解析〕	8B383							
	3082	IGH::MYC〔t(8;14)転座解析〕	8B384							
	3040	MALT1〔18q21転座解析〕	8B483							
	3316	BIRC3::MALT1〔t(11;18)転座解析〕	8B416							
	3441	D13S319(13q14欠失解析)	8B434							
	5919	MYCN〔2p24.1増幅解析〕	8B324							
	3164	IGH::FGFR3〔t(4;14)転座解析〕	8B344							
	3137	ALK〔2p23転座解析〕	8B323							
	5901	ATM〔11q22.3欠失解析〕	8B417							
	2237	TP53〔17p13.1欠失解析〕	8B475							
3730	EWSR1〔22q12転座解析〕	8B524								

02

① FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

遺伝子解析ご利用の手引き

- 検体量
遺伝子解析の実施に当たっては、抽出されるDNAあるいはRNA量を一定収量以上に確保する必要があります。そのため、各項目毎に明示された提出検体量に不足がないようご注意ください。
- 検体採取・保存方法
末梢血は、各項目指定の[遺伝子検査用容器95]にて採取後、冷蔵(4℃)保存して下さい。骨髄液は採取後、[骨髄保存容器22]にて冷蔵(4℃)保存して下さい。組織は[滅菌スピッツ管27]の場合深冷凍結(-70℃以下)保存して下さい。
- 提出
休祭日とその前日は受付致しかねますので、ご了承下さい。
検体は、他の検査ご依頼用とは別に、単独検体としてご提出下さい。
ご依頼に際しては、専用依頼書を用意してありますのでご使用下さい。
※ご不明な点がございましたら弊社営業担当者までご連絡下さい。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
血液疾患遺伝子	5951	Major BCR::ABL 1 高感度IS% 8C125	EDTA加血液 7	95 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	リアルタイム RT-PCR	% コピー/テスト	2520 遺染	5 8	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ① 18
	4470	WT1 mRNA定量 8C505	EDTA加血液 7	95 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	リアルタイム RT-PCR	コピー/μgRNA 50未満	2520 遺染	4 6	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ② 18
	4468	JAK2V617F 遺伝子変異 8C491	EDTA加血液 2	13 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	リアルタイム PCR	% 1.000以下	2504 遺染	7 15	採血後24時間以内に検査 採血後、蓋を覆う様に「開封厳禁」 シールを貼って提出して下さい。 ③ ④ 18
	4494	FLT3遺伝子変異解析 ITD/TKD 8C071	ヘパリン加血液 3	10 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	PCR-キャピラリー 電気泳動法	陰性	4200 遺染	5 9	採血後24時間以内に検査 ③ ⑤ 16
	4027	NPM1 変異解析 8C565	EDTA加血液 2	95 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	リアルタイム PCR	変異検出せず	2100 遺染	11 17	採血後24時間以内に検査 ③ ⑥ ⑦ 16
	4492	NUDT15遺伝子 コドン139多型解析 8C955	EDTA加血液 2	13 凍結不可 冷蔵 「開栓不可」	リアルタイム PCR	NUDT15遺伝子のコドン139が コードする塩基配列を検出し、 3種類のアミノ酸(アルギニン、 システイン、ヒスチジン)に変換 して報告いたします。 報告形式: ARG/ARG, ARG/ CYS, ARG/HIS, CYS/CYS, CYS/HIS, HIS/HIS	2100 遺染	4 13	必ず専用検体としてご提出下さい。 採血後、蓋を覆う様に「開封厳禁」 シールを貼って提出して下さい。 ⑧ 18
	2103	免疫グロブリンH鎖 J _H 再構成 8C703	EDTA加血液 各7 または 骨髄液 各1 または 組織 各500mg (8mm角)	95 凍結不可 冷蔵	サザンブロット法	再構成を認めない	2373 遺染	15 21	採血後24時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・ 祝日及びその前日は受付不可。 ⑨
	2104	免疫グロブリンL鎖 J _K 再構成 8C723		22 凍結不可 冷蔵					ご依頼に際しては「遺伝子検査依 頼書」をご利用下さい。 専用依頼書あり
	2105	免疫グロブリンL鎖 J _L 再構成 8C725		27 凍結不可 冷蔵					
	2111	T細胞受容体β鎖 Jβ ₁ 再構成 8C654		27 凍結不可 冷蔵					
	2112	T細胞受容体β鎖 Jβ ₂ 再構成 8C655		27 凍結不可 冷蔵					
	2106	T細胞受容体β鎖 Cβ再構成 8C651		27 凍結不可 冷蔵					

- ① Major BCR-ABL IS (国際標準値)は「診断の補助に用いるもの」と「モニタリングに用いるもの」の両方に算定できる。
- ② WT1 mRNAは、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病又は骨髄異形成症候群の診断補助又は経過観察時に行った場合に、1月に1回を限度として算定できる。
- ③ 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「FLT3遺伝子検査」または「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できる。
- ④ JAK2遺伝子検査は、真性赤血球増加症、本態性血小板血症及び原発性骨髄線維症の診断補助を目的として JAK2V617F遺伝子変異割合を測定した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
- ⑤ FLT3遺伝子検査は、抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的として、FLT3遺伝子の縦列重複 (ITD) 変異及びチロシンキナーゼ (TKD) 変異の評価を行った場合に、患者1人につき1回に限り算定する。
- ⑥ 厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において行われる場合に算定できる。
- ⑦ 月1回を限度として算定できる。
- ⑧ NUDT15遺伝子多型は、難治性の炎症性腸疾患、急性リンパ性白血病及び治療抵抗性のリウマチ性疾患(全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、結節性多発動脈炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎等)、全身性エリテマトーデス (SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病及び難治性リウマチ性疾患)、自己免疫性肝炎の患者であって、チオプリン製剤の投与対象となる患者に対して、その投与の可否、投与量等を判断することを目的として、リアルタイムPCR法により測定を行った場合に、当該薬剤の投与を開始するまでの間に1回を限度として算定する。
- ⑨ 免疫関連遺伝子再構成は、悪性リンパ腫、急性リンパ性白血病又は慢性リンパ性白血病の診断の目的で検査を行った場合に、6月に1回を限度として算定できる。

10

ヘパリン容器



13

血液学用容器



22

骨髄液保存容器



27

滅菌スピッツ管



95

遺伝子検査用容器



微生物学検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	検 査 材 料 ・ 量	容 器	保 存	使用培地・検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考	
一般細菌検査	801	塗抹 6A010	尿・喀痰/その他	104 ページ 参照	冷蔵	グラム染色など	67 微生物	2 〜 3	材料が便の場合、検査は実施不可。 ①	
	811	口腔・気道・呼吸器 6B010	喀痰・咽頭液/その他		冷蔵	Bergey's Manual他に 基づく同定方法	180 微生物	3 〜 7	検体を乾燥させないようにして 下さい。 淋菌・髄膜炎菌の検査では検体を 室温保存して下さい。 ② ③	
	812	培 消化管 6B010	糞便・胆汁・胃液/その他 ※糞便の結果について105ページ参照		冷蔵		200 微生物			
	813	養 泌尿器・生殖器 6B010	尿・分泌物/その他		冷蔵		190 微生物	2 〜 7		
	814	同 定	血液 6B010		血液 1本あたり推奨10mL		室温	225 微生物		4 〜 9
			穿刺液 6B010		穿刺液		冷蔵	225 微生物		
	815	その他の部位 6B010	膿・耳漏・分泌物/その他		冷蔵	180 微生物	3 〜 7			
	816	嫌気性培養 6B010	膿・分泌物・血液・穿刺液・ 胆汁/その他		冷蔵	122 微生物	3 〜 10	嫌気ポーター等専用輸送培地をご 利用下さい。 必ず培養同定と同時に依頼下さい。		
	805	尿定量培養 6B010	尿	冷蔵	標準白金耳法	190 微生物	2 〜 4	必ず培養同定と同時に依頼下さい。 ④		
	825	1菌種 6C010	培養同定に同じ			・微量液体希釈法 ・1濃度ディスク法	185 微生物	2 〜 7	⑤ 「薬剤感受性セット」参照。 (103ページ)	
826	感受性検査 6C010	2菌種					240 微生物			
827	3菌種以上 6C010	3菌種以上					310 微生物			
医真菌検査	831	塗抹 6A105	爪・皮膚・毛髪/その他 6B105	104 ページ 参照	室温	10%KOH法、グラム染色	67 微生物	2 〜 3	※一般細菌培養同定実施料参照 ◎菌種により同定に要する日数が 異なります。 ②	
	871 〜 875	培養・同定 6B105			室温	サブロー寒天培地 クロムアガー寒天培地 ポテトデキストロース寒天培地	※	◎		
	807	簡易培養 酵母様真菌 トリコモナス			室温	クロムアガー寒天培地(酵母様真菌) トリコモナス培地(トリコモナス)	60 微生物	◎		
	842									
			トランスポート培地で泌尿器、 分泌物を直接、または専用培地 に接種してご提出下さい。							

① 当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

② 同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても算定するが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類にかかわらず、簡易培養により算定する。

③ 細菌培養同定検査は、検体ごとに所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、簡易培養は算定できない。

④ 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気培養の加算は2回算定できる。

⑤ 各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。

⑥ 尿定量培養は尿培養と同時に算定できない。

⑦ 細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	検査材料・量	容器	保存	使用培地・検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
抗 酸 菌 検 査	851	塗抹 6A205	喀痰/その他	104 ページ 参照	冷蔵	蛍光法（蛍光法で陽性の場合はチール・ネルゼン法で確認いたします。）	50 微生物	2 ～ 3	
	2621	塗抹 （集菌法）	喀痰/その他		冷蔵	蛍光法（蛍光法で陽性の場合はチール・ネルゼン法で確認いたします。）	50 + 35 微生物	2 ～ 3	①
	853	分離培養 6B305	喀痰/その他		冷蔵	小川培地による培養	209 微生物	4週 ～ 8週	
	2623	分離培養 （液体培地法） 6B305	喀痰/その他 検体量 1mL			蛍光センサー法	300 微生物	3週 ～ 6週	蛍光センサー法は材料が便の時、検査は実施致しません。
	856	感受性検査 6C105				・マイクロタイター法 ・微量液体希釈法	400 微生物	2週 ～ 5週	所要日数は感受性検査に入ってからの日数です。培養日数は含まれません。「薬剤感受性セット」は103ページ参照(注1) 18
	2622	結核菌群抗原 6B325				免疫クロマト法	291 免疫	2 ～ 3	所要日数は同定検査に要する日数です。分離培養の日数は含まれません。(注1)
	2620	抗酸菌同定 （質量分析）				MALDI-TOF-MS	361 微生物	2 ～ 4	②
	878	結核菌群核酸増幅同定 （リアルタイムPCR） 6B620	喀痰 1mL 液状検体 10mL	104 ページ 参照	冷蔵	リアルタイムPCR	410 微生物	2 ～ 4	全血・便・綿棒は不可。血液混入検体は参考値となります。
	2882	マイコバクテリウムアビウム イントラセルラー核酸増幅同定(MAC) （リアルタイムPCR） 6B621	喀痰 1mL 液状検体 10mL		冷蔵	リアルタイムPCR	421 微生物	2 ～ 4	全血・便・綿棒は不可。血液混入検体は参考値となります。 ② ③

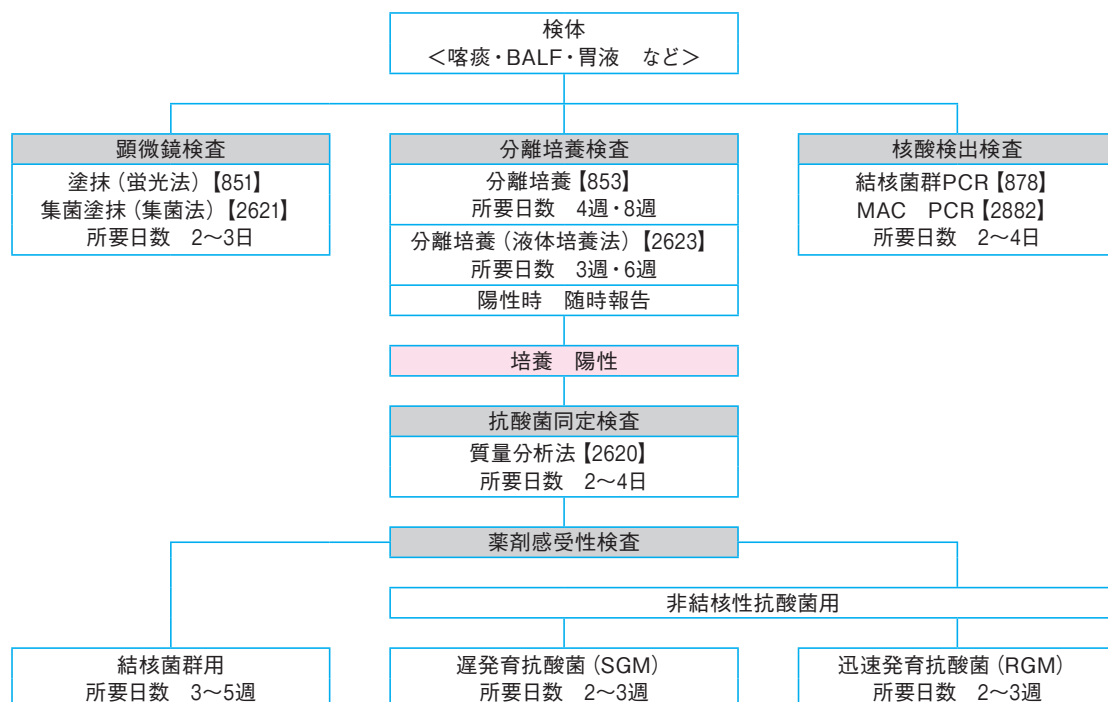
(注1) 菌株でご提出される場合、あらかじめご一報下さい。

① 集菌塗抹法を行った場合には、集菌塗抹法加算として35点を所定点数に加算する。

② 抗酸菌同定とマイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー(MAC)核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

③ マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー(MAC)核酸検出は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。

《抗酸菌検査フローチャート(推奨)》



※【 】内の番号は項目コードです

微生物学検査

区分	検査項目	検査材料・量	容器	保存	使用培地・検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備 考
特殊目的菌検査	百日咳菌	呼吸器系材料	104 ページ 参照	冷蔵	好気培養同定法	99 ページ 参照	5 〜 8	
	レジオネラ	呼吸器系材料		冷蔵	好気培養同定法		7 〜 14	
	アスペルギルス	呼吸器系材料		冷蔵	好気培養同定法		4 〜 14	
	ノカルジア	呼吸器系材料		冷蔵	好気培養同定法		5 〜 8	
	アクチノミセス	呼吸器系材料		冷蔵	嫌気培養同定法		6 〜 9	
	淋菌	泌尿器系材料		室温	好気培養同定法	175 免疫	3 〜 5	
	病原性大腸菌 血清型別	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	①
	大腸菌O157 スクリーニング	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	腸炎ビブリオ	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	コレラ菌	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	カンピロバクター	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	微好気培養同定法		3 〜 6	
	黄色ブドウ球菌	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	エルシニア菌	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	C. perfringens (ウェルシュ菌)	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	嫌気培養同定法		4 〜 8	
	C. difficile (ディフィシル菌)	消化器系材料 (糞 便)		冷蔵	嫌気培養同定法	99 ページ 参照	4 〜 8	
	ヘリコバクターピロリ	消化器系材料 (胃・十二指腸生検組織)	61	冷蔵	微好気培養同定法		4 〜 9	必ず専用輸送培地を用いて 冷蔵にてご提出下さい。(注1)
	髄膜炎菌	髄液/その他	104 ページ 参照	室温	好気培養同定法		3 〜 7	
	クリプトコッカス	髄液/その他		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	MRSA	各種材料		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 5	
	カンジダ	各種材料		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 6	
	マイコプラズマ	泌尿器・生殖器系材料		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 6	18
	ウレアプラズマ	泌尿器・生殖器系材料		冷蔵	好気培養同定法		3 〜 6	18

(注1) 1容器につき、1検体での提出をお願い致します。(複数の組織を採取し、個別での検査をご依頼の場合は、それぞれ別の容器にてご提出下さい。)

① 大腸菌血清型別は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。

区分	コード No.	検査項目 統一コード	検査材料・量	容器	保存	使用培地・検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	4066	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原毒素	糞便 1g (液状便で1mL、固形便で小指大)	29	冷蔵	免疫クロマト法	免疫	2 ~ 6	C.D抗原(GDH)及びC.Dトキシン(TOX)の検出(+), (-)、判定保留で報告。 トキシンは、A・Bの区別はできません。 (注1) ① 18
	4051	クロストリジオイデス・ディフィシル毒素遺伝子検出 (NAAT検査) 6B642	糞便 1g (液状便で1mL、固形便で小指大)	29	冷蔵	リアルタイムPCR	450 微生物	2 ~ 6	ToxinB遺伝子、Binary toxin遺伝子、変異型tcdC遺伝子、O27型株判定を(+), (-)で報告。 (注1) ① 18
	869	大腸菌ベロトキシン定性 5E115	菌株		室温	RPLA	184 微生物	3 ~ 4	(注2) ②
	1468	マイコプラズマ分離同定 6B405	呼吸器系材料	凍結不可 104 冷蔵	冷蔵	マイコプラズマ用培地による培養	99 ページ参照	10 ~ 15	18
	876	MRSAスクリーニング 6B050	咽頭液/鼻腔粘液/その他		冷蔵	培養同定法	—	2 ~ 4	健診・院内感染対策関連スクリーニング検査としてご依頼下さい。
	877	MRSA/緑膿菌スクリーニング	咽頭液/鼻腔粘液/その他		冷蔵	培養同定法	—	2 ~ 4	健診・院内感染対策関連スクリーニング検査としてご依頼下さい。

(注1)以下の容器でのご提出は受付不可となります。

容器番号：38 キャリブレア培地入り容器、容器番号：40 細菌検査用スワブ

(注2)菌株でのご提出される場合、あらかじめご一報下さい。

① クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出

ア. クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出は、以下の(イ)～(ハ)をいずれも満たす入院患者に対して実施した場合に限り算定する。

(イ) Clostridium difficile (CD)感染症を疑う場合であって、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性検査において、CD抗原陽性かつCDトキシン陰性であること。

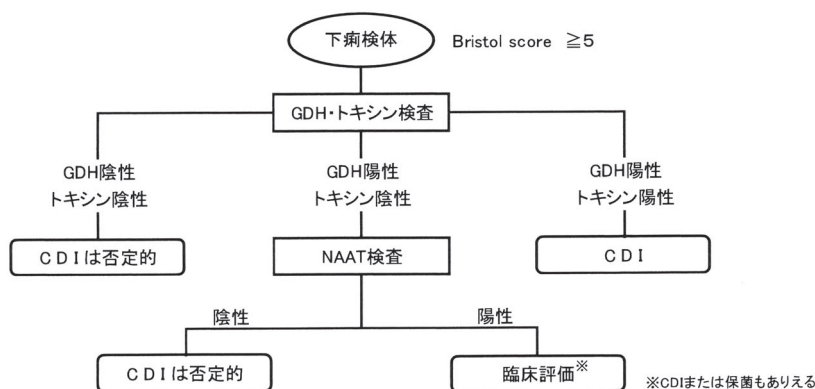
(ロ) 2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。

(ハ) 24時間以内に3回以上、又は平常時よりも多い便回数があること。

イ. 本検査は、関連学会の定める指針に基づき実施した場合に算定できる。なお、下痢症状並びに本検査を行う前のCD抗原及びCDトキシンの検査結果について診療録に記載すること。

② 大腸菌ベロトキシン定性は、細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。

●ご参考：C.difficile検査のフローチャート



<通常診療におけるC.difficile検査の考え方(フローチャート)>

迅速診断キットでGDH・トキシン検査を行い、その結果に基づいてNAATを組み合わせるアルゴリズムである。一般的にGDHの感度はある程度高いことが知られており、GDH陽性・トキシン陽性はCDI、GDH陰性・トキシン陰性の場合CDIは否定的となる。一方、糞便検体におけるトキシン検査の感度は低いことから、GDH陽性・トキシン陰性の結果では、トキシン産生株と非産生株を区別することはできない。したがって、GDH陽性・トキシン陰性結果の検体を対象として、NAAT法を行うことにより、トキシン産生であれば病態とともにCDIを判断し、トキシン非産生であればCDIは否定的で抗C.difficile薬は不要であり、下痢として他の原因を考慮することとなる。

Clostridioides difficile 感染症診療ガイドラインより引用



一般細菌薬剤感受性サンリツセット

系 統	一 般 名	略号	報告薬剤											
			ブメチシリン 球感受性菌	ブメチシリン 球耐性菌	腸 球 菌	連 鎖 球 菌	グラム 陽性 桿菌	腸 内 細 菌	グラム 陰性 桿菌 酵	インフル エンザ 菌	モ ラ ク セ ラ (ブ ラ ン ハ メ ラ)	淋 菌	嫌 気 性 菌	キャン ピ ロ バ ク タ ー
ペニシリン系	ペニシリン	PCG	●		●	●	●					●	●	
	アンピシリン	ABPC	●		●			●		●		●	●	●
	ピペラシリン	PIPC							●					
βラクタマーゼ阻害剤 配合薬	スルバクタム/アンピシリン	SBT/ABPC						●		●	●	●	●	
アミノグリコシド系	ゲンタマイシン	GM	●	●					●					
	アミカシン	AMK						●	●					
	アルベカシン	ABK		●										
テトラサイクリン系	ミノサイクリン	MINO	●	●	●	●	●		●					●
マクロライド系	エリスロマイシン	EM	●		●	●	●							●
	アジスロマイシン	AZM								●	●			
セファロスポリン系	セファゾリン	CEZ	●				●	●		●				
	セフォチアム	CTM						●		●				
	セフトリアキソン	CTRX				●	●			●		●		
	セフトアジジム	CAZ						●	●				●	
	セフカベンピボキシル	CFPN-PI				●				●	●			
オキサセフェム系	フロモキシセフ	FMOX						●					●	
リンコマイシン系	クリンダマイシン	CLDM	●	●		●	●						●	●
ニューキノロン系	レボフロキサシン	LVFX	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
カルバペネム系	イミペネム	IPM/CS	●		●		●		●	●			●	
	メロペネム	MEPM				●		●	●	●	●		●	
グリコペプチド系	バンコマイシン	VCM		●	●	●	●						●	
その他	ホスホマイシン	FOM	●	●					●	●				●

※上記以外の薬剤につきましてはお問い合わせ下さい

薬剤感受性検査 結果判定基準

表示方法	内 容	
S	Susceptible	感受性
I	Intermediate	中間
R	Resistant	耐性

抗酸菌 薬剤感受性セット

	結核菌群用	非結核性抗酸菌	
		遅発育抗酸菌 (SGM)	迅速発育抗酸菌 (RGM)
1	ストレプトマイシン (SM)	クラリスロマイシン (CAM)	アミカシン (AMK)
2	パラアミノサリチル酸ナトリウム (PAS)	アジスロマイシン (AZM)	トブラマイシン (TOB)
3	イソニアジド (INH)	モキシフロキサシン (MFLX)	イミペネム (IPM)
4	硫酸カナマイシン (KM)	シタフロキサシン (STFX)	ファロペネム (FRPM)
5	塩酸エタンプトール (EB)	アミカシン (AMK)	レボフロキサシン (LVFX)
6	リファンピシン (RFP)	カナマイシン (KM)	モキシフロキサシン (MFLX)
7	エチオナミド (TH)	ミノサイクリン (MINO)	アジスロマイシン (AZM)
8	サイクロセリン (CS)	ドキシサイクリン (DOXY)	クラリスロマイシン (CAM)
9	レボフロキサシン (LVFX)	イソニアジド (INH)	スルファメトキサゾール/トリメトプリム (ST)
10	—	リネゾリド (LZD)	ドキシサイクリン (DOXY)
11	—	エタンプトール (EB)	メロペネム (MEPM)
12	—	エチオナミド (ETH)	リネゾリド (LZD)
13	—	リファブチン (RBT)	クロファジミン (CLF)
14	—	リファンピシン (RFP)	シタフロキサシン (STFX)

- * 1：同定された菌種により、遅発育抗酸菌用試薬(ブロスミック SGM)と迅速発育抗酸菌用試薬(ブロスミックRGM)のどちらかを選択して検査いたします。実施薬剤の選択はできません。
- * 2：5週を越えて培養した培地上の菌株の場合、新鮮な培養菌を得るために、株を再培養する期間が必要です。

微生物学検査のご依頼について

起炎菌を検索する際に有益な情報となりますのでご協力をお願いいたします

【ご依頼上の注意】

〔必要情報〕

- 1) 材料採取部位、材料名を必ず依頼書に明記して下さい。
- 2) 薬剤投与歴、特に薬剤投与中の場合は依頼書に明記して下さい。
- 3) 臨床症状が記載されている場合は起炎菌検索を目的とした検査を実施いたします。
- 4) 目的菌名の記載がある場合は日常実施の培養法に加え、さらに目的菌用に培地・培養法を追加致します。
 - ①糞便材料では、便の状態、海外渡航歴等の記載がある場合、目的菌を追加いたします。
(例) 病原性大腸菌、腸炎ビブリオ、コレラ菌、カンピロバクター、ブドウ球菌、エルシニア菌など
 - ②呼吸器材料で特定の細菌検索を目的とする場合は目的菌を明記して下さい。
(例) レジオネラ菌、百日咳菌など

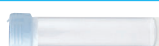
〔検体採取・保存に関する注意事項〕

- 1) 原則として、発病・発熱初期の抗菌薬投与前に採取して下さい。
- 2) 抗菌薬投与後に採取する場合は24～48時間以上中止してから採取して下さい。
中止できない場合は、次回投薬直前に採取して下さい。
- 3) 検体採取時は環境細菌の汚染や常在菌等の混入を極力避けて下さい。
- 4) 消毒薬の混入を避けて下さい。
- 5) 検体が乾燥すると多くの微生物は死滅する為、検体の乾燥は避けて下さい。
- 6) 検体採取後は直ちに当社指定の容器に入れ保存条件を守って下さい。
- 7) 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターなどの嫌気性菌の保存に適した容器に採取して下さい。
もしくは滅菌スピッツなどに検体をできるだけ多く採取してご提出下さい。

〔抗酸菌遺伝子検査の留意点〕

- 1) 血液混入検体や組織等の材料によっては、阻害物質により結果が偽陰性になることがあります。
- 2) 検体量不足などの材料につきましては、陰性の場合、ご報告時に参考値のコメントを付記させていただきます。
- 3) 胸水、腹水、髄液、関節液等の採取にあたっては、フィブリン析出防止のため、必ずEDTAを用いて採取して下さい。
ヘパリンは反応を阻害しますので使用しないで下さい。
- 4) 組織は生材料にてご提出下さい。
- 5) 検体は冷蔵保存をして下さい。
- 6) 検査結果において、陽性の場合、結核菌群あるいはマイコバクテリウム アビウム、
マイコバクテリウム イントラセラー (MAC) の存在を示唆します。(陰性の場合、必ずしも存在を否定するものではありません。臨床症状や他の検査結果などと併せて総合的に判断していただきますようお願い致します。)

主な微生物輸送培地・容器

材 料		容器番号	喀咽痰粘液	便	胆汁	尿	尿道分泌物	膣分泌物	血液	リコール	体腔液	膿開放	膿非開放	耳漏	検体の保存
輸送容器	細菌検査用スワブ (一般細菌用)		40												冷蔵
	細菌検査用スワブ (耳鼻咽喉頭用)		40												冷蔵
	キャリブレア培地		38												冷蔵
	好気用ボトル		37												室温
	嫌気用ボトル		37												室温
	ケンキポーター		34												冷蔵
	トリコモナス培地		36												室温
	滅菌スピッツ		27												冷蔵
	採痰管		35												冷蔵

主として用いられる検体 必要に応じて用いられる検体

細菌、真菌を対象とした検体の採取と保存

材 料	採取容器	採取量及び保存条件	備 考
血液	血液培養ボトル 37	成人は1本に10mL 小児は3～4mL 冷蔵不可 室温	・好気用、嫌気用ボトル2本で1セットとする。 ・検出感度の上昇及び、コンタミネーションを判断する為、2セットを別々の部位から続けて採取することが望ましい。 ・動脈血と静脈血で検出率に有意差はない。 ・採血時期： 悪寒戦慄の出現時、38℃以上の発熱時(初期が最も最適)。 抗菌薬投与中の患者では投与中止後(1～3日)後。 抗菌薬の投与を中止できない場合は次の投与の直前(血液中の抗菌薬濃度が最も低い時期)。 ・採入手順 (1) 血液培養ボトルのキャップをはずし、ゴム栓表面を消毒する。 (2) 採血部位をアルコールで清拭する。 (3) 皮膚が乾燥したら、ヨードチンキで穿刺箇所を中心として外側に向かって円を描くように塗布し、自然乾燥させる。 (4) 消毒液が乾燥してから採血する。 (5) 2本のボトル(好気用、嫌気用)に血液を接種し、静かに混和する(各ボトル5～10mL)。
髄液	滅菌スピッツ 27	2mL以上 冷蔵 (または常温)	・髄膜炎菌が疑われる場合は冷蔵保存不可。
穿刺液 (胸水、腹水、関節液など)	滅菌スピッツ 27	5mL以上 冷蔵	・膿性で悪臭のあるものは嫌気性菌を疑う。
カテーテル先	滅菌スピッツ 27	先端部分を5～6cm 冷蔵	・血管カテーテルに滅菌生理食塩水を2～3mL添加し、乾燥を防ぐ。
喀痰	採痰管 35	2mL以上 冷蔵	・早朝起床時に採取することが望ましい。 ・採取前にうがいをし、口腔内を清潔にする。 ・強く咳をして下気道から痰を喀出させる。 ・唾液の混入は極力避け、口腔内常在菌の混入を抑える。 ・検査には膿性痰が適する。
咽頭・扁桃周囲膿瘍	細菌検査用スワブ 40	 冷蔵	・検体を採取する際、口腔内常在菌の混入を避けるため、綿棒は病変部以外に触れないようにして採取する。
尿	滅菌スピッツ 27	1mL以上 冷蔵	・淋菌やトリコモナスを目的とする場合には室温で保存する。 ・蓄尿では検査を行わない。
糞便	採便容器 38	母指頭大(3～5g) 冷蔵	・下痢や血便のみられる急性期に採取する。 ・とくに粘血や膿汁を含む場合は、その部位を採取する。 ・自然排便が望ましいが、タイミングよく糞便を採取出来ない場合はスワブを肛門から数cm挿入し注意深く回転させ採取する。
膿・分泌物 (眼脂・耳漏・鼻汁・褥創・腔分泌物など)	細菌検査用スワブ 40	1mL以上 冷蔵	・創部は深部より採取する。 ・淋菌、髄膜炎菌を検査する場合には冷蔵保存不可。
胃粘膜 (ヘリコバクターピロリ)	HP培地 61	 冷蔵	・胃内分布が均一でないことから、胃前庭部と胃体部の2カ所から採取することが望ましい。 ・採取組織を速やかに専用容器の線の位置まで埋め込む。
組織	滅菌スピッツ 27	5mg以上 冷蔵	・乾燥防止のため滅菌生理食塩水を加える

培養同定(消化管(糞便材料))

便培養同定につきまして、好気培養後に「同定確認試験・腸管出血性大腸菌選択培地（エンテロヘモリジン培地）」を使用し溶血の有無を確認後、腸管出血性大腸菌の可能性のある大腸菌のみ大腸菌血清型別の検査を実施いたします。

腸管出血性大腸菌選択培地 (エンテロヘモリジン培地)	大腸菌血清型別	コメント
溶血 (+)	検査実施	上記の大腸菌は3類感染症です。
溶血 (－) *	検査未実施	検出された大腸菌は大腸菌血清型別の適用外です。

* 好気培養で大腸菌が発育しても腸管出血性大腸菌選択培地（エンテロヘモリジン培地）が溶血（－）の場合、大腸菌血清型別の結果は「検出された大腸菌は大腸菌血清型別の適用外です」としてご報告いたします。

主要細菌名一覧表（対和名表）

菌名	カナ	和名・慣用名	菌名	カナ	和名・慣用名
<i>Streptococcus</i> <i>α-Streptococcus</i> <i>β-Streptococcus</i> <i>γ-Streptococcus</i> <i>Streptococcus pyogenes</i> <i>Streptococcus agalactiae</i> <i>Streptococcus pneumoniae</i>	ストレプトコッカス アルファ・ストレプトコッカス ベータ・ストレプトコッカス ガンマ・ストレプトコッカス ストレプトコッカス・ピオゲネス ストレプトコッカス・アガラクティエ ストレプトコッカス・ニューモニエ	緑色連鎖球菌 溶血性連鎖球菌 非溶血性連鎖球菌 A群溶連菌、化膿性連鎖球菌、GAS B群溶連菌、GBS 肺炎球菌	<i>Salmonella</i> Typhimurium <i>Salmonella</i> Enteritidis	サルモネラ・チフィムリウム サルモネラ・エンテリチジス	ネズミチフス菌 腸炎菌
<i>Enterococcus</i> <i>Enterococcus faecalis</i> <i>Enterococcus faecium</i>	エンテロコッカス エンテロコッカス・フェカリス エンテロコッカス・フェシウム	腸球菌、D群連鎖球菌 糞便連鎖球菌、腸球菌	<i>Shigella</i> <i>Shigella dysenteriae</i> <i>Shigella flexneri</i> <i>Shigella boydii</i> <i>Shigella sonnei</i>	シゲラ シゲラ・デッセンテリエ シゲラ・フレクスネリ シゲラ・ボイディ シゲラ・ゾンネ	赤痢菌 志賀赤痢菌 フレキシネル赤痢菌 ボイド赤痢菌 ゾンネ赤痢菌
<i>Staphylococcus</i> <i>Staphylococcus aureus</i> <i>Staphylococcus epidermidis</i> MRSA (Methicillin-Resistant <i>Staphylococcus Aureus</i>)	スタフィロコッカス スタフィロコッカス・アウレウス スタフィロコッカス・エピデルミディス	黄色ブドウ球菌 表皮ブドウ球菌 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	<i>Vibrio</i> <i>Vibrio cholerae</i> <i>Vibrio parahaemolyticus</i>	ビブリオ ビブリオ・コレレ ビブリオ・パラヘモリチカス	コレラ菌 腸炎ビブリオ
<i>Neisseria</i> <i>Neisseria gonorrhoeae</i> <i>Neisseria meningitidis</i>	ナイセリア ナイセリア・ゴノロエア ナイセリア・メニンギチデス	淋菌 髄膜炎菌	<i>Pseudomonas aeruginosa</i> <i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	シュウドモナス・アエルギノーザ ステノトロホモナス・マルトフィリア	緑膿菌
<i>Escherichia coli</i> EPEC (enteropathogenic <i>Escherichia coli</i>) ETEC (enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>) EIEC (enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>) EHEC (enterohemorrhagic <i>Escherichia coli</i>)	エシェリシア・コリ	大腸菌 病原性大腸菌 毒素原性大腸菌 腸管組織侵入性大腸菌 腸管出血性大腸菌	<i>Moraxella (Branhamella) catarrhalis</i> <i>Haemophilus influenzae</i> <i>Haemophilus ducreyi</i>	モラクセラ (ブランハメラ)・カタラリス ヘモフィルス・インフルエンザ ヘモフィルス・デュクレイ	カタル球菌 インフルエンザ菌 軟性下疳菌
<i>Klebsiella</i> <i>Klebsiella pneumoniae</i> <i>Klebsiella oxytoca</i>	クレブシェラ クレブシェラ・ニューモニア クレブシェラ・オキシトカ	肺炎桿菌 オキシトカ菌	<i>Bordetella pertussis</i>	ボルデテラ・ベルツシス	百日咳菌
<i>Enterobacter</i> <i>Enterobacter aerogenes</i> <i>Enterobacter cloacae</i>	エンテロバクター エンテロバクター・アエロゲネス エンテロバクター・クロアカ		<i>Legionella pneumophila</i>	レジオネラ・ニューモフィラ	在郷軍人病菌
<i>Citrobacter</i> <i>Citrobacter freundii</i> <i>Citrobacter koseri</i>	シトロバクター シトロバクター・フレンディ シトロバクター・コセリ		<i>Bacillus</i> <i>Bacillus anthracis</i> <i>Bacillus cereus</i> <i>Bacillus subtilis</i>	バシラス バシラス・アンスラシス バシラス・セレウス バシラス・サブチリス	炭疽菌 セレウス菌 枯草菌
<i>Serratia marcescens</i>	セラチア・マルセッセンス	霊菌	<i>Corynebacterium diphtheriae</i> <i>Listeria monocytogenes</i> <i>Doderlein-Bacillus</i> <i>Lactobacillus</i>	コリネバクテリウム・ジフテリア リステリア・モノサイトゲネス デーデルライン・バシラス ラクトバシラス	ジフテリア菌 リステリア菌 乳酸桿菌
<i>Proteus</i> <i>Proteus mirabilis</i> <i>Proteus vulgaris</i> <i>Providencia stuartii</i> <i>Morganella morganii</i>	プロテウス プロテウス・ミラビリス プロテウス・ブルガリス プロビデンシア・スチュアルティ モルガネラ・モルガニ	モルガン菌	<i>Clostridium</i> <i>Clostridium botulinum</i> <i>Clostridium perfringens</i> <i>Clostridium tetani</i> <i>Clostridioides difficile</i>	クロストリジウム クロストリジウム・ボツリヌム クロストリジウム・パーFRINGENS クロストリジウム・テタニ クロストリジオイデス・ディフィシル	ボツリヌス菌 ウエルシュ菌、ガス壊疽菌 破傷風菌
<i>Yersinia</i> <i>Yersinia pestis</i> <i>Yersinia enterocolitica</i> <i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	エルシニア エルシニア・ペスチス エルシニア・エンテロコリチカ エルシニア・シュードツバルクローシス	ペスト菌 腸炎エルシニア 仮性結核菌	<i>Mycobacterium (acid-fast bacteria)</i> <i>Mycobacterium tuberculosis</i> <i>Mycobacterium bovis</i> <i>Mycobacterium avium</i>	マイコバクテリウム マイコバクテリウム・ツバルクローシス マイコバクテリウム・ボビス マイコバクテリウム・アビウム	抗酸菌 結核菌、人型結核菌 ウシ型結核菌 トリ型結核菌
<i>Salmonella</i> <i>Salmonella Typhi</i> <i>Salmonella Paratyphi A</i> <i>Salmonella Paratyphi B</i>	サルモネラ サルモネラ・チフィ サルモネラ・パラチフィーA サルモネラ・パラチフィーB	サルモネラ菌 チフス菌 パラチフスA菌 パラチフスB菌	<i>Trichophyton</i> <i>Trichophyton mentagrophytes</i> <i>Trichophyton rubrum</i>	トリコフィトン トリコフィトン・メンタグロフィテス トリコフィトン・ルブルム	白癬菌 毛癬 (白癬) 菌 紅色 (白癬) 菌
			<i>Microsporum</i> <i>Microsporum canis</i> <i>Microsporum gypsum</i>	ミクロスポルム ミクロスポルム・カニス ミクロスポルム・ギプセウム	小孢子菌 イヌ小孢子菌 石膏様小孢子菌
			<i>Epidermophyton floccosum</i>	エピデルモフィトン・フロココーズム	鼠径表皮菌

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
糞便検査	701	虫卵 (塗抹)	糞 便 親指頭大	29	冷蔵	薄層塗抹法	(-)	20	2 3	検体は、乾燥させないように保存して下さい。
	710	消化状態	糞 便 親指頭大	29	冷蔵	ズダンⅢ染色法 ヨード染色法	デンプン球(-) 脂肪球(-)	尿便	2 3	検体は、乾燥させないように保存して下さい。
	702	虫卵 (集卵)	糞 便 親指頭大	29	冷蔵	浮遊法/ 遠心沈澱法	(-)	15 尿便	2 3	検体は、乾燥させないように保存して下さい。
	703	蟻虫卵 (セロテープ)	セロテープ 粘着標本	33	冷蔵	セロテープ法	(-)	20 尿便	2 3	
	704	(オルトトリジン) 潜血反応 (グアヤック)	糞 便 親指頭大	29	冷蔵	オルトトリジン法 グアヤック法	(-) (-)	- -	2 3 2 3	
	721	便中ヘモグロビン (ラテックス)	糞 便 (専用容器)	31	冷蔵	ラテックス 凝集法	(-)	37 尿便	2 3	④ 採取方法については、138ページを ご参照下さい。
	2399	ヘモグロビン及び トランスフェリン	糞 便 (専用容器)	32	冷蔵	ラテックス 凝集法	(-)	56 尿便	2 3	
	707	アメーバ検査	糞 便 親指頭大	29	室温	直接塗抹法 (ヨード法)/ 遠心沈澱法	(-)	67 微生物	2 3	
	715	虫体検出	糞 便	44	室温	鏡検法	検出せず	23 尿便	2 7	検体は、乾燥させないで下さい。
	5771	カルプロテクチン (糞便)	糞 便 1.00g	29	凍結	FEIA	50.0以下	268 尿便	3 6	① ※ 採取後3日以内に凍結してご提出 下さい。
腹水・胸水・穿刺液・関節液	792	蛋白定量	各0.3	27	冷蔵	ビウレット法/ 屈折計法	浸出液 4.0以上 漏出液 2.5以下	11 生I	2 3	
	793	糖定量				酵素法		11 生I	2 3	
	790	リバルタ反応				リバルタ反応法	浸出液 (+) 漏出液 (-)	-	2 3	
	791	比重				屈折計法	浸出液 1.018以上 漏出液 1.015以下	-	2 3	
	794	沈渣	全量 又は 5.0	27	冷蔵	遠沈鏡検法		-	2 3	
	787	尿酸・ピロリン酸結晶				鏡検法	(-)	50 尿便	2 3	
精液検査	782	精液量	精液全量	35	室温		2.0～4.0	70	1	予約検査
	784	精子数				Maccomber Sanders	5,000以上		1	
	780	精子運動率				鏡検法		尿便	2	
	781	精子奇形率				鏡検法				
	783	pH				試験紙法	7.0～8.0	-		
その他	757	皮膚疥癬	皮膚片	27	室温	鏡検法	検出せず	67 微生物	2 4	

- ① ア カルプロテクチン(糞便)を慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定する場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施する。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- イ 本検査を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ウ 慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助又は病態把握を目的として、大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
- ※ ・炎症性腸疾患と機能性腸疾患とのカットオフ値：50.0mg/kg
・潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性評価のカットオフ値：300.0mg/kg
・クローン病の内視鏡的活動性評価のカットオフ値：80.0mg/kg

病理学的検査

区分	コード No.	検査項目	検査材料提出量	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
細胞診	951	円蓋部(膣部 V)	1枚	20	室温	パバニコロウ染色	150	4 ~ 6	スライドガラスのフロスト部分に鉛筆で患者名・材料名(V・P・EC・EM)を明記して下さい。 自己採取では十分な検体が得られず、正確な判定が困難場合があります。 生材料での提出は細胞破壊の恐れがあります。できる限り固定標本でのご提出をお願いします。
		子宮膣部(P)							
		子宮頸部(EC)							
	952	子宮体部(EM)	※乾燥厳禁						
		外陰部(VUL)							
	951	膣断端							
		自己採取吸引細胞診							
	3413 3750	液状処理細胞診加算(LBC)	子宮頸部・膣部擦過細胞	78 92		Thin Prep、Sure Path	45 病理	5 ~ 7	細胞診検査依頼書では、HPV-DNA検査は受託できません。 64
	932	喀痰	喀痰(生検体) 全量 湿潤固定標本 2枚	35	冷蔵	パバニコロウ染色	190 病理	4 ~ 6	塗抹固定した未染標本で提出される場合はスライドガラスのフロスト部分に鉛筆で患者名・材料名・固定法を明記して下さい。 細菌・一般検査とは別検体として下さい。 採取直後の液状検体は原則として冷蔵保存して下さい。 生材料での提出は細胞破壊の恐れがあります。できる限り固定標本でのご提出をお願いします。 三連痰(ポストチューブ)及び蓄痰(YM式)は3回分(3日間)の喀痰を提出していただきます。 採取方法についてはP114をご参照下さい。 64
	937	三連痰(ポストチューブ)	ポストチューブ式専用容器採取検体(3袋)	45	室温		190×3 病理		
	呼 吸 器	蓄痰(YM式)	YM式専用容器採取検体	46	室温		190 病理		
		気管支擦過	湿潤固定標本 2枚 および 乾燥固定標本 1枚	20	室温	パバニコロウ染色 ギムザ染色	190		
			湿潤固定標本 2枚 および 乾燥固定標本 1枚	20	室温				
		気管支洗浄液	湿潤固定標本 2枚 および 乾燥固定標本 1枚 または 生検体	27	冷蔵		病理		
	乳 腺	乳腺穿刺(右・左)	湿潤固定標本 2枚 および	20	室温	パバニコロウ染色 ギムザ染色	190 病理	5 ~ 7	
		乳頭分泌(右・左)	乾燥固定標本 1枚						
	泌 尿 器	自然尿	1枚 および 1枚 または 生検体	20 27	室温 冷蔵	パバニコロウ染色 ギムザ染色	190 病理	5 ~ 7	塗抹固定した未染標本で提出される場合はスライドガラスのフロスト部分に鉛筆で患者名・材料名・固定法を明記して下さい。 細菌・一般検査とは別検体として下さい。 採取直後の液状検体は原則として冷蔵保存して下さい。 生材料での提出は細胞破壊の恐れがあります。できる限り固定標本でのご提出をお願いします。 64
		膀胱洗浄液							
		カテ尿(膀胱)							
		右・左カテ尿(尿管)							
		陰嚢穿刺液							
	体 腔 液	精液	2枚 および 1枚 または 生検体	20 27	室温 冷蔵	パバニコロウ染色 PAS染色 ギムザ染色	190 病理	5 ~ 7	
		胸水							
		腹水							
		腹腔洗浄液							
		心嚢液							
		脳脊髄液							
	消 化 器 ・ 甲 状 腺 ・ 他	関節液	2枚 および 1枚 または 生検体	20 27	室温 冷蔵	パバニコロウ染色 ギムザ染色	190 病理	5 ~ 7	
		胆汁							
		唾液腺穿刺							
		リンパ節穿刺							
		甲状腺穿刺(右・左)							
		その他							64
追加項目	2852	(CD)スライド写真	固定標本	20			—	5 ~ 7	CD等、記録メディアへの対応可能別途料金となります。 64
	926	特殊染色	生検体および固定標本	20 27	室温 冷蔵	PAS染色・ギムザ染色 グロコット染色など	—	5 ~ 7	その他の特殊染色は、お問い合わせ下さい。 別途料金となります。 64

[ご注意]

- 細胞診検査提出の際の依頼書は、1臓器または1検体、または1報告につき1依頼書での提出をお願いします。
- 細胞診検査は必ずしも確定診断ではありません。報告内容は、ご提出いただいた標本において下されたものです。病変全体を反映するものではない事を予めご承知おき下さい。確定診断には病理組織検査等による総合的な判断をお勧めします。
- 細胞診検査におきましては、専門医の判定が必要な症例は、通常日数よりご報告が遅れることがあります。

① 「穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの」と「セルブロック法によるもの」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

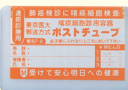
細胞診検査の判定基準について

1) 3段階分類と Class分類

3段階分類	Class分類	
陰 性 (Negative)	I	異型細胞あるいは異常細胞を認めない場合
	II	良性域と思われる異型細胞を認める場合
疑陽性 (Suspicious)	IIIa	悪性域を疑うあるいは否定できない異型細胞あるいは異常細胞を認める
	IIIb	強く悪性域を疑う異型細胞あるいは異常細胞を認める
陽 性 (Positive)	IV	悪性の疑いがきわめて濃厚な異型細胞を少数認める場合
	V	悪性と断定できる高度な異型細胞を認める場合

2) ベセスダシステムと Class分類の対応表

ベセスダシステム	Class分類	結 果	推定病変	次の対応
NILM（陰性）	I	正常		定期健診
	II	炎症・微生物等の非腫瘍性病変		
扁平上皮系異常				
ASC-US	II,Ⅲa	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	HPV検査が望ましいまたは6か月以内に細胞診再検
ASC-H	Ⅲa	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	コルポ、生検
LSIL	Ⅲa	軽度扁平上皮内病変	軽度異形成（CIN1）	コルポ、生検
HSIL	Ⅲa	高度扁平上皮内病変	中等度異形成（CIN2）	コルポ、生検
	Ⅲb		高度異形成（CIN3）	
			上皮内癌（CIS）	
SCC	V	扁平上皮癌	扁平上皮癌	コルポ、生検
腺系異常、その他の悪性				
AGC	Ⅲ	異型腺細胞	腺癌疑い	コルポ、生検、頸管および内膜細胞診または組織診
AIS	Ⅳ	上皮内腺癌	上皮内腺癌	
Adenocarcinoma	V	腺癌	腺癌	
Other malig.	V	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	病変検索

20	プレバカート	27	滅菌スピッツ管	35	採痰管	45	ポストチューブ (3連痰)	46	YM式喀痰管	47	婦人科自己採取容器	78	HPV-DNA 用容器	92	HPV-DNA 用容器
															

細胞診検査の判定基準について

3) ABC判定
肺がん検診における喀痰細胞診の判定基準(2016改訂)と3段階分類

判定区分	3段階分類	細胞所見	指導区分
A	陰性	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
B	陰性	正常上皮細胞のみ 基底細胞増生 軽度異型扁平上皮細胞 線毛円柱上皮細胞	現在異常を認めない 次回定期検査
C	陰性	中等度異型扁平上皮細胞 核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	再塗抹または6か月以内の再検査
D	疑陽性	高度(境界)異型扁平上皮細胞または悪性腫瘍が疑われる細胞を認める	直ちに精密検査
E	陽性	悪性腫瘍細胞を認める	

4) 乳腺細胞診の報告様式

判定区分	判定基準
1) 検体不適正 (inadequate)	標本作製不良(乾燥、固定不良、細胞挫滅、末梢血混入、厚い標本)または病変を推定するに足る細胞が採取されていないため診断が著しく困難な標本を指す。
2) 検体適正 (adequate)	
a) 正常あるいは良性 (normal or benign)	正常乳管および線維腺腫、乳管内乳頭種、乳腺症、良性葉状腫瘍、嚢胞、乳腺炎、脂肪壊死などが本区分に含まれる。
b) 鑑別困難 (indeterminate)	細胞学的に良・悪性の判定が困難な病変を指す。
c) 悪性の疑い (suspicious for malignancy)	主として異型の少ない非浸潤癌や小葉癌などが本区分に含まれる。
d) 悪性 (malignant)	乳癌、非上皮性悪性腫瘍が本区分に含まれる。

乳癌取り扱い規約(第18版), 金原出版株式会社, 2018 より抜粋

- ※判定した根拠を具体的に記載する。(検体不適正とした場合でもその根拠を明記すること)
- ※乳癌取り扱い規約組織分類に基づき可能な限り推定される組織型を付記する。
- ※「検体不適正」は総細胞診症例の10%以下が望ましい。
- ※「鑑別困難」は細胞診適正症例の10%以下が望ましい。
- ※「悪性の疑い」はその後の組織学的検索で、「悪性の疑い」の90%以上が悪性であることが望ましい。

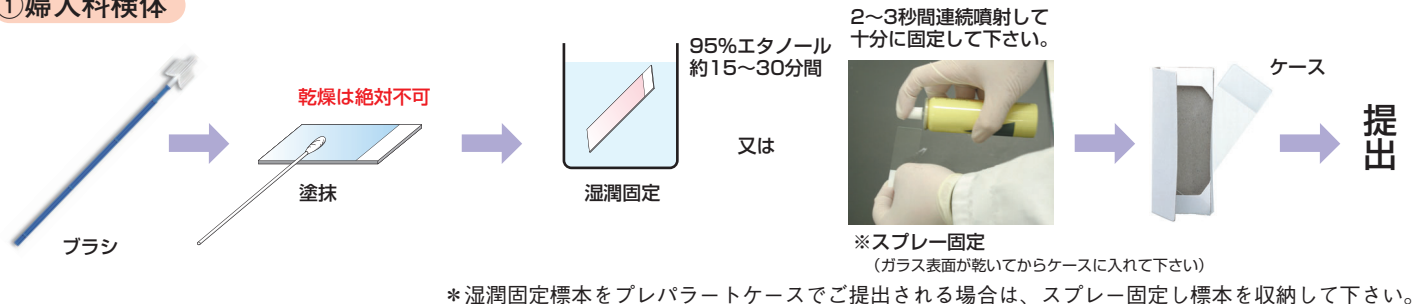
細胞診検査の判定基準について

5) 甲状腺細胞診の報告様式

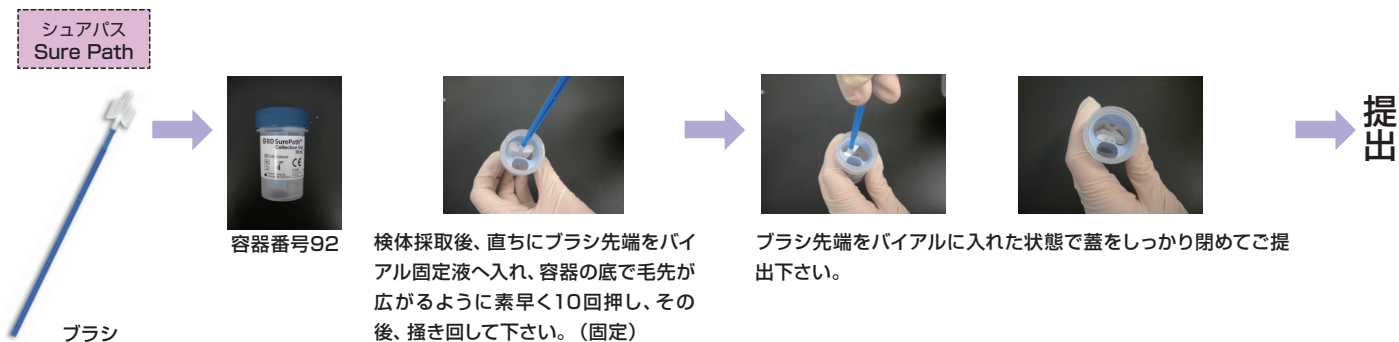
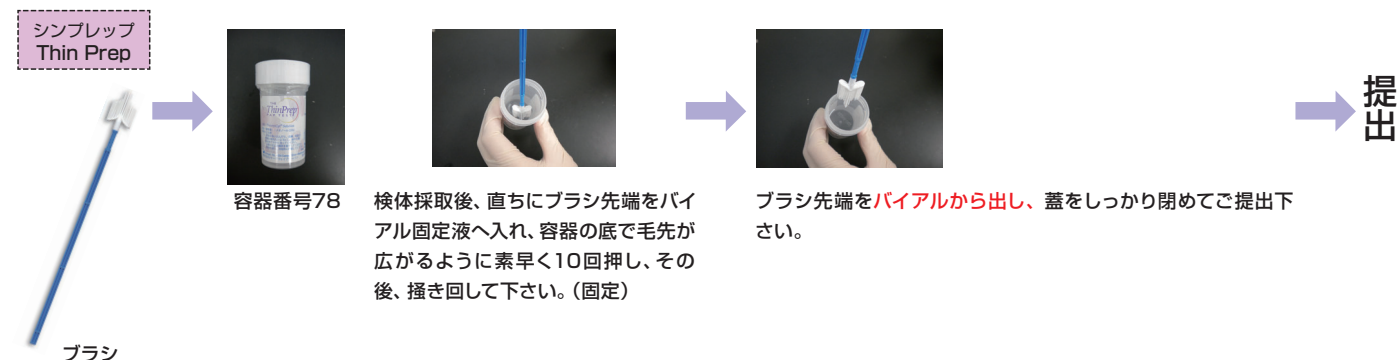
判定区分	所見	標本・疾患
検体不適正 (Unsatisfactory)	細胞診判定ができない。	標本作製不良(乾燥、変性、固定不良、末梢血混入、塗抹不良など)。病変を推定するに足る細胞あるいは成分(10個程度の濾胞上皮細胞からなる集塊が6個以上、豊富なコロイド、異型細胞、炎症細胞など)がない。
濾胞液 (Cyst Fluid)	濾胞液で、コロイドや濾胞上皮細胞を含まない。	良性の濾胞に由来する。まれに濾胞形成乳頭癌が含まれることがある。
良性 (Benign)	悪性細胞を認めない。	正常甲状腺、腺腫瘍甲状腺腫、甲状腺炎(急性、亜急性、慢性、リール)、バセドウ病などが含まれる。
意義不明 (Undetermined Significance)	良性・悪性の鑑別が困難、他の区分に該当しない、判定に苦慮する。	乳頭癌の可能性がある(乳頭癌を示唆する細胞が少数、腺腫様甲状腺腫と乳頭癌の鑑別が困難、橋本病と乳頭癌の鑑別が困難)、特定が困難な異型細胞が少数、濾胞性腫瘍と乳頭癌の鑑別が困難、橋本病とリンパ腫との鑑別が困難、などが含まれる。
濾胞性腫瘍 (Follicular Neoplasm)	濾胞腫瘍または濾胞癌が推定される、あるいは疑われる。	多くは濾胞腫瘍、濾胞癌である。好酸性細胞型や異型腺腫を推定する標本も含まれる。腺腫様甲状腺腫、濾胞型乳頭癌、副甲状腺腫のこともある。
悪性の疑い (Suspicious for Malignancy)	悪性と思われる細胞が少数または所見が不十分なため、悪性と判断できない。	種々の悪性腫瘍および硝子化索状腫瘍が含まれるが、その多くは乳頭癌である。乳頭癌を疑うが濾胞性腫瘍が否定できない標本も含まれる。良性疾患で含まれる可能性のあるものとしては、異型腺腫、腺腫様甲状腺腫、橋本病などがある。
悪性 (Malignant)	悪性細胞を認める。	乳頭癌、低分化癌、未分化癌、髄様癌、リンパ腫、転移癌などが含まれる。

甲状腺取扱い規約(第8版), 金原出版株式会社, 2019

① 婦人科検体



② 液状処理細胞診検体 (LBC)



検体採取の留意点

- ・スライドガラスにて提出の場合、フロスト部分に鉛筆で患者名、材料名を明記して下さい。(マジックペン不可)
- ・血液や粘液をなるべく入れないで下さい。
- ・固定保存液は容器に示された範囲内であることを確認の上、ご提出下さい。
- ・妊婦にはブラシを使用しないで下さい。

* 採取器具は以下を参考にして下さい。



サーベックスブラシ



エンドサーベックス
ブラシ標準



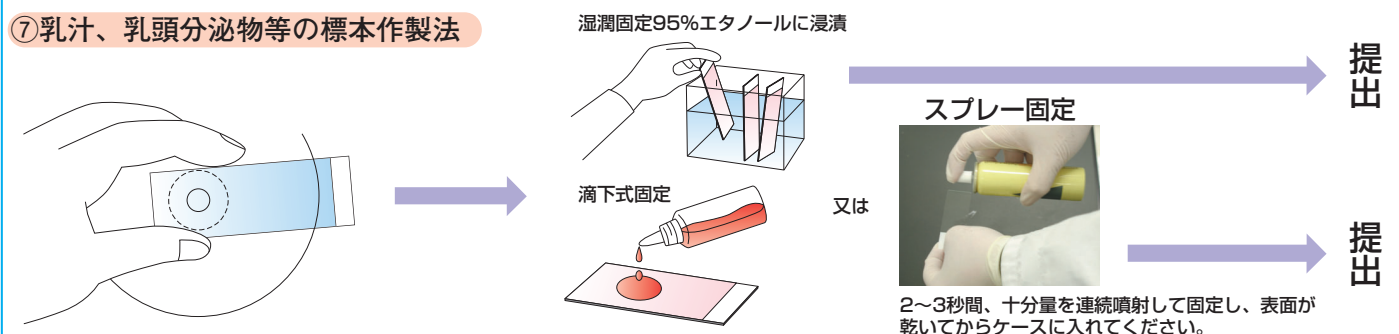
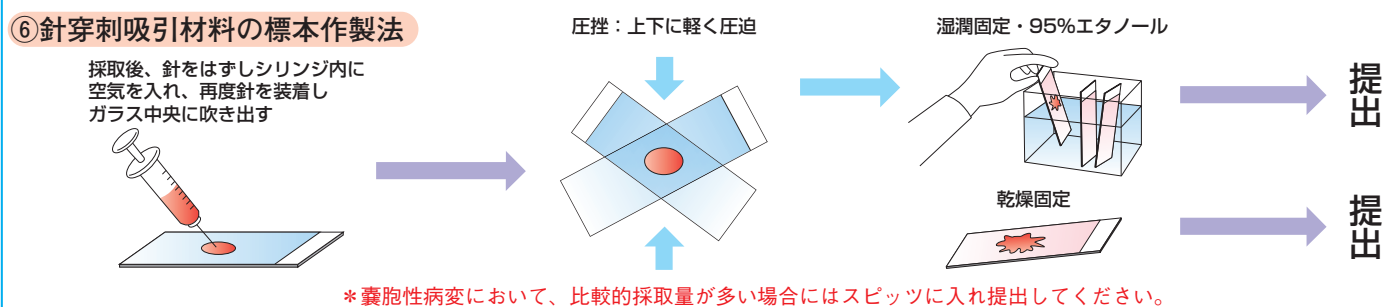
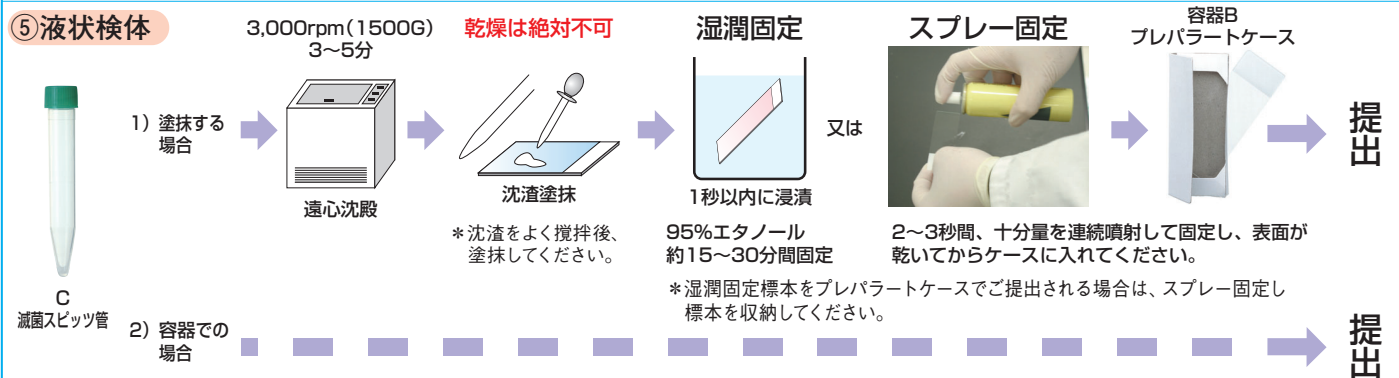
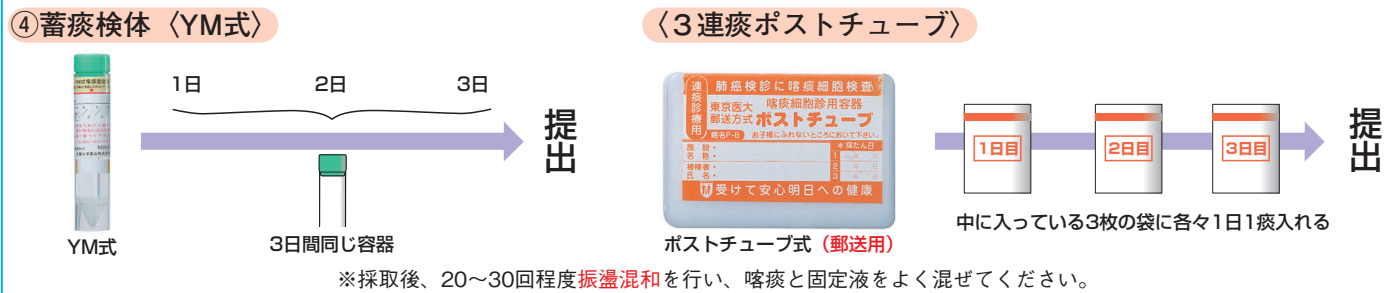
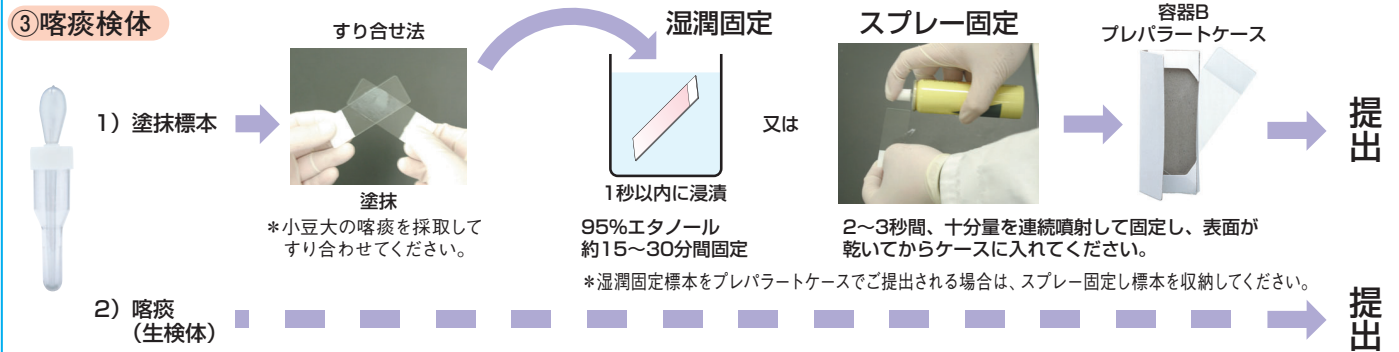
エンドサーベックス
ブラシSタイプ

◎ 湿潤固定標本とスプレー固定標本のご提出容器

① 95%エタノール入り容器：湿潤固定標本

② プレパレートケース (20容器)：スプレー固定標本。(湿潤固定標本を収納する場合は、スプレー固定液を噴霧し、乾燥させて下さい。)

細胞診検査 材料の提出方法



[ご注意]・スライドガラスにて提出の場合、フロスト部分に鉛筆で患者名、材料名を明記してください。(マジックペン、ボールペン不可)

◎湿潤固定標本：パピニコロウ染色に用いられます。

＜方法＞塗抹後1秒以内に95%エタノールに浸漬し、約15~30分固定するか、スプレー固定してください。

◎乾燥固定標本：ギムザ染色、PAS染色等に用いられます。

⑤⑥の材料には湿潤固定の他、必ず乾燥固定標本をつけて提出してください。

＜方法＞塗抹後、室温で乾燥させてください。

病理学的検査

区分	コード No.	検 査 項 目		検査材料提出量	容器	保 存	検 査 方 法	実施料 判断料	所要 日数	備 考				
病 理 組 織 検 査	901	組 織 診	1臓器	10%ホルマリン固定組織	44	室温	HE染色 病理専門医による 鏡検判定	860 病理	4 5 8	検査内容には標本作製と判定を含 みます。所要日数は一応の目安で す。切り出し、脱灰、再固定、特 殊染色等が生じた場合は更に日数 を要します。予め御了承下さい。 又判定が特定臓器専門医にまわっ た場合も同様です。				
	902		2臓器					1720 病理						
	903		3臓器					2580 病理						
	926		ヘリコバクター ピロリーの判定	10%ホルマリン固定組織	44	室温	HE染色またはギムザ 染色で光顕的に判定	※			胃の内視鏡下生検に限ります。 ※当該標本作製をヘリコバクター・ ピロリ感染診断を目的に行う場合 の保険診療上の取扱いについては、 136ページをご参照下さい。			
	940		判定のみ	染色済標本	20	室温	HE染色標本	—			病理報告書作成 染色済標本 2枚			
	925	組 織 診	ブロック作製	10%ホルマリン固定組織	室温	凍結	切り出し 包埋	—	4	119ページから120ページ参照				
	927		未染標本作製	パラフィンブロック			薄切	—	4 5 6					
	921		HE染色標本作製	10%ホルマリン固定組織			切り出し 包埋、薄切、染色	—						
							薄切、染色							
	926		特殊染色標本作製	パラフィンブロック 未染標本スライド			染色	400			7 5 12	1臓器につき1回限り算定できます。 確定診断のために4種類以上の抗体 を用いた免疫染色が必要な患者に 対して、標本作製を実施した場合は、 所定点数に1,200点を加算する。確定 診断のために4種類以上の抗体を用 いた免疫染色が必要な患者とは、悪 性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫 瘍(腺癌、扁平上皮癌)、消化管間質 性腫瘍(GIST)、慢性腎炎、内分泌腫瘍・ 軟部腫瘍・皮膚の血管炎、水疱症(天 疱瘡、類天疱瘡等)又は、悪性黒色 腫が疑われる患者を指す。		
							10%ホルマリン固定組織						切り出し 包埋、薄切、染色	
							パラフィンブロック		薄切、染色					
	956		酵素抗体染色 標本作製	未染標本スライド			染色	14						
							蛍光抗体染色		IgG、IgA、IgM、C3c					
	960		(追加)	C3d、C4、C1q フィブリノーゲン			病理							
	924		エストロジェン レセプター(ER)	パラフィンブロック または 10%中性緩衝ホルマリン 固定組織			室温		免疫組織化学染色	720	7 5 10	120ページ参照		
	3406		病理							690 病理	7 5 10	エストロジェンレセプター及びプ ロゲステロンレセプターの病理 組織標本作製を同一月に実施した 場合は、主たる病理組織標本作製 の所定点数に180点を加算する。		
	3407		プロゲステロン レセプター(PgR)											
	2721		HER2蛋白 免疫染色標本作製										690 病理	120ページ参照 ①
	3046		EGFRタンパク 免疫染色標本作製										690 病理	10 5 12
	4403	PD-L1タンパク 免疫染色標本作製	2700 病理		7 5 10	HER2蛋白の結果が(2+)の場合、追加 で遺伝子検査が必要とされています。 免疫染色病理標本作製を併せた場合 には3,050点となります。								
			2700 病理		7 5 11									
			DISH法		2700 病理	7 5 10								
	3418	HER2遺伝子 標本作製	高感度免疫染色法	2700 病理	6 5 9	HER2蛋白の結果が(2+)の場合、追加 で遺伝子検査が必要とされています。 免疫染色病理標本作製を併せた場合 には3,050点となります。								
	3771	ALK融合タンパク 《高感度IHC法》							02					
954	電子顕微鏡検査 1 (電顕微写真作製)	グルタールアルデヒド固定組織	25 27	室温 冷蔵		2000 病理	120ページ参照							
2852	マクロ ミクロ 写真作製	予めお問い合わせ下さい			—	CD等、記録メディアへの対応可能 ※1								
5800	セルブロック法	生検体(体腔液等)			860 病理	5 5 7	本法を利用し、免疫染色等をご希望 の場合はご相談下さい。※2							

※1 別料金となります。
※2 「セルブロック法によるもの」は、悪性中皮腫を疑う患者又は組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難な肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫若しくは乳癌を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルブロック法により標本作製した場合に算定する。
なお、肺悪性腫瘍、胃癌、大腸癌、卵巣癌、悪性リンパ腫又は乳癌を疑う患者に対して実施した場合には、組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

① HER2タンパクについては、化学療法歴のある手術不能又は再発乳癌患者について、過去に乳癌に係る「3」のHER2タンパクの免疫染色を実施した場合であって、抗HER2ヒトモノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応の判定を補助する目的で薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いて、HER2が低発現であることを確認し抗HER2ヒトモノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判定するためにHER2タンパクの免疫染色を再度行う場合に限り、当面の間、別に1回まで算定できる。
なお、再度免疫染色が必要である医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

区分	コード No.	検査項目	検査材料提出量	容器	保存	検査方法	実施料 判断料	所要 日数	備考
癌 関 連 遺 伝 子	5958	メラノーマBRAF変異解析 (ベムラフェニブ)	パラフィンブロック または 10%ホルマリン固定組織		室温	リアルタイムPCR	5000 遺染	5 11	BRAF V600Eを検出します。 本検査の場合、V600Eは、V600Kと V600Dとの交差反応性が認められ ます。 ※1、※3 ① ② ③ 02
	4435	メラノーマBRAF変異解析 (ダブルフェニブ、 エンコラフェニブ)				リアルタイムPCR	5000 遺染	5 11	BRAF V600EおよびV600Kの変異 を検出します。 ※3 ① ② ③ 02
	5939	EGFR変異解析v2.0				リアルタイムPCR	2500 遺染	4 7	※1、※3 ① ② ③ ④ 16
	5949	ROS1融合遺伝子解析				リアルタイム RT-PCR	2500 遺染	5 8	① ② ③ ④ 02
	4091	肺癌マルチCDx AmoyDx				リアルタイムPCR	12500 遺染	5 6	対象遺伝子変異117ページ参照 ※3 ⑤ 02
	4479 ・ 4480	肺癌マルチCDx遺伝子解析 (オンコマイン™ Dx Target Test マルチ CDx システム)				次世代シーケンス法	6000 + 12000 遺染	11 15	対象遺伝子変異117ページ参照 ※3 ① ② ③ ④ 02
	4423	肺癌KRAS G12C 変異解析				リアルタイムPCR (Scorpion-ARMS)	2500 遺染	5 11	※2、※3 ① ② ③ ④ 02
	5720 または 5976	RAS・BRAF遺伝子 変異解析				PCR-r SSO	4000 遺染	5 8	KRAS遺伝子およびNRAS遺伝子の それぞれcodon12、13、59、61、117お よび146のアミノ酸置換およびBRAF 遺伝子のcodon600のアミノ酸置換を 伴うV600Eの遺伝子変異を検出し、 変異の有無と変異型をご報告します。 ※1、※3 ① ② ③ ④ ⑥ ⑦ 64 02
	5922	KRAS遺伝子 変異解析				核酸増幅法 (Tm値解析法)	2100 遺染	2 6	64
子	5719 または 3758	マイクロサテライト 不安定性検査 (MSI解析) (免疫チェックポイント 阻害剤)	118ページ参照		118 ページ 参照	マルチプレックスPCR・ フラグメント解析法	2500 遺染	6 8	① ② ③ ④ 64 02

※1 ホルマリン固定パラフィン包埋 (foralin-fixed paraffin-embedded: FFPE) 処理後12カ月以内、未染スライド作製後60日以内にご提出下さい。

※2 ホルマリン固定パラフィン包埋 (foralin-fixed paraffin-embedded: FFPE) 処理後3年以内、未染スライド作製後4週以内にご提出下さい。

※3 強酸による脱灰操作をした検体は検査できません。

- ① 悪性腫瘍遺伝子検査として、固形腫瘍または悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、肺癌における「EGFR変異解析」については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。
- ② 悪性腫瘍遺伝子検査の算定に当たっては、該当する遺伝子検査を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
- ③ 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」または「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できる。
- ④ 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して悪性腫瘍遺伝子検査を実施した場合は以下の点数で算定できる。
「処理が容易なもの」2項目：4000点、3項目：6000点、4項目以上：8000点。
「処理が複雑なもの」2項目：8000点、3項目以上：12000点。
- ⑤ 肺癌患者の腫瘍組織を検体とし、患者1人につき1回に限り算定できる。
「肺癌マルチ遺伝子PCRパネル」と「悪性腫瘍遺伝子検査」および「EGFR変異解析(血漿)」、「ALK融合タンパク」、「ALK融合遺伝子解析」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できる。
- ⑥ 大腸癌患者における治療方針の決定として、「RAS遺伝子検査」、「BRAF遺伝子検査」の2項目包括点数として4000点を算定できる。
- ⑦ 早期大腸癌におけるリンチ症候群の除外を目的に本検査を実施した場合は、「BRAF遺伝子検査」として2500点のみ算定できる。RAS遺伝子検査の所定点数を併せて算定することはできない。また、マイクロサテライト不安定性検査を実施した年月日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

コンパニオン診断薬対象遺伝子変異

項目コード 検査項目 (商品名)		4091 肺癌マルチCDx AmoyDx AmoyDx [®] 肺癌マルチ遺伝子PCRパネル	4479・4480 肺癌マルチCDx遺伝子解析 オンコマイン [™] Dx Target Test マルチ CDx システム
遺伝子変異など	EGFR遺伝子変異	エクソン19欠失	●
		L858R	●
		G719X	●
		S768I	●
		E709X	●
		T790M	●
		L861Q	●
		L861R	●
		エクソン20挿入	●
		C797S	●
	BRAF遺伝子変異 (V600E)	●	●
	KRAS遺伝子変異 (p.G12C)	●	●
	ALK融合遺伝子	●	●
	ROS1融合遺伝子	●	●
	RET融合遺伝子	●	●
	MET遺伝子エクソン14スキッピング変異	●	●
	ERBB2 (HER2) 遺伝子変異	●	●

●：検出対象、－：検出対象外

コンパニオン診断薬として用いられる検査項目と対象薬品

項目 コード	検査項目	適応疾患	測定対象	成分名	商品名
3734	CCR4タンパク解析 (FCM)	成人T細胞白血病リンパ腫 末梢性T細胞リンパ腫	CCR4タンパク	モガムリズマブ (遺伝子組換え)	ポテリジオ
4494	FLT3変異解析 ITD /TKD (FLT3阻害剤)	急性骨髄性白血病	FLT3遺伝子変異	キザルチニブ塩酸塩 ギルテリチニブフマル酸塩	ヴァンフリタ ゾスパタ
4429	EZH2変異解析 (タゼメトスタット)	濾胞性リンパ腫	EZH2変異	タゼメトスタット臭化水素酸塩	タズベリク
5958	メラノーマBRAF変異解析 (ベムラフェニブ)	悪性黒色腫	BRAF遺伝子変異 (V600E)	ベムラフェニブ	ゼルボラフ
4435	メラノーマBRAF変異解析 (ダブラフェニブ、エンコラフェニブ)		BRAF遺伝子変異 (V600E、V600K)	ダブラフェニブメシル酸塩および トラメチニブジメチルスルホキシド付加物 エンコラフェニブおよびビニメチニブ	タフィンラーおよび メキニスト ビラフトビおよび メクトビ
5939	EGFR変異解析v2. 0	非小細胞肺癌	EGFR遺伝子変異	アファチニブマレイン酸塩 オシメルチニブメシル酸塩 ゲフィチニブ エルロチニブ塩酸塩 ダコミチニブ水和物	ジオトリフ タグリッソ イレッサ タルセバ ビジンプロ
5949	ROS1融合遺伝子解析		ROS1融合遺伝子	クリゾチニブ クリゾチニブ	ザーコリ ザーコリ
4091	肺癌マルチCDx AmoyDx		ALK融合遺伝子	アレクチニブ塩酸塩 ブリグチニブ クリゾチニブ	アレセンサ アルンブリグ ザーコリ
			ROS1融合遺伝子	エヌトレクチニブ レボトレクチニブ	ロズリートレク オ-タイロ
			EGFR遺伝子変異	アファチニブマレイン酸塩 オシメルチニブメシル酸塩 ゲフィチニブ エルロチニブ塩酸塩	ジオトリフ タグリッソ イレッサ タルセバ
			BRAF遺伝子変異 (V600E)	ダブラフェニブメシル酸塩および トラメチニブジメチルスルホキシド付加物	タフィンラーおよび メキニスト
			MET遺伝子エクソン14 スキッピング変異	テボチニブ塩酸塩水和物 カプマチニブ塩酸塩水和物 グマロンチニブ水和物	テブミトコ タブレクタ ハイイータン
			KRAS遺伝子変異 (P.G12C)	ソトシラブ	ルマケラス
			RET融合遺伝子	セルベルカチニブ クリゾチニブ	レットヴィモ ザーコリ
			ALK融合遺伝子	アレクチニブ塩酸塩 クリゾチニブ	アレセンサ ザーコリ
			ROS1融合遺伝子	エヌトレクチニブ アファチニブマレイン酸塩	ロズリートレク ジオトリフ
			EGFR遺伝子変異	オシメルチニブメシル酸塩 ゲフィチニブ エルロチニブ塩酸塩	タグリッソ イレッサ タルセバ
4479 ・ 4480	肺癌マルチCDx遺伝子解析 (オンコマイン™ Dx Target Test マルチ CDx システム)		BRAF遺伝子変異 (V600E)	ダブラフェニブメシル酸塩および トラメチニブジメチルスルホキシド付加物	タフィンラーおよび メキニスト
			RET融合遺伝子	セルベルカチニブ	レットヴィモ
			ERBB2 (HER2) 遺伝子変異	トラスツズマブ デルクステカン	エンハーツ
			MET遺伝子エクソン14 スキッピング変異	カプマチニブ塩酸塩水和物	タブレクタ

(次頁に続く)

コンパニオン診断薬として用いられる検査項目と対象薬品

項目コード	検査項目	適応疾患	測定対象	成分名	商品名
4423	肺癌KRAS G12C変異解析	非小細胞肺癌	KRAS G12C変異	ソトラシブ	ルマケラス
5976	RAS・BRAF遺伝子変異解析	結腸・直腸癌	KRAS / NRAS遺伝子変異	パニツムマブ(遺伝子組換え)	ベクティビックス
				セツキシマブ(遺伝子組換え)	アービタックス
			BRAF遺伝子変異(V600E)	エンコラフェニブおよびセツキシマブ	ビラフトビおよびアービタックス
				エンコラフェニブおよびビニメチニブおよびセツキシマブ	ビラフトビおよびメクトビおよびアービタックス
3758	マイクロサテライト不安定性検査(MSI解析) (免疫チェックポイント阻害剤)	固形癌	マイクロサテライト不安定性	ベムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ
		結腸・直腸癌		ニボルマブ(遺伝子組換え)	オブジーボ
5946	PD-L1 (22C3) 肺癌<IHC>	非小細胞肺癌	PD-L1タンパク	ベムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ
	PD-L1 (22C3) 食道癌<IHC>	食道癌	PD-L1タンパク	ベムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ
	PD-L1 (22C3) 乳癌<IHC>	乳癌	PD-L1タンパク	ベムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ
5971	PD-L1 (28-8) 肺癌<IHC>	非小細胞肺癌	PD-L1タンパク	ニボルマブ(遺伝子組換え)	オブジーボ
	PD-L1 (28-8) 頭頸部癌・悪性黒色腫<IHC>	頭頸部癌	PD-L1タンパク	ニボルマブ(遺伝子組換え)	オブジーボ
		悪性黒色腫		ニボルマブおよびイピリムマブ	オブジーボおよびヤーボイ
	PD-L1 (28-8) 胃癌<IHC>	胃癌	PD-L1タンパク	ニボルマブ(遺伝子組換え)	オブジーボ
	PD-L1 (28-8) 食道癌<IHC>	食道扁平上皮癌	PD-L1タンパク	ニボルマブ(遺伝子組換え)	オブジーボ
	PD-L1 (SP142) 乳癌<IHC>	乳癌	PD-L1タンパク	アテゾリズマブ(遺伝子組換え)	テセントリク
4094	PD-L1 (SP142) 肺癌<IHC>	扁平上皮非小細胞肺癌	PD-L1タンパク	アテゾリズマブ(遺伝子組換え)	テセントリク
4096	PD-L1 (SP263) 肺癌<IHC>	非小細胞肺癌	PD-L1タンパク	デュルバルマブ	イミフィンジ
				アテゾリズマブ(遺伝子組換え)	テセントリク
3771	ALK融合タンパク<高感度IHC>	非小細胞肺癌	ALK融合タンパク	クリゾチニブ	ザーコリ
3772	肺がん ALK<FISH>	非小細胞肺癌	ALK融合遺伝子	アレクチニブ塩酸塩	アレセンサ
				クリゾチニブ	ザーコリ
4403	CLDN18 胃癌<IHC法>	胃癌	CLDN18タンパク	アレクチニブ塩酸塩	アレセンサ
				ゾルベツキシマブ	ピロイ

「マイクロサテライト不安定性検査(免疫チェックポイント阻害剤)」の材料

提出区分	部位	材料	提出量	保存方法
依頼時	癌部位	① 未染スライド および HE染色スライド	5枚 (5μm厚) ・ 癌部位マーク付き1枚	室温
		② 癌組織	30mg (3mm角)	凍結 (−70℃以下)

<依頼時>

- ・上記①②のどちらかをご提出下さい。
- ・病理組織診断にて腫瘍が認められた部位をマーク（実線で囲む）したHE染色スライドを併せてご提出下さい。その際は、癌部位に加え正常組織が明確に区別できるようご配慮願います。
- ・ホルマリン固定検体では、固定条件によって核酸の断片化が著しく、解析不能となる場合があります。検体の取り扱いについては、日本病理学会「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」をご参照下さい。
- ・強酸による脱灰操作をした検体は検査できません。

提出区分	部位	材料	提出量	保存方法
癌部位で結果未確定時	非癌部位	③ EDTA加血液	2mL	冷蔵
		または 未染スライド	5枚 (5μm厚)	室温
		または 正常組織	30mg (3mm角)	凍結 (−70℃以下)

<癌部位で結果未確定時>

- ・癌部位のみで判定できない場合、③の追加提出をお願いすることがあります。

病理組織 材料の提出方法

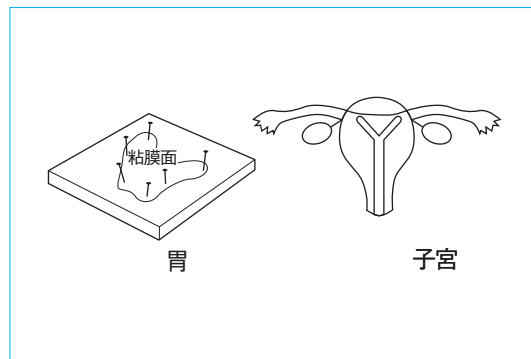
病理組織検査をご依頼の際は、検査材料を10%ホルマリン(局方ホルマリンの10倍希釈)固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、凍結組織などをご提出下さい。

【10%ホルマリン固定組織】

- 1) 検体は採取後、自己融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定して下さい。
- 2) 検体の固定には充分量の10%ホルマリン液をご使用下さい(組織の10~20倍量を目安として下さい)。
- 3) 内視鏡下生検材料等の微細組織をご提出の際は、濾紙等に貼り付け、10%ホルマリン液にお入れ下さい。
- 4) 内視鏡下生検材料等で複数個の微細組織をご提出の際は、濾紙に番号等を記入し、採取部位毎に組織片容器にお入れ下さい。
- 5) 手術摘出検体は、提出検体より大きい広口容器(又はタッパウェア等)に入れて提出して下さい。
- 6) 手術材料等の大きい組織をご提出の際は、下記図表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定して下さい。
- 7) 体細胞遺伝子検査に供する場合、10%中性緩衝ホルマリン液漬時間は24~72時間が推奨されます。

病理組織固定(ホルマリン固定)法

組 織	固 定 法
胃・腸管・胆嚢 等	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に広げ、虫ピンなどで止めて10%ホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端から固定液を注入し、割面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛け、10%ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開して固定液に入れます。
厚みのある臓器	予め割を入れてから固定液に入れます。
郭清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出下さい。＜別々の組織片容器にて固定＞



【未染標本スライド】

- 1) 患者名、検査番号等を明記し、切片が傷つかないようにしてご提出下さい。
 - 2) 染色時の剥離が充分考えられますので、数枚余分にご提出下さい。
 - 3) 酵素抗体法染色用スライドは、APS(シラン)coatingのものを使用し、37℃にて一晩乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出下さい。酵素抗体法染色用には原則として1項目につき2枚をご用意下さい。
- 注1：ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。
注2：切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不適となる場合があります。

【パラフィンブロック】

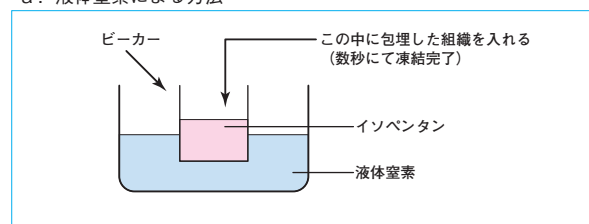
患者名、検査番号等を明記し、ご提出下さい。

注：ブロック作製までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

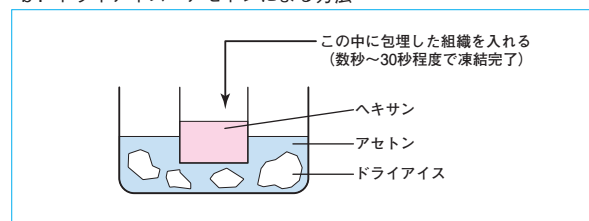
【凍結組織】

- 1) 組織の切り出し
切除された組織の必要部分を1cm角以内の大きさにトリミングします。
- 2) 組織の包埋
専用包埋皿(クリオモールドなど)に凍結用包埋剤(OCTコンパウンド)を入れ、組織を包埋皿の底に沈めます。
腎生検は、底に水平になるように沈め、皮膚その他の組織は、標本にしたい面を下にして、底に対し水平に下まで沈めて下さい。
- 3) 組織の凍結
「液体窒素・イソペンタン」または「ドライアイス・ヘキサン」による急速凍結を行って下さい(右図)。
- 4) 組織の保存・提出方法
凍結の完了した組織は、アルミホイルにて包み、密栓のできる容器に入れ、(-80℃以下)凍結状態に保持して下さい。
長期保存では凍結乾燥および氷結晶出現をみる場合がありますので、速やかにご提出下さい。

a. 液体窒素による方法



b. ドライアイス・アセトンによる方法



20 プレパラート



44 組織片容器



病理組織検査の算定について

●病理標本作製料

- ・病理組織標本作製（1臓器につき）860点

1臓器……860点	胃生検・十二指腸生検、食道生検、肺生検、肝生検、腎生検、胆のう、虫垂、乳腺腫瘍、前立腺、子宮腔部生検、子宮内容物
2臓器……1720点	食道生検＋胃生検・十二指腸生検、胆のう＋虫垂、胃＋リンパ節、食道＋胃・十二指腸、子宮＋卵巣、乳癌（乳腺＋リンパ節）
3臓器……2580点	胃癌（食道＋胃＋リンパ節）、回盲部腫瘍（小腸＋盲腸＋上行結腸）、直腸癌（直腸＋S状結腸＋リンパ節）

- ・病理組織標本作製に当って、免疫抗体法（蛍光抗体法、酵素抗体法）を用いた検査を行った場合は、1臓器につき1回のみ400点を算定する。
- ・確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、所定点数に1,200点を加算する。
確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者とは、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）又は悪性黒色腫が疑われる患者を指す。
- ・電子顕微鏡病理組織標本作製を行った場合の保険点数の算定は次のような疾患と組織が対照となっています。
 - 1) 腎組織（糸球体腎炎など、炎症における生検）
 - 2) 心筋生検（心筋症と多糖類蓄積症に対して）
 - 3) 甲状腺を除く内分泌臓器の機能性腫瘍（下垂体腺腫、副腎皮質腺腫、膵頭腺腫など）
 - 4) 異所性ホルモン産生腫瘍（カルチノイドなど）
 - 5) 軟部組織悪性腫瘍（脂肪肉腫、平滑筋肉腫など）
 - 6) 脂質蓄積症（ゴーシェ症、ニーマンピック病など）

●病理診断・判断料

組織診断料（520点）又は、病理判断料（130点）…… **病理**
細胞診断料（200点）

エストロゲンレセプター(ER)・プロゲステロンレセプター(PgR)およびHER2蛋白(検査材料)の提出方法(IHC)

- 1) 本検査は病理検査により最終判定の後になされた症例について治療の方針を判断するための検査です。
 - 2) 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もあることから、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付を希望します。
(ただし、弊社で一般病理検査を実施している場合は不要です。なお、諸事情により添付できない場合には、病理検査依頼書に臨床診断名・臨床経過の欄に可能な範囲での記載をお願いいたします。)
 - 3) 代表材料は10%中性緩衝ホルマリン固定液にて24～48時間程度の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。パラフィンブロックは破損のないようガーゼなどで包みビニール袋などに入れてご提出下さい。
- ※ HER2蛋白の結果が（2+）の場合、追加で遺伝子検査が必要とされています。

病理組織検査 実施上の留意点

- 1) 以下の検査材料につきましては、ヘマトキシリン・エオジン染色以外に特殊染色が必要な場合、料金が加算されます。予めご了承下さい。

検査材料	特 殊 染 色 名
肝 生 検	PAS染色、D-PAS染色(消化PAS染色)、アザン染色、鍍銀染色(場合によってオルセイン染色)
腎 生 検	PAS染色、PAM染色、Masson染色
筋 肉 生 検	PAS染色、EVG染色、アザン染色、PTAH染色
骨 髄 生 検	DFS染色、ギムザ染色
血 管 生 検	EVG染色

- 2) 病因物質の確認を実施する上でヘマトキシリン・エオジン染色以外に必要なに応じて各種染色を実施させて頂く場合があり、その場合、料金が加算されますので予めご了承下さい。

(例)

検索項目	特殊染色名
アミロイド	コンゴ赤染色 または DFS染色
結 核 菌	チール・ネルゼン染色
ヘリコバクター・ピロリ菌	ギムザ染色

酵素抗体法による染色を実施した場合

(例)

検索項目	抗 体 名
悪性リンパ腫	CD3、CD20、CD45、CD79a、他
カルチノイド	クロモグラニンA

- 3) ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切り出し図と包埋の方向について依頼書に必ず記載して下さい。
- 4) 未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は、1染色2枚をご提出下さい。
- 5) 病理検査は基本的には凍結組織では行いません。

標本保管及び貸出しについて

保 管 期 間	1) 病理組織標本	10年間	標本の貸出し： ご要望に応じて行いますので、営業担当者までお申し出下さい。当方所定の貸出し依頼書と標本を送付致します。 (貸出期間1ヶ月) なお、ブロックは貸し出し出来ません。
	2) パラフィンブロック	10年間	
	3) 細胞診標本 ・陰性症例 ・陽性症例	5年間 10年間	

- ※ 基本的に標本は弊社にて保管させていただきます。
- ※ 標本の返却を希望される場合は依頼書にご記入下さい。
- ※ 切り出しの残検体返却希望の場合も依頼書にご記入下さい。

各種染色一覧

染色法		目的	結果	備考
ヘマトキシリン・エオジン (HE) 染色		一般染色	細胞核、軟骨、細菌、未脱灰石灰化部—青藍色 (ヘマトキシリン) 細胞質、結合組織、筋組織、赤血球—種々の紅～赤紅色 (エオジン)	すべての染色の基本染色

区分	目的	染色法	染色結果	区分	目的	染色法	染色結果	
病理組織特殊染色	結合組織の染色法	アザン染色	膠原線維、細網線維、腎糸球体基底膜 — 青色 筋組織、線維素 — 赤～紅色	病理組織特殊染色	アミロイド染色	コンゴ赤染色	アミロイド — 赤橙色 (偏光にて黄緑色) 核 — 青藍色	
		マッソントリクローム染色	同上 核 — 黒褐色			ダイレクトファーストスカラーレット染色 (DFS)	アミロイド — 橙色～赤橙色 (偏光にて黄緑色) 核 — 青藍色	
		エラスチカワンギーソン染色 (EVG)	弾性線維 — 黒紫色 膠原線維 — 紅色 筋線維、細胞質 — 黄色 核 — 黒褐色		内分泌細胞の染色	グリメリウス染色	膵島A細胞、消化管好銀細胞、下垂体好銀細胞、甲状腺傍濾胞細胞、カルチノイド、内分泌腫瘍細胞 — 茶～黒褐色 核 — 桃赤色	
		鍍銀染色	細網線維 — 黒色 膠原線維 — 赤～赤紫色			フォンタナ・マッソン染色	消化管銀還元細胞、銀還元性カルチノイド、メラニン細胞 — 黒褐色 核 — 桃赤色	
	線維素・神経膠線維	リンタンゲステン酸ヘマトキシリン染色 (PTAH)	核、線維素、神経膠線維、平滑筋線維、横紋筋の横紋、弾性線維 — 青藍色 神経線維、結合線維、膠原線維 — 茶褐色		カルシウム	コッサ法	カルシウム沈着部 — 黒褐色 核 — 桃赤色	
		脂肪染色	ズダンⅢ染色		中性脂肪、コレステリン、リン脂質、脂肪酸 — 橙黄～橙赤色 核 — 青藍色	鉄 (ヘモジリン)	ベルリン青法	ヘモジリン — 青色 核 — 桃赤色
	オイル赤O染色		中性脂肪、コレステリン、リン脂質、脂肪酸 — 赤～赤橙色 核 — 青藍色		中枢神経組織染色	ボディアン染色	神経原線維・軸索・樹状突起・神経終末 — 黒色～黒褐色	
	多糖類の染色	PAS染色	グリコゲン、粘液、真菌、アメーバ — 赤～赤紫色 核 — 青藍色			腎の染色	ルクソールファースト青染色 (又はクリューパーバレー)	髄鞘 — 青紫色 ニッスル顆粒・核 — 紫色
		消化PAS染色 (α-アミラーゼ)	α-アミラーゼによりグリコゲンは消化される		過ヨウ素酸メセナミン銀 (PAM) 染色		糸球体基底膜・細網線維 — 黒色 核 — 青藍色	
		アルシアン青染色	酸性粘液多糖類 — 青色 核 — 赤色		組織内血液細胞の染色	ギムザ染色	核 — 青紫色 核小体 — 紫色 好酸球顆粒 — 桃赤色	
		トリイジン青染色	酸性粘液多糖類 — 赤紫色 核 — 青色			生体内病原体の染色	一般細菌	グラム染色
		コロイド鉄染色	酸性粘液多糖類 — 青色 核 — 桃赤色		抗酸菌		チール・ネルゼン染色	抗酸菌 — 赤色 背景 — 淡青色
		ムチカルミン染色	上皮性粘液 — 赤色 核 — 青藍色		真菌		グロコット染色	真菌 — 黒褐色 背景 — 緑色
					HBs抗原		ビクトリア青染色	HBs抗原 弾性線維 — 青色 核 — 桃赤色
					Hピロリー染色		ギムザ染色	ヘリコバクター・ピロリー — 紫色

蛍光抗体染色

区分	検出抗原		部位適用
免疫グロブリン及び補体	IgA IgG IgM C3c	メサングウム 糸球体基底膜 皮膚表皮 血管	糸球体腎炎、皮膚の免疫疾患の診断
	(追加) C3d C4 C1q フィブリノーゲン		

※C3抗原の検査はC3cの方が重要です。またSLEの確定にはC1qが必要です。

免疫染色一覧

※ホルマリン固定材料で提出

区分	検出抗原	クローン名	病理判定における意義	区分	検出抗原	クローン名	病理判定における意義
リンパ球マーカー	CD45RO	UCHL1	T細胞の同定	上皮性マーカー	α_1 -アンチトリプシン	Poly	肝細胞癌、卵黄のう腫、組織球腫瘍の診断
	CD20	L-26	B細胞の同定		CEA (Carcinoembryonic antigen)	ZC23	多くの腺癌、一部の扁平上皮癌、甲状腺腫瘍、一部のカルチノイド
	CD45 (LCA)	2B11 + PD7126	悪性リンパ腫、未分化癌		AFP (α -フェトプロテイン)	Poly	肝細胞癌、卵黄のう腫、胃癌の一部、未熟奇形腫
	CD30 (Ki-1)	Ber-H2	未分化大細胞性リンパ腫 Reed Sternberg細胞 Hodgkin細胞		NSE (Neuron specific enolase)	BBS/NC/V1-H14	神経芽腫瘍群、筋原性腫瘍
	CD68 (Kp-1)	KP-1	マクロファージ 細胞管内エビトープ		前立腺特異抗原 (PSA)	ER-PR8	前立腺癌
	CD3 CD4 CD5 CD8	2GV6 IF6 SP19 C8/144B	T細胞の同定		サイトケラチン	CK7 (OV-TL 12/30)	線癌、移行上皮癌等の診断及び鑑別に、CK20と組み合わせて使用
	CD10 (CALLA)	56C6	B細胞の同定、CALLA			CK20 (Ks 20.8)	線癌、移行上皮癌等の診断及び鑑別に、CK7と組み合わせて使用
	CD56 (NCAM)	123C.D5	T細胞の同定 (NK細胞の区別)			CK MA903 (34 β E12)	前立線過形成と前立線癌の鑑別診断
	CD79a	JCB117	B細胞の同定			CK AE1/3	上皮性と非上皮性腫瘍の鑑別
	bcl-2	124	リンパ球増加性疾患			CK 5/6	上皮性と非上皮性腫瘍の鑑別
ホルモン	CD15	C3D-1	単球ホジキン細胞	非上皮性マーカー	EMA (Epithelial membrane antigen)	E29	上皮性腫瘍の確認 (一部のリンパ腫にも陽性)
	CD57	—	NK細胞		MelanA	A103	メラノーマの確認
	クロモグラニンA	LK2H10	神経内分泌腫瘍 (カルチノイド)、など		ビメンチン	V9	腫瘍の鑑別
	サイログロブリン	Poly	甲状腺癌		ボドプラニン	D2-40	リンパ管内皮細胞、脈管系腫瘍の鑑別
	インスリン	Poly			第Ⅷ因子	F8/86	血管腫、Kaposi肉腫
	グルカゴン	Poly	糖尿病の確認、膵ラ氏島腫瘍の分類		GFAP	6-F2	神経膠腫、上皮腫
	ソマトスタチン	Poly			S-100蛋白	4C4.9	神経鞘細胞系腫瘍、悪性黒色腫、カルチノイド
	ACTH	Poly			ミオグロビン	Poly	横紋筋肉腫、横紋筋への分化を示す腫瘍成分
	TSH	Poly			デスミン	D-33	筋原性腫瘍
	LH	Poly	下垂体腺腫、下垂体機能不全	病原体増殖能	Actin	HHF35	筋原性腫瘍
免疫グロブリン	FSH	Poly			α Smooth Muscle Actin	1A4	平滑筋腫瘍
	プロラクチン	Poly			CD34	QBend10	血管内皮腫、 κ 型肉腫
	GH	Poly			カルレチニン	Poly	中皮腫
	カルシトニン	Poly	甲状腺腫瘍様癌、肺小細胞癌 (一部)、気管支カルチノイド、膵ラ氏島腫瘍 (一部)		パピローマウイルス	K1 H8	乳頭腫の診断
	hCG (β)	Poly	絨毛上皮腫		ヘリコバクター・ピロリ	Poly	消化性潰瘍の関連菌の確認
免疫グロブリン	PLAP	8A9	精上皮腫		PCNA	PC10	合成期マーカー
	IgA IgG IgM κ 鎖 λ 鎖	Poly	形質細胞腫、骨髄腫、IgA腎症、膜性腎症、Bリンパ球及び形質細胞の同定		p53	Do-7	癌抑制遺伝子蛋白p53の局在
					MIB-1 (Ki-67)	30-9	細胞周期マーカー
					c-kit (CD117)	9.7 (Rabbit)	C-KIT遺伝子産物を認識

* 上記以外の抗体については予めお問い合わせ下さい。

Poly : polyclonal antibody

ER・PgR・HER2蛋白・EGFR蛋白免疫染色

項目	検査方法	反応性	用途
ER免疫染色	酵素抗体法	乳腺組織 子宮内膜他	estrogen receptor発現の判別
PgR免疫染色	酵素抗体法	乳腺組織 子宮内膜他	progesterone receptor発現の判別
HER2蛋白免疫染色	酵素抗体法	乳癌 及び胃癌組織	HER2蛋白発現の判別
EGFR蛋白免疫染色	酵素抗体法	大腸癌 及び肺癌組織	EGFR蛋白発現の判別

その他検査

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
規制薬医薬品検査	1194	乱用薬物スクリーニング 3L970	尿 8	25	冷蔵	EMIT (スクリーニング) LC-MS/MS (確認検査)	検出せず	—	4 5	対象薬物については下表参照。 感冒薬・漢方薬等の投与によって陽性 となる場合があります。一部の臨床薬剤 (セレギリン等)の投与によって、尿中に その代謝物である覚せい剤が検出される 場合があります。 02
	1964	覚せい剤検査 3L965	尿 8	25	冷蔵	EMIT (スクリーニング) LC-MS/MS (確認検査)	検出せず	—	4 5	対象薬物については下表参照。 一部の臨床薬剤(セレギリン等)の 投与によって、尿中にその代謝物 である覚せい剤が検出される場合 があります。 02
	2908	アヘン系麻薬検査 3L975	尿 8	25	冷蔵	EMIT (スクリーニング) LC-MS/MS (確認検査)	検出せず	—	4 5	対象薬物については下表参照。 感冒薬・漢方薬等の投与によって 陽性となる場合があります。 02
	2909	コカイン系麻薬検査	尿 8	25	冷蔵	EMIT (スクリーニング) LC-MS/MS (確認検査)	検出せず	—	4 5	対象薬物については下表参照。 02
	2907	大麻・マリファナ検査	尿 8	25	冷蔵	EMIT (スクリーニング) LC-MS/MS (確認検査)	検出せず	—	4 5	対象薬物については下表参照。 02

規制薬・医薬品スクリーニング検査対象薬物

			検査項目名						
			乱用薬物スクリーニング	覚せい剤検査	アヘン系麻薬検査	コカイン系麻薬検査	大麻・マリファナ検査		
分 類			対 象 物 質						
規制薬・医薬品	覚せい剤 ^{*1}		アンフェタミン、メタンフェタミン（ヒロポン）		●	●			
	麻薬	アヘンアルカロイド系麻薬 ^{*2}	コデイン、モルヒネ、6-アセチルモルヒネ		●		●		
		コカアルカロイド系麻薬 ^{*2}	コカイン、ベンゾイルエクゴニン（コカイン代謝物）		●			●	
		幻覚剤 ^{*2}	MDA（メチレンジオキシアμφエタミン）		●				
			MDMA（メチレンジオキシメタンフェタミン）		●				
			MDEA（メチレンジオキシエチルアンフェタミン）		●				
			フェンシクリジン		●				
		大麻・マリファナ		THCカルボン酸体（11-ノル Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール-9-カルボン酸体）		●			

【ご注意】

1) 規制薬物検査においては、まずEMIT法にてスクリーニングを行います（スクリーニング陰性の場合、その旨ご報告致します）。スクリーニング検査で陰性が確定しなかった場合、LC-MS/MSにて確認後にご報告致します。確認検査実施時の所要日数は6〜7日（スクリーニング検査を含む）です。

2) 検体妥当性試験を実施致します。クレアチニン濃度、比重、pHおよび亜硝酸塩濃度を測定し、検査材料である尿が薬物検査に適しているか否かを確認します。

3) 「乱用薬物スクリーニング」および「覚せい剤検査」には、覚せい剤原料の同定は含まれません。

^{*1}：「覚せい剤取締法」の規制対象薬物。

^{*2}：「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象薬物。

4) 感冒薬・漢方薬の投与によって陽性となる場合があります。

25

尿一般容器



区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	4107	胃がんリスク〈LA〉 層別化検査 (注1)	血液 3 ↓ 血清 0.8 冷蔵	01	ラテックス凝集法/ ラテックス凝集比濁法		—	2 〜 4	ペプシノゲンとヘリコバクター・ピロリ 抗体を測定しそれぞれの検査結果 とABC分類を報告します。

(注1) ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC分類の判定対象とならない為、E群（除菌群）としてご報告いたします。
胃がんリスク層別化検査（除菌あり（LA））〔項目コード：4108〕にて、ご依頼下さい。

胃がんリスク層別化検査について

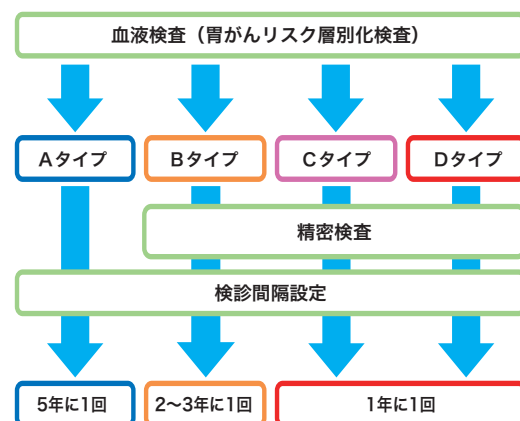
《LA法》

		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		(-)	(+)
		4.0U/mL未満	4.0U/mL以上
ペプシノゲン	(-)	A群	B群
	(+)	D群	C群

ABC分類		ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	
		(-)	(+)
ペプシノゲン検査	(-)	Aタイプ	Bタイプ
	(+)	Dタイプ	Cタイプ

Aタイプ	健康的な胃粘膜です	健康的な胃粘膜で胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、逆流性食道炎に注意しましょう。	
Bタイプ	少し弱った胃粘膜です	少し弱った胃です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。	
Cタイプ	弱った胃粘膜です	弱った胃で、胃がんなどの病気になりやすい群です。内視鏡による定期的な検査を受け胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。	
Dタイプ	かなり弱った胃粘膜です	かなり弱った胃で、胃がんなどの病気になるリスクがあります。内視鏡による定期的な検査をおすすめします。	
Eタイプ	除菌群は対象外です	ヘリコバクター・ピロリ菌除菌後の方は胃がんリスク層別化検査の対象外となります。しかし定期的に内視鏡検査を受診しましょう。	

■フローチャート



<この検査に不適な方>

- 明らかに上部消化器症状のある方
- ヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療を受けた方
- 胃切除後の方
- プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- 上部消化管疾患治療中の方
- 腎不全の方

01 汎用容器
(分離剤入り)



その他検査

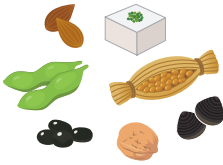
区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量 (mL) 提出量 (mL)	容器 保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他の検査	2612	クオンティフェロンTB プラス (QFT-Plus) (結核菌特異IFN-γ) 5E301	血液 4mL (各採血管 1mL) 冷蔵・凍結不可 49 室温 (22 ± 5℃)	ELISA	陰性	593	3 5 7	3	採血後16時間以内に培養 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 遠心分離をしないで提出して下さい。 専用採血管使用方法及び判定上の注意については、138ページをご参照下さい。 1
	5787	T-SPOT.TB (結核菌特異IFN-γ) 5E301	血液 10.0 (ヘパリン加血液) 冷蔵・凍結不可 98 室温	ELISPOT	(-)	593	3 5	5	採血後54時間以内に検査 受付曜日：月～金曜日。土曜日・祝日及びその前日は受付不可。 ・採血管は必ず単独でご提出下さい。 (他の項目と重複依頼不可) ・採血後、当日中にご提出下さい。 ・一度に20件以上のご提出を予定される場合は、2週間前までに担当営業までご連絡下さい。 118
	3275	脳梗塞リスクマーカー	血液 5 10 ↓ 血漿 2 02 凍結				—	4 5 7	アクトレイン抱合体、インターロイキン6、CRPを測定し、それぞれの検査結果とリスク値と評価を報告します。 23
	4302	サリバチェッカー®	唾液 0.1 97 凍結	ポリアミン濃度解析			—	21	専用依頼書あり 検体採取法は下記参照 33

1 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能は、診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

サリバチェッカー®

だ液採取前の注意事項

- 検査2日前
- 以下の食品の摂取を控える
- ・枝豆、納豆、煮豆、豆腐などの「豆」を主原料とした料理
※しょうゆ、みそなどの調味料は問題ありません。
 - ・クルミ、アーモンドなどのナッツ類
 - ・シジミ
 - ・豆類、ナッツ類、シジミを材料としたサプリメントや健康食品
- 検査前日
- 夜9:00以降、水以外の飲食を控える（採取の12時間前を目安とします）
- 検査当日
- 朝食を控える
- ・歯磨きは検査2時間前までに済ませる
※歯肉を傷つけてしまうような強いブラッシングは控える。
※歯磨き粉、マウスウォッシュの使用は可能。
- ×ガム、飴、トローチ ×うがい薬 ×入れ歯接着剤
- 検査1時間前
- ×激しい運動 ×喫煙 ×口腔内の手入れ（爪楊枝、歯間ブラシなど）
- 検査直前
- 30分前にコップ半分（100ml）程度の水を飲む
- ※他の検査で水分を摂取できない場合は軽く口をゆすぐ。
 - ※口紅、リップクリームは検査前にふき取ってください。
- その他の注意事項
- ドライマウスやだ液の出にくい方は事前に検査担当者に伝えてください。
 - 薬を服用中の方は事前に医師にご相談ください。



だ液採取の方法

- 1
- 採取容器にストローをさします。
- 2
- 自然に分泌されるだ液を口の中に溜めます。
- 3
- 口に溜まっただ液を、ストローを通して採取容器に移します。うまく出せない場合はうがいをしてからもう一度採取を行います。
- 4
- ストローを握ってだ液を採取容器の中に落としてください。規定線までだ液を入れてください。
- 5
- 採取容器のキャップをしっかりと閉めてください。

QuantiFERON TBプラスの判定基準

Nil値 (IU/mL)	TB1値 (IU/mL)	TB2値 (IU/mL)	Mitogen値 (IU/mL)	結果	解釈
8.0以下	0.35以上かつ Nil値の25%以上	不問	不問	陽性	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつ Nil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは 0.35以上かつNil値の25%未満		0.5以上	陰性	結核感染していない
8.0を超える	不問		0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない

脳梗塞リスクマーカー

脳梗塞リスク値		健常者群 (%)	無症候性 脳梗塞群 (%)
高値	0.80～1.00	3.0	51.9
境界値	0.44～0.79	13.5	32.2
低値	0.00～0.43	83.5	15.9

脳梗塞リスク値は年齢とアクトレイン抱合体・インターロイキン-6・CRPを組み合わせて総合的に評価した数値です。

各項目の中央値（健常者群） アクトレイン抱合体：56.4nmol/mL
インターロイキン-6：1.1pg/mL
CRP：0.03mg/dL

結核菌IFN-γ測定(T-SPOT.TB)

報告パターン	判定：（-）、（+）、判定保留、判定不可 ※判定保留、判定不可または必要に応じて別紙報告します。	備考	判定保留は再度血液を採取して再検査を行うことが推奨されます（他の診断方法を含む）。 検診等、一度に20件以上のご出検を予定される場合は、2週間前までに最寄りの営業所までご相談下さい。 また、前処理試薬の特性上、細胞回収に用いることのできる血液量は10mLが上限となります。 規定量の全血（血液）をご提出いただいても回収細胞数が少ない場合、不足と報告させていただく場合があります。
判定について	〔判定基準〕 ①（パネルA抗原のウェルのスポット数）－（陰性対照ウェルのスポット数） ②（パネルB抗原のウェルのスポット数）－（陰性対照ウェルのスポット数） 陽性（+）：①か②のいずれか一方が8スポット以上の場合 陰性（-）：陽性対照が20スポット以上、①と②の両方が4スポット以下の場合 判定保留：①と②の高い方の値が5～7スポットの場合 判定不可：陰性対照が11スポット以上の場合 陽性対照が20スポット未満、①と②の両方が4スポット以下の場合		

区分	コード No.	検査項目 統一コード	採取量(mL) 提出量(mL)	容器	保存	検査方法	基準値 (単位)	実施料 判断料	所要 日数	備考
その他	2851	骨塩定量 (DIP) 9Z513	X線フィルム (四ツ切または 大四ツ切)		室温	DIP		(140)	2 3	X線写真の撮り方は下記をご参照 下さい。 ①
	2091	A液 5E048					EU/mL			検体は、必ず専用の安定化剤入り 透析液採取管にてご提出下さい。
	2092	B液 5E048								
	2093	エンドトキシン 定量 RO水 5E048	透析液 各4	69	凍結不可 冷蔵 [開栓不可]	合成基質法			2 3	
	2094	調整液 5E048								
	2095	その他 5E048								
	2089	透析液/R2A	透析液 5~10	43	冷蔵	平板塗抹法			10 16	R2A培地にて17~23℃ 7日間培養 菌名+生菌数(CFU/mL)を報告 02 18
	2090	透析液/R2A-MF	透析液 10~50	43	冷蔵	メンブレン フィルター法			10 16	R2A培地にて17~23℃ 7日間培養 菌名+生菌数(CFU/10~50mL)を 報告 18

① 骨塩定量検査は、骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ算定できる。ただし、4月に1回を限度とする。

DIP法測定用X線写真の撮り方

[骨塩定量DIP法について]

骨塩定量の基準値は性別、年齢により、異なります。

又、左手の測定値が基準となっています。

但し、右手も測定出来ます。右手を測定する場合は依頼書のコメント欄に記入して下さい。

次の事項は必ず、記載して下さい。

依頼書 記載事項 ①患者氏名 ②性別 ③生年月日 ④満年齢 ⑤撮影日

フィルム 記載事項 ①患者氏名 ②性別 ③満年齢 ④左手の指示
患者氏名ラベル等はフィルムの右側下の隅に貼って下さい。

スケールの置き方

- ・フィルムの中心に置く。
- ・両手はスケールを間に挟んで置く。
- ・Kyomica という文字が 横 から見えるように置く。
文字は逆さまにしない。

スケールのギザギザは 横 になります。

[骨塩定量検査用手部X線写真の撮り方]

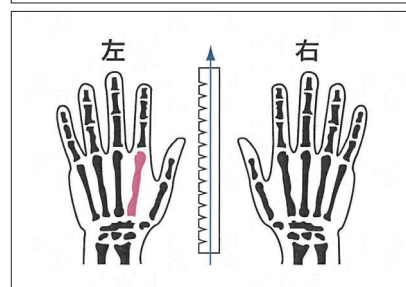
1. グリッドは使用しないで下さい。グリッドを使用すると正しい測定ができません。
2. 手は、親指を軽く開いて、手のひらをカセットに密着させて下さい。
3. 指定のスケールを必ず入れて下さい。スケールは、両手の間に直角面を下向きに置いて下さい。
4. 写真は実物大になるようにして下さい。
5. 線源からの距離は充分長くして下さい。(少なくとも100cm以上)
6. X線の管電圧は50KVに固定して下さい。
7. 写真濃度は、肉眼観察用と同じ程度が適切です。電流、時間で調節して下さい。

目安：100mA、0.04秒

※撮影機種などにより撮影条件は異なる場合があります。

8. 被検者名、撮影日、性別、年齢、生年月日、のほか、手の左右判別のマークを入れて下さい。
患者ラベルは、右下隅に貼って下さい。
9. 現像ムラや、キズのないきれいな仕上げにして下さい。
10. フィルムの大きさ：四ツ切または、大四ツ切にして下さい。
11. デジタル画像処理されたフィルム(CRフィルム等)やデジタルデータでの測定を希望
される場合は、事前にファントムテストを実施する必要があります。
ご希望の場合は、担当営業へご連絡下さい。

※氏名、年齢、性別、生年月日、撮影日は必ずご記入下さい。



02	分離用容器	10	ヘパリン容器	43	透析液検査用容器	49	クオンティフェロンTB用	69	エンドトキシン (透析液用)	97	サリバチェッカー 専用容器	98	T-スポット用 容器

産業衛生関連検査一覧

対象物質名	項目 コード	検査項目	依頼書 記載名	材料	採取 時期	単位	分布*			特殊健康診断項目				
							1	2		3	鉛則	四ア則	特化則	有機則
鉛	632	鉛	同左	血液	①	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	●	－	－	－
	633	δ-アミノレブリン酸	同左	尿	①	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	●	－	－	－
	631	赤血球プロトポルフィリン	同左	血液	①	μg/dL全血	40以下	40超	100以下	100超	▲	－	－	－
四アルキル鉛	632	鉛	同左	血液	①	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	－	●	－	－
	633	δ-アミノレブリン酸	同左	尿	①	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	－	●	－	－
	631	赤血球プロトポルフィリン	同左	血液	①	μg/dL全血	40以下	40超	100以下	100超	－	▲	－	－
インジウム化合物	2898	血清インジウム	同左	血清	①	μg/L	－	－		－	－	－	●	－
カドミウムまたはその化合物	1344	カドミウム〈血液〉	同左	血液	①	μg/dL	－	－		－	－	－	●	－
	1345	カドミウム〈尿〉	同左	尿	①	μg/L	－	－		－	－	－	▲	－
マンガンまたは その化合物溶接ヒューム	1338	マンガン〈血液〉	同左	血液	①	μg/dL	－	－		－	－	－	▲	－
水銀または その無機化合物	1346	水銀〈血液〉	同左	血液	①	μg/dL	－	－		－	－	－	▲	－
	1347	水銀〈尿〉	同左	尿	①	μg/L	－	－		－	－	－	▲	－
アルキル水銀化合物	1346	水銀〈血液〉	同左	血液	①	μg/dL	－	－		－	－	－	○	－
	1347	水銀〈尿〉	同左	尿	①	μg/L	－	－		－	－	－	▲	－
トルエン	634	馬尿酸	同左	尿	②	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超	－	－	－	●
キシレン	635	メチル馬尿酸	同左	尿	②	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超	－	－	－	●
スチレン	4307	スチレン代謝物	同左	尿	②	g/L	－	－		－	－	－	●	－
エチルベンゼン	4308	マンデル酸（EB）	同左	尿	②	g/L	－	－		－	－	－	●	－
N, N-ジメチルホルムアミド	676	N-メチルホルムアミド	同左	尿	②	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	－	－	－	●
ノルマルヘキサン	677	2,5-ヘキサジジオン	同左	尿	②	mg/L	2以下	2超	5以下	5超	－	－	－	●
1, 1, 1-トリクロロエタン	664	総三塩化物（ET）	TTC （ET）	尿	③	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	－	－	－	●
	667	トリクロロ酢酸（ET）	TCA （ET）	尿	③	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	－	－	－	●
トリクロロエチレン	665	総三塩化物（3E）	TTC （3-E）	尿	③	mg/L	－	－		－	－	－	●	－
	668	トリクロロ酢酸（3E）	TCA （3-E）	尿	③	mg/L	－	－		－	－	－	●	－
テトラクロロエチレン	666	総三塩化物（4E）	TTC （4-E）	尿	③	mg/L	－	－		－	－	－	●	－
	669	トリクロロ酢酸（4E）	TCA （4-E）	尿	③	mg/L	－	－		－	－	－	●	－
メチルイソブチルケトン	4309	尿中メチルイソブチルケトン	同左	尿	④	mg/L	－	－		－	－	－	▲	－

＊：分布1，2，3の基準値は厚生労働省通達の分布区分であり、正常・異常を鑑別するものではありません。

【採取時期】

- ①：特定せず
- ②：連続した作業日の2日目以降、作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに作業終了後に採尿
- ③：連続した作業日の5日目以降（週末）、作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿
- ④：作業終了後

【特殊健康診断項目】

- ：必ず実施すべき項目
- ▲：医師が必要と認める場合や、二次健康診断で実施する項目
- ：健康診断の中には含まれていない項目

出典：鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則，様式第3号）

四アルキル鉛健康診断結果報告書（四アルキル鉛中毒予防規則，様式第3号）

特定化学物質健康診断結果報告書（特定化学物質障害予防規則，様式第3号）

有機溶剤等健康診断個人表（有機溶剤中毒予防規則，様式第3号）、有機溶剤等健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則，様式第3号の2）

検体取扱いに関する注意項目一覧

区分	コード No.	検査項目	容器No.	注意事項			案内頁数
生化学	2251	LDアイソザイム	01	凍結不可			23
	104	血糖（グルコース）	04	凍結不可			27
	79	HbA1c（ヘモグロビンA1c）	04	凍結不可			
	2260	リポ蛋白分画《アガロース》	01	凍結不可			30
	67	リポ蛋白分画《PAG・濃度図解析》	01	凍結不可			
	2360	RLPコレステロール	01	凍結不可			
	1309	コプロポルフィリン《血液》	66	凍結不可			34
	631	赤血球プロトポルフィリン	66	凍結不可			
ウイルス学	2611	HBV-DNA定量	57		開栓不可		66
	2592	HCV-RNA定量	57		開栓不可		67
	2457	HCV-RNAサブタイプ	57		開栓不可		
	2683	HCVモニターゲノタイプ	57		開栓不可		
	2593	HIV-1RNA定量	91		開栓不可		68
	1620	単純ヘルペスDNA《血液》	14	凍結不可			62
	1657	サイトメガロウイルスDNA《血液》	14	凍結不可			
	2574	サイトメガロウイルスpp65抗原（C10, C11）	14	凍結不可		曜日	
	2681	サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）	14	凍結不可		曜日	
免疫学検査	2321	（1→3）-β-D-グルカン	51	凍結不可	開栓不可		72
	1396	エンドトキシン《ES法》定量	51	凍結不可	開栓不可		
	1438	尿中トランスフェリン	25	凍結不可			76
	1162	PA-IgG（血小板表面IgG）	52	凍結不可	遠心不可	曜日	85
	462	血液型 ABO式	81	凍結不可			86
	461	血液型 Rh（D）式	81	凍結不可			
	299	直接クームス試験	81	凍結不可	冷蔵不可		
	300	間接クームス試験	03	凍結不可	冷蔵不可		
	301	定量クームス試験	03	凍結不可	冷蔵不可		
	466	不規則抗体	03	凍結不可	冷蔵不可		
血液学検査	501	白血球数（WBC）	13	凍結不可			87
	502	赤血球数（RBC）		凍結不可			
	503	ヘモグロビン（Hb）		凍結不可			
	504	ヘマトクリット（Ht）		凍結不可			
	554	血小板数（PLT）		凍結不可			
	505	平均赤血球容積（MCV）		凍結不可			
	506	平均赤血球血色素量（MCH）		凍結不可			
	507	平均赤血球血色素濃度（MCHC）		凍結不可			
	540	網状赤血球数（レチクロ）	13	凍結不可			
	541	好酸球数	13	凍結不可			
		血沈	16	凍結不可			
	509	白血球像	13	凍結不可			
	530	赤血球像	13	凍結不可			
	549	マラリア原虫	13	凍結不可			
							88
細胞性免疫検査	591	T細胞B細胞百分率	13または10	凍結不可		曜日	91
	478	白血病・リンパ腫解析		凍結不可		曜日	
		モノクローナル抗体によるリンパ球サブセット ＜単染色法＞Single-color解析		凍結不可		曜日	
	493	モノクローナル抗体によるリンパ球サブセット ＜二重染色法＞Two-color解析		凍結不可		曜日	
	405	B細胞サブクラス IgG	13	凍結不可		曜日	
	406	B細胞サブクラス IgA		凍結不可		曜日	
	407	B細胞サブクラス IgM		凍結不可		曜日	
	408	B細胞サブクラス IgD		凍結不可		曜日	
	409	B細胞サブクラス κ 鎖		凍結不可		曜日	
	410	B細胞サブクラス λ 鎖		凍結不可		曜日	
	2519	赤血球表面マーカー検査 CD55	10	凍結不可		曜日	
	2556	赤血球表面マーカー検査 CD59	10	凍結不可		曜日	

※曜日表示は、受託可能日の制限のある項目です。

検体取扱いに関する注意項目一覧

区分	コード No.	検査項目	容器No.	注意事項			案内頁数
細胞性免疫検査	411	リンパ球幼若化試験 PHA	10	凍結不可		曜日	93
	341	リンパ球幼若化試験 Con-A		凍結不可		曜日	
	416	薬剤によるリンパ球幼若化試験 (DLST)	10(+薬剤)	凍結不可		曜日	
	404	NK細胞活性	21	凍結不可		曜日	
	488	好中球貪食能	10	凍結不可		曜日	
	489	好中球殺菌能	10	凍結不可		曜日	94
	3167	HLA型判定 A, B Locus (血清対応型タイピング)	13	凍結不可		曜日	
	3168	HLA型判定 DR Locus (血清対応型タイピング)	13	凍結不可		曜日	
	2197	HLA-A遺伝子型判定 (A Locus)	13	凍結不可		曜日	
	2659	HLA-B遺伝子型判定 (B Locus)	13	凍結不可		曜日	
	3255	HLA-C遺伝子型判定 (C Locus)	13	凍結不可		曜日	
	2335	HLA-DRB1遺伝子型判定	13	凍結不可		曜日	
	3170	HLA-DQA1遺伝子型判定	13	凍結不可		曜日	
	2336	HLA-DQB1遺伝子型判定	13	凍結不可		曜日	
	2337	HLA-DPB1遺伝子型判定	13	凍結不可		曜日	
染色体検査		先天異常 染色体検査 分染法	10	凍結不可		曜日	95
		先天異常 染色体検査 FISH法	10	凍結不可		曜日	96-97
		血液疾患 染色体検査 分染法	10または22	凍結不可		曜日	
		血液疾患 染色体検査 FISH法		凍結不可		曜日	
血液疾患遺伝子検査	5951	Major BCR-ABL IS	95	凍結不可		曜日	98
	4470	WT1mRNA定量	95	凍結不可		曜日	
	4468	JAK2V617F遺伝子変異	95	凍結不可			
	4494	FLT3遺伝子変異解析 ITD/TKD	10	凍結不可			
	4027	NPM1変異解析	95	凍結不可			
	4492	NUDT15遺伝子コドン139多型解析	13	凍結不可			
	2103	免疫グロブリンH鎖JH再構成	95または22	凍結不可		曜日	
	2104	免疫グロブリンL鎖J κ 再構成		凍結不可		曜日	
	2105	免疫グロブリンL鎖J λ 再構成		凍結不可		曜日	
	2111	T細胞受容体 β 鎖J β 1再構成		凍結不可		曜日	
	2112	T細胞受容体 β 鎖J β 2再構成		凍結不可		曜日	
	2106	T細胞受容体 β 鎖C β 再構成		凍結不可		曜日	
一般臨床検査	772	比重《髄液》	27	凍結不可			107
	770	細胞数《髄液》		凍結不可			
	771	細胞種類《髄液》		凍結不可			
	774	パンディ反応《髄液》		凍結不可			
	775	ノンネアペルト反応《髄液》		凍結不可			
	779	トリプトファン反応《髄液》		凍結不可			
	776	蛋白定量《髄液》		凍結不可			
	777	糖定量《髄液》		凍結不可			
	768	クロール定量《髄液》		凍結不可			
	773	pH《髄液》		凍結不可			
	707	アメーバ検査《糞便》	29	凍結不可	冷蔵不可		108
	715	虫体検出《糞便》	44	凍結不可			
	782	精液量《精液》	35	凍結不可			
	784	精子数《精液》		凍結不可			
	780	精子運動率《精液》		凍結不可			
	781	精子奇形率《精液》		凍結不可			
	783	pH《精液》		凍結不可			
その他	2612	クオンティフェロンTBプラス (QFT-Plus)	49	凍結不可	冷蔵不可	曜日	125
	5787	結核菌特異的IFN- γ (T-SPOT.TB)	98専用容器	凍結不可	冷蔵不可	曜日	126
	2091	エンドトキシン定量《A液》	69	凍結不可	開栓不可		
	2092	エンドトキシン定量《B液》		凍結不可	開栓不可		
	2093	エンドトキシン定量《RO液》		凍結不可	開栓不可		
	2094	エンドトキシン定量《調整液》		凍結不可	開栓不可		
	2095	エンドトキシン定量《その他》		凍結不可	開栓不可		

※曜日表示は、受託可能日の制限のある項目です。

休日・祝祭日及びその前日受付不可項目

区分	コード No.	検査項目	備 考	検査案内 頁数	
細胞性免疫検査	591	T細胞B細胞百分率	採血後24時間以内に検査	91	
	478	白血病・リンパ腫解析			
		モノクローナル抗体によるリンパ球サブセット <単染色法>Single-color解析	採血後48時間以内に検査		91
	493	モノクローナル抗体によるリンパ球サブセット <二重染色法>Two-color解析			
	405	B細胞サブクラス IgG			
	406	B細胞サブクラス IgA			
	407	B細胞サブクラス IgM			
	408	B細胞サブクラス IgD			
	409	B細胞サブクラス κ 鎖			
	410	B細胞サブクラス λ 鎖			
	2519	赤血球表面マーカー検査 CD55			
	2556	赤血球表面マーカー検査 CD59			
	411	リンパ球幼若化試験 PHA	採血後24時間以内に検査	93	
	341	リンパ球幼若化試験 Con-A			
	416	薬剤によるリンパ球幼若化試験（DLST）			
	404	NK細胞活性			
	488	好中球貪食能			
	489	好中球殺菌能			
	3167	HLA型判定 A, B Locus（血清対応型タイピング）	採血後24時間以内に検査	94	
	3168	HLA型判定 DR Locus（血清対応型タイピング）			
	2197	HLA-A遺伝子型判定（A Locus）			
	2659	HLA-B遺伝子型判定（B Locus）			
	3255	HLA-C遺伝子型判定（C Locus）			
	2335	HLA-DRB1遺伝子型判定			
	3170	HLA-DQA1遺伝子型判定			
	2336	HLA-DQB1遺伝子型判定			
	2337	HLA-DPB1遺伝子型判定			
染色体検査		先天異常 染色体検査 分染法	採血後24時間以内に検査	95	
		先天異常 染色体検査 FISH法			
		血液疾患 染色体検査 分染法	採血後24時間以内に検査	96-97	
		血液疾患 染色体検査 FISH法			
血液疾患遺伝子検査	5951	Major BCR-ABL IS	採血後24時間以内に検査	98	
	4470	WT1mRNA定量			
	4468	JAK2V617F遺伝子変異			
	4494	FLT3遺伝子変異解析 ITD/TKD			
	4027	NPM1変異解析			
	2103	免疫グロブリンH鎖JH再構成			
	2104	免疫グロブリンL鎖J κ 再構成			
	2105	免疫グロブリンL鎖J λ 再構成			
	2111	T細胞受容体 β 鎖J β 1再構成			
	2112	T細胞受容体 β 鎖J β 2再構成			
	2106	T細胞受容体 β 鎖C β 再構成			
免疫学	1162	PA-IgG（血小板表面IgG）	採血後24時間以内に検査	85	
ウイルス学	2574	サイトメガロウイルスpp65抗原（C10, C11）	採血後24時間以内に検査	62	
	2681	サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）			
微生物学	2612	クオンティフェロンTB プラス（QFT-Plus）	採血後16時間以内に培養	125	
	5787	結核菌特異的IFN- γ （T-SPOT.TB）	採血後54時間以内に検査		

●下記の検査項目について、緊急報告値が検出された場合は、速やかにご報告いたします。

* 5初診者より検出した場合のみ

* 4透析患者検体は除外

検体の安定性と追加検査

検体を採取してから検査結果に影響が及ばない保存条件と期間です。

弊社で保管されている検体(冷蔵)についても期間内で追加検査は実施可能ですが、残量や検体の状態により実施できない場合もありますので、ご確認ください。

検 査 項 目	安定性		検 査 項 目	安定性		検 査 項 目	安定性	
生化学検査			内分泌検査			免疫学検査		
総蛋白	冷	4週	GH	冷	1週	ムンプスIgG	冷	2週
アルブミン	冷	4週	ソマトメジンC	凍	4週	ムンプスIgM	冷	2週
蛋白分画	冷	1週	LH	冷	1週	麻疹IgG	冷	2週
T-BIL	冷	1週	FSH	冷	1週	麻疹IgM	冷	2週
D-BIL	冷	1週	TSH	冷	1週	風疹抗体価 LA HI	冷	2週
AST	冷	1週	プロラクチン	冷	1週	風疹IgG	冷	2週
ALT	冷	3日	T4	冷	1週	風疹IgM	冷	2週
LD	冷	2日	T3	冷	1週	単純ヘルペス（血清）	冷	2週
ALP	冷	1週	FT4	冷	1週	水痘帯状ヘルペス（血清）	冷	2週
LAP	冷	2週	FT3	冷	1週	水痘帯状ヘルペスIgG（血清）	冷	2週
γGT	冷	2週	PTHintact	凍	4週	水痘帯状ヘルペスIgM（血清）	冷	2週
CHE	冷	2週	PTHrp-intact	凍	4週	HA抗体	冷	1週
CK	冷	1週	カルシトニン	凍	4週	HA抗体IgM	冷	1週
ALD	冷	3日	オステオカルシン	凍	4週	HBs抗原	冷	1週
S-AMY	冷	2週	totalP1NP	冷	5日	HBs抗体	冷	1週
U-AMY	冷	3日	アルドステロン（血清）	凍	4週	HBe抗原	冷	1週
グアナーゼ	冷	1週	ACE	冷	4週	HBe抗体	冷	1週
ADA（血清）	冷	1週	コルチゾール	冷	1週	HBc抗体	冷	1週
リゾチーム（血清）	凍	4週	DHEA-S	冷	2週	HBc-IgM抗体	冷	1週
リパーゼ（血清）	冷	2週	テストステロン	冷	2週	HCV抗体	冷	1週
トリプシン	冷	2週	遊離テストステロン	凍	8週	HCVコア蛋白	冷	1週
NAG（尿）	冷	1週	プロゲステロン	冷	1週	HIV抗原・抗体	冷	1週
LDアイソ	冷	2日	プレグナンジオール	冷	4週	HIV-1抗体	冷	1週
ALPアイソ	冷	5日	プレグナントリオール	冷	4週	HTLV-I	冷	1週
CKアイソ	凍	1週	エストラジオール（血清）	冷	1週	免疫学検査		
膵アミラーゼ（血清）	冷	1週	HCG（血清）	冷	4週	TPLA 定性・定量	冷	1週
CRE	冷	1週	HCG（尿）	冷	4週	RPR 定性・定量	冷	1週
シスタチンC	凍	1週	HCG-β（血清）	冷	4週	FTA-ABS	冷	1週
UA	冷	2週	AMH	冷	1週	ASO	冷	2週
BUN	冷	1週	インスリン	冷	2週	百日咳菌抗体	冷	1週
アミノ酸分画（血漿）	凍	2週	インスリン抗体	冷	2週	百日咳菌抗体 IgA	冷	1週
グルコース	冷	1週	抗GAD抗体	冷	2週	百日咳菌抗体 IgM	冷	1週
HbA1c	冷	5日	Cペプチド（血清）	凍	2週	トリコスボロンアサヒ抗体	凍	4週
グリコアルブミン	冷	1週	Cペプチド（尿）	凍	2週	プロカルシトニン	凍	4週
1.5AG	冷	1週	膵グルカゴン	凍	3週	ブレアルブミン	冷	1週
ヒアルロン酸（血清）	凍	2週	αhANP	凍	4週	尿中アルブミン	冷	1週
ケトン体分画（静脈血）	凍	4週	NT-proBNP	冷	3日	β2マイクログロブリン（血清）	冷	2週
TG	冷	1週	エリスロポエチン	凍	4週	フェリチン	冷	2週
TCHO	冷	1週	薬物検査			α1AG	冷	2週
HDL-CHO	冷	1週	全般	冷	1週	α2マクログロブリン	冷	2週
LDL-CHO	冷	1週	注）血清分離された状態での安定性です 分離剤を使用した検体では安定性は認められません			CRP	冷	1週
PL	冷	1週	腫瘍関連検査			トランスフェリン	冷	1週
リポ蛋白分画（アガロース）	冷	1週	AFP	冷	2週	ミオグロビン（血清）	冷	1週
LP（a）	冷	2週	AFPレクチン分画	冷	2週	IgG	冷	2週
LPL	凍	4週	PIVKAⅡ	凍	2週	IgA	冷	2週
RLP-C	冷	5日	CEA	冷	2週	IgM	冷	2週
アポ蛋白	冷	1週	エラスターゼ1	冷	2週	IgG2	冷	2週
総胆汁酸（血清）	冷	1週	CA19-9	冷	2週	IgG4	冷	2週
NaKCL	冷	1週	CA15-3	冷	1週	オリゴクローナルバンド（血清）	冷	2週
Mg	冷	2週	NCC-ST-439	冷	2週	血清補体価	凍	4週
Ca	冷	1週	CA125	冷	1週	C3	冷	1週
iP	冷	1週	ICTP	冷	2週	C4	冷	1週
Fe	冷	2週	SCC抗原	冷	1週	総IgE	冷	2週
TIBC	冷	2週	シフラ	冷	1週	特異IgE	冷	2週
ビタミンB12	凍	4週	NSE	冷	3日	Ara h2	冷	2週
葉酸	凍	4週	ウイルス学検査			アトピー鑑別（ファデアトープ）	冷	2週
25-OHビタミンD	冷	1週	インフルエンザA・B	冷	2週	TARC（Th2ケモカイン）	凍	2週
エタノール	凍	12日	ムンプスCF HI（血清）	冷	2週	View39	冷	2週
メタノール	凍	15日				リウマチ因子	冷	2週
アセトン（血清）	凍	15日				CARF	凍	4週
浸透圧（血清）	冷	1週						
ペプシノゲン	冷	2週						

(次ページへ続きます)

検体の安定性と追加検査

(前ページから)

検 査 項 目	安定性	検 査 項 目	安定性	検 査 項 目	安定性
免疫学検査		抗ミトコンドリア抗体	冷 2週	血液学検査	
IgG型リウマチ因子	冷 2週	抗ミトコンドリアM2抗体	凍 4週	出血凝固検査全般	凍 1週
MMP-3	凍 4週	抗LKM-1抗体	凍 2週	注) 採取後直ちに血漿分離された状態での安定性です。 一度検査を実施した血漿の安定性は認められません。	
抗CCP抗体	冷 2週	抗平滑筋抗体	冷 2週	一般臨床検査	
抗核抗体	冷 2週	抗胃壁細胞抗体	冷 2週		
抗DNA抗体	冷 2週	抗カルジオリピン β 2GPI抗体IgG	凍 4週		
抗dsDNA抗体 IgG、IgM	冷 2週	PR-3-ANCA	冷 4週	尿蛋白定量	冷 3日
抗ssDNA抗体 IgG、IgM	冷 2週	MPO-ANCA	冷 4週	尿糖定量	冷 3日
抗Sm抗体 FEIA	冷 2週	抗GBM抗体	凍 4週		
抗RNP抗体 FEIA	冷 2週	抗アセチルコリンレセプター結合抗体	凍 4週		
抗SS-A／Ro抗体 FEIA	冷 2週	抗MuSK抗体	冷 2週		
抗SS-B／La抗体 FEIA	冷 2週	抗アクアポリン4抗体	凍 4週		
抗Scl-70抗体 FEIA	冷 2週	抗血小板抗体	凍 4週		
抗Jo-1抗体 CLEIA	冷 4週				
抗ARS抗体	冷 2週				

下記項目につきましては、検体の安定性より追加検査は実施できませんのでご注意ください。

検 査 項 目	検 査 項 目	検 査 項 目
生化学検査 遊離脂肪酸（NEFA）	血液学検査 網状赤血球数（レチクロ） 白血球像 赤血球像 プロトロンビン時間 活性化部分トロンボプラスチン時間 フィブリノゲン ループス凝固因子 ヘパリン 凝固因子 AT-Ⅲ（活性） TAT プロトロンビンフラグメントF1+2 フィブリンモノマー複合体 FDP Dダイマー プラスミノゲン（定量）（活性） α2プラスミンインヒビター α2-PI複合体 トロンボモジュリン プロテインC プロテインS βトロンボグロブリン 血小板第4因子 ADAMTS13活性 ADAMTS13インヒビター	細胞性免疫検査 全般
薬物検査 全般※1		遺伝子関連検査 全般
免疫学検査 （1→3）-β-D-グルカン エンドキシン定量（ES法） 血小板表面IgG（PA-IgG） 直接クームス試験※2 間接クームス試験※2 定量クームス試験※2 不規則抗体※2		一般臨床検査 尿沈渣 髄液検査全般 腹水・胸水・穿刺液全般
		その他 透析液／R2A-MF 透析液／R2A

※1 血清分離剤入りの容器では不安定なため
※2 冷蔵保存検体は検査に適さないため

検体の採取に関する注意事項

検査結果の正しい解釈のために、適切な検体採取を行ってください。

■血液検体：採血

一般に空腹時の採取が推奨されており、採血前日の夕食後から採血まで10時間以上の絶食、飲酒の制限が良いとされています。採血には合併症や事故の危険性が伴います。日本臨床検査標準協議会(JCCLS)からは、採血を受ける者および医療従事者の安全が得られるように「標準採血法ガイドライン(GP4-A2)」が発行されています。採血を行う際にはガイドラインに沿った手技を行ってください。

採血容器の規定量を採取してください。抗凝固剤入り容器(血液、血漿)の場合、規定量を外れると検査値に影響が生じます。抗凝固剤を用いない容器(血清)においても、採取量が少ないと真空圧がかかり溶血の原因となります。検査項目により専用容器と指定があるものについては指定の容器を必ずご使用ください。

■尿検体：採尿

一般的な検査では、早朝尿(随時尿)で中間尿の採尿が適しており、採尿前に尿道口の清拭が望ましいとされています。検査目的により24時間蓄尿が必要な場合もあり、検査項目に従って適切な保存剤を選択してください。24時間蓄尿は開始時に排尿して次の尿から蓄尿し、24時間後は尿意がなくても採尿して終了となります。保存剤はあらかじめ容器に入れて、よく混和してください。

■検査前工程における検査結果の変動要因

●検査依頼：患者への事前注意、採血者、検査者への指示

○臨床検査値に影響を与える因子：

病態変動	病態変化	
	医療処置	手術、輸血、輸液、透析、麻酔、薬剤投与、造影剤、全身マッサージ
生理的変動	個体間変動	性別 ¹⁾ 、年齢 ²⁾ 、遺伝、人種、環境、職種 生活習慣(運動、喫煙、飲酒、肥満、食事嗜好など) ³⁾
	個人内変動	長期：妊娠 ⁴⁾ 、月経周期、季節差 短期：食事 ⁵⁾ 、運動 ⁶⁾ 、日内リズム ⁷⁾ 、体位 ⁸⁾ 、嗜好(喫煙、飲酒)、ストレス
検体採取	採取条件	採血方法、区血圧と前腕運動、採血部位、採血時の体位
		採血管の選択、採血量、採血の順番、採血のタイミング
		抗凝固剤の種類(全血、血漿、血清の違い)、分離剤
	検体の取り扱い	尿の種類、髄液、その他の体液
		採血後処理(攪拌など)、血清分離迄の時間、遠心分離条件(温度、回転数など) 溶血、検体容器の形状、保存条件(温度、時間)

1)性別 男性>女性：ヘモグロビン、赤血球数、CRE、尿酸、CK、血清鉄、γGT

女性>男性：HDL-C、LH、FSH

2)年齢 幼児>成人：AST、ALT、ChE、LD、CK、無機リン、ビリルビン (成長期はALP高値)

小児<成人：総蛋白、アルブミン、免疫グロブリン、アミラーゼ、T-CHO、UN、Ca、白血球数

3)生活習慣 飲酒高値：γGT、TG、AST(>ALT)、尿酸

喫煙高値：白血球数、CRP、フィブリノゲン、CEA

喫煙低値：HDL-C

4)妊娠 上昇：ALP、凝固因子、甲状腺ホルモン、脂質、CRP、銅、セルロプラスミン、フィブリノゲン

低下：総蛋白、アルブミン、赤血球数、ヘモグロビン、血清鉄、フェリチン

5)食事 食後>空腹時：グルコース、TG、インスリン、血清鉄、ALP

空腹時>食後：遊離脂肪酸、無機リン

6)運動 運動後>運動前：CK、AST、LD、ミオグロビン、遊離脂肪酸、グルコース、CRE、乳酸、白血球数

7)体位 立位>臥位：総蛋白、アルブミン、レニン、アルドステロン、ノルエピネフリン、エピネフリン、その他高分子成分

臥位>立位：BNP

8)日内変動 朝>夜：ACTH、コルチゾール、血清鉄

昼>夜：総蛋白、尿酸、K

夜>昼：UN、アミラーゼ

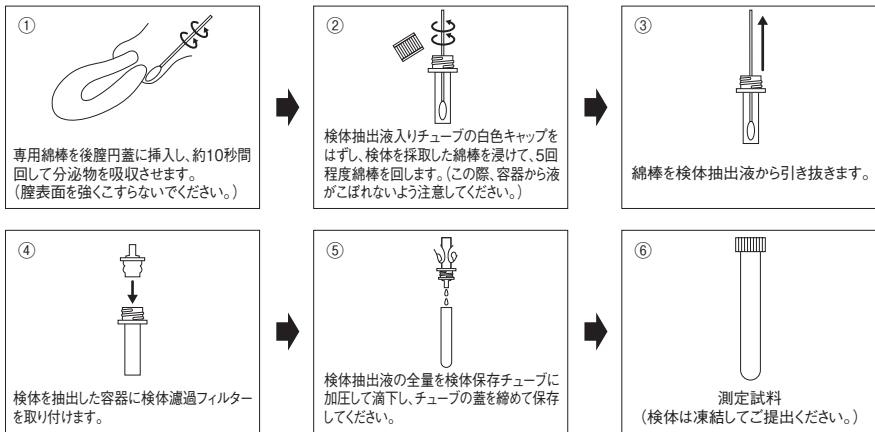
参考文献：臨床検査のガイドラインJSLM(日本臨床検査医学会)

検体の採取方法

PTDチェック検体採取方法

■ 注意事項

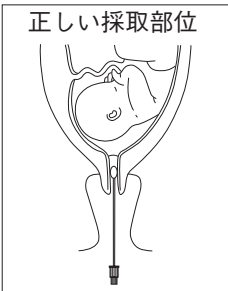
- ① 検体の採取は膣洗浄の前に行ってください。
- ② 検体採取時に無理な力が加わりますと綿棒が折れる可能性がありますので十分注意して下さい。
- ③ 検体中に精液が混入しているときは、この検体を使用しないで下さい。
- ④ 細胞や血液の混入により、正確な情報が得られないことがあります。



子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ検体採取方法及び抽出方法

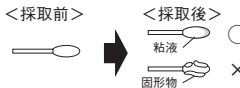
I 採取方法

- ① 子宮頸部の粘液を綿球で丁寧に拭き取ります。
- ② 綿棒を子宮頸管内腔に挿入します。
- ③ 綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液（滲出液）を採取します。



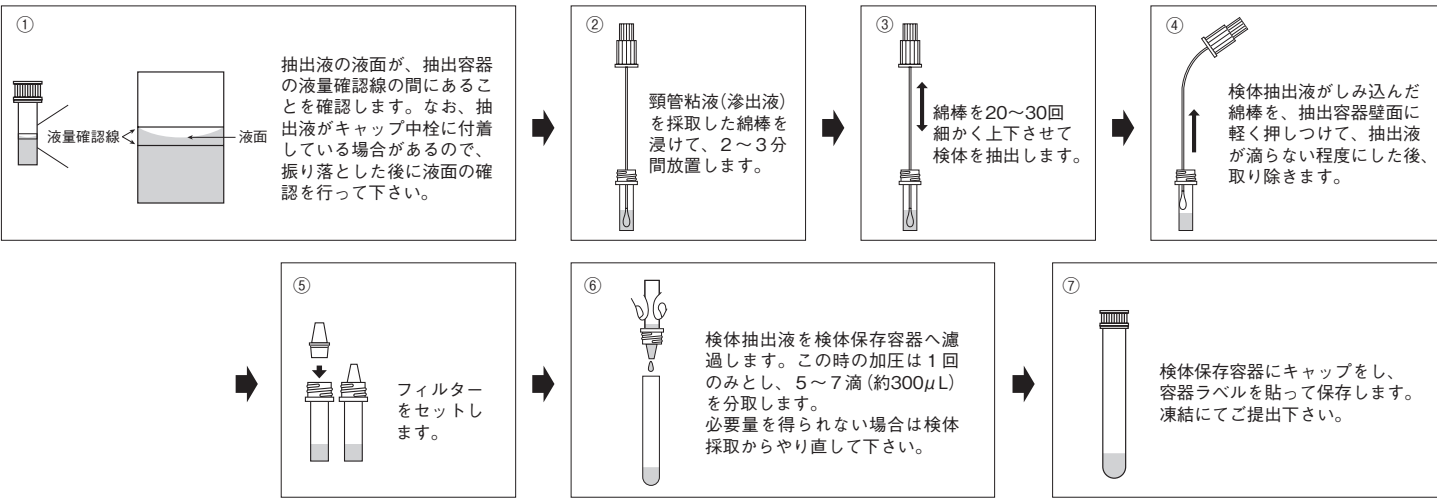
■ 注意事項

- ① 子宮頸管部より採取して下さい。
- ② 検体採取は膣部洗浄前に行ってください。
- ③ 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにして下さい。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入して下さい。
- ④ 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液（滲出液）をしみ込ませるようにして下さい。少量の固形物が付着した場合には、ピンセット等で取り除いて下さい。又、大量の固形物が付着した場合には、検体採取をやり直して下さい。



- ⑤ 採取した検体は15分以内に抽出操作を行ってください。

II 抽出方法



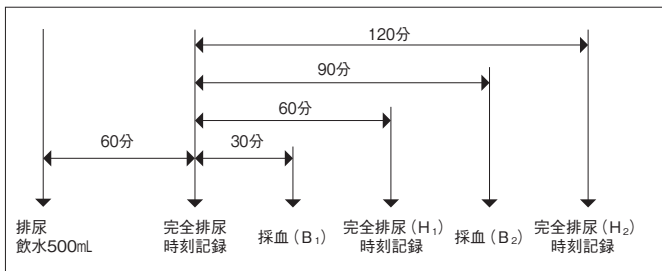
クレアチニークリアランスの検体採取方法

〈60分法 120分法〉

1. 排尿後、微温水500mLを飲ませる。
2. 飲水後、約60分後に排尿させ、排尿終了時刻を記録し検査開始とする。
3. 開始30分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離する。（B₁）
4. 開始1時間後、完全採尿し、正確に尿量を測り、終了時刻を記録する。（H₁）〈60分法〉
5. 開始90分後に2mL採血し、溶血を避けて血清分離する。（B₂）
6. 開始2時間後、完全排尿し、正確に尿量を測り、終了時刻を記録する。（H₂）〈120分法〉
7. 以上のようにして得た血清および尿を4～6℃保存し、所定量を提出する。その際、身長、体重、尿量、採尿時間を明記する。
右表参照

〈24時間法〉

1. 一定時刻に完全排尿させ、以後の尿を翌日の同時刻まで冷所に蓄尿する。（早朝完全排尿し、翌日の早朝第一尿まで採取する。）
2. 蓄尿終了時に正確に尿量を記録する。
3. 昼食前に2mL採血し、溶血を避けて血清分離する。
4. 以上のようにして得た血清および尿を4～6℃保存し、所定量を提出する。その際、身長、体重、尿量を明記する。



※ B₂ 採血は省略可

□ ICGの検体採取方法

1. 対照として、早朝空腹時に採血し溶血を避け血清分離する。
 2. ICG試験薬を注射用蒸留水 5 mLに溶解し、体重10kgにつき 1 mLの割合で静脈注射する。被験者は採血終了まで安静仰臥とする。
 3. 注射後15分に、注射時と反対側から採血し、溶血を避け血清分離する。
 4. 血中消失率を求める場合は、試験薬注射後、正確に 5 分、10 分、15 分の採血を行う。
- 注意：被験者に肥満、浮腫、腹水を認める場合の ICG 投与量は、標準体重から計算する。

□ 濃縮試験の検体採取方法

1. 検査前日午後6時ごろまでに蛋白に富んだ水分の少ない夕食を摂らせ、以後検査終了まで飲食を禁じる。
 2. 就寝前に完全排尿させ、夜間の排尿は廃棄する。
 3. 翌日の起床時に第1回の採尿を行う。
 4. 被験者は臥床のままとし、1時間後に第2回の採尿、更に1時間後に第3回の採尿を行う。
 5. 以上のようにして得た尿を 4～6℃保存し、所定量を提出する。
- 注意：検査前日より利尿剤の投与は中止する。
寒気の影響がある為、被検の保温に注意し、当日は禁煙とする。

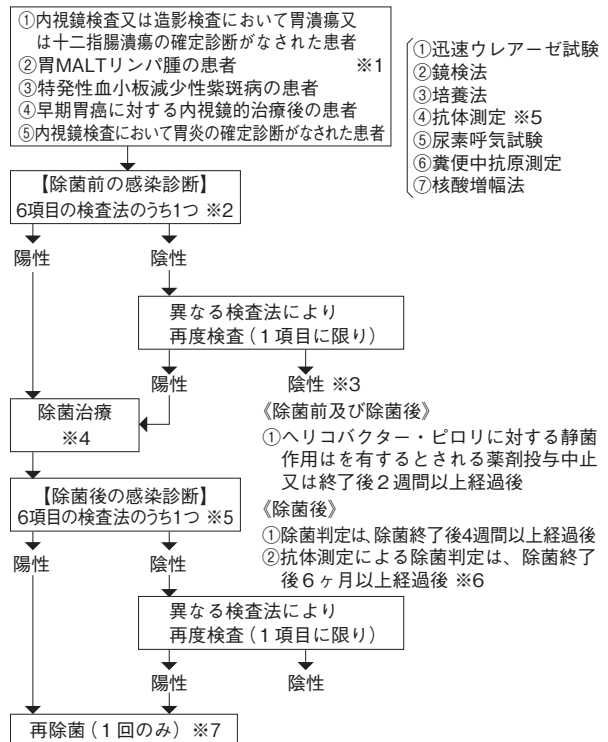
□ PSPテストの検体採取方法

1. 排尿後、微温水500mLを飲水する。
 2. 30分後にPSP溶液1.0mLを静脈注射する。
 3. 注射後、15分、30分、60分、および120分に採尿する。
 4. 以上のようにして得た尿を 4～6℃保存し、採取全量を提出する。
- 注意：検査前の食事は軽くし、茶、コーヒー類は避ける。
フェノールフタレイン系の下剤、アスピリン、ブタゾリジン、ペニシリンなどの投与を受けている場合は、検査前日より投与を中止する。

□ 尿素呼気試験の検体採取方法

1. 対照として空腹時、検査薬を飲む前に呼気を呼気採取バックに採取する。
 2. 検査薬 1錠を服用する。
 3. 5分間左側臥位の姿勢を保つ。
 4. その後15分座位の姿勢を保つ。
 5. 検査薬服用20分後、呼気を呼気バックに採取する。
 6. 投与前と20分後の呼気バックを提出する。
- 呼気採取のポイント：鼻から息を吸って5～10秒息を止める。
その後呼気バックにゆっくりと息をいれる。
息止めが苦しい場合は、2～3回に分けて入れる。
肺の中の空気を入れるようにする。

参考：ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療の手順



- ※1 ①～⑤の患者のうち、ヘリコバクター・ピロリ感染が疑われる患者に限り算定できる。
※2 迅速ウレアーゼ試験及び鏡検法の検査を同時に実施した場合又は抗体測定、尿素呼気試験及び糞便中抗原測定のうちいずれか2つの検査を同時に実施した場合にあっては、それぞれの所定点数（①+②、④+⑤、④+⑥、⑤+⑥）を初回実施に限り算定することができる。
※3 ⑦の検査の結果、ヘリコバクター・ピロリ陰性となった患者について、胃粘膜に同感染症特有の所見が認められているなど、同感染症を強く疑う特有の所見がある場合に、異なる検査法により再度検査を実施した場合に限り、さらに1項目に限り算定できる。なお、この場合において、医療上の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
※4 ヘリコバクター・ピロリ除菌及び除菌補助が薬事法上効能として承認されている薬剤を3剤併用、7日間投与し行う。
※5 抗体測定、尿素呼気試験、糞便中抗原測定を同時に実施した場合は、主たる2つの所定点数を初回実施に限り算定できる。
※6 除菌後の抗体測定は、除菌前の抗体測定結果との定量的な比較が可能である場合に限り算定できる。
※7 再度実施した場合は、1回に限り再除菌に係る費用および再除菌後の感染診断に係る費用を算定できる。

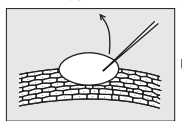
□ 単純ヘルペス特異抗原(FAT)・水痘帯状ヘルペスウイルス抗原(FAT)検査の留意点

◆検体の取り扱い方

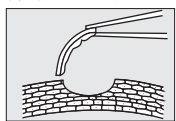
1. 検体の採取方法

- ①水疱の場合
小水疱、膿疱、痂皮

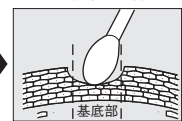
針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。



ピンセットで、剥がした皮を除去します。



ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底部前面を綿棒で強くぬぐいます。



- ②水疱でない場合
基底部細胞の採取

<注意>

- ①早期の水疱病巣が検体として最適です。
- ②水疱内容液は検体として不適です。
- ③ウイルス感染細胞は病巣基底部にありますので、患者が痛いというくらい強くぬぐい、基底部の細胞を採取します。
- ④膿が出ている場合は、病巣基底部をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。

2. 検体の塗抹方法



スライドガラスの2つのウェルに内側から円を描くように、こすらず軽く叩くように塗抹して下さい。
この際綿棒に付着している検体全てが、塗抹されるよう綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹して下さい。

風 乾

操作中検体が剥がれ落ちる原因となりますので完全に乾燥させて下さい。
ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。

アセトン固定

検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

塗抹標本の保存

固定後、速やかに凍結保存して下さい。

検体の採取方法

□ 便中ヘリコバクターピロリ抗原の便の採り方

提出日の当日または前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出してください。

1 準備

容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いて下さい。

青ラベルをはがして捨てます。

洋式 いつもと反対向き！

和式

トイレトペーパー

便をとる時は、必ずトイレトペーパーを敷いて下さい。

2 便をとる

採便棒先端の4つの溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとって下さい。

少なすぎ 適量 多すぎ

3 便をとったあと

採便棒を容器にもどして根元までねじ込んで下さい。

注意：
採便棒が途中でつかえますが、かまわず最後までねじ込んで下さい。

再び開けないで下さい。

保管上の注意

- 添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管して下さい。
- 採便後は、すみやかに提出して下さい。

※お取扱い上の注意

- ・便が古くなると正しい結果が得られませんので、出来るだけ新しい便を提出して下さい。
- ・採便後の採便器は、冷暗所に保管して下さい。
- ・便をとる目的以外には使用しないで下さい。
- ・子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ・採便棒を肛門に差し込まないようにして下さい。
- ・水洗水が付かないように便をとって下さい。
- ・採便器の緑キャップは、絶対はずしたり、ゆるめたりしないで下さい。

□ 尿中Ⅳ型コラーゲン検体採取方法

【尿の採取法】

- ①尿を採取する前にあらかじめ容器のラベルに氏名、性別、年齢、採取日を記入して下さい。
- ②採尿カップに早朝第一尿を取ります。必ず早朝第一尿を採取して下さい。
- ③次にとった尿をスポイトで容器に移します。

容器のラベルに印刷してある ← のラインの範囲まで尿を入れて下さい。

- ④尿を入れた後、容器のフタをしっかりと閉め、薬剤が溶解するまでよく混ぜて下さい。
- ⑤尿を入れた容器は、もとのビニール袋に入れてご提出下さい。

②

③

④

このラインの範囲内まで尿を入れて下さい。

β トロンボグロブリン (β-TG)、血小板第 4 因子 (PF-4) の採血方法

操作を2分以内に行う

2.7mL

20ゲージ(19〜23ゲージ)の針を用いたポリエチレン注射器により、(組織から組織因子の混入を避けるため)2シリンジ法で初めの血液2mLを捨て、次の血液2.7mLを採取して下さい。

真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。

また、できれば止血帯も使用しないで下さい。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。

予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液2.7mLを移し、ゆっくり2〜3回反転混合して下さい。

指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。

サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。

採血管を速やかに砕氷水と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。

角氷は使用しないで下さい。

砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500×gで20分間、2〜8℃で遠心分離して下さい。(下表に2,500×gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。)

1時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。

上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL検体容器へ採取して下さい。

検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存して下さい。

(1ヶ月安定)

血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

換算表

半径(cm)	回転数(r.p.m)	半径(cm)	回転数(r.p.m)
10	4,700	22	3,200
12	4,300	24	3,100
14	4,000	26	2,900
16	3,700	28	2,800
18	3,500	30	2,700
20	3,300		

□ 便中ヘモグロビン検体の便の採り方

① ラベルに氏名等を記入

※必ず、採便した日・時を記入してください

① キャップを回して、
② 引きぬく

② 便をとりすぎると、正しい検査ができません

表面をまんべんなくこすり取る

とる量

みぞ 先端のみぞに埋まるくらい

③ さし込んで、キャップを強く押す

※1回さし込んだら、ぬかないこと

※保存は冷暗所で

提出袋に入れすぐに提出

注意事項

- アルミシールは、やぶらないで下さい。
- 容器の液を捨てたり飲んだり、水を足したりしないでください。
- なるべく新しい便を提出して下さい。
- 生理中は、採便をしないで下さい。
- 人体に直接使用しないで下さい。
- 大便をとる目的以外には使用しないで下さい。
- 保管は、子どもの手の届かない所にして下さい。

洋式 **和式**

折りたたんだペーパー

□ クォンティフェロン TBプラスの採血方法

27°C
17°C

- QFTプラスチューブは、室内温度（22±5°C）になってから使用する。
- 被検者1人（1検体）に4種類のQFTプラスチューブ（灰色、緑色、黄色、紫色）を使用する。
- 採血前にQFTプラスチューブの分離剤部分を握るなどして温めないこと。

翼状針を使用する場合

① QFTプラスチューブに採血する前に、他の一般的な真空採血管を用いて翼状針のチューブの空気を抜く。

② ラベルの黒い印が見えるようにQFTプラスチューブを立て、黒い印の範囲（0.8～1.2mL）まで採血する。

シリンジを使用する場合

① シリンジを用いて5mL以上採血する。

② 直ちにQFTプラスチューブにラベルの黒い印の範囲（0.8～1.2mL）まで血液を分注する。

- QFTプラスチューブに1mLずつ血液を採取する。（採血は特定の順序で行う必要はないが、通常はQFT Nilチューブ、QFT TB1チューブ、QFT TB2チューブ、QFT Mitogenチューブの順で行う。）
- 採血量が0.8～1.2mLの範囲内であることを確認する。

ホルダーを使用した直接採血は推奨しない

- 採血量が過剰、あるいは過少になることがある。

採血後

① QFTプラスチューブに血液を採取あるいは分注した後、QFTプラスチューブを上下に5秒間又は10回振って混合する。

② 22±5°Cで保存する。（採血後、16時間以内に培養を開始する。）

27°C
17°C

検体の採取方法

淋菌／クラミジア・トラコマチス核酸検出の採取方法①

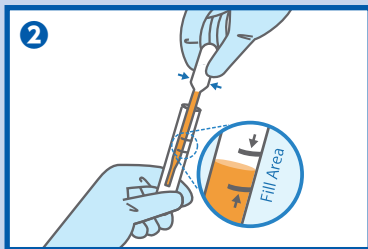
尿



検体の採取

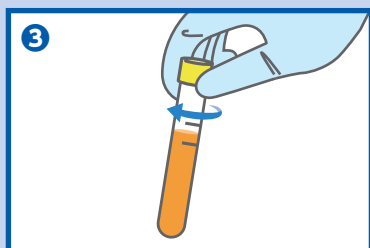
容器に初尿を採取します。スポイトを用いて、初尿をコバスPCRメディアに移します。

【注意】初尿は採取後2～30℃で24時間以内にPCRメディアに移してください。



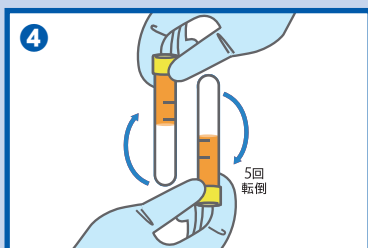
検体輸送液への懸濁

コバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



検体容器の保管

コバスPCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。



コバスPCRメディアを5回転倒混和させてください。

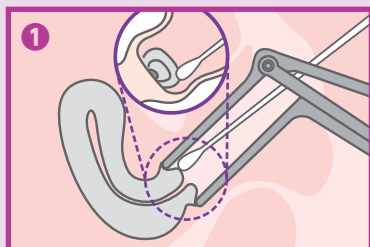
検体採取上の注意

- 初尿はPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られないことがあります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内にコバスPCRメディアに移してください。
- 検体採取後のコバスPCRメディアは2～30℃で保存し12か月以内に測定してください。
- カルボマー（カルボキシビニルポリマー）を含む陰潤滑剤、クリーム、ゲルなどの製品は検査結果に影響する可能性があるため、尿の採取中または採取前（約24時間）に使用しないでください。

一般的な注意

- 女性の尿を採取する前は消毒しないでください。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないでください。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散に十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結させないでください。

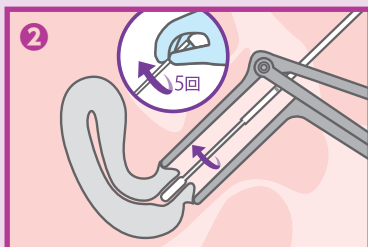
子宮頸管検体



子宮頸部の粘液除去

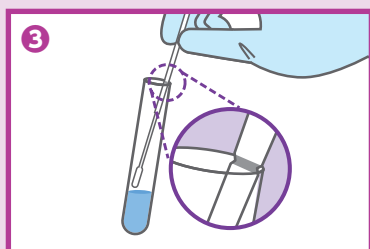
スワブ検体採取セットⅢ付属のドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭き取ります。

【注意】粘液を拭ったスワブは破棄します。



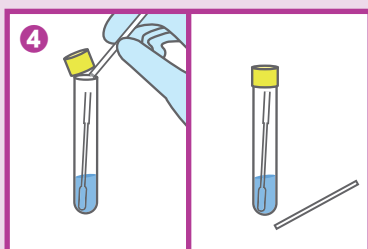
検体の採取

付属されているフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（回しすぎないでください。）スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。



検体の保存

コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したスワブの先端が溶液に浸からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。



コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、スワブの柄に取り付けられた線の部分でスワブの柄を折ります。キャップをしっかりと閉めます。

【注意】手元に残った折れた柄は破棄してください。スワブの柄をおる際は絶対にはさみを使用しないでください。

検体採取上の注意

- コバスPCRスワブ検体採取セットⅢ付属の検体採取スワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液、粘液が混入した場合は正しい結果が得られないことがあります。
- 粘液をドライスワブで十分除いてから検体を採取してください。
- 検体を採取したフロックスワブは速やかにコバスPCRメディアに入れてください。
- コバスPCRメディアには検体を採取したスワブのみ入れてください。
- 検体採取後のコバスPCRメディアは2～30℃で保存し12か月以内に測定してください。
- カルボマー（カルボキシビニルポリマー）を含む陰潤滑剤、クリーム、ゲルなどの製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物の採取中または採取前（約24時間）に使用しないでください。

一般的な注意

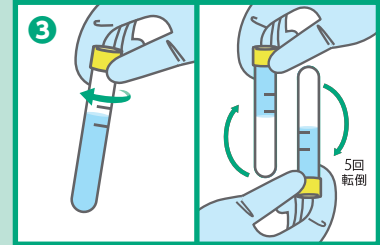
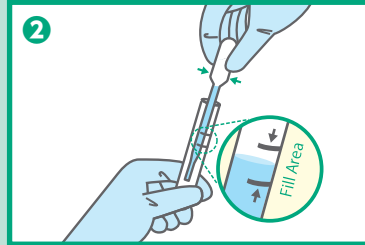
- 子宮頸管検体を採取する前にスワブをコバスPCRメディアに絶対に浸さないでください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結しないでください。

淋菌／クラミジア・トラコマチス核酸検出の採取方法②

うがい液

検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムをかむこと等は避けてください。

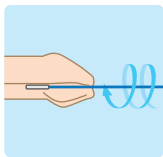
- ①滅菌生理食塩水をカップに15～20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよくうがいを行います。
- ②うがい液全量をコップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。
- ③専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して室温保存にて提出してください。



STDマイコプラズマの採取方法

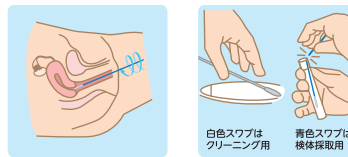
スワブ採取 (APTIMA-S)

男性スワブ検体の採取方法



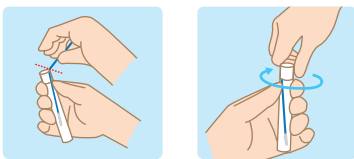
1. 排尿から1時間以上経過した被験者から検体を採取してください。
2. 青色スワブ (採取用捲綿子) を尿道に2～4cm 挿入します。
3. 青色スワブを時計方向に2～3秒間ゆっくり回転させ擦過物を採取します。
4. 青色スワブを注意して抜き取ります。

女性スワブ検体の採取方法



1. 白色スワブ (クリーニング用捲綿子) で子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を取り除きます。この白色スワブは廃棄してください。
2. 青色スワブ (採取用捲綿子) を子宮頸管内に挿入します。
3. 青色スワブを時計方向に10～30秒間ゆっくり回転させ、擦過物を採取します。
4. 青色スワブを膣粘液等に触れないよう注意しながら抜き取ります。

共通操作方法



1. 保存チューブのキャップをはずし、ただちに青色スワブをチューブ内のスワブ搬送液に懸濁します。
2. 青色スワブの軸を保存チューブの高さに合わせて折ります。その際、液が飛散しないよう注意してください。
3. 保存チューブのキャップをしっかりと閉め、ラベルに必要事項を記入します。

尿採取 (APTIMA-U)

尿の採取に使用する場合

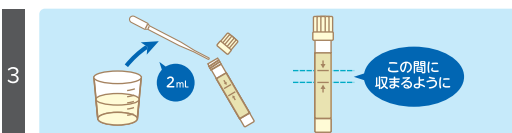
1. 前回の排尿から1時間以上経過した被験者から検体を採取してください。



初尿20～30mLを尿採用カップに採取します。尿を多量に採取し過ぎた場合、検体が希釈され、検出感度の低下につながる原因となります。女性の場合、採取前に陰唇部を拭かないようにしてください。



搬送用チューブのキャップをしっかりと閉め、ラベルに必要事項を記入します。



搬送用チューブのキャップをはずし、セットに添付のスポイトで尿を2mL分取し、搬送用チューブ内の搬送液に混和してください。搬送用チューブの黒線と黒線の間に液体があれば、正しい分量の尿を採取できたことになります。

検査方法の概略

■ Bethesda法

主に血液凝固系検査に用いられる検査方法。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比によりBethesda算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

■ CF (補体結合反応) Complement Fixation Test

補体が抗原抗体複合物に結合する事を利用して抗体の有無及び抗体価を測定する方法である。赤血球に溶血素を結合した感作血球に補体を加えると溶血を起こすが、抗原抗体複合物が存在すると補体が消費され溶血が阻止される。溶血が阻止される血清最高希釈倍数を抗体価とする。

■ CLEIA (化学発光酵素免疫測定法) Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに抗体及び酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加える。この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。そこで、この発光量をルミノメーターで定量する。

■ CLIA (化学発光免疫測定法) Chemiluminescent Immunoassay

標識物質として化学発光性化合物（ルミノール、アクリジウム誘導体など）を用い、抗原抗体反応後に結合型、非結合型中の標識物質による発光量を測定する。

■ DISH

異なるハプテンが標識された染色体と遺伝子に対するカクテルプローブを同時にハイブリダイズさせ、標識されたハプテンをSISH法とCISH法により可視化する方法。

■ ECLIA (電気化学発光免疫測定法) Electro Chemiluminescent Immunoassay

抗体を結合させた磁気ビーズに抗原を反応させると、抗原抗体複合物が生成される。さらにルテニウム標識抗体を結合させて、電気化学反応により産生した錯体の発光強度を測定する。

■ EIA (酵素免疫測定法) Enzyme Immunoassay

抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合体に酵素（ペルオキシダーゼ、アルカリフォスファターゼなど）を結合させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

■ ELISA (酵素免疫測定法) Enzyme-Linked Immunosorbent assay

固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に2次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。

■ ELISPOT Enzyme-Linked Immunospot

サイトカインを高感度に検出する検査方法。通常のELISA法の数十倍以上の感度で測定が可能。結核菌感染既往を検査するT-SPOT、TB検査に用いられており、抗原により刺激してIFN- γ 産生細胞数を計測することで感染診断を行う。

■ EMIT (多元酵素免疫測定法) Enzyme Multiplied Immunoassay Technique

薬剤を酵素で標識した標識薬剤が、その薬剤に対する抗体と結合すると酵素活性が低下する。基質に対する酵素作用によって起こる変化を測定する。

■ FAT (蛍光抗体法) Fluorescent Antibody Test

目的とする抗原または抗体を蛍光色素で標識し、抗原と抗体を反応させることにより蛍光顕微鏡下で特異蛍光が観察され、これにより判定する。

■ FEIA (蛍光酵素免疫測定法) Fluorescence-Enzyme Immunoassay

酵素を標識として用い、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する際に発する蛍光強度を測定し、検量線から濃度を求める。主にアレルギー特異的IgE抗体を測定するのに用いられている。

■ FISH Fluorescence in situ Hybridization

蛍光色素を標識したDNAプローブを染色体や細胞内のDNAとハイブリダイズさせ、その後生じた交雑部位を蛍光シグナルとして、蛍光顕微鏡下で検出する方法。

■ FISH法 (蛍光insitu ハイブリダイゼーション法) Fluorescence In Situ Hybridization

蛍光色素で標識したプローブを用いて標的DNAとハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。

■ FPIA (蛍光偏光免疫測定法) Fluorescence Polarization Immunoassay

分子量が比較的小さい被検物質の測定に用いられる。基底状態にある蛍光物質は、光を吸収すると励起状態に移行し、一定時間が経過すると蛍光を発して基底状態に戻る。また蛍光物質は、その分子内の特定の軸に平行な振動面を持つ光によって効率良く励起され、発する蛍光の振動面もこの軸に平行な光となる。この原理を利用し、検体中の抗原と一定量の蛍光標識抗原とが一定量の抗体に対し競合して抗原抗体反応を起こす。反応生成物と蛍光偏光度で濃度を求める。

■ GC (ガスクロマトグラフィー) Gas Chromatography

固定相とこの固定相に接して流れる移動相に試料を加え、各成分の親和性の差を利用し移動度の違いを分析する。移動相が気体であるものをガスクロマトグラフィーと呼ぶ。充填剤には試料成分の構造が類似し、揮発性の差がある場合は無極性、揮発性が同じで構造・極性が異なる場合、極性型が用いられる。検出方法としては水素炎イオン化検出器・熱伝導度検出器・電子捕獲検出器などがある。

■ HI (赤血球凝集抑制試験) Hemagglutination Inhibition Test

ウイルスは動物の赤血球を凝集する性質をもっているため、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し、抗原抗体複合物が存在すると、赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させた後、特定の赤血球を加え凝集抑制の有無を観察することにより、そのウイルスに対する抗体について判定をする。

■ HPLC (高速液体クロマトグラフィー) High Performance Liquid Chromatography

固定相とこの固定相に接して流れる移動相に試料を加え、各成分の親和性の差を利用し移動度の違いを分析する。移動相が液体であるものを液体クロマトグラフィーと呼ぶ。充填剤にはイオン交換型・逆相型・順層型・ゲル濾過型などが用いられる。検出方法としては光学的方法・示差屈折率方式・電気的な方法などがある。

■ IR (赤外吸収スペクトロメトリー) Infrared Absorption Spectrometry

測定試料に赤外線を照射してその波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収され、その分子構造に応じたスペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収スペクトルによって分析定量する方法。

■ IRMA (免疫放射定量法) Immuno Radio Metric Assay

RIA法の一つで、目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原抗体複合物ができる。これに免疫吸着剤で固相化された抗原を加えてその放射活性の濃度を調べる方法。

■ KIMS Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。

■ LA (ラテックス凝集法) Latex Agglutination

ラテックス粒子に抗原または抗体を結合させ、これに被検検体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無を確認することにより、抗体または抗原の存在を確認する方法。

■ LAMP Loop-Mediated Isothermal Amplification

PCR法と同じく遺伝子増幅法の1つ。標的とするDNAの6つの領域に対し4種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、サンプルとなる遺伝子、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を一定温度で反応させ増幅する検査方法。

■ LC-MS/MS (液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法) LC/MS/MS (Liquid chromatography tandem mass spectrometry)

液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを分離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する検査方法。

■ NT (中和試験) Neutralization Test

被検血清を段階希釈し、ウイルスを添加混合し抗原抗体反応を行う。その後、そのウイルスに対して感受性のある細胞に接種し、一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和される為、細胞変性効果（CPE）がおこらなくなる。CPEが無ければウイルスの増殖が抑制されたことになる。その最大希釈倍数を抗体価とする。

■ PA (粒子凝集試験) Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に抗原を結合させ、これと被検検体を反応させる。被検検体中に抗体が存在すると凝集がおこる。

■ PCR (ポリメラーゼ連鎖反応) Polymerase Chain Reaction

DNAは2本鎖でできているが、加熱するとそれぞれ1本鎖となり、冷却すると再度2本鎖にもどる。この性質を利用して耐熱性DNA合成酵素を繰り返し反応させ目的とするDNA断片を増幅させる方法。RNAを増幅する場合は、逆転写酵素（reversetranscriptase：RT）によりcDNAに転換して増幅する。

■ PHA (受身赤血球凝集試験) Passive Hemagglutination Test

測定する抗体に対応する抗原を赤血球に吸着させ、被検検体と反応させる。検体中に抗体が存在すると、抗原抗体反応により凝集がおこる。

■ RIA (放射免疫測定法) Radio Immunoassay

放射性同位元素で標識した反応物質を用い、抗原抗体反応から抗原あるいは抗体の濃度を測定する方法である。抗原抗体反応において一定量の標識抗原あるいは抗体を加えると標識抗原・抗体複合物ができる。これに同一の抗原性または抗体性をもつ未知量の物質を添加する事により、標識抗原・抗体複合体（bound）と非結合標識物（free）ができる。これらを何らか（固相法・2抗体法・硫酸塩析法・DCC法・PEG法）の方法で分離し放射能を測定する。

- **RPHA (逆受身赤血球凝集試験)**
Reversed Passive Hemagglutination Test
目的とする抗原に対する抗体を赤血球表面に吸着させ、被検検体と反応させ凝集を確認する。抗原が存在すれば凝集を起こす。
- **RT-PCR Reverse Transcriptase-polymerase Chain Reaction**
RNAが増幅対象の場合に、RNAを鋳型として逆転写酵素 (reversetranscriptase ; RT) により相補的なcDNAを合成してPCRを行う検査方法。
- **SRID (免疫拡散法) Single Radial Immuno Diffusion**
特異抗体を一定濃度含む寒天ゲルにあけた穴の中に検体を入れ、ゲル内拡散をさせる。沈降輪の大きさや面積が抗原量に比例することからこのゲル内拡散量を測定することにより未知検体の濃度を求める方法。
- **TIA (免疫比濁法) Turbidimetric Immunoassay**
抗原抗体複合体の混濁物に光を照射して、免疫複合体形成による透過光の減少率から抗原または抗体量を測定する方法。
- **TMA Transcription Mediated Amplification**
2種類のプライマーとT7RNAポリメラーゼと逆転写酵素を使用し、等温でRNAを増幅する方法です。標的とするRNAにT7プロモータープライマーをハイブリダイズし、逆転写酵素によりRNA-cDNAを合成します。逆転写酵素のもつRNaseH活性によりRNAは分解され、一本鎖cDNAとなる。これにプライマー2が結合し逆転写酵素のDNAポリメラーゼ活性によりT7プロモーター配列を持つ二本鎖DNAが合成されます。このDNAからRNAポリメラーゼの転写反応によりRNAが合成されます。
- **UV (紫外部吸光光度分析法) Ultraviolet Spectrophotometry**
補酵素の還元型NADH、NADPHが340nmに吸収をもつ事を利用した測定方法。
- **ウエスタンブロット法**
電気泳動によって分離した蛋白質をニトロセルロース膜に転写し、その蛋白質に対する特異的抗体を用いることにより目的の蛋白質のバンドを検出する方法。
- **希釈ラッセル蛇毒試験法**
被検血漿に蛇毒を添加して、凝固を開始させる。ループスアンチコアグラント (LA) の存在によりリン脂質の消費を確認する。また、被検血漿に過剰のリン脂質を加えるとLA吸収により凝固時間が補正される。これらの凝固時間の比により測定する。
- **原子吸光法**
高温中に試料溶液の霧を噴霧し分子を構成原子に熱分解させ、その原子固有の波長の光を照射すると、原子は共鳴線を吸収する。このとき、基底状態の原子は光のエネルギーを吸収して励起状態になる。この吸光度の測定から試料溶液中の目的元素の濃度を求める。
- **酵素法**
測定の対象となる物質やその反応生成物を特定の酵素を用いて特異的に測定する方法。
- **固定血小板凝集法**
血小板凝集反応を原理とし、正常ヒト洗浄血漿にリストセチンを付着させたものと被検血漿を反応させ、血小板凝集反応を示す希釈倍数によって、%を求める。
- **サザンブロット法**
電気泳動法の一つで、特定のDNAの同定に用いられる手法である。制限酵素により処理されたgenome DNAをゲル内電気泳動により分離した後、ニトロセルロース膜などに転写しアイソトープでラベルした特異的プローブを用いて目的とするDNA断片を検出する方法。
- **電気泳動法**
溶液中で荷電したコロイド粒子に電圧を加えると、正に荷電した粒子は陰極に、負に荷電した粒子は陽極へ移動する。この現象を利用してその移動度から目的とする物質の分離や不均一性の測定を行うのが電気泳動法である。
- **電極法**
イオン選択電極を用いる電気化学的分析法である。イオン選択電極はイオンの量に対数に比例し電位を発生する。この電位を測定し、イオン濃度を測定する。
- **ネフェロメトリー法**
抗原抗体反応複合体の混濁物に、光を照射して複合体形成による散乱光の強さを測定するものである。
- **発色合成基質法**
被検検体に発色合成基質と一定濃度の対象物質を加えることにより、その加水分解でp-ニトロアニリンが遊離される。その時の発色を比色定量し、濃度を求める。

- **比色法**
目的とする物質、もしくは反応生成物を着色物質に変化させ、その色調を可視部波長を用いて比色定量する。
- **氷点降下法**
溶媒に溶質を溶かすと、純溶媒よりも氷点が低くなる。その降下度は浸透圧に比例する。この原理を利用し測定する。
- **フローサイトメトリー**
高速液流にて細胞を流す流路系とレーザー光線を照射し、細胞を透過する光量および細胞より発せられる蛍光を検出する光学系、さらには得られた情報を解析するデータ処理系で構成されるフローサイトメータ (Flow Cytometer) を用いて検査を実施する。フローサイトメータは、照射レーザー光に対し前方方向にある検出器にて細胞の大きさを、レーザー光に対し90°方向にある検出器で、細胞内構造などの不均一性を検出する。これにより、血液細胞においてはリンパ球、単球、顆粒球などに識別することが可能である。また、蛍光標識モノクローナル抗体を用いて細胞を染色することにより、細胞集団より得られる蛍光強度は細胞表面抗原と比例する。つまり、蛍光強度が高いほど、細胞表面の抗体対応抗原は多く存在することになる。したがって、フローサイトメータを用いることにより細胞の大きさ、密度にて分類し、さらにモノクローナル抗体にてその細胞集団を細分化し分析を行う。
- **免疫固定法 Immunofixation Electrophoresis : IFE**
電気泳動と抗原抗体反応を組み合わせた蛋白の同定法です。
アガロースを支持体として蛋白電気泳動を行い、蛋白が泳動されている位置に抗血清を直接塗布し、抗原抗体反応を起こさせます。その後、未反応蛋白を除去して免疫沈降物を染色します。蛋白分画に出現したM蛋白と考えられる染色帯が、抗IgG、抗IgA、抗IgM、抗κ鎖および抗λ鎖血清のいずれによって抗原抗体反応を起こしているかを観察し、M蛋白の同定を行います。
- **ラインブロット法**
抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を、2次反応させ、抗体の検出を行う方法。
- **リアルタイムPCR法**
PCR法を基本原理とする核酸増幅法の1種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。
- **³H-サイミジン取込能測定**
リンパ球は、in vitroで植物性レクチンや細菌性リボ多糖体などの刺激を与えると、芽球化現象が見られる。これは生体内での特異抗原に対する免疫応答反応に相当するリンパ球の分化、増殖機能発現の結果であり、リンパ球の基本的な反応性を示している。リンパ球におけるDNA合成の亢進は³H-サイミジンの取込量により測定する。
刺激物質として治療薬剤を用いれば、それに対するリンパ球の反応性をみることができ、また分離したリンパ球の混合培養で細胞相互作用をみることができる。
- **⁵¹Cr遊離法**
非自己細胞である癌細胞や感染細胞などに対するリンパ系細胞の傷害活性を調べる目的で、K562などの標的細胞を放射性の⁵¹Crで標識し、これにeffector細胞を加えて培養することにより遊離する⁵¹Cr放射活性を測定する。

HLA遺伝子型と種類

日本人集団におけるHLA遺伝子頻度と対応抗原

A Locus			
抗原	アリル	頻度1	頻度2
A1	A*01:01	0.2%	0.25%
A2	A*02:01	10.9%	11.64%
A2	A*02:03	r	0.10%
A2	A*02:06	10.4%	8.74%
A2	A*02:07	3.4%	3.39%
A2	A*02:10	0.1%	0.44%
Null	A*02:15N	vr	vr
A2	A*02:18	r	0.05%
—	A*02:28	r	r
A2	A*02:42	vr	vr
A3	A*03:01	0.8%	0.25%
A3	A*03:02	r	0.10%
A11	A*11:01	8.1%	10.22%
A11	A*11:02	0.1%	0.25%
A23	A*23:01	—	—
A24	A*24:02	35.6%	36.20%
A24	A*24:04	r	0.15%
A24	A*24:08	r	r
A24	A*24:20	r	0.83%
A25	A*25:01	—	—
A26	A*26:01	9.8%	7.66%
A26	A*26:02	2.2%	2.31%
A26	A*26:03	2.1%	1.47%
A26	A*26:04	vr	vr
A26	A*26:05	r	0.05%
A26	A*26:06	vr	vr
Null	A*26:11N	vr	vr
A29	A*29:01	vr	vr
A30	A*30:01	0.3%	0.10%
A30	A*30:04	vr	vr
A31	A*31:01	7.7%	9.14%
A31	A*31:05	vr	vr
A32	A*32:01	vr	vr
A33	A*33:03	7.9%	6.68%
A34	A*34:01	vr	vr
A36	A*36:01	—	—
A43	A*43:01	—	—
A66	A*66:01	—	—
A68	A*68:01	r	r
A69	A*69:01	—	—
A74	A*74:01	—	—

B Locus			
抗原	アリル	頻度1	頻度2
B7	B*07:02	5.2%	5.70%
B7	B*07:05	r	r
B8	B*08:01	—	—
B13	B*13:01	0.9%	1.28%
B13	B*13:02	0.1%	0.25%
B64	B*14:01	r	r
B62	B*15:01	7.2%	7.51%
B75	B*15:02	r	0.05%
B72	B*15:03	r	r
B62	B*15:05	vr	0.05%
B62	B*15:07	0.7%	0.44%
B70	B*15:09	vr	vr
B75	B*15:11	1.0%	0.83%
B71	B*15:18	0.9%	1.72%
Null	B*15:26N	vr	vr
B62	B*15:27	vr	0.29%
B62	B*15:28	r	0.05%
—	B*15:38	r	r
B72	B*15:46	vr	vr
—	B*15:60	vr	vr
B18	B*18:01	—	—
B27	B*27:02	vr	vr
B27	B*27:04	r	0.20%
B27	B*27:05	r	0.05%
B27	B*27:11	vr	vr
B35	B*35:01	8.6%	7.76%
B35	B*35:05	vr	0.05%
B35	B*35:10	vr	vr
B35	B*35:21	vr	vr
B35	B*35:35	vr	vr
B35	B*35:43	vr	vr
B37	B*37:01	0.2%	0.44%
B38	B*38:02	0.3%	0.25%
B39	B*39:01	4.0%	3.44%
B39	B*39:02	0.2%	0.39%
B39	B*39:04	0.2%	0.20%
B39	B*39:23	r	0.05%
B60	B*40:01	5.1%	5.40%
B61	B*40:02	8.2%	8.25%
B61	B*40:03	1.1%	0.25%
B61	B*40:06	5.3%	5.26%
B60	B*40:07	vr	vr
B61	B*40:29	vr	vr
B41	B*41:01	—	—
B42	B*42:01	—	—
B44	B*44:02	1.0%	0.34%
B44	B*44:03	6.9%	6.24%
B45	B*45:01	—	—
B46	B*46:01	3.8%	4.96%
B46	B*46:02	vr	vr
B47	B*47:01	—	—
B48	B*48:01	2.7%	2.65%
B49	B*49:01	—	—
B50	B*50:01	—	—
B51	B*51:01	7.9%	8.35%
B51	B*51:02	0.1%	0.29%

B Locus (続き)			
抗原	アリル	頻度1	頻度2
B51	B*51:03	vr	vr
B52	B*52:01	13.7%	10.90%
B53	B*53:01	—	—
B54	B*54:01	6.5%	8.79%
B54	B*54:02	vr	vr
B55	B*55:02	3.2%	1.92%
B55	B*55:04	r	0.05%
B55	B*55:10	vr	vr
B56	B*56:01	1.0%	1.47%
B22	B*56:03	0.2%	0.05%
B56	B*56:05	vr	vr
B57	B*57:01	0.1%	r
B58	B*58:01	0.6%	0.49%
B59	B*59:01	1.7%	1.96%
B67	B*67:01	1.0%	1.38%
B78	B*78:02	vr	vr
B81	B*81:01	vr	vr

DRB1			
抗原	アリル	頻度1	頻度2
DR1	DRB1*01:01	4.76%	5.60%
DR17	DRB1*03:01	0.22%	0.05%
DR18	DRB1*03:02	—	—
DR4	DRB1*04:01	1.16%	1.28%
DR4	DRB1*04:03	3.00%	3.00%
DR4	DRB1*04:04	0.22%	0.34%
DR4	DRB1*04:05	15.51%	14.05%
DR4	DRB1*04:06	3.22%	3.49%
DR4	DRB1*04:07	0.44%	0.49%
DR4	DRB1*04:10	1.82%	1.82%
DR7	DRB1*07:01	0.81%	0.20%
DR8	DRB1*08:02	4.99%	4.91%
DR8	DRB1*08:03	7.55%	9.43%
DR8	DRB1*08:09	r	0.05%
DR9	DRB1*09:01	12.38%	14.88%
DR10	DRB1*10:01	0.59%	0.39%
DR11	DRB1*11:01	2.94%	2.80%
DR12	DRB1*12:01	3.90%	3.59%
DR12	DRB1*12:02	2.66%	1.72%
DR13	DRB1*13:01	0.86%	0.44%
DR13	DRB1*13:02	5.25%	6.43%
DR13	DRB1*13:07	0.11%	0.10%
DR13	DRB1*13:12	vr	0.05%
DR14	DRB1*14:02	r	0.05%
DR14	DRB1*14:03	1.57%	1.28%
DR14	DRB1*14:05	2.56%	2.16%
DR14	DRB1*14:06	1.36%	1.28%
DR14	DRB1*14:07	0.27%	0.10%
DR14	DRB1*14:12	r	0.05%
DR14	DRB1*14:29	r	r
DR14	DRB1*14:54	4.45%	3.83%
DR15	DRB1*15:01	6.08%	5.75%
DR15	DRB1*15:02	8.74%	9.87%
DR16	DRB1*16:02	0.55%	0.54%

頻度1 : Tanaka H, et al. : Clinical Transplants : 139, 1996. による日本人N=493のアリル頻度
頻度2 : Asuma F, et al. : MHC : 166, 2004. 発表資料による日本人N=1018のアリル頻度
頻度3 : Hashimoto M, et al. : Tissue Antigens : 166, 1994. による日本人N=916のアリル頻度

その他、低頻度により上記の調査で検出されなかったアリルを「rare」とし、さらに低頻度と思われるものを「very rare」とした。
r : rare
vr : very rare
— : 日本人に検出されないアリル

HLA型の種類

A Locus	B Locus	DR Locus
A1	B7	DR1
A2	B8	DR2
A3	B12	DR3
A9	B13	DR4
A10	B14	DR5
A11	B15	DR6
A23 (9)	B16	DR7
A24 (9)	B18	DR8
A25 (10)	B21	DR9
A26 (10)	B22	DR10
A28	B27	DR11 (5)
A29 (19)	B35	DR12 (5)
A30 (19)	B37	DR13 (6)
A31 (19)	B38 (16)	DR14 (6)
A32 (19)	B39 (16)	DR15 (2)
A33 (19)	B40	DR16 (2)
A34 (10)	B41	DR17 (3)
A36	B42	DR18 (3)
A43	B44 (12)	
A66 (10)	B45 (12)	
A68 (28)	B46	
A69 (28)	B47	
A74 (19)	B48	
A80	B49 (21)	
	B50 (21)	
	B51 (5)	
	B52 (5)	
	B53	
	B54 (22)	
	B55 (22)	
	B56 (22)	
	B57 (17)	
	B58 (17)	
	B59	
	B60 (40)	
	B61 (40)	
	B62 (15)	
	B63 (15)	
	B64 (14)	
	B65 (14)	
	B67	
	B70	
	B71 (70)	
	B72 (70)	
	B73	
	B75 (15)	
	B76 (15)	
	B77 (15)	
	B78	
	B81	

主要参考文献

農業スクリーニング……………福島 実:第24回日本環境化学会講演会資料集, p.30-45, 1998.
結石鑑別……………亀田治男:『医化学実験講座B,p.525, 中山書店, 東京, 1973.
PTDチェック……………一條元彦, 他:産婦人科治療 67, 212-218, 1993.
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ…北村 光, 他:臨床検査機器・試薬, 21(4):357-361, 1998.
浸透圧……………長浜大輔:検査と技術 14, 961, 1986.
ICG……………金井正光(編):臨床検査法提要(改訂第35版), p.1522, 金原出版, 東京, 2020.
60分・120分クレアチニンクリアランス…金井正光(編):臨床検査法提要(改訂第35版), p.1579, 金原出版, 東京, 2020.
24時間クレアチニンクリアランス…同上
濃縮試験……………金井正光(編):臨床検査法提要(改訂第35版), p.1592, 金原出版, 東京, 2020.
PSPテスト(フェノールスル…金井正光(編):臨床検査法提要(改訂第35版), p.592, 金原出版, 東京, 2020.
ペブシノゲンⅠ・Ⅱ……………三木一正(編):ペブシノゲン法, 医学書院, 1998.
ヘリコバクターピロリ抗体……………藤岡利生, 他:医学と薬学 43(3):573-579, 2000.
尿素呼吸試験……………Ohara, S., et al.: Helicobacter, 3(1): 46-53, 1998.
便中ヘリコバクターピロリ抗原……………福田能啓, 他:医学と薬学 52:261-266, 2004.

薬物検査

フェノバルビタール……………大久保昭行, 斉藤侑也:TDM実施テキスト, 文光堂, 1992.
フェニトイン……………同上
カルバマゼピン……………同上
バルプロ酸ナトリウム……………同上
エトスクシミド……………同上
ブリミドン……………Oellerich, M.: J. Clin. Chem. Clin. Biochem. 18, 197, 1980.
トリメタジオン……………Wolfgang, S. et al.: 抗けいれん薬, ドラッグレベルモニタリング(斉藤正行, 田村善蔵 監訳), p.100-109, 廣川書店, 東京, 1982.
クロナゼパム……………Heazlewood, R. L. et al.: J. Chromatogr. 336, 229, 1984.
ニトラゼパム……………同上
ジアゼパム……………Vree, T. B. et al.: J. Chromatogr. 162, 604, 1979.
ゾニサミド……………一般社団法人日本TDM学会編:抗てんかん薬TDM標準化ガイドライン2018.(金原出版)
アセタゾラミド……………Sadee, W. et al.: ドラッグレベルモニタリング, 90, 1982. (廣川書店)
クロバザム……………Drouet-Coassolo, C. et al.: J. Chromatogr. 487, 295, 1989
ガバペンチン……………Forrest G, et al.: Journal of Chromatography B 681: 421~425, 1996.
レベチラセタム……………赤松直樹, 他: Epilepsy 4(2), 129, 2010.
ラモトリギン……………村崎光邦他, 他:臨床精神薬理11:117~134, 2008.
トピラマート……………小嶺幸弘: 沖縄医報 45(9), 51, 2009.
ベランパネル……………金澤 治: こころの科学 (157), 45, 2011.
……………花田敬久: 脳21 16(3), 322, 2013.
……………Yuji Mano se al.: J. Pharm. Biomed. Ana. 107, 56, 2015
ラコサミド……………Kim JS, et al.: Brain Dev 36(6), 510, 2014.
リチウム……………大久保昭行, 斉藤侑也(編):TDM実施テキスト, 文光堂, 1992.
ハロペリドール……………白井晶子, 他:医学と薬学 49, 1011-1017, 2003.
ブロムペリドール……………白井晶子, 他:医学と薬学 50, 101-107, 2003.
クロザピン……………矢田勇慈:臨床精神薬理25, (1), 9, 2022.
……………野村信行:臨床精神薬理23, (1), 85, 2020.
ブロブラノロール……………Ahnoff, M., et al.: J. Chromatogr., 340: 73-138, 1985.
キニジン……………木村秀樹, 他: JJCLA 33, 860-864, 2008.
プロカインアミド……………同上
ジソピラミド……………西川 隆, 他:医学と薬学 9, 1213-1216, 1983.
リドカイン……………宮本侃佑:臨床化学 6, 202-211, 1978.
アブリンジン……………福井啓祐, 他: JJSHP 24, 53-55, 1988.
プロパフェノン……………薬理と治療 Vol. 15 No. 6,' 87.
シベンジリン……………大塚 実: Pharma Med. 14, 155-166, 1996.
ビルシカイニド……………上野和行: Pharma Medica, 11(4), 1993.
アミオダロン……………Kuhn, J. et al.: J Pharm Biomed Anal. 51, 210~216, 2010.
ビルメノール……………市川 林, 他:臨床医薬, 11(4):903-908, 1995.
メキシレチン……………小杉隆洋, 他:TDM研究 7, 179-184, 1990.
フレカイニド……………Piovan, D., et al.: Pharm. Res. Comm., 18: 739, 1986.
ベプリジル……………山崎 泰志, 他:臨床医薬14(1):139~145, 1998.
ソタロール……………Tagawa M. et al.: Jpn circ J. 65 (Sup1-A), 386, 2001.
ジゴキシン……………大久保昭行, 斉藤侑也(編):TDMテキスト, 文光堂, 1988.
テオフィリン……………大久保昭行, 斉藤侑也(編):TDMテキスト, 文光堂, 1988.
ゲンタマイシン……………Henry, JB.: Clinical diagnosis and management by Laboratory Methods, 349-384, 1991.
トブラマイシン……………木村秀樹, 他: JJCLA 33, 860-864, 2008.
アミカシン……………木村秀樹, 他: JJCLA 33, 860-864, 2008.
バンコマイシン……………篠崎公一, 他:TDM研究 17, 291-296, 2000.
アルベカシン……………日本化学療法学会/日本TDM学会: 抗菌薬TDMガイドライン改訂版, 105-113, 2016.
……………日本化学療法学会/日本TDM学会: 抗菌薬TDMガイドライン改訂版, 59-78, 2016.
……………白杵英俊, 他:医学と薬学 53(6):817~821, 2005.
……………Campbell, R. S. et al.: J. Clin. Chem. Clin. Biochem. 24, 1 55-159, 1986.
……………木村秀樹, 他: JJCLA 33, 860-864, 2008.
……………辻 祐輝, 他:医学と薬学 72, 911-917, 2015.
……………

……………L-ドーバ……………Martins, HF. et al.: Quimica Nova 36,(1),171, 2013.
……………シクロスポリン……………古屋 実, 他:医学と薬学 70(5・6), 961, 2013.
……………同上
……………タクロリムス……………瀬山邦明:日本内科学会誌 99(7), 91, 2010.
……………シロリムス……………小林昌宏, 他:TDM研究 25(4), 133, 2008.
……………ミコフェノール酸……………

内分泌学検査

GH(成長ホルモン)……………小山沙世, 他:医学と薬学 68(5):899~910, 2012.
……………ソマトメジン-C……………Isojima T, et al.: Endocrine J. 59(9), 771, 2012.
……………LH(黄体形成ホルモン)……………ホルモンと生理活性物質:臨床検査増刊号 Vol.38 No.11,1994.
……………FSH(卵胞刺激ホルモン)……………同上
……………ACTH(副腎皮質刺激ホルモン)……………阿部正樹, 他:医学と薬学 57, 239, 2007.
……………TSH(甲状腺刺激ホルモン)……………ホルモンと生理活性物質:臨床検査増刊号 Vol.38 No.11,1994.
……………プロラクチン(PRL)……………同上
……………抗利尿ホルモン……………田中誠仁, 他:医学と薬学 72:1379-1388, 2015.
……………T₄(総サイロキシン)……………ホルモンと生理活性物質:臨床検査増刊号 Vol.38 No.11,1994.
……………T₃(トリヨードサイロニン)……………同上
……………FT₄(遊離サイロキシン)……………同上
……………FT₃(遊離トリヨードサイロニン)……………同上
……………TBG……………家入蒼生夫:日本臨牀 63,(増刊号8), 272, 2005.
……………サイログロブリン……………一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会編:臨床免疫検査技術教本 69, 丸善出版, 2017.
……………抗サイログロブリン抗体……………森田新二, 他:医学と薬学 55(5):775~782, 2006.
……………抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体……………森田新二, 他:医学と薬学 55(5):775~782, 2006.
……………TSHレセプター抗体(TRAb)……………一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会編:臨床免疫検査技術教本 108, 丸善出版, 2017.
……………甲状腺刺激抗体……………田上哲也, 他:糖尿病・内分泌代謝科 53, 479-486, 2021.
……………PTH-intact……………佐藤幹二:日本臨牀 68(増刊号7) 317-320, 2010.
……………(副甲状腺ホルモ intact)
……………高感度PTH(HS-PTH)……………田村禎一, 他:腎と骨代謝 9, 353-358, 1996.
……………PTHrP-intact……………福本誠二, 他:ホルモンと臨床 40, 1309, 1992.
……………(副甲状腺ホルモ関連蛋白 intact)
……………カルシトニン(CT)……………北川 亘, 他:医学と薬学 72, 97, 2015.
……………オステオカルシン(BGP)……………戸来 孝, 他:日本臨床検査自動化学会会誌 40:52-57, 2015.
……………低カルボキシリ化オステオカルシン……………西村 順, 他:医学と薬学 57, 523-535, 2007.
……………(ucOC)
……………NTx(Ⅰ型コラーゲン架橋……………日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12, 191, 2004.
……………N-テロペプチド)
……………TRACP-5b……………西沢良記, 他:医学と薬学 54, 709, 2005.
……………望月善子, 他:医学と薬学 54, 895, 2005.
……………尿中デオキシビリジノリン……………山本逸雄, 他:ホルモンと臨床 44(7), 79, 1996.
……………日高好博:医学と薬学 70(2), 357-365, 2013.
……………total P1NP……………辻 潮, 他:機器・試薬 11, 635, 1988.
……………カテコールアミン3分画……………守 和子:第47, 48回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィーセミナー 要旨集, p.6-8, 1977.
……………カテコールアミン3分画(尿)……………Anderson, G.M. et al.: Clin. Chem, 27, 2060, 1981.
……………ホルモンと生理活性物質:臨床検査増刊号 Vol. 38 No. 11, 1994.
……………Flood, J. G. et al.: Clin. Chem. 25, 1234, 1979.
……………Rosano, T. G. et al.: Clin. Chem. 27, 228, 1981.
……………Hansson, C. et al.: J. Chromatogr. 162, 7, 1979.
……………石田淳一, 他: Jasco Report 39(1, 7), 7, 1997.
……………Rosano, T. G. et al.: Clin. Chem. 28, 207, 1982.
……………宇津貴央, 他:医学と薬学 73(3), 311, 2016.
……………血漿レニン活性(PRA)……………松村充子, 他:日本臨床検査自動化学会会誌 44(1), 47, 2019.
……………レニン濃度(PRC)……………酒本美由紀, 他:臨床病理 66(suppl), 131, 2018.
……………アンジオテンシンⅠ転換酵素(ACE)……………Kasahara, Y. et al.: Clin. Chem. 27, 1922, 1981.
……………11-デオキシコルチコステロン……………栃木武一, 他:ホルモンと臨床 24, 1151, 1976.
……………アルドステロン……………松村充子, 他:日本臨床検査自動化学会会誌 44(1), 47, 2019.
……………酒本美由紀, 他:臨床病理 66(suppl), 131, 2018.
……………コレチゾール……………金井正光(編):臨床検査法提要(改訂第35版), p.788, 金原出版, 東京, 2020.
……………コレチゾール(尿)……………関口昌江, 他:医学と薬学 69(6), 985, 2013.
……………11β-デオキシコルチコステロイド……………宇田川美佐子, 他:臨床化学 5(3):321-325, 1977.
……………(11-OHCS)
……………デハイドロエピアンドロステロン……………サルフェート(DHEA-S)
……………テストステロン……………テス トステロン……………遊離テストステロン……………プロゲステロン……………プレグナジオール(P2)……………プレグナトリオール(P3)……………エストラジオール(E₂)……………ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)……………HCG-βサブユニット……………

主要参考文献

抗ミューラー管ホルモン(AMH) …… 山本貴寛, 他：日本生殖医学会雑誌 61, 487, 2016.

インスリン(IRI) …… 川本美聡, 他：ホルモンと臨床 40, 433, 1992.

インスリン抗体 …… 内渥安子, 他：医学と薬学 65 (4), 525-530, 2011.

抗GAD抗体 …… 川崎英二, 他：医学と薬学 66 (2), 345-352, 2011.

抗IA-2抗体 …… 川崎英二, 他：医学と薬学 75, 669-680, 2018.

C-ペプチド(CPR) …… 野田雅子, 他：ホルモンと臨床 45, 495, 1997.

肝細胞増殖因子(HGF) …… 二井谷好行, 他：臨床検査, 35 (13)：1360-1364, 1991.

ヒト心房性Na利尿ポリペプチド(α-hANP) …… 松岡泰弘, 他：医療と検査機器・試薬33 (4)：535-540, 2010.

BNP …… 錦見俊雄：BNP分子型の最新知見, シーメンスサイエントیفイクインフォーメーション 16, 2013.

NT-pro BNP …… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 659-660, 金原出版, 東京, 2020.

エリスロポエチン(EPO) …… 増田詩織, 他：医学と薬学 67：297-306, 2012.

カルニチン …… 市原清志：日本臨床検査自動化学会会誌 37 (suppl.1)：15-35, 2012.

サイクリックAMP(c-AMP) …… 津島慶三, 他：臨床透析 16 (2)：167-173, 2000.

ヒスタミン …… 孫 孝義, 他：日本内分泌学会雑誌 61 (9)：912-923, 1985.

アディポネクチン …… 三田晴久, 他：アレルギー 36, 121, 1987.

…… 梅森祥央, 他：JJCLA 34, 8605-864, 2009.

腫瘍関連検査

アポリポ蛋白A2アイソフォーム …… 十亀麻子, 他：医学と薬学 80, 1089-1096, 2023.

AFP(αフェトプロテイン) …… 新改悦郎, 他：Sysmex Journal Vol. 20 No. 1, p77, 1997.

AFPレクチン分画 …… Shimizu, K. et al.：Clin. Chim. Acta 214, 3, 1993.

PIVKA-II …… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 640, 金原出版, 東京, 2020.

CEA(癌胎児性抗原) …… 新改悦郎, 他：Sysmex Journal Vol. 20 No. 1, p77, 1997.

抗P53抗体 …… 橋本礼輔, 他：医学と薬学 75, 955-964, 2018.

BFP(塩基性フェトプロテイン) …… 石井 勝, 他：癌と治療 15, 2107, 1988.

DUPAN-2 …… 櫻林郁之介, 他：臨床病理 34, 705, 1986.

エラスターゼI …… 大出勝也, 他：臨床病理 50, 376-380, 2002.

CA19-9 …… 新改悦郎, 他：Sysmex Journal Vol. 20 No. 1, p77, 1997.

SPan-1抗原 …… 福田容子, 他：核医学 27, 405, 1990.

CA15-3 …… 桑原正喜：他, 臨床検査 30, 81, 1986.

NCC-ST-439 …… 大倉久直, 他：癌と治療 14, 1901, 1987.

BCA225 …… 小林美耶子, 他：医学と薬学 72, 1249-1259, 2015.

CA125 …… 新改悦郎, 他：Sysmex Journal Vol. 20 No. 1, p77, 1997.

CA602 …… 野澤志朗, 他：癌と化学療法 19, 2085-2093, 1992.

CA54/61 …… 野澤志朗, 他：癌と化学療法 19, 827-835, 1992.

CA72-4 …… 青山 昭, 他：医学と薬学 49, 127-135, 2003.

シアリルTn抗原 …… 井村裕夫, 他：癌と治療 16, 3213, 1989.

シアリルLex抗原 …… 三嶋芳樹, 他：医学と薬学 29：1193-1200, 2003.

(CSLEX抗原)

PSA(前立腺特異抗原) …… ホルモンと生理活性物質：臨床検査増刊別 Vol. 38 No. 11, 1994.

フリーPSA/トータルPSA比 …… 田中方士, 他：泌尿紀要 43：855-860, 1997.

PSA-ACT …… 大野明美, 他：医学と薬学 49, 325-332, 2003.

S2,3PSA …… 米山 徹, 他：医療と検査機器・試薬 46, 244-257, 2023.

(前立腺特異抗原(PSA)レクチン結合分画比)

γ-Sm(γセミノプロティン) …… 西松寛明, 他：医学と薬学 40, 345-350, 1998.

I型コラーゲン-C-テロペプチド(ICTP) …… 清原 剛, 他：ホルモンと臨床 42, 1189, 1994.

SLX(シアリルLe^x-抗原) …… 井村裕夫, 他：癌と化学療法 14 (5), 1315-1321, 1987.

SCC抗原 …… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 643, 金原出版, 東京, 2020.

シフラ(サイトケラチン19フラグメント) …… 北村 諭：日本臨牀 68 (増刊号7) 694-697, 2010.

NSE(神経特異エノラーゼ) …… 小田桐恵美：日本臨牀 68 (増刊号7) 759-761, 2010.

ProGRP …… 吉村 徹, 他：医学と薬学 62, 759-766, 2009.

血清HER2蛋白 …… Lüftner D. et al：The International of Biological Markers19 (3)：1-9, 2004.

可溶性インターロイキン-2 …… 伏見美津恵, 他：医学と薬学 73：875-883, 2016.

レセプター(sIL-2R) …… 古川亜紀, 他：機器・試薬 39：263-269, 2016.

メンテリン …… 中町 衛, 他：医学と薬学 65 (2)：261-267, 2011.

(可溶性メンテリン関連蛋白)

ウイルス学検査

ウイルス抗体の検出(CF法) …… 井上 栄：臨床検査 17, 838, 1973.

…… 厚生省監修・微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査(第3版), 第1分冊, 31, 1987.

…… 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版), p.133-135, 丸善, 東京, 1982.

ウイルス抗体の検出(HI法) …… 臨床ウイルス談話会(編)：ウイルス実験室診断法, p.76-86, 101-105, 日本栄養化学, 東京, 1964.

…… 芦原義守：臨床とウイルス 別冊, 77, 1975.

…… 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版), p.133-135, 丸善, 東京, 1982.

ウイルス抗体の検出(NT法) …… 石井慶蔵：免疫血清検査(臨床検査技術全書4), p.235-262, 医学書院, 東京, 1973.

…… 国立予防衛生研究所学友会(編)：ウイルス実験学各論(改訂二版), p.52, 72-73, 132-139, 丸善, 東京, 1982.

ウイルス抗体の検出(FAT法) …… 日沼頼夫, 他：臨床病理(特集第35号) 179, 1978.

EBウイルス …… 日沼頼夫, 他：臨床病理(特集35), 179, (1978).

風疹(LA法) …… 瀬戸享往, 他：医療と検査機器・試薬 29 (1)：37-42, 2006.

…… 河本智子, 他：医学と薬学 40 (5)：909-916, 1998.

…… 中山哲夫：医学と薬学 42, 303, 1999.

…… 内田立志, 他：川崎医学会誌 35, 139-145, 2009.

…… 庵原敏明, 他：医学と薬学 69, 969-975, 2013.

…… 同上

…… 杉下知子, 他：医学と薬学 28, 325-334, 1992.

…… 佐藤敏則, 他：臨床とウイルス 23, 44-47, 1995.

…… 熊田洋高, 他：医学と薬学 72, 1087-1094, 2015.

…… 同上

…… 川名 尚, 他：医学と薬学 69, 517-522, 2013.

…… 同上

…… 厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査第3版(1), 48, 1987.

…… 平野 勝, 他：医学と薬学 42, 641-645, 1999.

…… 矢野公士, 他：医学と薬学 58：151-161, 2007.

…… HBs抗原(RPHA法)

…… 飯野四郎：改定版. 図説B型肝炎とB型肝炎ウイルス, 1988.

…… 同上

…… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 1529-1536, 金原出版, 東京, 2020.

…… 同上

…… 同上

…… 同上

…… 同上

…… 同上

…… 同上

…… 田中靖人, 他：臨床病理 57 (1)：42-47, 2009.

…… 菅原昌章, 他：医学と薬学 73 (10)：1329-1339, 2016.

…… 井上貴子, 他：肝胆脾 85, 85-91, 2022.

…… Inoue T. et al.：J.Hepatol. 75, 302-310, 2021.

…… 吉岡 範, 他：JJCLA Vol. 31 833-837, 2006.

…… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 1538-1539, 金原出版, 東京, 2020.

…… 長谷川瞳, 他：医学と薬学 70, 633-641, 2013.

…… 狩野吉康, 他, 医学と薬学 58 (1)：137-149, 2007.

…… Okamoto, H. et al.：J. Gen. Virol. 74, 2385-2390, 1993.

…… 飯野四郎, 他：医学と薬学 53 (4)：461-469, 2005.

…… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 1259-1263, 金原出版, 東京, 2020.

…… HIV-1/2抗体確認検査

…… Kondo M. et al：PLoS ONE 13 (10) e0198924：1-10, 2018.

…… 日本エイズ学会・日本臨床検査医学会：診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン 2020版

…… Moon H-W, et al：PLoS ONE 10 (9) e0139169：1-7, 2015.

…… 目崎和久, 他：医学と薬学 73 (6)：705-709, 2016.

…… 金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 1225-1258, 金原出版, 東京, 2020.

…… HTLV-I抗体(確認試験)

…… Zrein, M. et al.：Clin. Diagn. Lab. Immunol. 5, 45-49, 1998.

…… Sevall JS：Molecular and Cellular Probes4：237-246, 1990.

…… Espy, M. J. et al.：J. Clin. Microbiol. 26, 22, 1988.

…… Cao M. et al.：J Invest Dermatol 82, 391-392, 1989.

…… サイトメガロウィルス抗原

…… 浅井隆義, 他：今日の移植 7 (6)：553-559, 1994.

…… 権藤久司, 他：臨床血液 34 (11)：1438-1444, 1993.

…… サイトメガロウィルスDNA

…… Olive DM et al：Journal of Clinical Microbiology 27 (6)：1238-1242, 1989.

…… 谷村恵司, 他：日本医事新報(4872), 33, 2017.

…… Fujii, T. et al.：Pediatr Infect Dis 36 (10), 942, 2017.

…… Morinaga, Y. et al.：J. Med. Microbiol. 69 (12), 1346, 2020.

…… Kamachi K, et al：J Clin Microbiol 44 (5)：1899-1902, 2006.

…… 水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原

…… 新村真人, 他：感染症学雑誌 64 (2)：195-201, 1990.

…… Clavel C et al：Diagnostic Molecular Pathology 9 (3)：145-150, 2000.

…… HPV-DNA簡易ジェノタイプ

…… 三浦俊昭, 他：医学と薬学 69 (1), 157-162, 2013.

…… HPV-DNA型判定

…… (ハイルスク13種)

…… Takahashi M. et al：Clinical Chemistry 50 (3)：658-661, 2004.

…… アデノウイルス抗原

…… 青木功喜, 他：臨床眼科 43 (6)：1035-1039, 1989.

…… ロタウィルス抗原

…… 勝島矩子, 他：臨床とウイルス 11, 247, 1983.

…… ノロウィルス(SRSV)-RNAマルチ

…… 田所健一, 他：臨床と微生物 36, 251-256, 2009.

…… ノロウィルス抗原(NV抗原)

…… 田中智之：医学と薬学61,93-98,2009.

…… HPV E6/E7 mRNA同定

…… Heideman, DAM. et al.：J Clin Microbiol. 51 (11), 3653-3657, 2013.

主要参考文献

ウイルス分離・同定	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・リケッチア検査(第2版)．	水田敏彦：日本臨床　57-S1-299-302 1999．
尿中Ⅳ型コラーゲン	岡上	小幡健一，他：臨床検査機器・試薬18, 439-444, 1995．
M2BPGi定量	水岡慶二：臨床医, Vol. 15 No. 8, 別刷．	Uojima H. et al.：J Gastroenterol 58, 1252-1260, 2023．
好酸球塩基性蛋白(ECP)	金井正光(編)：臨床検査法提要(改訂第35版), p.958, 金原出版, 東京, 2020．	栗原和幸，他：アレルギー41(4)：512-518, 1992．
免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	岡田賢司：医学と薬学65, 531～536, 2011．	伊藤早織，他：医学と薬学 64(1)：111～117, 2010．
免疫電気泳動(IFE法)	小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会：小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017(協和企画)：236～240, 2016．	山田俊幸：臨床検査　58, 1569-1578, 2014．
クリオグロブリン	岡上	Okazaki, T. et al.：Chin. Chem. 47, 1558, 1998．
IgG	同上	金井正光(編)：臨床検査法提要(改訂第35版), p.834, 金原出版, 東京, 2020．
IgA	同上	同上
IgM	同上	同上
IgG ₂	久保信彦，他：日本臨床　68(増)：5～8, 2010．	松木友里，他：医学と薬学 75(7)：849～858, 2018．
IgG ₄	川　茂幸：SRL宝函 36(3)：19～26, 2015．	中島一郎：Animus　8, 38, 2003．
オリゴクローナルバンド(等電点電気泳動法)	藤岡成徳，他：臨床検査　32, 648-654, 1988．	秋山一男，他：アレルギーと免疫　19(12), 114-128, 2012．
総IgE(非特異的)	水越幹雄，他：臨床病理　Vol. 24 補冊 p474, 1976．	小田嶋　博，他：アレルギーと免疫　19(12), 129-144, 2012．
IgE(特異的)	富山哲雄：臨床検査　19, 1240, 1975．	小田嶋　博，他：アレルギーと免疫　20(1), 46-54, 2013．
IgE(ファEDIAアトープ)	新垣紀子，他：感染症学雑誌　73, 421-428, 1999．	奥田　勲，他：医学検査　46(10)：1525-1530, 1997．
TARC(Th2ケモカイン)	山口恵三，他：医学と薬学 58(4), 565, 2007．	安江智美，他：アレルギーの臨床34(10)：60-65, 2014．
特異的IgE MAST36	田畑宏道，高橋重季：医学と薬学　71(1)：145-151, 2014．	中川武正，他：アレルギーの臨床　26(3)：238～242, 2006．
特異的IgE Viewアレルギー39	同上	鈴木義徳, 岩丸　博：医学と薬学　70(5-6), 975-980, 2013．
血清補体価(CH ₅₀)	Dumollard C, et al：J Clin Microbiol 54(5)：1236～1242, 2016．	福井真彌, 安田令子：日本臨床 42(春季臨増), 1232, 1984．
C ₃ (β ₁ C/β ₁ Aグロブリン)	堀口佑司：感染症学雑誌　78, 566-573, 2004．	金井正光(編)：臨床検査法提要(改訂第35版), p.853, 金原出版, 東京, 2020．
C ₄ (β ₂ Eグロブリン)	篠田孝子，他：真菌と真菌症　30(3)：211-221, 1989．	同上
C1q	Kaufman L, Reiss E：Manual of Clinical Immunology, 吉田耕一郎，他：医学と薬学　67：895-902, 2012．	櫻林郁之介，他：臨床病理(特集53)：71-81, 1983．
C1インアクチベーター	大林民典：臨床病理　44：528-532, 1996．	Dick, W. et al.：Immun Infekt 13：113～118, 1985．
RF(リウマチ因子定量)	石原美弥子，他：検査と技術　30, 739, 2003．	向田直史, 河合　忠：臨床検査　31, 603, 1987．
RA	斉藤大輔，他：医学と薬学　62(2)：323～329, 2009．	酒井一由，他：検査と技術　16, 330, 1988．
抗ガラクトース欠損IgG抗体	山本正悟：臨床とウイルス　12(3)：270-274, 1984．	平山吉郎，他：医学と薬学　42, 817, 1999．
IgG型リウマチ因子	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査(第2版), p.73, (財)日本公衆衛生協会, 東京, 1978．	栗原タ子，他：リウマチ科　22, 499-510, 1999．
MMP-3	Ueda, C. T. et al.：J. Clin. Microbiol. 20, 948, 1984．	氏家真二，他：医学と薬学　51, 503, 2004．
抗CCP抗体	Frits, B. et al.：Microbiol. Immunol. Scand. Sect. B92, 139, 1984．	金井正光(編)：臨床検査法提要(改定第35版), 931, 金原出版, 東京, 2020．
抗核抗体(ANA)	熊本悦明，他：医学と薬学　66(6)：1007～1014, 2011．	渡辺幸子，宮脇昌二：臨床病理　35, 61, 1987．
抗DNA抗体(RIA法)	梶原祥子，他：医学と薬学　37, 711-716, 1997．	宮脇昌二，他：日臨免疫会誌　17, 164, 1994．
抗dsDNA抗体IgG	佐藤秀男，他：道衛研究報　33, 8, 1983．	陣内記代，他：日本臨床検査自動化学会会誌 26：747, 2001．
抗ssDNA抗体IgM	Schwan, T. G. et al.：In Manual of Clinical Microbiology. 7th edition., pp746-758, P. R/ Murray, Washington, D. C., 1999．	相馬　史，他：医学検査　46：1190, 1997．
抗ssDNA抗体IgM	CDC：M. M. W. R. Morb Mortal Wkly Rep. 45, 481, 1996．	西山　進，他：医学と薬学，69(4), 689～698, 2013．
抗Sm抗体(FEIA)	Kitada, S. et al.：Clin. Diagn. Lab. Immunol. 12, 44-51, 2005．	磯田健太郎，他：医学と薬学，70(1), 119～128, 2013．
抗RNP抗体(VEIA)	Kitada, S. et al.：Am. J. Respir. Crit. Care Med. 177, 793-797, 2008．	同上
抗SS-A/Ro抗体(VEIA)	河合　忠，他：臨床病理 44(5), 429, 1996．	陣内記代，他：日本臨床検査自動化学会会誌 26(6)：747～753, 2001．
抗SS-B/La抗体(VEIA)	尿検査法：検査と技術　Vol. 20 No. 6, 1992．	山下雅樹，他：医学と薬学　58(5)：763～767, 2007．
抗Sci-70抗体(VEIA)	徳山昌司郎，他：医学と薬学　39, 835-844, 1998．	高崎芳成，他：医学と薬学72, 139～146, 2015．
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	尿検査法：検査と技術　Vol. 20 No. 6, 1992．	朝倉奈津子，他：医学と薬学62, 747～757, 2009．
抗Jo-1抗体(CLEIA)	富田健一郎，他：医学と薬学　72：1389-1395, 2015．	朝倉奈津子，他：医学と薬学62, 747～757, 2009．
抗ARS抗体	Kamijo-Ikemori A, et al：Diabetes Care 34：691-696, 2011．	朝倉奈津子，他：医学と薬学62, 747～757, 2009．
抗MDA5抗体	森　潔：医学のあゆみ 249(9)：997-1002, 2014	濱口儒人，他：医学と薬学72, 1907-1911, 2015．
抗Mi-2抗体	師田かおり，他：生物試料分析 39(4)：228-233, 2016	桑名正隆：リウマチ科　40(3)：239～245, 2008．
抗TIF1-γ抗体	新改悦郎，他：Sysmex Journal　Vol. 20 No. 1, p77, 1997．	松下雅和，他：医学と薬学70(1)：109-117, 2013．
抗セントロメア抗体	山下順香，他：医学と薬学　29, 1239, 1993．	山田祐介，他：リウマチ科　45(2)：133～138, 2011．
抗デスモグレイン1抗体	河合　忠，他：臨床病理(特集第101号), 207, 1996．	佐藤隆二：炎症と免疫　22：443-447, 2014．
抗デスモグレイン3抗体	飯村康夫，他：日本臨床　42(春季臨増), 1209, 1984．	室　慶直：医学のあゆみ　239(1)：83-87, 2011．
抗BP180抗体	山下順香，他：医学と薬学　29, 1239, 1993．	佐藤隆二：リウマチ科　55(2)：227-233, 2016．
抗GM1 IgG抗体	金井正光(編)：臨床検査法提要(改訂第35版), p.492, 金原出版, 東京, 2020．	同上
抗GM1 IgG抗体	香坂隆夫，他：医学と薬学　31, 1191, 1994．	朝倉奈津子，他：医学と薬学　62, 747-757, 2009．
抗GM1 IgG抗体	飯村康夫，他：日本臨床　42(春季臨増), 1209, 1984．	横山知明，他：Mebio, 27(6), 102～109, 2010．
抗ミトコンドリア抗体	斎藤憲祐：臨床病理(特101), 38-47, 1996．	天谷雅行：日本臨床, 68(増刊6), 614～617, 2010．
抗ミトコンドリアM2抗体	Higuchi, R. et al. Simultaneous amplification and detection of specific DNA sequences. Biotechnology (NY) . 1992, 10, p.413～417．	同上
抗LKM-1抗体	Heid, C.A. et al. Real time quantitative PCR. Genome Research. 1996, 6, p.986～994．	尾田博，他：日本臨床増刊　第7版, 645-647, 2010．
抗平滑筋抗体	Longo, M.C. et al. Use of uracil DNA glycosylase to control carry-over contamination in polymerase chain reactions. Gene. 1990, 93, p.125～128．	同上
抗胃壁細胞抗体(抗バリエタル細胞抗体)	遠藤　隆，他：医学と薬学　28, 1055, 1992．	長島秀夫，小出典男：日本臨床　42(春季臨増), 1416, 1984．
抗内因子抗体	吉川文雄，他：医学と薬学　37, 1255, 1997．	丹野端木，他：医学と薬学　67(3)：485～495, 2012．
抗副腎皮質抗体	田田直孝，他：機器・試薬　23, 35, 2000．	竹村真理，他：医学と薬学　46(1)：109-114, 2001．
抗カルジオリピン抗体IgG	宮崎修一，他：医学と薬学　52(3)：443-449, 2004．	長島秀夫，他：日本臨床　42(春季臨増), 1430, 1984．
	宇治義則，他：医学と薬学　26(3), 519-527, 1991．	Jeffries, G. H. et al.,：J. Clin. Invest. 44, 2021, 1965．
	2004．	Elizabeth A. Gomez, et al：Clinical Chemistry 51(1)：232～235, 2005．
	竹内浩視，他：ホルモンと臨床　39, 1203-1207, 1991．	Scherbaum, W. A. et al.：Clin. Endocrinol. 16, 345, 1982．
	大高木結媛，他：医学と薬学　77(5)：785-792, 2020．	小川昌起，他：医学と薬学　78, 447-459, 2021．

主要参考文献

抗カルジオリピン抗体IgM 小川昌起, 他：医学と薬学 78, 447-459, 2021.

抗カルジオリピン・ β_2 GP I 複合体抗体
抗リン脂質抗体 (APL) パネル 小池隆夫, 他：医学と薬学 26, 535, 1991.

抗アセチルコリンレセプター結合抗体 .. 出口雅士, 他：産科と婦人科 87 (suppl)：230-235, 2020.

抗筋特異的 渥美達也：腎と透析 84 (4)：572-578, 2018.

チロシンキナーゼ抗体 (抗Musk抗体) 太田光照, 他：ホルモンと臨床 48, 89, 2000.

PR-3-ANCA (抗好中球細胞質抗体) ... 本村政勝, 他：医学と薬学 70 (2)：421-428, 2013.

MPO-ANCA 松下雅和, 他：医学と薬学66 (5)：823~828, 2011.

抗糸球体基底膜抗体 同上

ミエリンバيشック蛋白 (MBP) 臼井丈一, 他：医学と薬学 68 (4)：697~704, 2012.

抗精子抗体 Mcpherson, T. A. et al.：Can. Med. Assoc. J. 107, 856, 1972.

血液型 ABO式 香山浩二, 他：日本産婦人科学会雑誌 42 (11)：N209~N212, 1990.

血液型 Rh (D) 式 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本 30-35, 丸善出版, 2023.

直接クームス試験 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会編集：スタンダード輸血検査テキスト, 医歯薬出版.

間接クームス試験 坂本久浩：Med. Technol. 11, 724, 1983.

定量クームス試験 倉田義之, 他：臨床検査 32, 641, 1988.

不規則抗体

抗血小板抗体

PA-IgG (血小板表面IgG)

血液学検査

白血球数 (WBC) 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 223-251, 金原出版, 東京, 2020.

赤血球数 (RBC) 同上

ヘモグロビン (Hb) 同上

ヘマトクリット (Ht) 同上

血小板数 (PLT) 同上

平均赤血球容積 (MCV) 同上

平均赤血球色素量 (MCH) 同上

平均赤血球色素濃度 (MCHC) 同上

網状赤血球数 (レチクロ) 同上

好酸球数 丹羽欣正：Med. Technol. (別冊 染色法のすべて), 202, 1988.

喀痰中好酸球数 同上

鼻汁中好酸球数 同上

血沈 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 366-368, 金原出版, 東京, 2020.

白血球像 Med.Technol. (別冊 新. 染色法のすべて), 1999.

赤血球像 同上

骨髓像 (マルク) 同上

ペルオキシターゼ染色 同上

エステラーゼ染色 同上

鉄染色 同上

ALP染色 同上

PAS染色 同上

マラリア原虫 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改訂35版), p.1289, 金原出版, 東京, 2020.

プロトロンビン時間 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 367-472, 金原出版, 東京, 2020.

活性化部分トロンボプラスチン時間 ... 同上

(APTT)

フィブリノゲン (FIB) 同上

ループス抗凝固因子 佐藤久美子, 他：臨床病理 43, 263, 1995.

ヘパリン 浮田 實：臨床病理 (特集第70号) 173, 1987.

第Ⅱ因子活性 安達眞二, 他：Med. Technol. 24, 629, 1996.

第Ⅴ因子活性 同上

第Ⅶ因子活性 同上

第Ⅷ因子活性 同上

第Ⅸ因子活性 同上

第Ⅹ因子活性 同上

第Ⅺ因子活性 同上

第Ⅻ因子活性 同上

第Ⅻ因子活性 Fikenscher. K. et al.：Thromb. Haemost. 65, 535, 1991.

第Ⅷ因子様抗原 日笠 聡, 他：日本血栓止血学会誌32, (4), 413, 2021.

フォンウィルブランド因子 Peltier, J. Y. et al.：Proceeding of XVI th Congress of the ISTH, 513, 1997.

(リストセチンコファクター)

ATⅢ (アンチトロンビンⅢ) 〈活性〉 ... Boender J. et al.：J. Thromb. Haemost. 16, 2413-2424, 2018.

TAT (トロンビン・アンチトロンビン ... 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 367-472, 金原出版, 東京, 2020.

Ⅲ複合体) 木村真波, 他：機器・試薬 33, 525, 2010.

血中FDP 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 367-472, 金原出版, 東京, 2020.

尿中FDP 堀内伸純, 他：機器・試薬 14, 267, 1991.

Dダイマー 金井正光 (編)：臨床検査法提要 (改定第35版), 367-472, 金原出版, 東京, 2020.

プラスミノゲン (PLG) 〈定量〉 伊東忠一：検査と技術 16, 593, 1988.

プラスミノゲン (PLG) 〈活性〉 田中由美子：機器・試薬 7, 1, 1984.

アンチプラスミン (α_2 PI) 〈活性〉 坂東史郎, 他：機器・試薬 8, 811, 1985.

α_2 プラスミンインヒビター 徐 吉夫, 他：臨床検査機器・試薬 16, 1107-1113, 1993.

プラスミン複合体 (PIC)

トロンボモジュリン (TM) 天野景裕, 他：臨床病理 39, 967, 1991.

プロテインC抗原量 簡井聰明, 他：検査と技術 12 (7)：581~587, 1984.

プロテインC活性 高橋芳右, 他：血液と脈管 18, 548-556, 1987.

プロテインS 阪田敏幸 他：医学と薬学 51-1-167~172, 2004.

プロテインS活性 鬼沢 実：臨床検査機器・試薬 15 (2)：166-171, 1992.

プロテインS抗原量 鬼沢 実：臨床検査機器・試薬 13 (4)：579-583, 1990.

β トロンボグロブリン (β -TG) 高橋芳右, 他：血液と脈管 18, 326, 1987.

血小板第4因子 (PF-4) 同上

ADAMTS13活性 Kato S, et al.：Transfusion 46, 1444, 2006.

ADAMTS13インヒビター定量 同上

フィブリンモノマー複合体定量 和田英夫, 他：臨床 49, 813, 2001.

(SFMC)

細胞性免疫検査

造血器腫瘍細胞解析 日本検査血液学科 (編)：スタンダード検査血液学 第4版, 205-214, 医歯薬出版, 東京, 2021.

(白血病・リンパ腫解析)

T細胞・B細胞百分率

リンパ球サブセット検査

B細胞サブクラス 田沢裕光, 他：臨床病理 33, 426, 1985.

リンパ球幼若化試験 大野竜三, 三島秀人：免疫実験操作法B, p.1417, 日本免疫学会 (編), 1978.

(リンパ球分離培養法)

薬剤によるリンパ球幼若化試験 北見啓之, 他：臨床免疫 15, 727, 1983.

NK細胞活性 原田弘智, 他：臨床検査 28, 72, 1984.

好中球貪食能 関 秀俊, 多賀千之：Immunohaematology 7, 483, 1985.

好中球殺菌能 関 英俊, 他：臨床病理 33, 371, 1985.

HLA 秋山暢夫, 首藤節子：臨床検査 27, 732, 1983.

HLA型判定 大森耕一郎：検査と技術 11, 1000, 1983.

HLA-DRB1 遺伝子型判定 古川枝里, 他：MHC10, 21, 2003.

HLA-DQA1 遺伝子型判定 猪子英俊, 他 (監修)：移植・輸血検査学, 講談社, 東京, 2004.

HLA-DQB1 遺伝子型判定 Olerup, O. and Zetterquist, H.：TissueAntigens 39, 225, 1992.

HLA-DPB1 遺伝子型判定 猪子英俊, 他 (監修)：移植・輸血検査学, 講談社, 東京, 2004.

リンパ球混合培養 同上

金井正光 (編著)：臨床検査法提要 (改訂第35版), p.863, 金原出版, 東京, 2020.

染色体検査

Gバンド分染法 福島義光, 井上信男：臨床検査 28, 759, 1984.

Qバンド分染法 寺島 寛：病理形態検査 (臨床検査技術全書8), p.456, 医学書院, 東京, 1978.

Rバンド分染法 同上

Cバンド分染法 同上

高精度分染法 同上

X-染色体〈FISH法〉 稲澤譲治, 他：検査と技術 20, 815, 1992.

Y-染色体〈FISH法〉 高橋永一, 他：臨床検査 36 (増), 179, 1992.

7染色体Williams症候群 同上

15染色体Prader-Willi症候群 Ewart, A. K. et al.：Nature Genet. 5, 11, 1993.

15染色体Angelman症候群 Kuwano, A. et al.：Hum,Mol.Genet. 1, 417, 1992.

17染色体Miller-Dieker症候群 同上

17染色体Charcot-Marie-Tooth Kuwano, A. Et al.：Am. J. Hum. Genet. 49, 707, 1991.

(CMT) 病IA型 (FISH法) Patel, P. I. et al.：Nature Genet. 1, 159, 1992.

22染色体DiGeorge症候群 Desmaze, C. et al.：Hum.Genet. 90, 663, 1993.

異性間BMT (FISH法) 稲澤譲治：臨床FISHプロトコール

フィラデルフィア染色体M-bcr/abl ... 阿部達生監修 (秀潤社)：90~95, 1997.

〈FISH法〉 稲澤譲治, 阿部達生：日本臨床 50, 1298, 1992.

PML/RAR α 〈FISH法〉 Hiorns, L. R. et al.：Blood 83, 2946, 1994.

AML-1 〈FISH法〉 Nucifora, G. et al.：Blood 86, 1, 1995.

血液疾患遺伝子検査

遺伝子検査 口野嘉幸, 他：実験操作プロットティング法, p. 2~20, ソフトサイエンス社, 東京, 1987.

平井久丸, 他：実験操作プロットティング法, p. 154~157, ソフトサイエンス社, 東京, 1987.

Major BCR-ABL IS 櫻林郁之介, 他：実験操作プロットティング法, p. 212~220, ソフトサイエンス社, 東京, 1987.

WT1mRNA定量 榊 佳之：実験医学 8, 1008, 1991.

JAK2V617F遺伝子変異 時野隆至, 中村祐輔：実験医学 9, 1098, 1091.

FLT3遺伝子変異解析 宝来 聡, 近藤るみ：実験医学 9, 1120, 1991.

Murphy KM,et al：J Mol Diagn5 (2)：96~102, 2003.

Yamamoto Y, et al：Blood 97 (8)：2434~2439, 2001.

Hughes TP, et al.：N. Engl. J. Med. 349, 1423-1432, 2003.

Nakamae H, et al：Int. J. Hematol. 102, 304-311, 2015.

宮脇修一 他：臨床血液 46 (12)：1279~1287, 2005.

桐戸敬太, 他：臨床血液 59 (6)：669~674, 2018.

NPM1変異解析 Gorello P,et al：Leukemia, 20 (6)：1103～1108, 2006.
山口 博樹：臨床血液 57 (12)：2535～2542, 2016.
NUDT15遺伝子コドン139多型解析 Moriyama T.et al.：Nature Genet. 48, 367～373, 2016.
Kakuta Y. et al.：J Gastroenterol. Doi：10.1007/s00535-018-1486-7, 2018.
Tanaka Y. et al.：Br J Haematol. 171, 109～115, 2015.

メラノーマBRAF変異解析 和田 誠, 他：最新医学 69, (12), 2548, (ダブラフェニブ、エンコラフェニブ)
EGFR変異解析V2.0 Benlloch S et al：PLoS One 9(2)：e89518, 2014.
光富 徹哉, 他：日本肺癌学会 EGFR 遺伝子検査の手引き 第2.1版 2014年
松本慎吾：がん分子標的治療 13, (3), 406, 2015.
片山量平：医学のあゆみ 252, (7), 797, 2015.

ROS1融合遺伝子解析 AmoyDx[®] 肺癌マルチ遺伝子PCRパネル 試薬添付文書
肺癌マルチCDx AmoyDx Meenakshi M, et al：PLoS One12(8)：e0181968, 2017.
肺癌マルチCD x 遺伝子解析 Whitcombe D et al：Nature Biotech 17(8)：804～807, 1999.
(オンコマインTM Dx Target Test マルチ CDx システム)
肺癌KRAS G12C変異解析 Prior Ian A. et al：Cancer Research 72(10)：2457～2467, 2012.

一般臨床関連

林 康之 一般臨床検査(臨床検査技術全書2) 医学書院, 東京, 1975.
Med. Technology. 編集委員会編 ... 尿定量検査のすべて Med. Technol. 6, (13), 1978.
奥田 清 監修 尿沈渣(臨床検査アトラス1) 医歯薬出版, 東京, 1994.
高橋正宣 他 図説尿沈渣教本 宇宙堂八木書店, 東京, 1979.
日本臨床衛生検査技師会編 尿沈渣検査法, 1996.
伊藤機一 監修 尿沈渣検査法 補遺, 1996.
伊藤機一 監修 尿中細胞アトラス 第2版, 医歯薬出版, 東京, 1998.
Med. Technology. 別冊 一般検査領域における穿刺液細胞アトラス 医歯薬出版, 1994.
検査と技術 増刊号 カラーアトラス 尿検査, 医歯薬出版, 1995.
金井正光 編 血液, 尿以外の体液検査法 医学書院, 1990.
小島莊明 編 臨床検査法提要(改訂第35版) 金原出版, 2020.
佐々 学 監修 New寄生虫学 南江堂, 1993.
鈴木了司 著 標準動物学 医学書院, 1992.
中林敏夫 著 カラーアトラス人体寄生虫卵と原虫寄生虫学的検査法 藤田企画出版, 青森.
佐伯英治 他著 医学要点双書[㊦]寄生虫学, 金芳堂, 京都 1994.
今井莊一 監修 臨床検査シリーズ 寄生虫鑑別アトラス, メディカルサイエンス社, 東京, 1998.
カルプロテクチン(糞便) 小動物寄生虫鑑別マニュアル・インターズー 東京, 1995.
松岡克善, 他：医学と薬学 74, 717-726, 2017.

RAS・BRAF遺伝子変異解析 日本臨床腫瘍学会：大腸癌診療における遺伝子関連検査のガイドンス, (第3版), 2016.
マイクロサテライト不安定性検査 .. 廣中秀一：がん分子標的治療 16, (1), 33, (MSI解析) 2018.
(免疫チェックポイント阻害剤) 本多和典, 他：がん分子標的治療 15, (4), 371, 2017.

その他検査

薬物スクリーニング 上館民夫, 他：昭和59年度日本体育協会スポーツ科学研究報告 No. III, pp. 1-16, 1985.
覚せい剤検査 Fletcher S.M.：J Forensic Sci.Soc. 21, 327, 1981.
胃がんリスク層別化検査 Asselin,W.M.et al.：J.Anal.Toxicol, 12, 207, 1988.
胃がんリスク層別化検査 日本胃がん予知・診断・治療研究機構：胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル, 2019.
クオンティフェロンTB Rozot, V. et al. (2013) Mycobacterium tuberculosis-specific CD8+ T cells functionally and phenotypically different between latent infection and active disease. Eur. J. Immunol. 43, 1568.
Chicchio, T. et al. (2014) Polyfunctional T-cells and effector memory phenotype are associated with active TB in HIV-infected patients. J. Infect. doi：10. 1016/j. jinf. 2014. 06. 009. Epub.
T-SPOT.TB Koller MD et al:Clinical & Experimental Immunology 132 (2)：225～231, 2003

その他

骨塩定量 折茂 肇：日本臨床65, 155-158, 2007.
福永仁夫, 他：原発性骨粗鬆症の診断基準 Vol. 21. 1：9-21, 2013.
エンドトキシン定量(透析液) 渡邊真紀, 他：臨林透析 別冊, 149, 1996.

微生物学関連

那須 勝 微生物学(新臨床検査技術全書11)第3版, 医学書院, 東京, 1995.
橋本雅一 微生物学(臨床検査講座16) 医学書院, 東京, 1972.
坂崎利一 訳 医学細菌同定の手びき, 第3版, 近代出版, 東京, 1993.
戸田・武谷編 戸田新細菌学 南山堂, 東京, 1975.
山口英世 監修 医真菌同定の手引き
山口英世 他 病原真菌学
坂崎利一 腸内細菌 I～Ⅳ 近代出版, 東京, 1980.
小酒井 望 微生物学検査(臨床検査技術全書7) 医学書院, 東京, 1974.
CLSI M100 Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Teasting 30th Edition, 2020
小栗豊子(編) 臨床微生物検査 ハンドブック(第5版), 三輪書店, 東京, 2017.
ヘリコバクターピロリ 日本臨床 Vol. 51, 12, 12, 1993.
抗酸菌検査 日本結核・非結核性抗酸菌症学会(編)：抗酸菌検査ガイド2025, 南江堂, 2025.
抗酸菌培養 同 上
結核菌群核酸同定 御手洗聡；他：医学と薬学 77 (3), 415-419, 2020.
マイコバクテリウムアビウム 同 上
イントラセラー核酸同定 山根誠之, 他：臨床と微生物 20, 1045, 1993.
クロストリジオイデス・ディフィシル抗原 .. 日本化学療法学会・日本感染症学会：
クロストリジオイデス・ディフィシル抗原毒素遺伝子検出 Clostridioides (Clostridium) difficile感染症診療ガイドライン, 感染症学雑誌 92 (6), 819-854, 2018.

病理学関連

田中 昇 細胞診教本 宇宙堂八木書店, 東京, 1981.
服部正次 細胞診断 医歯薬出版, 東京, 1977.
三友善夫 病理学(臨床検査講座) 医歯薬出版, 東京, 1982.
太田邦夫 細胞診の実際 医学書院, 東京, 1977.
井上良夫 細胞診とその技術(日本病理学会編) 医歯薬出版, 東京, 1981.
佐野 豊 組織学検査法 南山堂, 東京, 1976.
影山喜三 病理組織標本の作り方 医学書院, 東京, 1975.
平山 章 病理組織標本染色法 清至書院, 東京, 1982.
石川英世 外科病理学 文光堂, 東京, 1984.
宮地 徹 組織病理学 杏林書店, 東京, 1972.
HER2検査ガイド 第三版(2009年9月) トラスツズマブ病理部会作製
HER2検査ガイド 胃癌編(2011年3月) トラスツズマブ病理部会作製
メラノーマBRAF変異解析 和田 誠, 他：最新医学 69, (11), 66, 2014.
(ペムラフェニブ)

検体容器一覧

01 汎用容器(分離剤入り)  (容量)5mL・8.5mL用 室温保存 容器表示 管壁に塗布してあるものは凝固促進剤です。	02 分離用容器  (容量)5mL用 室温保存 製造後3年 血清、血漿、尿 提出用	03 汎用容器(分離剤なし)  (容量)4mL・5mL・9mL用 室温保存 容器表示 クームス試験、その他	04 グルコース・HbA1c用容器  (採取量)2mL フッ化Na、ヘパリンNa 室温保存 容器表示 グルコース、HbA1c
05 アンモニア用容器  (採取量)1mL 除蛋白液 4mL (タングステン酸Na,硫酸) 室温保存 容器表示 アンモニア	06 乳酸・ピルビン酸用容器  (採取量)1mL 除蛋白液 1mL (0.8N過塩素酸) 冷蔵保存 容器表示 乳酸、ピルビン酸	08 アプロチニン容器  (採取量)2mL EDTA-2Na、アプロチニン 室温保存 容器表示 hANP、BNP	10 ヘパリン容器  (容量)4mL・9mL用 ヘパリンNa 室温保存 容器表示 アミノ酸分析、微量金属、染色体 その他
13 血液学用容器(EDTA-2K)  (採取量)2mL EDTA-2K 室温保存 容器表示 末梢血液一般検査、血液像、その他	14 内分泌学用容器(EDTA-2Na)  (容量)5mL用 EDTA-2Na 室温保存 容器表示 レニン、アンジオテンシン、サイクリックAMP、その他	15 凝固検査用容器  (採取量)1.8mL 3.2% クエン酸Na (0.2mL) 室温保存 容器表示 凝固因子活性、PT, APTT, Fib, AT-III、血中FDP、その他	16 血沈用容器  (採取量)1.6mL 3.8% クエン酸Na (0.4mL) 室温保存 容器表示 血沈

…容量・採取量

…添加剤

…保管方法

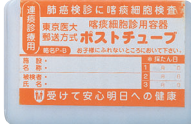
…有効期間

…主な検査項目

17 FDP(尿)用容器  (採取量) 2mL 抗プラスミン剤 室温保存 容器表示 尿中FDP	19 β-TG, PF-4用容器  (採取量) 2.7mL テオフィリン、アデノシン、ジブリダモール、クエン酸、クエン酸ナトリウム 室温・遮光保存 容器表示 β-トロンボグロブリン 血小板第4因子	20 プレパレート  室温保存 血液像、細胞診検査 病理組織顕微鏡検査	21 リンパ球保存容器  (容量) 7.5mL用 CPD 室温保存 容器表示 細胞性免疫検査
22 骨髓液保存容器  (採取量) 0.5mL 保存液 凍結保存 容器表示 染色体検査	25 尿一般容器  (容量) 10mL用 室温保存 製造後3年 尿一般検査	26 褐色ポリ瓶  (容量) 100mL・250mL用 室温保存 製造後3年	27 滅菌スピッツ管  (容量) 10mL用 室温保存 製造後3年 尿細菌検査、細胞診検査
29 採便容器  (採取量) 3～5g 室温保存 製造後3年 糞便検査	31 便中ヘモグロビン・ラテックス用  保存液 室温保存 容器表示 便中ヘモグロビン《ラテックス》	32 ヘモグロビン及び トランスフェリン用容器  ヘモランチューブ 保存液 室温保存 容器表示 ヘモグロビン及びトランスフェリン	33 蟯虫卵検査用シート  室温保存 蟯虫卵(セロテープ)

 …容量・採取量
 …添加剤
 …保管方法
 …有効期間
 …主な検査項目

検体容器一覧

34 ケンキポーター  レザズリン寒点 室温保存 容器表示 微生物学検査	35 採痰管  室温保存 製造後3年 喀痰細胞診検査	36 トリコモナス培地  トリコモナス 冷蔵保存 容器表示 微生物学検査トリコモナス	37 血液培養レズンボトル  好気用 嫌気用 (採取量) 推奨10mL 室温保存 容器表示 血液培養検査
38 キャリブレア培地  Cary-Blair 室温保存 製造後1年 便培養検査	40 細菌検査用スワブ  (一般細菌用) (耳鼻咽喉用) 改良アミーズ培地 室温保存 容器表示 微生物学検査	43 透析液検査用容器  室温保存 製造後5年 透析液/R2A 透析液/R2A-MF	44 組織片容器  室温保存 病理組織顕微鏡検査
45 ポストチューブ  保存液 室温保存 容器表示 細胞診検査	46 YM式喀痰管  保存液 室温保存 容器表示 細胞診検査	47 婦人科自己採取容器  保存液 室温保存 容器表示 婦人科細胞診検査	49 クオンティフェロンTB用  (採取量各1mL) 3mL NIL、TB1、TB2、Mitogen 冷蔵保存 容器表示 クオンティフェロンTB (QFT)

... 容量・採取量
 ... 添加剤
 ... 保管方法
 ... 有効期間
 ... 主な検査項目

51 エンドトキシン用  (容量)3mL用 ヘパリンNa 室温保存 容器表示 エンドトキシン (1→3)-β-D-グルカン	52 PA-IgG用  (容量)8mL用 保存液 室温保存 容器表示 PA-IgG	54 ウイルス分離・同定用容器  0.5% BSA含有 ブイオンゲンタマイシン 凍結保存 容器表示 ウイルス分離・同定	55 STDマイコプラズマ用  (スワブ) (尿・うがい用) 保存液 室温保存 容器表示 STDマイコプラズマ
56 HSV抗原容器  室温保存 容器表示 単純ヘルペスウイルス特異抗原	57 PCR用容器  (容量)5mL用 室温保存 容器表示 HBV-DNA定量(Taq Man) HCV-RNAサブタイプ(ジェノタイプ)	58 ビタミンC用容器  (採取量)0.5mL 除蛋白液0.5mL 冷蔵保存 容器表示 ビタミンC	59 金属分析用容器(尿)  室温保存 容器表示 尿中銅、尿中亜鉛、その他
60 PTDチェック容器  冷蔵保存 容器表示 頸管腔分泌液中癌胎児性フィブロネクチン(PTDチェック)	61 HP培地  (採取量) 胃生検数ヶ ピロリー検体輸送培地 冷蔵保存 容器表示 H.pylori培養検査	63 金属分析用容器(血液)  (容量)3mL用 凝固促進剤(トロンビン等) 室温保存 容器表示 アルミニウム、亜鉛、マンガン、セレン、ニッケル、クロム	65 汎用容器(遮光)  (容量)10mL用 室温保存 β-カロチン、ビタミンA、 ビタミンB₆、ビタミンE

 …容量・採取量
 …添加剤
 …保管方法
 …有効期間
 …主な検査項目

検体容器一覧

66 ヘパリン容器(遮光) (容量)5mL用 ヘパリンNa 室温保存 容器表示 コプロポルフィリン、 赤血球プロトポルフィリン	67 尿一般容器(遮光) (容量)10mL用 室温保存 製造後3年 ポルフィリン関連	68 ECP用容器 (採取量)3mL 血清分離剤、 凝固促進フィルム 室温保存 容器表示 ECP (好酸球塩基性蛋白)	69 エンドトキシン<透析液用> (容量)4mL用 安定剤 冷蔵保存 容器表示 透析液中エンドトキシン
70 HPV-DNA用容器 (一般用) (妊婦用) 保存液 室温保存 容器表示 HPV-DNA	71 尿中ミオグロビン (採取量)6mL 安定化剤 室温保存 容器表示 尿中ミオグロビン	72 子宮頸管粘液中 エラスターゼ用 冷蔵保存 容器表示 子宮頸管粘液中顆粒球 エラスターゼ	73 尿中Ⅳ型コラーゲン用容器 (採取量)5mL 0.5mL トリス塩酸緩衝液 (pH7.5) 入り 室温保存 容器表示 尿中Ⅳ型コラーゲン
76 呼吸パック 室温保存 尿素呼吸試験	78 HPV-DNA用容器 保存液 室温保存 容器表示 HPV-DNA/ハイリスクグループ(LBC)、 HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定、 HPV-DNA型判定、液状処理細胞診(LBC)	81 血液型用容器 (採取量)2mL EDTA-2K 室温保存 容器表示 血液型、直接クームス試験	83 便中ヘリコバクターピロリ 専用容器 室温保存 容器表示 便中ヘリコバクターピロリ抗原

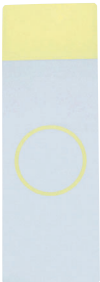
…容量・採取量

…添加剤

…保管方法

…有効期間

…主な検査項目

85 鼻汁中好酸球用 スライドガラス  室温保存 鼻汁中好酸球、喀痰中好酸球	86 ノロウイルスRNA用容器  室温保存 ノロウイルスRNAマルチ	87 VZV抗原用容器  室温保存 容器表示 水痘・帯状ヘルペス ウイルス抗原 (FAT)	88 HSV-DNA, CMV-DNA用容器  室温保存 容器表示 単純ヘルペスDNA、 サイトメガロウイルスDNA (患部ぬぐい液)
91 リアルタイムPCR (DNA) 用容器  (容量)5mL用 EDTA-2K 室温保存 容器表示 HIV-1RNA定量 (Taq Man)	92 HPV-DNA用容器  保存液 室温保存 容器表示 HPV-DNA/ハイスググループ (LBC)、 HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定、 液状処理細胞診 (LBC)	93 ビタミンB ₁ ・B ₂ 用容器  (容量)4mL用 EDTA-2Na 室温保存 容器表示 ビタミンB₁、ビタミンB₂	95 遺伝子検査用容器  (容量)7mL用 EDTA-2Na 室温保存 容器表示 遺伝子関連検査
96 フロックスワブ  室温保存 容器表示 百日咳菌DNA	97 サリバチェッカー専用容器  (容量)5mL用 室温保存 サリバチェッカー®	98 T-スポット用容器  (容量)10mL用 ヘパリンNa 室温保存 容器表示 T-SPOT. TB (結核菌特異IFN-γ)	A1 MIBK  室温保存 容器表示 メチルイソブチルケトン

... 容量・採取量
 ... 添加剤
 ... 保管方法
 ● 表示してある容器見本写真の縮倍率はそれぞれ異なります。

... 有効期間
 ... 主な検査項目

2024.8.1

A2 コバスPCRメディア



室温保存

トリコモナス/マイコ PCR
淋菌・クラミジア PCR